千葉県文化財センター

研究紀要

4

考古学から見た房総文化

― 古墳時代 ―

（墓制の基礎資料）

昭和54年3月

財団法人　千葉県文化財センター

序

財団法人千葉県文化財センターは、千葉県内における埋蔵文化財の調査・研究をすすめるとともに、開発と環境整備の調和を図り、地域文化の充実に寄与することを目的として設立され、すでに4年を経過いたしました。

この間、首都圏に位置する本県の開発も進み、これに対応して埋蔵文化財の保護はさらに緊急かつ重要な課題となり、そのため当センターの調査研究員も50名に増員されました。このうち12名は研究部の兼務で、各自が与えられた課題の研究に取り組んできました。

今年度の研究部事業は、出土遺物の保存処理法、報告書の作成法、資料の収集整理法、調査計画の立案、調査方法等の検討、ならびに研究紀要の執筆であります。

本書は、「考古学から見た房総文化」をテーマとし、昭和50年度の「先土器時代」に始まり順次「縄文時代」・「弥生時代」を刊行してきたのに続いて「古墳時代」を対象としたもので、750基をこえる同時代墓制の基礎資料の集成を主眼とし、文献目録・古墳の概要一覧・諸要素別古墳一覧に分けて収載しました。

皆様方の古墳時代研究の資料として広く活用されることを希望します。終りに、兼務という条件のもとで研究に専念された調査研究員ならびに関係者各位に厚く御礼申し上げます。

昭和54年3月

財団法人　千葉県文化財センター

理事長　今　井　正

例　　言

1. 本書の作成は、杉山晋作・沼沢豊・豊田佳伸・高田博・相京邦彦の５名の共同作業によった。
2. 文献目録については、房総の古墳に関する研究文献を明治時代以降から収載し、発表年代順に並べた。ただし、墳丘・内部施設・遺物等の単なる引用のみの論文・報文については、省略したものがある。
3. 古墳概要については、調査あるいは何らかの要因でその内容が知られている古墳の概要を説明することとし、記述に際して名称（別称）・所在地・調査年・調査者（担当者）・立地・墳丘（平面形・規模・周堀を含む）・外部施設・内部施設・遺物（出土状態を含む）・推定年代・特異点・古墳の現状・遺物保管者・文献番号を含むよう配慮した。しかし、これらの項目のうち不明のものも多く存在する。また、遺物の名称あるいは年代等に原典の報告通りでは今日不適当であるものも含まれているので可能な範囲において修正した。

   なお、収載順については、現市町村別に分割したものを、第１図のとおり南から東京湾沿いに北上し、利根川流域を降った後、太平洋岸を南下するよう、旧郡を意識して番号を付した。

   横穴については、立地が他と異なるため別に収載した。なお、封土を有するかどうか今日では判断が困難な方形周溝墓等については封土を有するものと同一に扱い、弥生時代に含まれる例も収載した。
4. 要素別古墳一覧については、古墳を構成するところの墳形・外部施設・内部施設を大別し、特に遺物に関しては、埴輪のほか土器・祭祀品・宝飾品・武器・武具・工具・馬具等をさらに分けた。それぞれについての詳細な分類は今後の研究に委ねることとし、諸要素の組合せ等の検索に便宜を図るのみにとどめた。
5. 本書の作成過程において簡略化したパンチカードを用いた。諸要素の組合せを検討される際に、概略を把握される目的で活用願えれば幸いである。
6. 文献等の収集に際して、千葉県文化財センター有志の集りである古墳時代勉強会（谷旬・佐久間豊・萩野谷悟・上村淳一・上野純司・石倉亮治・杉崎茂樹・関口達彦・加藤修司・白井久美子・小久貫隆史）ほか多くの方々の御協力を得た。記して謝意を表しておきたい。
7. 本書の挿図は、国土地理院発行の５万分の１地形図（千葉県内各地）を使用して作成した。
8. 挿図の縮尺は第１図を除いて、10万分の１に統一した。

目　　次

序……今　井　　正
Ⅰ　はじめに……1
Ⅱ　文献目録……2
1.　明　治……2
2.　大　正……2
3.　昭　和……3
Ⅲ　古墳概要……41
1.　（古墳・方形周溝遺構）
館山市……41
鴨川市……41
富津市……41
君津市……46
木更津市……48
市原市……60
千葉市……80
習志野市……94
船橋市……95
市川市……96
松戸市……97
流山市……98
野田市……101
柏　市……101
我孫子市……102
沼南町……106
白井町……108
印西町……109
八千代市……110
佐倉市……111
四街道町……118
富里村……119
印旛村……120
栄　町……120
成田市……121
下総町……130
神崎町……131
大栄町……132
佐原市……132
小見川町……135
東庄町……140
銚子市……141
干潟町……142
八日市場市……142
光　町……143
多古町……145
横芝町……147
芝山町……147
松尾町……149
成東町……149
山武町……150
東金市……151
一宮町……152
睦沢村……152
長南町……153
大多喜町……154

2.　（横穴）

館山市…… 156
富津市…… 156
君津市…… 161
市原市…… 162
千葉市…… 168
酒々井町…… 169
下総町…… 169
大栄町…… 169
佐原市…… 170
東庄町…… 172
銚子市…… 172
飯岡町…… 174
八日市場市…… 174
多古町…… 175
大網白里町…… 176
茂原市…… 176
長柄町…… 177
一宮町…… 179
長南町…… 180

Ⅳ　要素別古墳一覧…… 185

1.　墳　形

前方後円墳…… 185
前方後方墳…… 186
方　墳…… 186
円　墳…… 188
横　穴…… 190

2.　内部施設

横穴式石室…… 193
竪穴式石室…… 194
石　棺…… 194
粘土施設…… 195
木炭施設…… 195
土壙・直葬…… 195
特殊施設…… 197

3.　遺　物

円筒埴輪…… 198
形象埴輪…… 199
土師器…… 200
須恵器…… 201
石　枕…… 203
立　花…… 203
石製模造品…… 203
朱・赤色料…… 204
鏡…… 204
車輪石…… 204
石　釧…… 205
銅　釧…… 205
冠…… 205
櫛…… 205
耳　環…… 205
垂耳飾…… 206
管　玉…… 206
勾　玉…… 207
切子玉…… 208
棗　玉…… 208
丸　玉…… 209
小　玉…… 209
臼　玉…… 210
空　玉…… 211

銅　玉…… 211
腰　佩…… 211
鈴…… 211
帯金具…… 211
銅　鋺…… 211
環頭大刀…… 211
頭椎大刀…… 212
圭頭大刀…… 212
方頭大刀…… 212
円頭大刀…… 212
剣…… 212
直　刀…… 213
三輪玉…… 215
銅　鏃…… 215
鉄　鏃…… 215
矛・鎗…… 216
冑…… 217
短　甲…… 217
挂　甲…… 217
胡　籙…… 217
斧…… 217
鎌…… 218
鍬・鋤…… 218
鋸…… 218
鑿…… 218
針…… 218
錐…… 218
刀　子…… 219
釘…… 220
砥　石…… 220
紡錘車…… 220
轡…… 221
鞍…… 221
鐙…… 221
辻金具・雲珠…… 221

挿　図　目　次

第１図　市町村位置図……17
第２図　館山市主要古墳位置図……18
第３図　富津市主要古墳位置図……19
第４図　君津市・木更津市主要古墳位置図……20
第５図　市原市主要古墳位置図……21
第６図　千葉市主要古墳位置図……22
第７図　習志野市・船橋市・八千代市主要古墳位置図……23
第８図　市川市・松戸市主要古墳位置図……24
第９図　流山市・野田市・柏市主要古墳位置図……25
第10図　我孫子市・沼南町主要古墳位置図……26
第11図　白井町・印西町・印旛村主要古墳位置図……27
第12図　佐倉市・四街道町主要古墳位置図……28
第13図　酒々井町・富里村主要古墳位置図……29
第14図　栄町・成田市主要古墳位置図……30
第15図　下総町・神崎町・大栄町・佐原市主要古墳位置図……31
第16図　小見川町・東庄町主要古墳位置図……32
第17図　銚子市主要古墳位置図……33
第18図　飯岡町・干潟町主要古墳位置図……34
第19図　八日市場市・光町・多古町主要古墳位置図……35
第20図　横芝町・芝山町・松尾町・山武町主要古墳位置図……36
第21図　東金市・大網白里町主要古墳位置図……37
第22図　茂原市・長柄町・一宮町・睦沢村・長南町主要古墳位置図……38
第23図　大多喜町周辺主要古墳位置図……39

Ⅰ はじめに

千葉県文化財センターの『研究紀要』の刊行は、5か年計画にて「考古学から見た房総文化」と副題を付し、昭和50年度の先土器時代から始まり、縄文時代・弥生時代を経て、昭和53年度に古墳時代を対象とするに至った。

今年度、古墳時代を対象としながら、あえて「墓制」に限定したのは、この時代の最たる特徴が古墳にあることによるためであり、また、古墳を造営させる集落等の背景の基盤は、今回とりあげるに充分なる調査・研究がなされていないこともその理由となった。過去の人間の行動軌跡を今日認め得る残影のみによって再現する場合、特に古墳時代にあっては、無意識の連続した行為の産物からでなく、意識的・断続的行為の産物からによるほうが、よりその転換の契機や結果的現象を把え得るのではないかと考えているからである。

また、古墳時代は、弥生時代以前と比較して遺構・遺物も多く、かつ、その文化的諸様相も複雑多岐にわたっており、これを限定された期間と制約された条件下で、すべての問題点について言及することは困難であるため、基礎資料の集成を主眼とした。

その第1は、過去の房総の古墳に関する研究文献目録の作成であり、今日までの研究の軌跡をたどることができる。

第2は、今日までに調査または何らかの要因でその内容を知ることができた個々の古墳の概要であり、地域を分割して説明した。

第3は、個々の古墳に現れた諸様相を、索引項目として設定し、今後の研究のために該当古墳の検索を簡便化した。

以上の内容に関し、古墳の位置図以外一切の図および写真を収載しない点で集成としては未完成であり、また、さらに詳細な資料分析を行っていない点で、従来の研究紀要とは性格を異にしたが、データの蓄積を主眼とした点を了承願い、今後の研究紀要でその結実を見たいと考えている。

Ⅱ 文 献 目 録

1 明　　治

1　明治19年　黒木安雄「上総地方洞穴及私考」(『人類学会報告』第9号)
2　明治20年　〃　「上総地方ノ洞穴、接前号」(『人類学会報告』第11号)
3　〃　金田檜太郎「上総国市原郡内横穴報告」(『人類学会報告』第15号)
4　〃　若林勝邦「下総国香取郡神崎の発見品」(『考古学会雑誌』第2巻第11号)
5　明治27年　八木奘三郎・下村三四吉「下総香取郡西大須賀村ノ横穴」(『東京人類学会雑誌』第95号)
6　明治33年　大野延太郎「下総国滑河横穴発見遺物」(『東京人類学会雑誌』第177号)
7　明治34年　鈴木成章「上総国周准郡の古塚」(『考古界』第1篇第2号)
8　明治35年　八木奘三郎「下総手賀村の埴輪土偶」(『東京人類学会雑誌』第195号)
9　明治37年　吉田文俊「下総金野井の埴輪土偶」(『考古界』第3篇第11号)
10　〃　吉田文俊「下総御出子の古墳」(『東京人類学会雑誌』第214号)
11　〃　和田千吉「下総国香取郡西大須賀の横穴」(『考古界』第4篇第7号)
12　明治39年　〃　「下総国東葛郡手賀村大字布瀬発見の埴輪馬」(『東京人類学会雑誌』第238号)
13　〃　柴田常恵「上総国君津郡飯野村内裏塚」(『東京人類学会雑誌』第249号)
14　〃　坪井正五郎「千葉県君津郡飯野地方の古墳」(『東京人類学会雑誌』)
15　明治41年　井野辺茂雄「神社と古墳との関係」(『国学院雑誌』第14巻第8号)
16　明治42年　和田千吉「下総国北生実の古墳発掘」(『考古界』第8篇第4号)
17　〃　〃　「下総国金岡発掘の古墳(1)」(『考古界』第8篇第5号)
18　明治44年　〃　「上総国飯野発掘の金銅丸玉」(『考古学雑誌』第1巻第11号)
19　明治45年　柴田常恵「下総我孫子町子の神の古墳」(『人類学雑誌』第28巻第3号)

2 大　　正

20　大正8年　『日本埴輪図集　上』
21　大正10年　『千葉県香取郡誌』
22　大正11年　小松真一「下総国に於ける或三四の石室古墳」(『人類学雑誌』第37巻第4号)
23　大正15年　「大網町宮谷横穴」「神崎町小松古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第2輯)

3 昭　　和

24　昭和2年　『千葉県君津郡誌』上巻

25　〃　「東條村広場古墳」「菊間村東関山古墳」「大総村中台古墳」「二川村高田古墳」「青堀町西原古墳」「飯野村方形古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第4輯)

26　昭和3年　「大貫町小久保弁天山古墳」「一宮町ノ横穴」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第5輯)

27　昭和4年　「神道山古墳」「東大戸村白幡古墳」「姉崎町二子塚及大塚古墳」「清川村古墳」「巌根村高柳ノ古墳並ニ至徳堂址」「高滝村外部田横穴」「鶴舞町大和田横穴」「鶴舞町池和田横穴」「豊房村南条横穴群及ビ東長田横穴群」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第6輯)

28　〃　谷木光之助「天神山横穴について」(『房総研究』1～4)

29　〃　内藤政光「下総国外部田の横穴について」(『人類学雑誌』第19巻第2号)

30　〃　谷木光之助「上総における線刻画を有する横穴」(『武蔵野』第13巻第5・6合併号)

31　昭和5年　「彌富村岩富古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第7輯)

32　〃　谷木光之助「上総国君津郡清川村長須賀圓山古墳」(『考古学』第1巻第2号)

33　昭和6年　「安食村麻生古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第8輯)

34　昭和8年　浅田芳郎「下総と播磨発見の埴輪」(『考古学』第6巻第4号)

35　昭和11年　三木文雄「上総国長生郡二宮本郷村押日横穴群の研究」(『人類学雑誌』第261巻第2号)

36　〃　後藤守一・塩原伝「下総国香取郡米沢村及其附近の遺跡並に遺物に就いて」(『考古学雑誌』第26巻第11号)

37　昭和12年　高橋勇「上総国君津郡飯野村大字二間塚字向原古墳」(『古墳発掘品調査報告』)

38　昭和23年　下津谷達男・杉崎凌一「初石古墳群発掘概報」(『上代文化』第18輯)

39　昭和24年　大塚初重「上総能満寺古墳発掘調査報告」(『考古学集刊』第3冊)

40　〃　桜井清彦「郡本古墳」小川清「神門古墳」(『千葉県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第1輯)

41　昭和25年　滝口宏「下総竜角寺円墳」玉口時雄「西上総金鈴塚古墳発掘予報」(『古代』第1・2合併号)

42　昭和26年　早稲田大学考古学研究室編『上総金鈴塚古墳』

43　〃　亀井正道「古墳出土の石枕について」下津谷達男「千葉県新川村古墳群発掘調査概報」古宮隆信「千葉県東葛飾郡柏町天神台、風早村船戸古墳群発掘調査概報」(『上代文化』第20輯)

44　〃　樋口清之「千葉県東葛飾郡新川村古墳」(『日本考古学年報』1)

45　〃　大場磐雄・亀井正道「上総国姉ヶ崎二子塚発掘調査概報」(『考古学雑誌』第37巻第3号)

46　〃　小出義治「千葉県印旛郡酒々井町新堀横穴第1号墳調査報告」(『上代文化』第21輯)

47　〃　軽部慈恩・村越潔他「千葉県山武郡成東町不動塚前方後円墳調査概報」(『日本大学文学部研究年報』第2輯)

48　昭和27年　神尾明正「金鈴塚の砂と石とについて」(『古代』第6号)

49　〃　古宮隆信他『文京区立柏学園附近戸張遺蹟調査概報』

50　〃　玉口時雄「上総飯野村西谷古墳調査報告」(『古代』第7・8合併号)

51　昭和28年　滝口宏「上総大多喜の古墳、大多喜台の前方後円墳」大川清「千葉県香取郡昭栄村地蔵原第1号墳」(『古代』第9号)

52　〃　小山剛「千葉県市原郡戸田村馬立遺蹟発掘調査略報」(『若木考古』第18・19号)

53　〃　大川清「千葉県印旛郡阿蘇村栗谷古墳」(『古代』第11号)

54　〃　玉口時雄「千葉県竜角寺古墳調査概報」(『古代』第12号)

55　昭和29年　木村勇「千葉県蕪木古墳群中第三号第五号墳発掘調査日誌抄(上)」(『日本大学考古学通信』創刊号)

56　〃　玉口時雄・大川清「上総上瀑村打岡壹の古墳」(『古代』第13号)

57　〃　木村勇「千葉県蕪木古墳群発掘調査日誌抄(下)」(『日本大学考古学通信』第2号)

58　〃　大場磐雄「千葉県君津郡下郡古墳」樋口清之「千葉県東葛飾郡天神台古墳群」(『日本考古学年報』2)

59　〃　滝口宏『安房勝山田子台遺跡』

60　〃　君塚文雄「安房郡における横穴古墳群の分布とその類型学的研究」(『房総地理』5)

61　昭和30年　平野元三郎・滝口宏「千葉県木更津市金鈴塚古墳」(『日本考古学年報』3)

62　〃　木村東一郎「不動塚附近の地形雑感」高杉洋二郎「千葉県成東町板附古墳群中西ノ台前方後円墳並に陪家発掘日誌抄」(『日本大学考古学通信』第3号)

63　〃　渡辺包夫・実藤遠「上総大多喜町高谷の古墳」(『古代』第14・15合併号)

64　〃　藤崎武仁「天王塚について」山田巌「上代印旛における船形古墳群」(『成田史談』創刊号)
65　〃　軽部慈恩「千葉県山武郡板附不動塚古墳」玉口時雄「千葉県君津郡西谷古墳」武田宗久「千葉県千葉市荒久古墳」(『日本考古学年報』4)
66　〃　牧野誠「浪花の横穴古墳について」(『房総史学』1巻1号)
67　〃　川戸彰「再び山武郡の古墳について(その1・その2)」(『房総史学5・6号)
68　昭和31年　鈴木喜久二・中村繁治「千葉県芝山古墳群殿塚第7号墳発掘略報」金子浩昌「千葉県香取郡東庄町の石棺調査」滝口宏・玉口時雄・大川清「千葉県芝山古墳群調査速報」(『古代』第19・20合併号)
69　〃　坂詰秀一「千葉県君津郡鹿島における陰刻原始絵画を有する横穴」(『考古学雑誌』第41巻第4号)
70　〃　金谷克己「埴輪の配置(4)」(『若木考古』第42号)
71　〃　小林秀雄・佐藤俊雄「芝山古墳群小池第1号墳」(『古代』第21・22合併号)
72　〃　坂詰秀一「千葉県君津郡大貫における横穴群の調査略報」(『銅鐸』12)
73　昭和32年　軽部慈恩「千葉県蕪木第五号墳出土の珍種金銅具について」(『日本大学考古学通信』第4号)
74　〃　軽部慈恩「千葉県山武郡朝日ノ岡古墳」玉口時雄「千葉県印旛郡竜角寺古墳」滝口宏「千葉県夷隅郡大多喜台古墳」樋口清之「千葉県市原郡馬立古墳群」(『日本考古学年報』5)
75　〃　川戸彰「千葉県山武町埴谷古墳群調査(概報)」(『上代文化』第27輯)
76　〃　軽部慈恩「千葉県山武郡大堤権現塚前方後円墳」(『古代』第25・26合併号)
77　〃　大野延太郎「上総国横穴調査」(『東京人類学会雑誌』第165号)
78　〃　下津谷達男「千葉県野田市川間香取原の2古墳」(『日本考古学協会第20回総会研究発表要旨』)
79　昭和33年　高橋三男「東上総源六谷横穴群について」(『古代』第27号)
80　〃　樋口清之「千葉県東葛飾郡手賀村天神塚古墳」軽部慈恩「千葉県山武郡成東町板附西ノ台古墳」早稲田大学考古学研究室「千葉県夷隅郡大多喜町高谷古墳」(『日本考古学年報』7)
81　〃　酒梨満「船塚古墳と前方後円墳について」(『成田史談』第4号)
82　〃　市毛勲「所謂「朱」の種類について—用語の統一を中心として—」(『金鈴』8)
83　昭和34年　石橋謙次「千葉県神崎町古墳の概要」(『古代』第31号)
84　〃　高橋源一郎「船橋市内古墳時代遺跡の分布」(『船橋市史』前篇)

85　〃　松裏善亮「姫宮古墳発掘報告」(『佐倉地方文化』12)

86　〃　吉田章一郎・甘粕健「千葉県東葛飾郡我孫子町白山古墳の発掘」(『考古学雑誌』第44巻第4号)

87　〃　山田巌「浅間台古墳」(『成田史談』第5号)

88　〃　大場磐雄・小出義治他『松戸河原塚古墳』

89　〃　金子浩昌・中村恵次・市毛勲「千葉県東葛飾郡沼南村片山古墳群の調査」(『古代』第33号)

90　昭和35年　「成田市の古墳，印旛手賀沼干拓地調査」(『成田史談』第6号)

91　〃　丸子亘「千葉県八日市場市塚原古墳群の調査」(『日本考古学協会研究発表要旨』26)

92　〃　丸子亘「千葉県八日市場市塚原における前方後円墳の調査」(予報)(『立正大学史学会』創立35周年記念史学論文集)

93　〃　坂詰秀一「千葉県塚原古墳群の調査」(『古代文化』第4巻第3号)

94　昭和36年　清水潤三「千葉県香取郡干潟町長熊古墳」玉口時雄「千葉県山武郡芝山古墳群」(『日本考古学年報』9)

95　〃　大野政治・江森正義『成田市の古墳群』

96　〃　大場磐雄・寺村光晴「上総市原古墳群の調査」(『国学院雑誌』第62巻第9号)

97　〃　松戸市誌編纂委員会「古墳時代の松戸」(『松戸市史』上巻)

98　〃　中村恵次・市毛勲「千葉市中原古墳群調査報告」(『古代』第37号)

99　〃　武田宗久「七廻塚古墳出土品」「荒久古墳」「中原古墳出土人物埴輪」(『千葉市の文化財』)

100　〃　大場磐雄・寺村光晴「上総市原古墳群の調査」(『市原町文化財叢書』第2輯)

101　〃　滝口宏・金子浩昌他『印旛手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』(本編)

102　昭和37年　吉田章一郎「千葉県東葛飾郡高野山第1号墳」「千葉県東葛飾郡我孫子町白山古墳」平野元三郎「千葉県佐倉市馬渡姫宮古墳」大塚初重「千葉県香取郡正徳院古墳」武田宗久「七廻塚古墳」(『日本考古学年報』11)

103　〃　坂詰秀一「横穴式古墳の下限の問題」(『歴史考古』7)

104　昭和38年　清水潤三「漆塗櫛一千葉県横芝町谷台出土」(『考古学雑誌』第48巻第3号)

105　〃　宍倉昭一郎他「千葉県芝山町山田古墳群調査報告」(『金鈴』17)

106　〃　滝口宏「千葉県夷隅郡打岡台古墳・横山古墳」武田宗久「千葉県君津郡岩瀬横穴古墳」軽部慈恩「千葉県山武郡蕪木第5号墳」(『日本考古学年報』6)

107　〃　大場磐雄・甘粕健「千葉県市原市姉ヶ崎町山王山古墳出土の環頭大刀」(『考

古学雑誌』第49巻第２号）
108　〃　江沢中葉「夷隅郡引田峯越台遺蹟調査概報」（『総南文化』第１号）
109　〃　『千葉県史料　原始古代編　安房国』
110　〃　市毛勲「東国における墳丘裾に内部施設を有する古墳について」（『古代』第41号）
111　〃　中村恵次　「南総町江子田瓢箪塚古墳の調査」大場磐雄他「市原市姉崎山王古墳調査」（『日本考古学協会研究発表要旨』38）
112　〃　岩崎卓也「竹ケ花古墳」（『松戸市文化財調査報告』第１集）
113　〃　滝口宏・久地岡榛雄『はにわ』
114　〃　甘粕健「内裏塚古墳群の歴史的意義」（『考古学研究』第10巻第３号）
115　昭和39年　桐原健「上総金鈴塚出土の巴形飾金具」中村恵次「千葉県養老川流域の古墳群についての一考察—市原郡南総町江子田瓢箪塚古墳を中心として」（『古代』巻42・43合併号）
116　〃　中村恵次「千葉県における後期古墳—とくに群集墳の分布・内部施設被葬者について」（『金鈴』18）
117　〃　滝口宏「君津郡富津町飯野古墳群」大場磐雄他「市原市姉崎山王山古墳」下津谷達男「流山町東深井古墳」武田宗久「南総町江子田瓢箪塚古墳」滝口宏「市原市西広モチ塚古墳」（『千葉県遺跡調査報告書』１）
118　〃　平野元三郎他「上総土気舟塚古墳の調査」（『日本考古学協会研究発表要旨』39）
119　〃　川戸彰「山武郡の古墳について」（『房総史学』１巻２号）
120　〃　渡辺包夫「上瀑部落出土の漢式古鏡メモ」（『総南文化』第２号）
121　昭和40年　浜名徳永・市毛勲「鮭の埴輪」（『古代』第44号）
122　〃　甘粕健「千葉県東葛飾郡日立１号墳」（『日本考古学年報』13）
123　〃　茂木雅博「成田市大山古墳調査報告」（『古代学研究』41）
124　〃　丸子亘「千葉県小見川町城山古墳の調査」（『立正大学博物館学講座研究報告』２）
125　〃　丸子亘「千葉県小見川町城山古墳の調査」（『立正大学文学部論叢』22）
126　〃　平野元三郎「上総国周准郡の遺跡」（『古美術』）
127　〃　武田宗久「狐塚古墳」（『千葉県遺跡調査報告書』２）
128　〃　下津谷達男「堤台遺跡」平野元三郎「千葉県竜角寺古墳群の調査」（『日本考古学協会研究発表要旨』40）
129　昭和41年　滝口宏「富津町稲荷塚古墳」（『千葉県遺跡調査報告書』３）
130　〃　『茂原市史』

131　〃　村井嵓雄「千葉県木更津市大塚山古墳出土遺物の研究」(『MUSEUM』第198号)
132　〃　岩崎卓也「千葉県松戸市竹ヶ花古墳」大場磐雄・寺村光晴「千葉県市原市向原古墳群」川戸彰「千葉県東金市家之子51号墳」(『日本考古学年報』14)
133　〃　藤岡一雄「千葉県海老内台遺跡群の調査—古墳」(『下総考古学』2)
134　〃　中村慎二「城山第7号円墳の調査」丸子亘・渡辺智信「城山第5号前方後円墳第1次調査概報」(『海上文化』1)
135　〃　坂井利明「千葉県芝山町高田第1号墳発掘調査概報」(『塔影』第1集)
136　昭和42年　堀田啓一「冠・垂耳飾の出土した古墳と大和政権」(『古代学研究』49)
137　〃　藤岡一雄「鷺沼古墳」(『習志野市文化財調査報告書』第1輯)
138　〃　平野元三郎・滝口宏「千葉県君津郡絹横穴」下津谷達男「千葉県東葛飾郡東深井古墳」(『日本考古学年報』15)
139　〃　市毛勲・杉山晋作「山木古墳」中村恵次他「福増古墳群」中村恵次「荻作古墳群」(『市原市文化財調査報告書』第3冊)
140　〃　中村恵次・市毛勲「富津古墳群八丁塚古墳調査報告」平野元三郎・滝口宏「大同元年在銘横穴」(『古代』第49・50合併号)
141　〃　中村恵次「千葉県山武郡土気町舟塚古墳の調査」(『古代』第48号)
142　〃　杉山晋作「宝米六号墳石室調査報告」(『金鈴』20号)
143　〃　滝口宏他『千葉県史料原始古代編上総国』
144　昭和43年　中村恵次他『清見台古墳群発掘調査報告』
145　〃　対島郁夫「館山市坂井翁作古墳調査報告」(『館山市文化財保護協会会報』1)
146　〃　丸子亘「千葉県香取郡城山第1号古墳」平野元三郎「千葉県市原市モチ塚古墳」中村恵次「千葉県市原市富士見塚古墳」(『日本考古学年報』16)
147　〃　茂木雅博「古式古墳墳丘構築論—関東地方大型古墳封土の発生について」(『古代学研究』52)
148　〃　中村恵次他「海保古墳群」(『市原市埋蔵文化財調査報告』4)
149　〃　上智大学史学会・同史学研究会『東上総の社会と文化』(『上智大学史学会研究報告』2)
150　〃　野口博芳「牛久古墳にまつわる話」(『南総郷土文化研究会誌』6号)
151　昭和44年　中村恵次・市毛勲「千葉県山武郡土気舟塚古墳」(『日本考古学年報』17)
152　〃　平沢一久「遺骸埋葬施設位置の特異な高塚墳墓についての一考察」(『鎌田博士還暦記念歴史学論叢』)
153　〃　大野政治「印旛の国造たち」(『成田史談』第15号)

154　〃　竹石健二「特異な位置に内部主体を有する古墳について」(『史叢』第12・13合併号)

155　〃　茂木雅博「古式古墳の性格—特に前方後円墳を中心に」(『古代学研究』56)

156　〃　下津谷達男『流山市東深井古墳群—昭和43年度調査概報』

157　〃　東京大学考古学研究室『我孫子古墳群』

158　〃　武田宗久「上総国女坂第1号方形墳」(『南総郷土文化研究会叢書』9)

159　〃　石井昭「牛久古墳群発掘概報」(『市原高校郷土研究クラブ活動報告』)

160　〃　大塚初重『千葉市生実町大覚寺山古墳の測量結果について』

161　〃　杉山晋作「所謂「変則的古墳」の分類について」(『茨城考古学』第2号)

162　昭和45年　甘粕健「千葉県我孫子町水神山古墳」甘粕健「千葉県我孫子町日立精機2号墳」吉田章一郎「千葉県長生郡一宮町待山古墳」(『日本考古学年報』18)

163　〃　石井則孝他『原一号墳発掘調査概報』

164　〃　村田一男『佐倉市大篠塚古墳群埋蔵文化財調査報告』

165　〃　栗本佳弘「印旛郡富里村日吉倉遺跡」(『東関東自動車道(千葉成田線)関係埋蔵文化財発掘調査報告書』)

166　〃　千葉県教育庁文化課『龍角寺、芝山を含む北総地域の埋蔵文化財とその保護対策について』

167　〃　大木衛『銚子市赤塚古墳調査報告書』

168　〃　丸子亘『姉ヶ崎台遺跡』

169　〃　石井昭「牛久古墳群発掘概報」(『南総町郷土文化研究会会誌』7号)

170　〃　関根孝夫・木下正史「松戸市稔台富山遺跡」(『考古学雑誌』第55巻第4号)

171　昭和46年　高橋良治「松戸の遺跡3　河原塚遺跡」(『かみしき』4)

172　〃　菅谷文則「横穴式石室の内部—天蓋と垂帳」(『古代学研究』59)

173　〃　大塚初重他『弁天山古墳復元整備基礎調査報告書』

174　〃　市毛勲「千葉県山武郡成東町経僧塚古墳の調査」(『史観』83)

175　〃　中村恵次「千葉県市原市福増古墳群」吉田章一郎「千葉県長南町地引横穴群」市毛勲「千葉県市原市山木古墳」中村恵次「千葉県市原市荻作古墳群1号墳」尾崎喜左雄「千葉県習志野市鷺沼古墳附城跡」市毛勲「千葉県山武郡芝山町小池大塚」川戸彰「千葉県山武郡麻生新田カブト塚古墳」(『日本考古学年報』19)

176　〃　市毛勲・椙山林継・多宇邦雄・沼沢豊「千葉県香取郡下総町大日山古墳」(『昭和45年度千葉県埋蔵文化財抄報』2)

177　〃　茂木雅博「平塚船戸古墳」(『白井町文化財紀要』1)

178　〃　丸子亘「野中横穴群遺跡」(『立正大学博物館学講座研究小報』6)

179　〃　岩立喜一『佐原市岩ヶ崎野中横穴群発掘調査報告書』
180　昭和47年　平野元三郎・野中徹「旧上総町の埋蔵文化財」(『千葉文華』5)
181　〃　安藤鴻基他『千葉県香取郡神崎町舟塚原古墳第1次発掘調査概報』
182　〃　椙山林継「祭と葬の分化―石製模造遺物を中心として」(『国学院大学日本文化研究所紀要』第29輯)
183　〃　湯浅泰之祐「松戸の遺跡7　大橋向山遺跡」(『かみしき』8)
184　〃　対馬郁夫「県下初の七鈴鏡」久保木良「神道山古墳」(『千葉県の文化』1)
185　〃　斉藤吉弘「南総中遺跡発掘調査概報」(『先史』8)
186　〃　高橋在久・渡辺智信「湊川流域の横穴群調査概要」(『千葉文華』6)
187　〃　増田精一他『牛久Ⅲ号墳調査抄報』
188　〃　熊野正也「真木ノ内船戸古墳―発掘調査概報」(『白井町文化財紀要』2)
189　〃　村田一男「八千代市神野芝山2号墳発掘調査概要」(『史学報』第3号)
190　〃　下津谷達男・伊藤和彦・増田逸朗『東深井遺跡調査報告書』
191　〃　古宮隆信「戸張遺跡」「山田台遺跡」(『柏の文化財』)
192　〃　野口博芳「江子田南総中遺跡方形周溝墓と甕棺について」(『市原地方史研究』8)
193　〃　坂井利明他『にとな―古墳群とその集落址の調査―』
194　〃　杉山晋作他『古墳時代研究Ⅰ―千葉県市原市小田部古墳の調査―』
195　〃　杉山晋作「八重原古墳群(四ツ塚古墳群)」(『日本考古学年報』20)
196　〃　渋谷興平「銚子市柴崎台遺跡の概報」(『史陵』3)
197　〃　渋谷興平『扶喰古墳の研究』
198　〃　五代吉彦他『武田古墳群発掘調査概報』
199　〃　杉山晋作他『羽計古墳群』
200　〃　吉田章一郎「千葉県長生郡一宮町待山古墳」(『日本考古学年報18)
201　〃　矢戸三男・大村祐「片野横穴群」池上悟「八日市場の横穴」豊田佳伸・越川敏夫「東庄町夏目横穴群」(『横穴の研究』)
202　〃　渋谷興平『横穴の研究・利根川流域の調査』
203　〃　橋口定志「千葉県夷隅地区の横穴について」(『物質文化』19)
204　〃　二宮栄学「米沢横穴群調査概報」(『市原地方史研究』7)
205　〃　佐藤克巳「東上総一宮川流域の特徴ある横穴について」(『ふさ』第2号)
206　〃　栗本佳弘『椎名崎古墳群発掘調査概要』
207　〃　杉山晋作「切石積箱状内部施設の名称について――山田1・2号墳に関して――」(『ふさ』創刊号)
208　〃　米内邦雄・宮入和博『千代田遺跡』

209　昭和48年　栗本佳弘「千葉市椎名崎古墳群」「千葉市加曽利町聖人塚古墳」杉山晋作「市原市愛宕山西国吉横穴群」熊野正也「真木ノ内船戸古墳」野中徹「君津市大和田花里山横穴群」市毛勲「千葉県香取郡神崎町舟塚原古墳(第1次)」杉山晋作「千葉県香取郡東庄町婆里古墳」(『日本考古学年報』24)
210　〃　杉山晋作「千葉県木更津市手古塚古墳の調査速報」市毛勲「変則的古墳覚書」(『古代』第56号)
211　〃　川戸彰「郷土史研究の先覚小熊吉蔵翁の事蹟」(『千葉文華』7)
212　〃　天野努・斉木勝『袖ケ浦町山野貝塚　付木更津市下部多山供養塚』
213　〃　種田斉吾「兼坂遺跡」(『京葉』)
214　〃　轟俊二郎『埴輪研究』第1冊
215　〃　市毛勲他『下総鶴塚古墳の調査概報』
216　〃　米内邦雄他『大崎台遺跡』
217　〃　柿沼修平「星久喜遺跡」三森俊彦「聖人塚古墳」古内茂「高品第2遺跡」(『京葉』)
218　〃　佐藤武雄「東葛地方における古墳の分布と埴輪の存在について」(『ふさ』第4号)
219　〃　渋谷興平「利根川流域における横穴古墳の様相と予察」(『史陵』2)
220　〃　「大覚寺山古墳」(『改訂・増補千葉県文化財総覧』)
221　〃　中村恵次・沼沢豊「前方後方墳の一考察」(『古代』第55号)
222　〃　藤下昌信・宮入和博「赤坂・瓢塚古墳群第13号墳発掘調査概報」(『成田市の文化財』第5輯)
223　〃　大野政治他『成田市文化財分布調査報告書』
224　〃　平岡和夫「山田古墳群24号墳調査」(『郷土』)
225　昭和49年　野中徹『馬門古墳発掘調査報告』
226　〃　杉山晋作「木更津市「塚の越古墳」出土遺物」(『MUSEUMちば』第4号)
227　〃　安藤鴻基「千葉県木更津市畑沢埴輪窯址の調査速報」杉山晋作「変則的古墳の解釈(その1)—前方後円墳の平面企画方法を通して—」(『古代』第57号)
228　〃　野中徹「東京湾東沿岸における横穴墳について」中村恵次「房総半島における横穴式石室—とくに複室構造の石室について—」(『史館』第2号)
229　〃　安藤鴻基「丸塚古墳」(『日本考古学年報』27)
230　〃　渋谷興平「中峠城跡内での古墳調査」(『千葉県我孫子市中峠城跡調査報告書』)

231　〃　原田道雄「横穴式複室石室に関する覚え書—中村恵次氏論文を読んで—」熊野正也「特殊な器台形土器について（1）」（『史館』第3号）
232　〃　市毛勲・多宇邦雄「千葉県小見川町城山発見石棺群と城山六号墳の調査」『古代』第58号）
233　〃　杉山晋作「あらたに発見された姉崎二子塚古墳の鏡」中村恵次「房総半島における変形石室—L字形、T字形石室とその周辺—」山田友治「房総における古式須恵器とその性格について」（『史館』第4号）
234　〃　三森俊彦・古内茂『市原市大厩遺跡』
235　〃　斉木勝他『菊間遺跡』
236　〃　天野努他『八千代市村上遺跡群』
237　〃　古宮隆信『柏市戸張遺跡第三次発掘報告書』
238　〃　武田宗久他『千葉市史』第1巻
239　〃　倉田芳郎「南総中校庭遺跡」（『日本考古学年報』25）
240　〃　滝口宏他『東間部多古墳群—上総国分寺台遺跡調査報告Ⅰ—』
241　〃　野中徹「北子安堀込古墳調査概報」
242　〃　高木博彦「印西町大森上宿古墳」（『ふさ』第5・6合併号）
243　〃　村田一男他『坂並白貝古墳群66号墳・高津原横穴群・千葉県香取郡多古町遺跡調査概報』
244　〃　種田斉吾・菊池真太郎『木更津市請西遺跡群』
245　〃　小川和博・工藤英行「荒海古墳群第15号墳発掘調査報告」（『成田市の文化財』第6輯）
246　〃　桑原護「飯重新畑遺跡」「生谷境堀遺跡」（『飯重』）
247　昭和50年　椙山林継「木更津市請西遺跡の調査」（『考古学ジャーナル』No. 105）
248　〃　椙山林継他『木更津市請西遺跡—昭和49年度発掘調査概報』
249　〃　八幡一郎他『夏見大塚遺跡—夏見台地における弥生時代・奈良・平安時代集落址の調査—』
250　〃　滝口宏・市毛勲　『千葉県長生郡長南町油殿古墳群の墳丘周辺発掘調査概報』
251　〃　浜名徳永『芝山はにわ博物館研究報告1・下総小川台古墳群』
252　〃　安藤鴻基他『関向古墳発掘調査概報』
253　〃　山田友治他『千葉県長生郡睦沢村浅間山1号墳発掘調査報告書』
254　〃　本村豪章「上総・市原市菊間小学校遺跡についての一試考」（『MUSEUM』第288号）
255　〃　倉田芳郎「千葉・上ノ台遺跡の問題点」寺社下博「千葉・上ノ台遺跡第Ⅲ次調査概報」松井考宗「千葉・上ノ台遺跡第Ⅰ次調査概報」（『先史』9）

256　〃　平岡和夫・松井義郎『板附古墳群』

257　〃　杉山晋作「内裏塚古墳群の再検討――内裏塚古墳の遺物(前)――」熊野正也「南関東地方における弥生文化の研究（2）―特に房総半島における葬制について―」田中新史「5世紀における短甲出土古墳の一様相―房総出土の短甲とその古墳を中心として―」(『史館』第5号)

258　〃　池上悟「横穴墓の地域性関東（2）―房総・常陸―」(『考古学ジャーナル』No. 110)

259　〃　湯浅喜代治「松戸の遺跡13　西金楠台遺跡」(『かみしき』14)

260　〃　成田ニュータウン文化財調査班『公津原』

261　〃　杉山晋作『清水谷遺跡』

262　〃　栗本佳弘「椎名崎古墳群」(『千葉東南部ニュータウン』1)

263　〃　渋谷興平『小林古墳群遺跡』

264　〃　篠丸頼彦「小林古墳群」(『日本考古学年報』26)

265　〃　滝口宏他『遺跡日吉倉』

266　〃　伊礼正雄・熊野正也『臼井南』

267　〃　矢戸三男他『阿玉台北遺跡』

268　〃　中村恵次・沼沢豊・田中新史『古墳時代研究Ⅲ―千葉県市原市六孫王原古墳の調査―』

269　〃　『昭和48年文化財紀要　横芝町文化財総合調査報告（1）』

270　〃　『富津市遺跡等分布図』

271　〃　『袖ケ浦町文化財分布調査報告書　埋蔵文化財』

272　〃　平野元三郎他『天神台遺跡発掘調査概報』

273　〃　須田勉『諏訪台古墳調査概要』

274　昭和51年　杉山晋作「房総における古墳の変革」（前)」(『史館』第6号)

275　〃　杉山晋作「房総における古墳の変革（後)」山田友治「古式な鏡について」(『史館』第7号)

276　〃　対馬郁夫他『大竹遺跡　大竹第12号古墳調査報告書』

277　〃　千葉県教育庁文化課（『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄』報昭和49、50年)

278　〃　大塚初重他『道祖神裏古墳調査概報』

289　〃　『木更津市中尾横穴発掘調査報告』

280　〃　武田宗久「大覚寺山古墳」「へたの台古墳群」(『千葉市史』史料編1)

281　〃　中村恵次「東寺山戸張作古墳群」(『日本考古学年報』27)

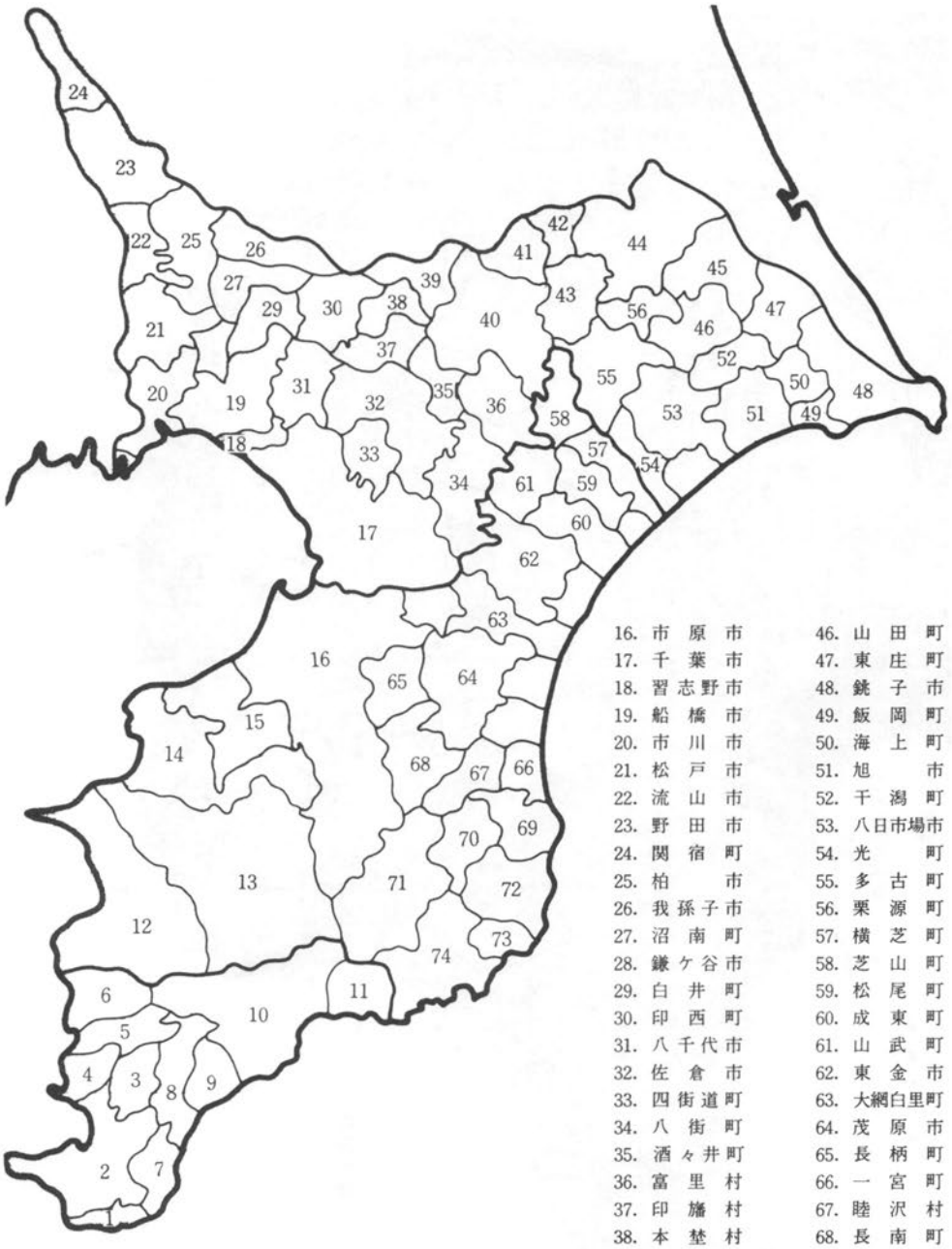
282　〃　浜名徳永『下総片野古墳群』

283　〃　菊池真太郎・豊田佳伸『千葉市誉田県立コロニー内遺跡』

284　〃　宮内庁書陵部『古鏡目録』
285　〃　杉山晋作「房総の埴輪（1）—九十九里地域における人物埴輪の二相—」安藤鴻基「埴輪祭祀の終焉」市毛勲「房総人物埴輪顔面の赤彩色法—人物埴輪顔面の赤彩色についてⅣ—」米田耕之助「上総山倉一号墳の人物埴輪」（『古代』第59・60合併号）
286　〃　柿沼修平他「多古台遺跡群調査概報」（『日本文化財研究所文化財調査報告』2）
287　〃　半田堅三他『上総国分寺台発掘調査概要Ⅲ』
288　〃　海野道義「石川第1号古墳発掘調査略報」内田儀久「飯塚古墳群」（『佐倉市文化財時報』）
289　〃　田中新史『南向原　上総国分寺台遺跡調査報告Ⅲ』
290　〃　半田堅三他『武士遺跡』
291　〃　米内邦雄他「志津西ノ台遺跡」（『佐倉市埋蔵文化財報告』2）
292　〃　桑原護「内野古墳群他の測量所見」（『千葉市文化財調査報告』第1集）
293　昭和52年　荒木誠・鈴木容子「木更津市請西遺跡の調査　第2報」（『考古学ジャーナル』No. 131）
294　〃　千葉県教育庁文化課（『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報』昭和47・48年）
295　〃　杉山晋作「房総の石枕（1）——市原市発見の石枕——」石井則孝「千葉県富津市出土の新羅焼土器」熊野正也「特殊な器台形土器について（2）」市毛勲「中村恵次氏遺稿に関するコメント」中村恵次「房総半島における特殊石室Ⅲ—城山6号墳石室とその周辺—」（『史館』第8号）
296　〃　大塚初重「房総の古墳分布とその特質」（『成田史談』22号）
297　〃　平岡和夫他『中津田古墳』
298　〃　沼沢豊「千葉市東寺山石神遺跡の調査」（『考古学ジャーナル』No. 133）
299　〃　野中徹他『木更津市埋蔵文化財分布調査報告書』
300　〃　田川良他『生谷』
301　〃　野中徹『岩横穴群発掘調査報告書』
302　〃　佐藤克巳『千葉県海上郡飯岡町平松岡横穴発掘調査報告』
303　〃　浜名徳永（『はにわ』図録3）
304　〃　久我春雄他『睦沢村史』
305　〃　文化庁文化財保護部『昭和51年度国保有埋蔵文化財』
306　〃　上野純司「南関東における古式土師式土器編年試論」（『史館』第9号）
307　〃　樋口清之・金子皓彦・青木豊「関東の古墳時代文化」『国学院大学考古学資料館要覧』

308　〃　椙山林継「葬送儀礼の考古学的事象―古墳における祭器具―」(『国学院雑誌』第78巻第12号)
309　〃　田中新史「市原市神門四号墳の出現とその系譜」(『古代』第63号)
310　〃　斉藤忠『長柄町史』
311　〃　栗本佳弘他『千葉東南部ニュータウン4』
312　〃　浅利幸一他『千葉市大宮町・東五郎遺跡発掘調査報告書』
313　〃　森重彰文『武石遺跡・武石館調査報告』
314　〃　椙山林継・荒木誠他『請西』
315　〃　高田博他『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ―第1次・第2次調査―』
316　〃　中村恵次・岡川宏道他『千葉市東寺山戸張作遺跡』
317　〃　三浦和信他『吉高山王遺跡』
318　〃　中村恵次他『東寺山石神遺跡』
319　昭和53年　江森正義「松戸の遺跡17　幸田貝塚」(『かみしき』18号)
320　〃　中村恵次『房総古墳論攻』
321　〃　清藤一順「星谷津1号墳」『佐倉市星谷津遺跡』
322　〃　工藤英行「古墳測量調査報告」(『成田市の文化財』第9輯)
323　〃　〃　「長田古墳群第1号墳発掘調査略報」(『成田史談』23号)
324　〃　村田一男他『千葉県香取郡多古町坂並白貝古墳群発掘調査報告』
325　〃　野中徹他『千葉県木更津市中尾横穴発掘調査報告』
326　〃　栗本佳弘「千葉市大金沢町六通1号古墳」「千葉市大金沢町六通2号古墳」「千葉市椎名崎町人形塚1号古墳」「千葉市椎名崎町2号古墳」「千葉市小金沢1号古墳」「千葉市椎名崎町狐塚1号古墳」「千葉市椎名崎町孤塚2号古墳」野中徹「君津市新御堂元秋葉台32号墳」杉山晋作「千葉市平山古墳」(『日本考古学年報』29)
327　〃　熊野正也「石田川式土器文化成立に関する一考察(前)―いわゆるS字状口縁甕形土器を中心として―」石井則孝「富津市上飯野「野々間古墳」の出土遺物について」(『史館』第10号)
328　〃　渋谷興平「銚子市小舟木発見の横穴」(『史陵』No3」
329　〃　沼沢豊・深沢克友・森尚登『佐倉市飯合作遺跡』
330　〃　杉山晋作・瀬戸久夫『千葉市築地台貝塚・平山古墳』
331　〃　鈴木道之助他『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』
332　〃　千葉県教育庁文化課(『千葉県埋蔵文化財調査抄報』昭和50その2・51年度)
〔追補〕
333　昭和37年　中村恵次「下総における後期古墳」(『民衆史研究』1)

334　昭和41年　中村恵次「上総・下総の接壌地帯における後期古墳の問題」(『考古学ジャーナル』2)
335　昭和42年　中村恵次「発生期古墳の地域相――東国――」(『歴史教育』3月号)
336　昭和43年　中村恵次「東国における古墳発生の歴史的意義」(『日本古代史の諸問題』)
337　昭和48年　中村恵次「房総の装飾古墳」(『考古学ジャーナル』No. 91)
338　昭和32年　万年一「光勝寺の石枕について」(『佐倉地方文化』10)
339　昭和46年　竹内理三編『市川市史』第一巻
340　昭和47年　杉山晋作他『千葉県市原市西国吉横穴群』
341　昭和47年　高崎繁雄『木更津市史』
342　昭和48年　千葉県教育庁編『改訂増補千葉県文化財総覧』
343　昭和48年　市原市教育委員会編『市原のあゆみ』
344　昭和48年　岡田茂弘・椙山林継他『大満横穴群調査報告』(『富津市文化財調査報告書』1)
345　昭和50年　大塚初重「千葉県岩屋古墳の再検討」(『駿台史学』第37号)
346　昭和51年　小林三郎・熊野正也編『法皇塚古墳』(『市立市川博物館研究調査報告』第3冊)

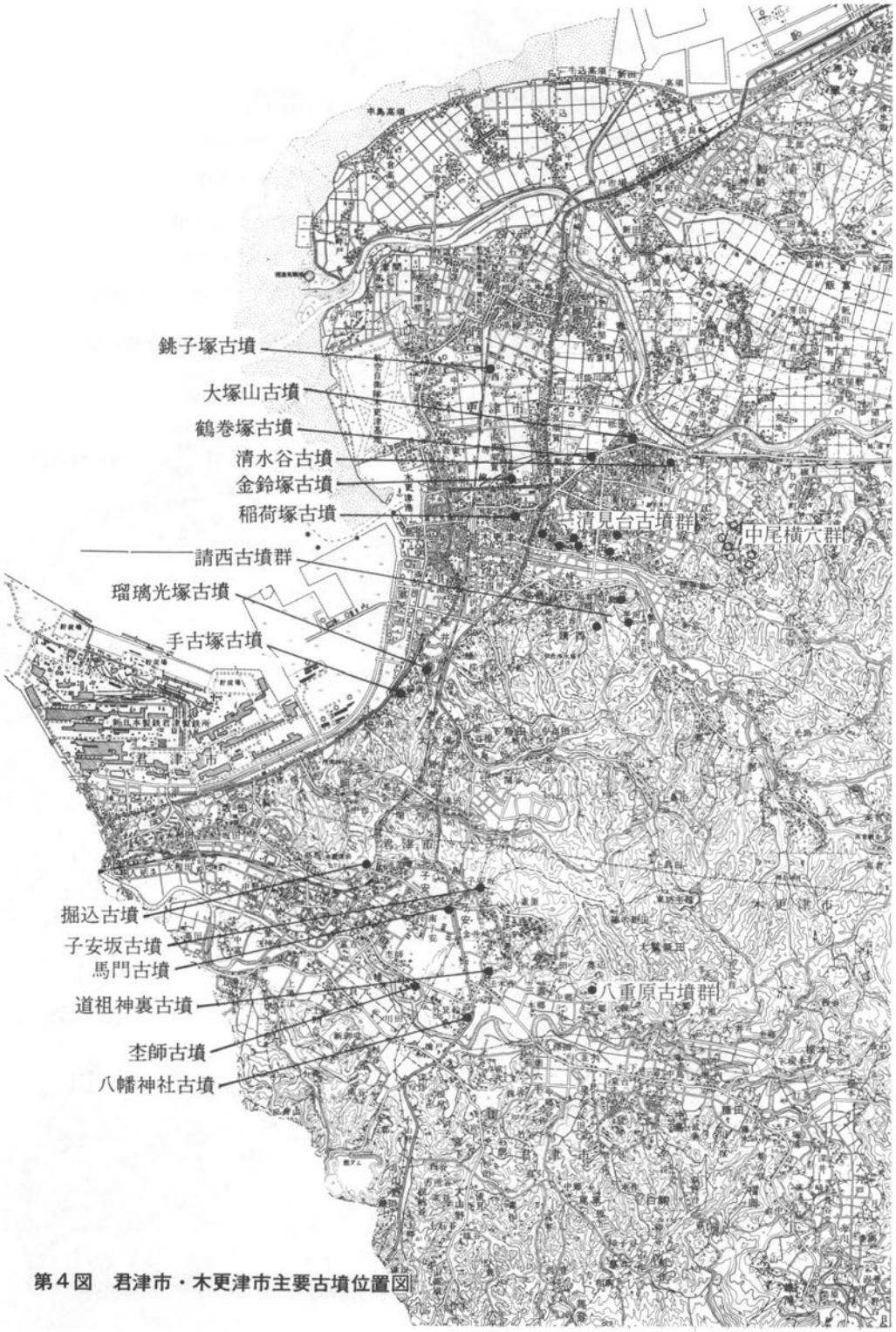


第1図　市町村位置図

1. 白浜町
2. 館山市
3. 三芳村
4. 富浦町
5. 富山町
6. 鋸南町
7. 千倉町
8. 丸山町
9. 和田町
10. 鴨川市
11. 天津小湊町
12. 富津市
13. 君津市
14. 木更津市
15. 袖ケ浦町
16. 市原市
17. 千葉市
18. 習志野市
19. 船橋市
20. 市川市
21. 松戸市
22. 流山市
23. 野田市
24. 関宿町
25. 柏市
26. 我孫子市
27. 沼南町
28. 鎌ケ谷市
29. 白井町
30. 印西町
31. 八千代市
32. 佐倉市
33. 四街道町
34. 八街町
35. 酒々井町
36. 富里村
37. 印旛村
38. 本埜村
39. 栄町
40. 成田市
41. 下総町
42. 神崎町
43. 大栄町
44. 佐原市
45. 小見川町
46. 山田町
47. 東庄町
48. 銚子市
49. 飯岡町
50. 海上町
51. 旭市
52. 干潟町
53. 八日市場市
54. 光町
55. 多古町
56. 栗源町
57. 横芝町
58. 芝山町
59. 松尾町
60. 成東町
61. 山武町
62. 東金市
63. 大網白里町
64. 茂原市
65. 長柄町
66. 一宮町
67. 睦沢村
68. 長南町
69. 岬町
70. 夷隅町
71. 大多喜町
72. 大原町
73. 御宿町
74. 勝浦市

第2図　館山市主要古墳位置図

第３図　富津市主要古墳位置図



第４図　君津市・木更津市主要古墳位置図

第5図　市原市主要古墳位置図

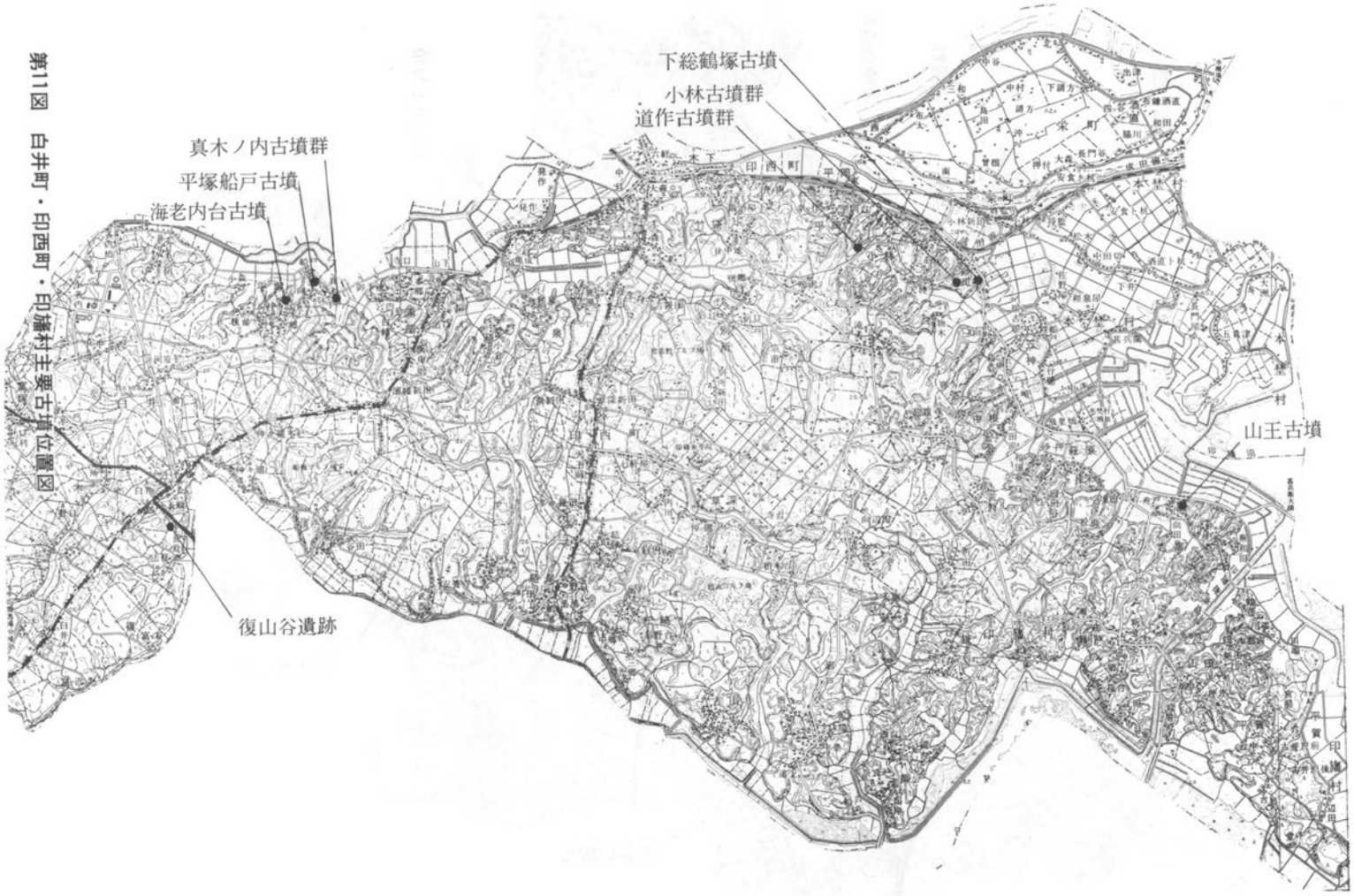
第６図　千葉市主要古墳位置図

第7図　習志野市・船橋市・八千代市主要古墳位置図

第８図　市川市・松戸市主要古墳位置図

第９図　流山市・野田市・柏市主要古墳位置図

第10図　我孫子市・沼南町主要古墳位置図



第11図　白井町・印西町・印旛村主要古墳位置図

第12図　佐倉市・四街道町主要古墳位置図

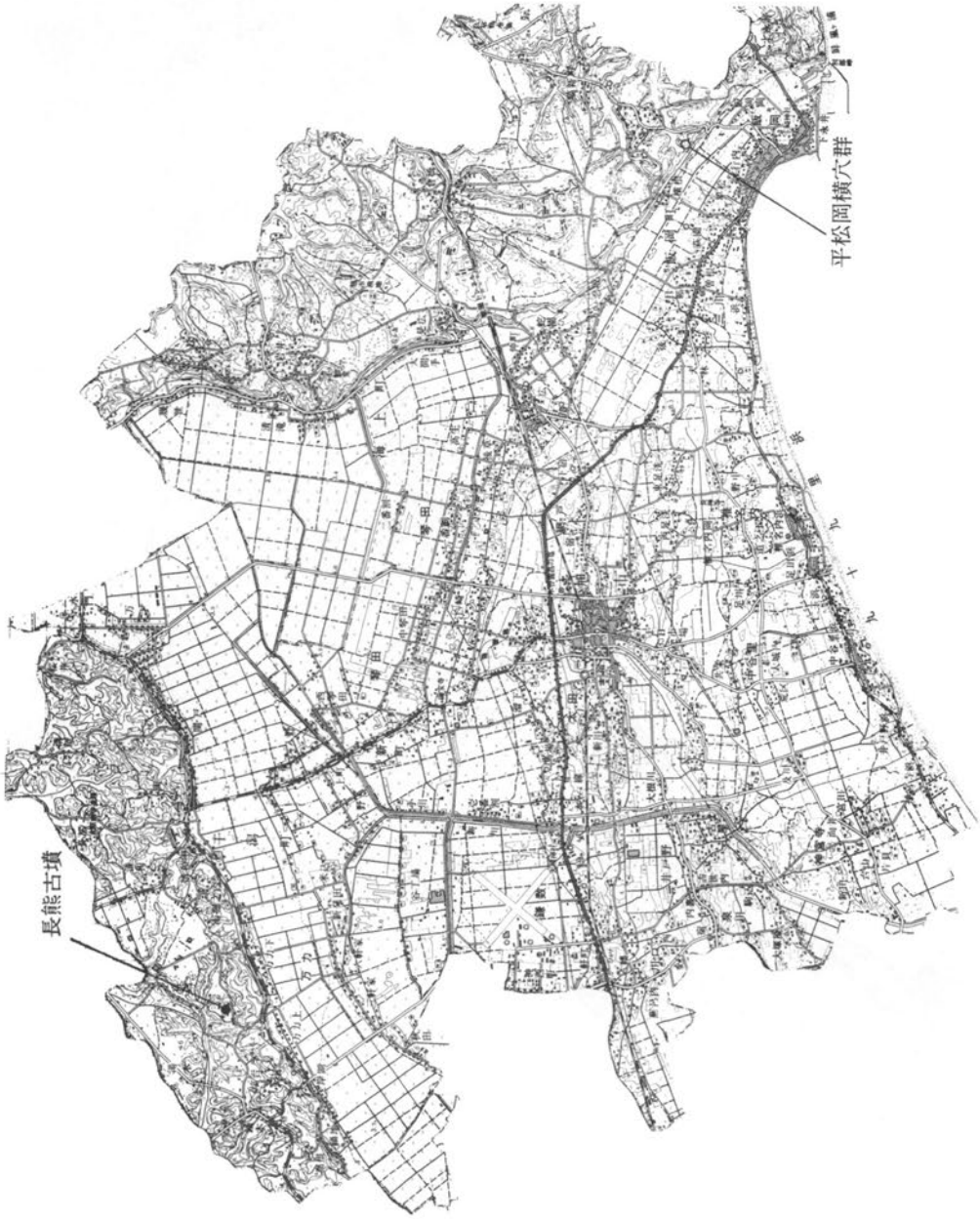
第13図　酒々井町・富里村主要古墳位置図

第14図　栄町・成田市主要古墳位置図

第15図　下総町・神崎町・大栄町・佐倉市主要古墳位置図

第16図　小見川町・東庄町主要古墳位置図

第17図　銚子市主要古墳位置図



第18図　飯岡町・干潟町主要古墳位置図

第19図　八日市場市・光町・多古町主要古墳位置図

第20図　横芝町・芝山町・松尾町・成東町・山武町主要古墳位置図

第21図　東金町・大網白里町主要古墳位置図

第22図　茂原市・長柄町・一宮町・睦沢村・長南町主要古墳位置図

第23図　大多喜町周辺主要古墳位置図

Ⅲ　古　墳　概　要

（所在地の次の番号は文献番号）

Ⅰ　（古墳・周溝遺構）

〔2.　館山市〕

相の沢古墳群　　館山市八幡　（332）

標高120ｍをはかる丘陵山頂部に所在。古墳２基の調査。詳細な報告はされていない。

昭和51年、東洋大学（玉口時雄）調査。直刀が出土。砂利採取に伴い消滅。遺物は県立安房博物館保管。

三ツ塚古墳群　　館山市神余字大久保（294）

神余川中流の北岸に突出した丘陵尾根上に円墳３基が所在。３基とも詳細は不明だが、１号墳は径９～10m、高さ1.25m、２、３号墳は径19～23m、高さ2.5ｍの円墳とされる。３号墳には幅1.6m、深さ0.7mの周堀がめぐる。

昭和49年、丸子亘調査。砂利採集に伴い消滅。

〔10.　鴨川市〕

広場１号墳　　鴨川市広場（25）

加茂川の形成する沖積平野部に所在し、近くには２号墳が一部崩壊しているが現存。墳形及び内部施設の詳細は不明。石棺が検出され、砂岩の刳り抜き式石棺で、内法長2.2ｍ、幅0.71ｍ、深さ0.7ｍをはかる。蓋石はカマボコ形を呈し、縄かけ突起が８か所造り出される。直刀、鉄鏃が出土。

大正年間に発掘された。発掘者は不明。古墳は湮滅。石棺は県立上総博物館保管。

〔12.　富津市〕

内裏塚古墳　　富津市二間塚（13・14・24・114・257）

南南西に前方部をむける前方後円墳。楯形周堀をもつ。墳丘長144ｍ、後円部径81m、同高さ12m、前方部幅90m、同高さ11m、周堀は幅９～10m、くびれ部で20mをはかる。墳丘平面形態は、履仲天皇陵古墳と酷以し、仲津姫陵古墳と１対２の比で相似形をなすとの甘粕健の指摘がある。外部施設は円筒埴輪、形象埴輪、葺石が確認されている。葺石は坂井利明の測量調

査で後円部、前方部ともに砂岩質の葺石を確認。埴輪列は同じく坂井の調査によれば、前方部西側調査において上中下３段の埴輪列の存在が確認された。下段は裾から３ｍの位置に樹立され、その数は下段23本、中段25本、上段30本を数え、後円部もめぐるとすれば各段150本、総数500本近い埴輪が存在することになる。なお円筒埴輪以外に家形埴輪、朝顔形埴輪を確認。内部施設は後円部主軸線をはさみ３ｍの間隔をもってたがいに主軸線に平行するように構築された二基の竪穴式石室。砂岩の切石で四壁を築き、同じく天井石も砂岩で構架。床面は数寸の砂を敷きさらにその上に挙大の円石を二重三重に敷き詰める。石室の規模は、東石室は長さ5.75m、底部幅北端で0.75m、南端で0.88mで、壁面は南端に近づくほど持送り状を呈し、壁高も北端0.7m、南端1.06mと南端ほど高さを増す。西石室は長さ7.5m、中央部幅1.0m、高さ1.18mをはかり、若干内傾し、幅も南北両端で若干狭い。東石室の主軸線上に北半部に１体、南半部に１体、共に頭位を北にし仰臥伸展葬で埋葬されており、北人骨に伴う副葬品として頭上の釿３、小刀１、角棒１、鎌１と、左右に置かれた直刀４、剣１、また南人骨に伴う副葬品としては、左右に置かれた直刀１、剣１があった。西石室では、北部に鉄鏃、鳴鏑、鉄斧等の小形品を置き、中央部に、鏡、鉄製品、筒形骨製品等の遺物を、南部に、直刀、剣、鎗等の大形品を配しており、遺骸埋葬は１体と考えられる。出土遺物の詳しい数量等は、近々杉山晋作によって発表される予定である。築造年代は５世紀の中葉と考えられる。

明治39年10月、柴田常恵、小熊吉蔵らの内部施設を中心とした調査をはじめとし、その後、甘粕健、滝口宏、坂井利明、杉山晋作、大塚初重らの確認調査等が行なわれた。

九条塚古墳　　富津市下飯野（24・114）

平地に立地する前方後円墳で前方部が南面する。墳丘長102.5m、後円部径57m、同高さ7.2m、前方部幅73、同高さ7.2mをはかる。楯形の周堀がめぐり、後円部で20m、くびれ部で37m、前方部前端で13m程の幅をもつ。内部施設は後円部中央、主軸に直交し構築された長さ6.9m、幅1.2～1.6mの竪穴式石室で、側壁は砂岩乱石積ですきまを粘土で補強し、床面は拳大の河原石を敷き詰める。室内より直刀１、剣１、鎗１、鉄鏃若干、雲珠破片、轡、帯金具、切子玉、ガラス玉、銀製玉、ホウズキ玉、銀張耳環等が出土。また前方部頂から須恵器の高杯、平瓶、瓮が出土。埴輪片もみられた。

明治44年、坪井正五郎、柴田常恵調査。

三条塚古墳　　富津市下飯野（24・114）

江戸時代の保科氏陣屋跡内に立地する前方後円墳で、墳丘長121.2m、後円部径62、同高さ７ｍ、前方部幅93m、同高さ８ｍをはかる。周堀が認められるというが正確な形状及び数値は不詳。出土遺物は、剣、直刀、鎧、須恵器が記録されている。

稲荷山古墳　　富津市青木（24・114）

内裏塚古墳群の南西部に位置する。低地に立地する前方後円墳で、墳丘長120m、後円部径52m、同高さ10m、前方部幅84m、同高さ10mをはかる。楯形の周堀がめぐり、後円部で22m、前方部で17mの幅をもつ。後円部の周堀外側に一部幅11mの周堀らしきものが認められ、二重周堀の可能性が考えられる。後円部墳頂近くに器材埴輪、円筒埴輪列の所在を確認。

姫塚古墳　　富津市青木（24・143）

稲荷山古墳の南300mの畑中に位置する。墳丘長55m程の前方後円墳で、片袖式横穴式石室を有する。東南東に開口し長さ4.5m、幅2m程をはかる。天井石11枚が存する。床面には砂岩が敷き詰められる。人骨5体分のほか、直刀7、鉄鏃数十、金銅製耳環1、馬具類、須恵器の横瓶、高杯等が出土。現在玄室を残すのみである。

昭和13年、飯野小学校長小熊吉蔵調査。

わらび塚（稲荷塚）古墳　富津市二間塚（129）

三条塚のすぐ北，割見塚の南西約66mに位置する前方後円墳。破壊が著しいが、推定墳丘長58m、後円部径26m、前方部幅26m、高さは前後丘とも4mをはかる。周堀が全周する。後円部中央に片袖式石室をもつ。全長10m、玄室長7.7m、幅1.5m、羨道長3.7m、幅0.9mをはかる。床面は黄褐色土上に貝殻が2～3cmの厚さで敷き詰められる。遺物は、釧1、耳環4、尾錠5、銀製剣形飾具1、金銅鞍破片1、鞍前輪片1、冠破片1、鉄鏃3、貝製飾4、須恵器（壺6、高杯2、平瓶1）、土師器3、釘若干、棗玉4、丸玉2、小玉2、銀玉2、金銅玉2、人骨12体以上が確認された。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。

西原古墳　　富津市大堀（25）

平地に位置する前方後円墳で、墳丘長63m、後円部径29m、同高さ3.7m、前方部幅27m、同高さ2.4mをはかり、前方部が南面する。内部施設は全長11m、底幅1.1m～1.8m南東に向ってくびれ部に開口する無袖式横穴式石室と推定される。壁面は砂岩を積み上げ多少持送り状を呈し、天井部は砂岩板石20枚で覆われ、粘土で目張りしたうえ、さらに上方30mまで粘土まじりの小礫で被覆する。床面にも砂岩を敷く。石室内より人骨8体分、直刀片、管玉19数個、鉄鏃10数本、ガラス玉数十、馬具、金銅張鏡板付轡、雲珠、金環、帯金具、鹿角装環状品、鹿角装柱型製品、須恵器の提瓶2、甕1、杯3、高杯13等が出土。

昭和2年破壊に先だち内部施設のみを柴田常恵調査。

白姫塚古墳　　富津市下飯野（24）

内裏塚の西200mにある径29m、高さ5m程の円墳。出土遺物は『飯野村誌』によれば、金張鳥形柄頭剣1、銀張鳥形柄頭剣2、金銅製鋺1、金銅製耳環1、鎧1、須恵器の横瓶、平瓶、高杯、長頸壺等がある。

明治26年に調査。

割見塚古墳　　富津市二間塚（143）

截頭正方錐体の墳丘をもつ1辺45m、高さ3.6mをはかる方墳で、幅3mの周堀がめぐる。南東の辺に開口する全長11.2mの長大な石室をもち、5.7mの前庭部がつづく。最奥部より屍室、後室、前室、羨道と区画される。床面は羨門まで切石が敷き詰められ、特に屍室棺床は排水溝が付設される。遺物は前室から刀片、鉄片、羨道から鉄片、土師器片、前庭部から柄頭不詳の大刀、金銅装弓弭、金銅製帯金具、鉄鏃、銀装大刀の1部品とみられる銀製吊金具残欠、木棺釘金具等が出土。

昭和39年、早稲田大学（中村恵次）調査。

西谷古墳　　富津市二間塚（50・65）

径15m、高さ1.8mの平地に築かれた円墳。南南東に開口する、全長7.3mの無袖の横穴式石室は、砂岩質の荒く加工された石塊で構築される。床面は隔石で玄室よりの羨道部から、鹿角装刀子3、ガラス小玉6、須恵器盌1が検出され、さらに人骨13体分以上が確認された。

昭和27年、早稲田大学（玉口時雄）調査。

八丁塚古墳　　富津市二間塚（140）

直径25m、高さ2.15mの円墳で周堀がめぐる。墳丘の中央部封土中にほぼ東西に主軸をもつ無袖式横穴式石室が構築される。後室、前室、羨道部に分かれ、全長11.2m、最大幅1.7m、高さ1.5mはかる。床面は後室のみ砂岩の板石を敷き、また前室と後室の隔石が存在する。後室より刀子2、鉄鎖2、尾錠3、鐔3、鉄鏃22、須恵器提瓶1、壺1、前室より耳環1、管玉1、棗玉1、直刀1、刀子1、鉄釘1、鉄鏃約20、須恵器壺1、蓋付杯2セット、土師器杯1、封土中より轡1が出土。また人骨は後室に於て屈葬の状態で1体、前室に10体以上が確認された。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。

向原古墳　　富津市二間塚（37）

砂丘上に位置する径12m程の円墳と推定される。墳丘の大部分は調査時までに削平されていたが、付近にはないローム土により構築していると観察された。内部施設は墳丘の中央部地山下に構築された南南東に開口するL字型の横穴式石室。切石の乱石積で構築され、持送り状を

呈する。床面は後室のみ砂岩板岩が、前室の一部に貝殻が敷かれている。遺物は前室内より刀一括、刀子1、鉄鏃1、金環1、臼玉1、須恵器杯身1、蓋2と後室内より人骨4体、前室内より15体分が確認されている。古墳時代末期と報告されている。

昭和10年代，帝室博物館（高橋勇）調査。

野々間古墳　　富津市上飯野（295・327）

富津岬の平坦部のほぼ中央、東から延びる丘陵の最先端に所在。調査前に墳丘は削平されたが、径25m、高さ4m以上の円墳、あるいは方墳と推測される。内部施設は墳丘下旧表土上に築かれた片袖式横穴式石室。南東に開口し、長さ約8m、玄室長5m、幅1.3m、玄室と羨道の仕切りに閉塞石が存在する。側壁は残存する最大のもので2m×1m程、床面は砂岩切石が全面敷かれる。出土遺物は、大刀残欠、銀象嵌頭椎柄頭1、鐔1、大刀飾金具2、小刀2、鉄鏃3、耳環1、弓弭2、飾釘10、鉄釘3、緑釉新羅焼台付壺1、同蓋1、須恵器片2等が出土。出土遺物から7世紀後半代の築造と考えられる。

宅地造成により湮滅。遺物は房総風土記の丘資料館保管。

丸塚古墳　　富津市大堀字砂山（229）

小糸川下流域砂丘上に所在。径30m、高さ4mの円墳で周堀がめぐるが、西南部にブリッジが存在する。内部施設は無袖式横穴式石室で、礫石の間仕切によって羨道、前室、後室に区分される。直刀、鉄鏃、刀子、馬具、勾玉、管玉、切子玉、棗玉、丸玉、小玉、耳環、須恵器が石室内より、南側墳裾で土師器が出土。人骨は盗掘のため判然としないが、10体ほど埋葬されたらしい。6世紀後半に比定される。

昭和49年、早稲田大学（安藤鴻基）調査。後、区画整理事業により湮滅。

虫神古墳（きさき塚）　　富津市大和田（143）

富津古墳群の北方、小糸川の北岸標高80m程の台地上に所在。径15m程の円墳で、東に開口する片袖式横穴式石室をもつ。副室、玄室、羨道に分かれ、緑泥片岩の割石で隔石がそれぞれ存在する。床面は玄室では川原石、副室では貝殻を敷き詰める。人骨10数体の他、銀装の直刀、直刀、刀子5、鉄鏃、金銅製耳環8、須恵器平瓶1、長頸壺1、土師器盌1が出土。

昭和36年、平野元三郎調査。

弁天山古墳　　富津市小久保（26・173）

北に岩瀬川、南を小久保川によって限られた独立丘陵の西南端に所在。標高9.3m。海岸線の際に立地したと推定される。墳丘長86m、後円部径53m、同高さ8.5m、前方部幅50m、同高さ7.5mをはかる前方後円墳で、内部施設は後円部中央封土内に位置する竪穴式石室。長さ3.9

m、幅0.9m、高さ0.6mをはかり、側壁は頭大の石塊で構成され、そのすきまを粘土で補強する。天井石3枚遺存する。中央の一枚は縄掛突起様の造出を有し特異である。遺物は内部施設内の2個所で検出され、刀剣類、槍1、鹿角装刀子数個、鉄鏃10及び人骨片がある。また円筒埴輪片が周辺で検出されたと報告されている。

昭和46年、明治大学（大塚初重）測量調査。

一本松古墳　　富津市亀岡字東一本松（277）

染川下流の河岸段丘上に所在。径15m程の円墳であるが、遺存状態は悪い。直刀1が出土している。

昭和47年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

〔13.　君津市〕

八重原古墳群　　君津市中郷（195）

小糸川中流域北岸の台地縁辺に所在。7基の円墳で構成され、最大の円墳は消滅。

6号墳

径37m、高さ3.5mの円墳、墳頂下1mで北東方向に長軸を置く、長さ4.3m、幅0.5mの木棺痕を検出。北から順に鋲留短甲1、特殊鎗1、小形鉄斧3、鎌1、刀子1、直刀2、鉄鏃1群、短甲に付属すると考えられる鉄製品1が出土した。5世紀後半に比定される。

7号墳

径14.5m、高さ1.7mの小円墳。内部施設は墳丘の中央部基底面に存在する二段掘削の舟形土壙、東西に主軸を置き、外側で長さ6m、幅2.5m、深さ0.6m、内側は長さ4.5m、幅0.7m、深さ0.3mの大きさで両端に粘土塊が置かれ壙底に赤色料が散布する。墳丘の構築は土壙を掘削したのち封土を築いている。土壙内より、碧玉製管玉1、刀子2、鉄鏃13が出土。

昭和42年、杉山晋作調査。後湮滅。

道祖神裏古墳　　君津市外箕輪（278）

小糸川の沖積地と20mの比高差をもつ、西に向かって突き出す丘陵上の西南端に所在。南面する前方後方墳である。全長約56m、後方部一辺約34m、同高さ5m、前方部幅15m、同高さ2.5mをはかり、周堀は墳丘の片側だけめぐり、斜面側では途切れる。トレンチ出土の甕形土器の様相、立地及び墳形等の所見により、5世紀前半代の古墳と報告されている。小糸川流域では最も年代の遡る古墳として注目される。

昭和51年、明治大学（大塚初重）が測量及び試掘調査。昭和53年県指定史跡。

八幡神社古墳　　君津市外箕輪（342）

小糸川中流域北岸低地に位置する前方後円墳。東面する前方後円墳で墳丘長86m、後円部径42m、同高さ４m、前方部幅41m、同高さ３m程をはかり、幅後円部側で12m、くびれ部で22m程の楯形周堀がめぐる。後円部周辺には小円墳３基が点在する。本古墳は墳丘形態から古墳時代中期から後期にかけての所産と推定される。

昭和50年、明治大学（大塚初重）測量調査。昭和45年県指定史跡。

下郡古墳　　君津市下郡（58）

小櫃川の中流域西岸台地上に所在。墳丘長60m、前方部の短い前方後円墳。後円部が調査され、直刀、馬具、鉄鏃、鹿角装刀子等が出土した。木棺直葬施設内に副葬されたものと推定される。

昭和24年、国学院大学（大場磐雄）調査。

大竹12号墳　　君津郡袖ケ浦町大竹（276）

小櫃川中、上流域南岸、西に鎗水川をのぞむ台地上に所在。周辺には33基の円墳が確認されている。径約20mの円墳で、幅３m程の周堀がめぐる。内部施設は明確でないが、墳頂部で鉄剣１、刀子２等が出土しており、墳頂部に木棺が直葬されたものと推定される。周堀から須恵器杯３、土師器坩１、甕等が出土。５世紀末～６世紀初頭。

昭和50年、対馬郁夫調査。

馬門古墳　　君津市南子安馬門（225）

小糸川中流域北岸、ゆるやかにのびる丘陵の先端、標高６mに所在。近隣に12基の円墳が存在していたという。径21.4m、高さ3.5mの円墳で、4.3～5.5m幅の周堀がめぐる。内部施設は墳丘中央封土中に検出された土壙で、全長4.5m、幅２mをはかる。粘土の散布が認められる。直刀１、鉄鏃30、鉄剣１、刀子２、鉄斧２、滑石製勾玉１、臼玉77が出土。また墳頂部より円筒埴輪片、形象埴輪片が出土。出土遺物より５世紀末～６世紀初頭の時期が考えられる。

昭和44年、野中徹調査。国道127号線拡張整備により湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

下道古墳　　君津市南子安（294）

馬門古墳の北方丘陵端の緩斜面に所在。径23m、高さ２mの円墳。周堀が一周する。内部施設は墳頂部に２基並列する粘土を伴う施設。一方は全長2.5m、幅0.75m、他方は全長2.4m、幅0.8mで隅丸長方形の平面形を呈する。出土遺物は直刀２、刀子１、鉄鏃、ガラス玉、琥珀棗玉がある。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

南子安古墳　　君津市南子安（294）

下道古墳に隣接して所在。径20m、高さ0.9mの円墳。墳丘の遺存状態は悪い。内部施設は確認されていないが、直刀、刀子、鉄鏃、金環、小玉、切子玉等の遺物が検出されているので、木棺が直葬されていたものと推測される。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

南子安所在の古墳　　君津市南子安

馬門古墳の北方、丘陵の斜面に所在。径19m、高さ3mの円墳。周堀は検出されていない。墳頂部封土内に全長1.5m、幅0.45mの木棺直葬施設をもつ。隅丸長方形の平面形を呈す。直刀、鉄鏃、臼玉1が出土。野中徹調査。調査年不詳。

北子安堀込古墳　　君津市北子安字堀込（241）

小糸川下流北岸台地上に所在。周辺には河岸段丘の最上段にかけて、2基の円墳が存在する。本墳は一辺約17m、高さ2.5mの方墳。幅4～6mの周堀がめぐる。内部施設は墳頂部封土内に粘土の散布が認められたが、攪乱のため明確でない。遺物はかつて直刀1が出土したというが、中世以降の塚の可能性もある。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業により湮滅。資料は県立天羽高校保管。

子安坂古墳　　君津市北子安字子安坂（277）

小糸川中流北岸、丘陵端に所在。径25m、高さ3mの円墳。墳頂部封土内に木棺直葬施設をもつ。直刀、臼玉が出土。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

杢師古墳　　君津市杢師（277）

小糸川の河岸段丘上に所在。遺存状態が悪く、形状、周堀の有無は不明。かつて直刀1が出土したという。

昭和47年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。

〔14.　木更津市〕

手古塚古墳　　木更津市小浜（210）

北に矢那川、南に小糸川をのぞむ標高50～60mの丘陵のうち、海岸線に沿って北北東にのびる馬背状丘陵の北端に所在。前方部を北北東に向け、地形の制約を受けた形で築造された前方後円墳。墳丘長60m、後円部径35m、同高さ5m、前方部幅28m、同高さ3mの大きさで、基盤面を2m内外整形して墳形を確定し、その後に盛土し封土を築く。後円部墳頂下で粘土槨を

検出。北東の方向を指し、墳丘方向とは不一致。槨の基盤は粘土床を設置するために、若干その範囲のみを凹め、棺を固定するために、周囲を粘土で押さえ、壁体を築く。槨の大きさは、長さ9.2m、幅1.8mをはかる。南端に小石を敷きつめた排水溝が付設される。幅0.4m、深さ0.15mの大きさで6m程つづき、地山整形がおこなわれた地点までのびる。内部施設からの出土遺物は、頭部近くに、鏡2（仿製三角縁神獣鏡、舶載四獣鏡）、石釧2、車輪石1、紡錘車1、籠手一対、刀子2群（3本程度を一群とする）、胸部近くに管玉1、ガラス小玉5、粘土槨の東側外、朱層の南端に銅鏃20（柳葉形の単一形式）、鉄鏃30以上（三角形、五角形式）、直刀3、剣1、鉄斧1、粘土槨南端排水溝との接点で布留式の甕1個体（内部に朱が充満）が出土。以上の出土遺物からみて、畿内的色彩をおびた4世紀の後半に比定される古墳として、注目される。

昭和48年、杉山晋作他調査。後湮滅。遺物は県立上総博物館保管。

大塚山古墳　　木更津市祇園（131・284）

小櫃川下流南岸低地に所在。墳丘、内部施設の調査は不充分であり、前方後円墳で、組合せ式箱式石棺を有することのみが報告されているが、内部施設からの出土遺物は注目される。画文帯四仏四獣鏡1、金銅製製眉庇付冑1、金銅製小札約800（大小4種類）、鉄小札、銀製耳飾残片数個、鉄鏃、銀製装具残片（鎹に巻いた銀の薄板）。以上の遺物は、大陸文化の影響を強く受けたものであり、5世紀後半に比定される。

鏡は宮内庁、その他の遺物は東京国立博物館保管。古墳は現存せず。

金鈴塚古墳　　木更津市長須賀字熊野廻（41・42・61・115）

小櫃川下流域南岸、砂丘列上（俗称浜長須賀）の中央、標高5.5mに所在。略西南西を向く前方後円墳であるが、畑地化されて、後円部の一部のみ旧状をとどめる。墳丘の比較的残存のよい部分と地籍図等から推測して、墳丘長95m、後円部径55m、前方部幅72mの規模で、墳丘は3段築成と推測される。また幅7.5～10mの周堀、外堤帯が存在し、全長は130m程と推測される。内部施設は後円部裾の南南東方向に開口する無袖式横穴式石室。羨道は道路により削平されていたが全長約10.3m、幅1.5～2mで、地山より、奥壁部分で1.6m、羨道部分で1.2m程盛土したのちに、やや傾斜した床面を形成し、奥壁から7.5mまで粘土敷と部分的な石板とで構築する。側壁は凝灰岩を若干持送り状に横積し、天井石は9枚で構成される。また石室ほぼ中央西側に、内法長1.7m、幅0.6m、深さ0.6m程の緑泥片岩の組合式箱式石棺が設置される。遺骸は石室内、石室奥部、石室前部とに計3体あった。副葬品は盗掘を受けていないと思われ、下記のとおり、きわめて豊富に出土した。出土位置は4地点に区分される。石棺内から、服飾品として勾玉1、丸玉6、琥珀玉17、金環2、三神五獣鏡1、金モール、武具類として衝角付兜1、柱甲1、環頭大刀1、圭頭大刀3、頭椎大刀2、鳥首大刀2、刀子約11、鉄鏃36、

馬具類として馬鐸３、金銅飾金具18、金銅鈴54、その他として銅容器２、異形木器１が出土。石棺前方部及び羨道から服飾品として丸玉20、小玉561、琥珀玉10、金環４、飾履１、武具類として環頭大刀１、方頭大刀１、弓弭２、馬具として鞍１、杏葉２、雲珠３、方形金具２、その他として銅容器２、釘若干が出土。石棺の横から、馬具類として轡３、鞍２、杏葉４、鏡板４、雲珠７、辻金具３、方形金具13、馬面２、その他として土器23が出土。石室奥部から、服飾品として丸玉10、切子玉１、琥珀玉４、金鈴５、金モール、腰佩若干、仿製鏡１、武器類として環頭大刀５、円頭大刀１、鳥首柄頭１、弓弭５、鉄鉾１、鉄鏃多数、馬具類として鞍１、馬鐸３、鏡板２、杏葉２、雲珠３、方形金具３、その他として土器多数、銅容器１、金銅葆２、以上が出土。土器は石棺内では皆無、石室奥部に集中して出土し、石棺のまわりにも若干あった。個数は須恵器242以上、土師器26を数える。器種は須恵器杯111、高杯52、杯蓋55、台付瓶８、瓶５、盌４、横瓮３、台付盤１、提瓶１、坩１、平瓶１、土師器高杯18、杯３、耳付盌１、蓋杯身４がある。以上の出土遺物からみて、本墳は大陸文化の影響を受けた有力な古墳であり、築造年代は７世紀後半と考えられる。なお昭和７年石室羨道部が道路で削平された際、金銅鞍の一部、雲珠、金銅飾履が出土し、現在東京国立博物館が保管。

昭和25年早稲田大学（滝口宏他）の学術調査がなされ、遺物は木更津市金鈴塚保存館及び県立上総博物館が保管。遺物は一括重要文化財指定され、古墳は県指定史蹟で石室と後円部の一部が現存する。

稲荷森古墳　　木更津市笹子（24、341）

ほぼ南北に主軸をとる墳丘長約140ｍの前方後円墳である稲荷塚古墳の近くに存在した。明治14年、削平された際、鏡破片１、鈴２、直刀２、土器１、及び長巻のようなもの１を出土したという。

高柳銚子塚（長州塚）古墳　　木更津市高柳（24・341）

平地に占地した前方後円墳で前方部は南面する。周堀が存在し楯形を呈すると推定される。明治時代末年の鉄道敷設工事（房総西線）の際前方部が削平され、現在後円部の一部を残すのみ。円筒埴輪片が確認されている。また直弧文を有する滑石製刀子、鎌、鏡の石製模造品は本墳出土と考えられる。

塚の越古墳　　木更津市朝日２丁目（旧長須賀字塚の越）（226）

旧君津病院本館付近、字塚の越136番地一帯に所在。明治42年３月、開墾中に遺物が検出された。内部施設は横穴式石室と推定される。変形四獣鏡半欠１、鞍金具の付属部分である金銅製品１、鉄鏃５、ガラス玉２、琥珀玉１、須恵器長頸壺１が出土。古墳は現存せず。遺物は県立上総博物館保管。

鶴巻塚　　木更津市祇園（24・341）

久留里線祇園駅の南、県道をへだてた10m程の祇園字鶴巻５番地付近にあった。周堀がめぐる円墳で、墳丘下約１mに長持形の石棺様のものを検出。出土遺物は銅鏡２（神獣鏡、画文帯四仏四獣鏡）、馬鐸２、鈴４、冑破片、円頭大刀１、円頭大刀残欠２、大刀残欠２、鐸及び鏃１、圭頭大刀残欠１、環頭柄頭（金銅製獅子）、銅器残欠２、鏃数本、杏葉２、鞍２、鏡板残欠、鉄器残欠、琥珀棗玉１、ホウヅキ玉、杯３、杯蓋２、蓋２、高杯２、高杯残欠１、蓋付坩１等が出土。昭和43年頃、祇園団地造成にともない整地された。

明治41年６月、村人木村新太郎が発掘、遺物は東京国立博物館、東京大学、四仏四獣鏡は五島美術館と分割保管されている。

丸山塚古墳　　木更津市長須賀（341）

墳丘長65m程の前方後円墳。昭和初期に後円部が削平され、横穴式石室内から遺物が出土している。銅鋺、銅鈴、直刀、金環、鉄鏃、土師器がある。石室天井石は海蝕痕がある凝灰岩といわれる。現在前方部を残すのみである。

元新地（松面）古墳　　木更津市松面269番地付近（341）

昭和15年、君津病院建設の際整地された。金銅製双魚佩、金銅製玉台状腰佩、環頭大刀、方頭大刀、頭椎大刀、銀装弓弭、馬具一括、鉄鏃残片、須恵器蓋付高杯等が出土。遺物は東京国立博物館に保管されている。

瑠璃光塚古墳　　木更津市桜井（341）

峰の薬師(東光院)境内に所在する。東京湾を見下す丘陵先端に占地する円墳。内部施設の調査が行なわれ、墳頂下に築造された無袖式横穴式石室が検出された。長さ5.4m、幅1.5m程をはかる。床面は拳大の石を敷き詰める。天井石は海蝕痕のある凝灰岩で、見渕日枝神社境内の記念碑の台石として現存する。直刀、耳環、琥珀製勾玉、水晶切子玉、緑色管玉、棗玉、須恵器平瓶、高杯、壺、甕等が出土。人骨８体分が検出されている。出土遺物は東京国立博物館が保管。

昭和14年小熊吉蔵調査。

清川村古墳　　木更津市長須賀（341）

墳丘長76.5m、後円部径34m、同高さ５m、前方部幅26.5m、同高さ5.4mをはかる前方後円墳で、前方部は南南西面する。後円部墳頂下に横穴式石室が検出された。砂岩切石積と推定され、玄室床面は全面に石敷される。羨道部はすでに破壊されていたが、玄室内より直刀９及び残欠、鉄鏃数10本、鈴１、金環８、勾玉２、切子玉５、琥珀玉６、ガラス玉23、須恵器瓶２、

台付壺１、提瓶１、平瓶３、高杯10、蓋20、鉢３、皿14が出土。

矢畑１号墳　　木更津市矢郷

矢那川中流の河岸段丘上に所在。墳丘の大部分は削平されており、形状及び周堀の有無は不明。東西の方向をとる木棺直葬施設をもつ。現存長2.9m、幅0.6～0.65mをはかり、西側の底面に白色粘土の散布がみられる。鉄剣１、直刀１が出土。５世紀末葉と考えられる。

昭和51年、荒木誠調査。畑地造成に伴い湮滅。遺物は木更津市教育委員会保管。

下部多山古墳　　木更津市田川字部多谷（212）

小櫃川中流の西岸台地縁辺部に所在。円墳で、幅３～４ｍの周堀がめぐる。内部施設は検出されていない。墳丘下より金環１、墳丘中より須恵器大甕、瓶、杯蓋が出土。なお本墳を利用して、江戸時代の塚が重複している。

昭和48年６月、千葉県都市公社文化財調査事務所（天野努）調査。送電線建設に伴い湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

清見台古墳群　　木更津市相里及び太田（144）

小櫃川により開析された沖積地を北に見る、東西にのびる標高50～60mの太田山丘陵上に立地する。この丘陵は幾つかの小支丘を派生させ、東から太田（A地区）、相里（B地区）、宮下（C地区）と呼ばれる支丘上にそれぞれ、９基、８基、５基の円墳が確認され、A地区５基、B地区４基を調査。C地区の古墳は未調査。

A－１号墳

丘陵の最北端、裾部にある隆起地点に位置する。周堀と思われる落込みが検出されたのみで、墳丘形態は不明。内部施設は未検出。自然の隆起の可能性もある。

A－３号墳

丘陵尾根の北端部に位置する。径19m程の円墳で幅２～３ｍの周堀がめぐる。内部施設は破壊されていたが、粘土粒の散布から、粘土を若干用いた木棺直葬施設と推察される。円筒埴輪片、須恵器片が出土。

A－４号墳

A－３号墳の南方約30mに所在。破壊、盗掘を受けず、原形をよくとどめる。径15m、高さ１ｍの円墳で、幅1.5～２ｍの周堀がめぐる。内部施設は墳丘中央封土内に位置する。東西に長軸をおく墓壙で、長さ2.6m、幅0.6m、深さ0.15mをはかる。中央から両端に向かい幅を狭め、東端に粘土塊を置く。墓壙の中央で臼玉14、西端部で直刀１、鉄剣１が出土。また周堀内より円筒埴輪３本が出土。

A－５号墳

A地区古墳群の西端に位置し、A－4号墳の70m程西にある。径17m、高さ1m程の円墳で、幅2mの周堀がめぐる。墳丘中央封土中に長さ2.7m、幅0.75mの長方形を呈する墓壙があった。ほぼ東西に長軸をもち、西端部と中央に粘土塊が検出された。墓壙東部中央から鉄刀1が出土。

A－8号墳

丘陵の東南端に所在。径24m、高さ3mの円墳で、幅3～5mの周堀がめぐる。墳頂部中央に長軸を東西においた墓壙が検出された。長軸2.6m、幅0.7mをはかるが、盗掘壙によって大きく破壊されていた。床面はローム粒によってつき固められ、その上面に炭化物の薄層が堆積していた。刀子1が出土。また墳頂部から猪形の形象土製品1、朝顔形円筒埴輪、土師器杯1、周堀から土師器坩1、甕2が出土。

B－1号墳

丘陵の最北端に占地する径16m、高さ1m程の低平な円墳。幅2～3mの周堀がめぐる。墳頂部中央に長軸を東西においた墓壙を検出。長軸長2.8m、幅東端部で0.63mをはかり、西端に向かい幅をせばめる。南壁に沿い直刀1、北壁に鉄鏃20が出土。

B－2号墳

径約20m、高さ2.7mをはかる円墳で、幅3～4.3mの周堀がめぐる。墳頂下0.3mで、長さ6.05m、幅2.95mの隅丸長方形の墓壙が確認され、内部に長さ3.54m、幅0.7mの木棺痕が検出された。長軸方向はほぼ南北をさす。清見台古墳群中では最も完備した内部施設である。鉄鏃1、碧玉製管玉5、滑石製臼玉2が出土。

B－3号墳

径15m、高さ約1.5mをはかる円墳で、幅0.85～1mの周堀がめぐる。墳頂部封土中で、長さ3.35m、幅1.6mの土壙が検出された。ほぼ東西に主軸方向をもつ。粘土塊が認められたが出土遺物はなし。

B－4号墳

B地区古墳群の南端に位置する。径15m、高さ約2.5mをはかる円墳で、西側で途切れる馬蹄形の周堀を有する。幅2.3～3.2mをはかる。内部施設は未検出。

昭和43年、早稲田大学（中村恵次）調査。宅地造成に伴い湮滅。資料は早稲田大学考古学研究室保管。

さかもり塚　　木更津市柳町（24・341）

前方後円墳であり、明治45年頃、墳丘を削平したところ、鏡、甲冑、刀剣、土器が出土。内部施設は石槨と報告されている。現存せず。

清水谷古墳　　木更津市菅生（261）

小櫃川南岸の沖積地にのぞむ丘陵上に所在する。標高40m、水田面との比高差30mをはかる。径約25mの円墳であるが、前方部地山整形による前方後円墳の可能性も考えられる。墳丘築造は、墳丘高の３分の１から半分の高さを地山整形によって作り出し、その上に盛土する手法をとる。内部施設は削平されたためか検出されていないが、墳頂部で検出された多量の粘土から粘土槨等の施設が考えられる。出土遺物に決め手がないが、報告者は墳丘築造方法から考えて５世紀前半代の古墳と報告している。

昭和50年、杉山晋作調査。

請西古墳群　　木更津市請西（244・247・248・293）

矢那川の中流域南岸、標高50m程の丘陵地帯に所在する請西古墳群中の１基。この古墳群の名称は、木更津市の古墳群を８区域に分割した滝口宏のそれを踏襲したもの。昭和48年末、千葉県教育委員会による発掘予備調査、昭和49年から昭和51年まで椙山林継他による本調査が行なわれた。椙山は群中の古墳の名称を、所在地の小字名（道上谷、庚申塚、大山台、山伏作、鹿島塚、野焼、東山、諏訪谷）によって付した。そのうち調査されたのは、道上谷、庚申塚、大山台、山伏作等の古墳である。

道上谷１号墳

道上谷の古墳は、請西の丘陵中最も東に位置する中郷谷地区の丘陵北辺に所在する。６基前後の小規模古墳群で、弥生時代後期から古墳時代初期にかけての小規模集落が廃絶した後に造営された。１号墳は群中もっとも北に位置し、傾斜面にかかる地点に占地する。径18m、高さ２m程の円墳で斜面のため東側のみ幅3.5m程の周堀がめぐる。内部施設は墳丘のほぼ中央、封土中のロームブロックの基盤上に構築された長さ3.1m、径0.6mの土壙で、小口部両端に粘土塊が存在する。中央部よりやや南で刀子１が出土。また周堀内から須恵器杯蓋が出土。

道上谷２号墳

１号墳の南東、庚申地区から北西方向にのびる丘陵の細尾根上に占地する。傾斜面に位置する径12mの円墳。幅3.5m程の周堀がめぐる。墳丘のほぼ中央に主軸を置く土壙が検出された。墳頂部から開鑿されており、長さ3.5m、幅0.7～0.8mをはかる。小口部に粘土まじりのローム土を充てる。中央に直刀１、西側中央で鉄鏃11等が出土。また周堀から須恵器杯２、杯蓋２、土師器杯１、石製有孔円板１が出土。

道上谷３号墳

２号墳のすぐ南に隣接する。ゆるやかな傾斜面に位置する。径11m、封土高１m程の円墳。幅2.7m程の周堀が部分的にめぐる。内部施設は墳丘中央地山下に掘りこまれたほぼ南北に主軸をもつ隅丸長方形の土壙。少量の粘土があった。周堀から土師器杯１、杯蓋１が出土。

庚申塚６号墳

道上谷の古墳群の東側、東西に尾根状にのびる狭隘な丘陵で、接続して庚申塚の台地がある。

わずかな平坦面を有し、弥生時代の集落址が確認されている。古墳は12基が確認されており、そのうち6基の発掘が行なわれた。弥生時代の後期初頭の3基の方形周溝墓（マウンドをもつ）を含み、他の3基は後期古墳である。報告された古墳は3基のうち1基である。

庚申塚6号墳は径16.8m程の円墳。周堀が一周するが、明確でない。墳丘中央部封土内に2基重複した土壙が検出された。ともに主軸をほぼ東西にとる。1基は長さ3.58m、幅0.8～0.9mをはかり、直刀、鉄鏃7を出土。

大山台1号墳

大山台丘陵のほぼ中央に位置する。大山台は標高50m、東西100～120m、南北600m程の台地で、古墳25、方形周溝墓12が確認された。調査古墳は14基で、すべて後期古墳、方形周溝墓は7基で、古墳は9基のみ報告がある。

径16.2mの円墳。幅2m程の周堀が一周する。内部施設は封土中に2基重複して存在する土壙。ロームブロック層を掘り下げ構築される。両者ともほぼ東西方向を主軸とし、北土壙は長さ3.90m、幅0.55mをはかり、粘土の散布が認められる。南土壙の長さ2.55m、幅0.58m。南土壙より直刀1、鉄鏃が出土。

大山台4号墳

大山台丘陵の東辺に位置する。西側が切断されており、径8.5m程の不整円形を呈す。幅2.3～2.5mの周堀が一周するらしい。内部施設は墳丘中央よりやや南側の封土内に築かれた土壙。ほぼ東西の方向をとる。少量の粘土が土壙の輪郭を表わすように散布。出土遺物なし。

大山台5号墳

4号墳の南に隣接する。径23m，高さ3m弱の円墳。幅3.6～4.3mの周堀が一周する。内部施設は墳丘中央封土内に掘りこまれた土壙で、5基がほぼ平行にならぶ。西南に主軸をとり北から1号、2号、5号、3号、4号主体と命名。構築時期に前後があるとされ、1と5、2と3、4のグループに分けられるとされる。1号主体は、長さ5.3m、幅2.9mの隅丸長方形の掘り方中央に位置する長さ3.4m、幅0.9～1.1mの土壙。東部に革袋入刀子2、大刀子1、西に数グループの鉄鏃、刀子1が出土。2号主体は長さ3.6m、幅0.75～0.83mの土壙。中央部南壁寄りから直刀1、大刀子1、碧玉製管玉11、ガラス勾玉1、ガラス小玉4、西端より鉄鏃数本が出土。4号主体は長さ3.45m、幅1mの長方形箱形の土壙。5号主体は長さ5m、幅2.1mの隅丸長方形の掘り方中央に位置する長さ3.65m、幅1.7mの土壙。

大山台6号墳

大山台丘陵の中央部、1号墳の北方に位置する。径12.8m、高さ0.5mの円墳。幅1m前後の周堀がめぐる。内部施設は墳丘中央部、主軸方向を北西にとる旧表土を掘りこんだ二段開鑿の土壙。長さ1.60m、幅0.55mをはかる。粘土が少量散布。中央部西壁際で砥石1、鉄鏃2が出土。

大山台14号墳

大山台丘陵西端部に位置する。径19.2m、高さ2.25mの円墳。幅3mの周堀がめぐる。内部施設は墳頂部封土内に3基並列して存在する。主軸はほぼ東西方向をとる。北主体は長さ3.29m、幅0.98m、鉇1を出土。中央主体は長さ2.74m、幅0.8～0.96m、中央部で直刀1が出土。南主体は長さ2.65m、幅0.92mの土壙。直刀1、刀子1、鉄鏃、耳環1、土玉3が出土。

大山台15号墳

大山台丘陵の西辺、14号墳の南に位置する。径約20mの円墳。幅2.5mの周堀がめぐる。内部施設は墳頂下0.7m、ほぼ東西に主軸をもつ土壙。長さ約2.5m、幅1mをはかる。直刀1、大刀子1、刀子3、鏃が出土。また墳頂部で提瓶1が出土し、墳丘下旧表土面からは鏃1、須恵器杯1、土師器杯11、壺2、甕数個、手捏ねの小形土器等が一括出土した。内部施設が祭祀的な特殊遺構の可能性がある。

大山台21号墳

大山台丘陵中央部に位置する。径約23m、封土高1.4m弱をはかる円墳。幅3.6～4mの周堀がめぐる。内部施設は墳丘中央部封土中、ほぼ東西に主軸をもつ土壙。長さ3.8m、幅0.7mをはかる。出土遺物は直刀1、大刀子1、鉄鏃数個、管玉9、ガラス玉69がある。

大山台24号墳

21号墳の南に隣接する。墳丘封土はかなり削平されていたが幅2.5mの周堀の検出から、径18.2mの円墳と判断された。さらに内側に幅約1mの周堀が確認され二重の古墳（拡大された古墳）と報告されている。内部施設は径12m程の古円墳に伴うもので、北西の方向を向く封土中に築かれた長さ約2.4m、幅0.4mの土壙。刀子1、銅玉1、管玉9、勾玉1、切子玉1が出土。

大山台27号墳

大山台丘陵の東辺に所在し、東側はゆるやかな傾斜となる。径12m、高さ1.5mの円墳。幅2～2.6mの周堀がめぐる。内部施設は墳丘中央部封土内に東西に主軸をもつ長さ3.15m、幅0.7～0.85mの土壙。中央部東よりで直刀1、鉄鏃1群、青銅製丸玉8、碧玉製管玉10、ガラス玉4が出土。

山伏作1号墳

大山台丘陵の南西につづく台地上に古墳、方形周溝墓約20があり、山伏作古墳群と称された。群は1号墳を中心とする東側の支群と、5号墳を中心とする南側の支群とにわかれる。古墳10、方形周溝墓1が調査さた。報告された古墳は6基のみ。1号墳は台地の西辺に立地する前方後円墳。墳丘長42m、後円部径23.2m、前方部幅14mをはかる。当初後円部のみを築き、くびれ部封土下にも周堀をめぐらす。前方部は地山を削り出して形成されている。墳丘相以形の周堀がめぐる。幅は6m程をはかる。内部施設、遺物は未検出。

山伏作4号墳

一辺13.2mをはかる方墳。幅2.6mの周堀がめぐる。周堀内側は2段になり、中間にせまい

テラスをつくる。墳丘中央にほぼ東西に主軸をもつ土壙を検出。長さ2.7m、幅0.92mをはかり、内部に長さ2.1m、幅0.6mの木棺痕が認められた。内部施設出土遺物はなく、周堀等から須恵器杯蓋3セット等が出土。

山伏作5号墳

一辺13.5m程の方墳。周堀は二重にめぐり、内周堀は幅1.4～2mをはかり、1.5m程のテラスをへだてて幅0.8～1.3mの外周堀がめぐる。墳丘中央から南に開口する両袖式横穴式石室を検出。攪乱、盗掘はうけていないと判断される。旧表土上に構築され、内周堀まで墓道がつづく。石室全長6.7m、奥壁幅1.15m。玄室側壁は軟質砂岩の互目積。多少持送りを呈する。プランは長方形。入口部はカマチ石、門柱、閉塞石各1枚で構成される。玄室内から須恵器、土師器が3群に分かれ検出された。この3群に囲まれた部分に木棺が置かれていたと推測される。土師器杯3、須恵器杯蓋のセット8、長頸壺6、俵瓶1、甕2が出土。

山伏作6号墳

北辺10m、南辺11m、東、西辺8.7mの方墳。周堀は幅1.9～2m、深さ0.5mをはかる。墳頂部で鉄鏃数片が検出されたので、木棺が直葬されていたと推測される。

山伏作7号墳

すでに北西部が削平されていたが、径17.5mの円墳で、幅2～2.6mの周堀がめぐることが判明。内部施設は墳頂部に存在した木棺直葬施設と推測されるが、削平されたため未検出。

以上、昭和49年、椙山林継調査。宅地開発に伴い湮滅。資料は木更津市教育委員会保管。

山伏作A－1号墳

一辺7m程の二重周堀の方墳。内周堀1.2m、テラス2m、外周堀0.7mをはかる。外周堀外壁の一辺は12m、封土は削平されほとんどない。内部施設は墳丘の中央北寄り、地山下に掘りこまれた東西に主軸をもつ土壙。全長6.6m、幅1.6m程の長方形を呈し、須恵器高台付杯2等を出土。

鹿島塚20号墳

矢那川の南岸台地上に墳丘長80mの前方後円墳（鹿島塚14号墳）を含む15基からなる古墳群が所在し、鹿島塚古墳群と称された。調査されたのは20号墳のみ。

古墳群の北西端に位置する。径約21m、高さ2mの円墳で、幅3.5mの周堀がめぐる。内部施設は、墳頂封土下約1m、ほぼ東西に主軸をもつ長さ6.2m、幅1.8mの掘り方内の長さ4.62m、幅0.45mの木棺痕で、小口部に粘土を充填する鉄剣1、刀子2が出土した。

以上2基、昭和48年、千葉県都市公社文化財調査事務所（種田斎吾）調査。後湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

鹿島塚14号墳

矢那川中、下流域の大半を見わたせる丘陵先端の尾根上に占地する。前方部が西面した前方後円墳で、墳丘長80m、後円部径50m、同高さ8m、前方部幅50m、同高さ5mをはかる。攪

乱、盗掘はうけておらず、内部は未調査である。墳丘形態、立地からみてかなり古い時期の古墳と推測される。

庚申塚方形墳群

庚申塚古墳群と重複、あるいは隣接して存在。

1号方形墳

溝の北辺長11.9m、幅1～1.5m。南辺長12.6m、幅0.8～1m。東辺長11.7m、幅1.2～1.3m。西辺長12m、幅1～1.6m。東南隅にブリッジを有す。台状部は東西12.5m、南北12.3mをはかる。内部施設は、東西に主軸をとる木棺で2.1×0.95mをはかり、3.2×2.1mの掘形を二段に掘り窪めて構築される。棺内東端から碧玉製あるいは凝灰岩製の玉が11、鉄石英製管玉8、コバルトブルーのガラス丸玉10、他に玉類4が出土。その西位置でガラス玉31点が出土。各周溝隅から弥生時代後期の土器が出土したが、特に北西隅のものは底部穿孔される。

2号方形墳

見かけの墳丘は径15mほどの円墳状、北溝の長さ約13m、南溝12m、東溝12m、西溝13.3m。台状部の対角約北西～南東19.25m、北東～南西16m。溝の幅は約1mをはかる。内部施設は長径3.8m、短径2.5mの土壙で木棺の幅は約0.85mほどをはかる。中央からやや南東の部分で検出された棺内から勾玉3、ガラス小玉128が出土。

3号方形墳

東西約10m、南北8.5～9mをはかる。北溝中央、北西隅、南西隅は削平される。溝の幅は0.9～1m。内部施設及びそれにともなう遺物は検出されなかった。

大山台方形墳群

大山台古墳群と重複、あるいは隣接する。

7号方形墳

一辺約11m。溝の幅は1～1.5mをはかる。内部施設は墳丘中央部で南北に主軸をとる土壙。長径3.75m、短径1.9m、深さ約0.1mの掘り方の中に、長さ2.55m、幅0.84m、深さ0.2mの木棺痕が存在する。棺内からの出土遺物はない。周溝内から小形壺が出土し、北溝からは底部穿孔の土器出土。

8号方形墳

調査前は、径10m、高さ0.5mほどの円墳状を呈していたが、北溝の長さ9.4m、東溝9.6m、南溝9.4m、西溝9.8mの方形を呈す。0.6mほどの盛土を確認できた。溝の幅は1.4～1.8m。内部施設は中央よりやや西に位置する。長辺1.94m、幅0.65mの土壙。棺内より蛇紋岩製管玉1、水晶玉1、ガラス玉18が出土。溝からは底部穿孔の土器が出土。

10号方形墳

調査前は一辺約13m、高さ0.6mほどの方形の墳丘を確認。周溝の調査により一辺約10m、幅約1.6m、深さ約0.9mの大きさをはかる。内部施設及びそれにともなう出土遺物はなし。

11号方形墳

調査前は一辺8m、高さ0.4mほどの方形の墳丘を確認。周溝の調査により一辺約9m、幅約1m、深さ0.6～0.7mの大きさをはかる。内部施設と思われるものは検出されなかったが、墳丘から小形壺、椀、周堀から完形の杯が出土。

12号方形墳

調査前は一辺約8m、高さ0.6mの方形の墳丘を確認。周溝の調査により、一辺約10m、高さ約2mの方形墳を検出。溝の幅は約1m、深さ0.8m、墳頂部西側で小判形の落ち込みを2か所検出。落ち込みの周辺には粘土の散布がみられた。出土遺物はなし。

16号方形墳

調査前は径約10m、高さ約0.2mの円墳を確認。溝の調査により一辺約8mの周溝を検出。墳丘の高さは周溝底から1.6m。溝の幅は約1.5mをはかる。内部施設及びそれにともなう出土遺物はなし。

32号方形墳

南西溝約10mの方形を呈すと推定、溝の幅は約1.9mをはかる。周溝内から須恵器が出土した。内部施設及びそれにともなう出土遺物はなし。

山伏作方形墳

山伏作古墳群と重複、あるいは隣接する。

9号方形墳

調査前は一辺15m、高さ0.6mの方形の墳丘を確認。周溝の調査により東西12m、南北10mの大きさと判明。墳丘の高さは周溝底から2m。周溝の幅は0.5～1mをはかる。内部施設は、墳丘のほぼ中央で東西に主軸をとる土壙で、長さ2.55m、幅1.1mをはかる。内部施設からの出土遺物はなし。周溝内から、和泉式土器が出土。

大山台方形周溝墓群

大山台古墳群と重複、あるいは隣接して存在する。

51号址

北溝の西側を住居址によって切られている。北溝の長さ約6.3m、南溝約7m、東溝約6.5m西溝約6.6mの方形を呈し、溝の幅は0.8～1mをはかる。内部施設は未検出。

52号址

北溝の長さ約5.5m、南溝約5.15m、東溝約5.4m、西溝約5.4mの方形を呈し、溝の幅は0.55～0.75m、深さ約0.3mをはかる。内部施設及びそれにともなう出土遺物はなし。

53号址

北溝の長さ約５ｍ、南溝約4.95ｍ、東溝約5.3ｍ、西溝約６ｍのゆがんだ方形を呈す。内部施設とされるものは中央部の西よりに検出されたが、西側周溝の一部にまで達するという。長さ2.9ｍ。幅0.48ｍをはかる。

54号址

東、南、北溝の内側の長さ3.5ｍ、溝の幅は0.43～0.65ｍをはかる。内部施設及びそれにともなう出土遺物はなし。

55号址

東側半分を９号墳によって破壊される。西溝の長さ8.5ｍ、幅１ｍ、北溝の幅２ｍをはかる。内部施設は中央部やや北側で検出。長さ１ｍ、幅0.4ｍの大きさで、周囲に粘土をしきつめている。出土遺物はなし。

56号址

７号墳に切られる。北溝の長さ６ｍ、南溝６ｍ、東溝7.6ｍ、西溝８ｍ。溝の幅は0.55～1.15ｍをはかる。内部施設及びそれにともなう出土遺物はなし。

57号址

約３分の１は削平される。西溝の長さ7.3ｍ、現存北溝8.8ｍ、現存南溝5.5ｍ。溝の幅は0.5～0.6ｍ、深さ0.4～0.5ｍをはかる。内部施設は台状部のほぼ中央部で検出。掘形、2.5×0.98ｍ、木棺の大きさ1.8×0.48をはかる。木棺内より鉄釘と刀子が出土。

〔16.　市原市〕

新皇塚古墳　　市原市菊間字北野（235・254）

村田川の河口南側を屈する台地上の突端に所在。菊間古墳群中の１基であり、群中最北に位する。裾部の四周をかなり大きく削平されており、最も残りの良い北区で一辺22ｍ程が遺存。墳丘は明らかな方墳で、各辺は正しく東西南北を向く。東辺で幅９ｍ、深さ0.6～0.7ｍの周堀を検出。高さは約７ｍ。両コーナーをつかみ、内壁の一辺40ｍと判明。一辺40ｍの方墳と見るべきだが、里人の記憶によれば、西側に小山がつづいていたともされ、前方後方墳の公算も高い。封土を旧地表から約3.8ｍの所でいったん水平にならし、内部施設を付設。主軸を東西にとる粘土槨で、２基の木棺を蔵す。粘土の範囲は長さ13.9ｍ、幅3.8ｍ。南棺は長さ5.98ｍ、幅0.95ｍ、北棺は長さ10.75ｍ、幅0.8ｍ、南棺が北棺に先行するという。南棺からは珠文鏡１、鉄剣１、鉄刀１、刀子１、鑿１、鉇２、鎌１、鉄斧１、管玉１、ガラス玉１が出土、棺の中央部には朱の散布がみられた。北棺内からは内行花文鏡１、石釧１、水晶製勾玉１、琥珀製勾玉１、管玉94が出土。北棺の棺外側部の粘土中から鉄剣１、刀子片（？）７、錐１、鉇１、鎌２、打ちグワ１、鉄斧１が出土。朱の散布もみられた。

昭和49年、県営住宅建設に伴い千葉県都市公社文化財調査事務所（斉木勝）調査。後湮滅。

資料は房総風土記の丘資料館保管。

小田部古墳　　市原市小田部字向原（194）

村田川の支流が形成した開析谷の最奥部に所在。水田からの比高約30m。南北、東西トレンチによる調査により、径約23m、高さ約2.7mの円墳と判明。幅3.5mの周堀がめぐる。墳丘は地山整形でなくすべて盛土による。又墳頂下1.4mで、主軸を東西にとる長さ3.9m、幅0.5m、深さ0.5mの箱形土壙を検出。土壙内からガラス小玉20、ガラス丸玉6、碧玉製管玉3が出土。土壙西端部からは微量の赤色料（ベンガラ）が検出された。この他墳頂部平坦面から数個体分の土師器（高杯）が出土した。櫛描き平行直線文と篦描き連続山形文からなる文様構成をもち、本地域での古式土師器には全く見られないものである。文様構成は東海地方、特に尾張を中心とした地域のものと類似点がみとめられる。形態的には、五領式土器に最も類似する。周堀内からも土師器の出土がみられる。小型器台等がほぼ完形で底面近くで出土した。破片ではあるが底部穿孔のみられる底部片、脚部に平行直線文をもつ高杯脚部片（東海地方西部の欠山式に比定できる）等がみられた。

昭和43年、早稲田大学（杉山晋作）調査。送電線工事により墳丘は湮滅。遺物は上総博物館保管。

荻作1号墳　　市原市荻作字峯の内（139・175）

村田川の上流にのぞむ標高40mの台地上に所在。他に径20m、高さ2m程度の小円墳が4～5基あり、小古墳群を構成する。墳丘長28m、後円部径18m、同高さ2.5m、前方部幅11m、同高さ1.2m。後円部墳頂下で粘土床施設を検出。直刀1、鉄鏃が出土。6世紀後半と推定される。

昭和42年、早稲田大学（中村恵次）調査。

大厩古墳群　　市原市大厩（234）

村田川とその支流神崎川との合流点西岸台地上に所在する。標高約30mで、台地上には弥生時代の集落があり、その上に前方後円墳1、円墳2、方墳6からなる古墳が営まれた。

1号墳

南、西側がすでに削平されており、遺存状態はわるい。径約25mの円墳。幅約1.5mの周堀がめぐる。墳頂部よりやや北西にずれた位置に長さ1.78m、幅0.7mの木棺直葬施設を検出。刀子1が出土。時期判定不能。

2号墳

北側の一部が区域外にかかり未発掘だが、径約18m、高さ2.25mの円墳に間違いない。墳丘外に幅5mのテラスがあり、その外側に幅2.5～4mの周堀が一周する。周堀の外周径は33～

34mと、墳丘の倍近い。内部施設は墳頂部にはなく、テラス上で2基検出された。一は南西裾にあり、長さ2.9m、幅1mの長方形土壙内に、長さ2.55m、幅0.5mの木棺痕があった。鉄鏃約9が出土。二は東裾にあり、長さ3.3m、幅1mの土壙内に、これより若干小さい木棺を蔵していた。直刀1、耳環2、鉄鏃約5が出土。二基とも木棺の小口、側縁線に粘土を充塡していた。6世紀後半。

3号墳

一辺14～15m、高さ1.6mの方墳。幅2～4mの周堀が一周する。各辺とも中央部が幅広い。外周長21～22m、内部施設は未検出。周堀内より遺存度の良い土師器多数と滑石製有孔円板1が出土。土器は五領式に含まれるとされるが、やや新しい様相を示す。5世紀中葉。

4号墳

墳丘長26.1m、後円部径20.9m、同高さ2m、前方部幅9.4mの前方後円墳。幅2～3.4mの周堀が一周。後円部墳頂下と、くびれ部中央で各1基の内部施設を検出。後円部のものは、長さ4.23m、幅2m、深さ0.3～0.4mの土壙内に長さ3.6m、幅0.78mの木棺をおさめたもの。粘土を使用。直刀1、鉄鏃が出土。くびれ部のものは、長さ2.18m、幅0.58m、粘土を使用する木棺直葬施設。直刀1、耳環2、鉄鏃18が出土。

5号墳

一辺15m、高さ1mの方墳。幅2.5～3mの周堀が一周する。4、6号墳と重複し、切り合い関係からこの2基より古いことが判明。墳頂下に、東西に主軸をもつ木棺直葬施設を検出。西側は削平され全長は不明。現存長1.7m、幅0.7m。鉄剣1、ガラス小玉22が出土。周堀内から遺存度の良い土師器（五領式）が若干出土。

6号墳

一辺13.7～15m、高さ約2mの方墳。幅2.5～3mの周堀がめぐる。内部施設は未検出。

7号墳

一辺12.5～13.5mの方墳。高さ1m、幅3～4mの周堀が一周。墳頂下に長さ2.5m、幅0.8～0.9mの、木棺直葬施設を検出。内部からの出土品はなかったが、棺外封土中から管玉が1点出土。周溝内から、かなり多量の土師器片（和泉式）が出土。

8号墳

一辺14～15mの方墳。高さ1m、幅2～3mの周堀が一周。明確な内部施設は未検出ながら、墳頂下封土中で管玉が5点出土しており、この部分に木棺が直葬されていたものと推測される。周堀中よりかなり多量の、遺存度の良い土師器が出土しており、いずれも和泉式の特徴を有する。

9号墳

一辺約16m、高さ1.5mの方墳。幅1.5～3mの周堀がめぐるが、西北の辺中央で途切れ、幅4～5mの陸橋を残す。墳頂下で長さ1.55m、幅0.65mの木棺直葬施設を検出。ガラス小玉4

個が出土。北側の周堀中でかなり多量の、遺存度の良い土師器（五領式）が出土し、中にS字状口縁甕形土器2点が含まれていた。

昭和48年、宅地造成に伴い千葉県都市公社文化財調査事務所（三森俊彦）調査。後湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

諏訪台古墳群　　市原市村上字諏訪台（273）

1号墳

養老川下流北岸台地上に所在。径14～16m、高さ2～3mの円墳。周堀がめぐり、北東側に幅6～7mのブリッジがある。内部施設は未検出。

6号墳

調査によって南北17.7m、東西21mの東西に多少長い方墳と判明。墳丘はほとんど残らず、わずかに北側平坦面にのみみられた。幅1.5mの周堀が一周。内部施設は2か所（北、南）検出された。南施設は西側を攪乱によって欠き、全形は不明。幅0.8m、深さ0.1mをはかる。直刀1を検出。北施設の規模は確認できなかったが、切子玉1、ガラス製小玉78が出土。6世紀末から7世紀初頭。

7号墳

墳丘の削平が著しく、封土の遺存範囲は径約8m、高さ0.5mにすぎない。幅2.5～3.2mの周堀が一周。外縁径20mの円墳と判明。西側に幅3mのブリッジがあり、ブリッジ上で須恵器（提瓶）と土師器を検出。内部施設は中央、南、西の3か所検出。いずれも主軸をほぼ東西にとる。中央棺がもっとも古く、土壙は長さ4.5m、幅2mの隅丸方形。長さ3.6m、幅0.53m、深さ0.15mの箱形木棺を蔵す。刀子1が出土。南棺は長さ3.9m、幅2.1m、深さ0.8m。西棺は長さ1.6m、短幅0.9m、深さ0.65m。割竹形木棺様の施設と推定された。

33号墳

7号墳のすぐ西側に所在。墳丘長21m、後方部一辺11～12.3m、前方部長6.8m、くびれ部幅3m、前方部先端幅6mの前方後方墳。前方部南面。周堀は、墳丘側壁面の掘り込みが厳密なのに比し、外壁は不整な線を描く。前方部隅角部の一端にブリッジをもつ。内部施設は未検出。周堀底で土師器（小型坩）が出土。4世紀末。

昭和49～50年、上総国分寺台遺跡調査団（田中新史）調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。資料は同調査団保管。

東間部多古墳群　　市原市西広字東間部多（240）

養老川が形成した沖積平野から多少内陸に入りこんだ北岸台地上に所在する。十数基の古墳で構成される。周辺には持塚、西広、山倉等の古墳群が分布する。

1号墳

径25～27m、高さ2.8mの円墳。調査により実際の盛り土は南北20.6m、東西19.2m、高さ2.5mと判明。まず中心部に小山状の核をつくり、そのまわりに積土する工法をとる。封土の外側にテラスがめぐり、その外側に幅約８ｍの周堀が一周する。墳頂下で、主軸を東西にとる北、中央、南の３棺を検出。いずれも大き目の土壙内に木棺を直葬し、土壙どうしの切り合いから、中央棺が最も早い構築と判明。中央棺は長さ4.8m、幅1.4～1.75m、深さ0.9m、棺底に赤色料、小口部に粘土を検出。直刀１が出土。北棺は長さ3.9m、幅1.57m、深さ0.4m、小口に粘土をあてる。剣１、鉄鏃５、刀子１が出土。南棺は長さ5.5m、幅1.5m、深さ0.3mで小口に粘土をあてる。棺西端の内側0.5mの位置で、短甲が倒れた状態で出土。他に鉄鏃14、刀子１が出土。墳頂部攪乱壙内より、古墳に伴うと推測される須恵器片が出土。周堀底には土師器（鬼高式の古期）の杯、高杯、椀等が13～14個体あった。

２号墳

調査前の墳丘測量によれば、約20mほどの円墳と推定。西北隅及墳頂部が削平されている。調査によって検出された墳丘は主軸を南北にもつ墳丘長35.5m、後方部背面21.5m、同側縁23.5m、前方部幅11mの前方後方墳と判明。周堀は最大が後方部東側で約5.5mで墳丘相似形を呈すが、前方部東南隅では切れておりブリッジを形成する。西側、南側の周堀を除き、各辺の底面に小さな摺鉢状の掘込みがあり、なおかつその部分から古式土師器の出土が見られる。このことから、５つの作業者グループによる築造が推定された。内部施設は検出できなかったが、墳頂部攪乱壙より２個の鉄剣片を検出した。なおこの地を畑にするため墳頂を1.5mほど削平した際、壺や刀が出土したということである。周堀内出土の土師器は五領式土器に含まれるもので、底部を穿孔された供献土器多数が出土した。

３号墳

一辺11.2～12.6mの方墳。幅１～２ｍの周堀が一周する。封土は削平されており周堀のみ残存。周堀の切り合いから２号墳よりも後に築造されたことがわかる。

３号墳以下はいずれも封土を失い、内部施設が検出されなかったので断定は危険だが、周堀覆土内の混入遺物等から判断して、すべて古墳時代後期の所産と推測される。

４号墳

一辺13～15mの方墳。幅約1.9～2.2mの周堀が一周するものと推定。すでに封土を削平され、内部施設は未検出。周堀内コーナー部より土師器（鬼高期、高杯）が出土。

５号墳

一辺約10mの方墳。幅1.5～1.8の周堀が一周する。内部施設は封土の削平にともない消滅。出土遺物はない。

６号墳

一辺約17mの方墳。四隅が鋭く堀りこまれ整美。幅2.5～３ｍ、深さ約１ｍの周堀が一周する。内部施設は未検出。

7号墳

一辺約16.3mの方墳。幅約1.5m、深さ1.1～1.2mの周堀が一周する。封土を削平され、内部施設は未検出。

8号墳

7号墳の北側にコーナーの一部を検出。

9号墳

幅1.5～2.8m、深さ1.2mの周堀がめぐる。一辺20mの方墳。わずかに一部封土を検出できたのみ。内部施設は検出できなかった。北側周堀底面直上より、須恵器を2片出土。

10号墳

西北コーナーのみ検出。全形は不明。周堀断面は上面の広がった台形状を呈し、底面はほぼ平らである。報告者は古墳と断定するのに疑念を呈している。

11号墳

周堀の全堀によって前方後方墳と判明。前方部が西面する。調査によって検出された墳丘は主軸を東西にとる。墳丘長24.5m、後方部背後の幅13.2m、後方部長13m、前方部長11.5m、幅推定17mを計る。周堀外周で主軸長28m。幅2m程の墳丘相似式周堀がめぐる。墳丘の南半は台地端の傾斜面にかかっているためか、周堀の掘込み方等施工が多少杜撰である。後方部南側周堀内から須恵器片が出土した。

12号墳

一辺13.5mの方墳。幅1.2～1.5mの周堀が一周するものと推定。各コーナーは鋭い角をもつ。内部施設は未検出。後世の墓壙が一基重複していた。

13号墳

径20mの円墳。トレンチ調査によれば、幅36mほどの周堀がめぐるが、北側にブリッジをもつ。内部施設は未検出。

14号墳

トレンチによって各辺中央部及び四隅を検出。一辺16.9mの方墳。幅2.4mの周堀がめぐる。四隅は鋭角度を強調している。内部施設は未検出。

昭和47年、市原市国分寺台遺跡調査団（須田勉、田中新史）調査。土地区画整理事業により湮滅。資料は同調査会保管。

南向原古墳群（289）

養老川下流北岸台地の奥部、東京湾側から入りこんだ小支谷の最奥に面する。

1号墳

径約21m、高さ約1.5mの円墳。調査により、南北19.1m、東西17.8mとやや南北に長い円墳と判明。幅2.6～5.3mの周堀がめぐる。南東部にブリッジをもつ。外縁径は25.4～26m。盛

土の範囲は東西11.3m、南北12.3m、高さは1.25mと判明。内部施設は2基（北、東）検出。いずれも盛土部分の裾に位置する。北施設は長軸をほぼ東西にとる。長さ2.88m、幅1.24m、深さ0.75m。箱形木棺を使用したものとみられる。木棺の周囲に粘土を使用しおさえる。木棺は、長さ2.1m、幅0.33～0.44m、で、高さは0.3m。鉄鏃9が出土。東施設は南北に主軸をとり、長さ2.41m、幅1.12～1.16m、深さ0.8m。土壙内から粘土の出土がみられるが、木棺使用の積極的根拠はない。内部から鉄鏃9が出土。周堀から須恵器（甕、杯2、蓋1）、土師器（甕1，杯2）出土。6世紀後半。

2号墳

径約21m、高さ約1.5m程度の円墳。盛土の範囲は東西12.3m、南北は推定15m、高さ1.4m。盛土外にテラス状の平坦面をもつ。幅約4.3mの周堀をもつが、石室を中心に両側にブリッジをもつ特異な形態を呈す。墳丘中央部に凝灰質砂岩切石積の横穴式石室をもつ。石室ほりかたの平面形は、奥部が最も広く周堀に近ずくにつれて狭くなる。掘込面の規模は長さ9.95m、幅2.37～3.55m、深さ0.95m。石室は単室の両袖式。全長3.32m、奥壁幅1.32m、袖部幅1.05m、中央部幅1.39m、東壁長2.28m、西壁長2.35m、羨道部はやや八字形になり、東壁長0.78m、西壁長0.33m、幅は0.89～0.98m。高さは1.25m残存しており、当初は1.5mほどと推定される。石室埋土中より直刀片、刀子片、鉄鏃片が、羨道及び前庭部から須恵器、土師器、鉄鏃が、又、北側周堀中から鉄鏃、須恵器が出土した。特に羨道入口の周堀中央部には大甕が破砕されて出土し、周堀東側からは、平瓶、壺が、周堀西側からは提瓶1、平瓶2が出土し、墓前祭使用土器と推定された。7世紀前半。なお、本古墳は昭和23年に一度トレンチ発掘をうけている。

3号墳

工事によって墳丘の約四分の三を削平されていた。調査前には径21m、高さ約1.25m以上の規模の円墳と推定、盛土の範囲は東西13.1m、南北11.75m、厚さ0.9m以上と推定。盛土外にテラス状の平坦面をもつが、このテラスは低い盛土を高くみせるためのものと考えられる。幅3.0～5.3mの周堀が一周。周堀外周の径24～25.8m。内部施設は墳頂部中央と南側墳裾に各1、計2基を検出。中央施設は長さ3.35m、中央幅1.6m、深さ0.9mの土壙内に、木棺をおさめたもの。木棺は西小口に粘土塊をおき、長さ3.75m、中央幅1.6m、深さ0.9m。棺の主軸に平行して直刀、鉄鏃が出土。墳裾の施設は長さ2.78m、中央幅0.78m、深さ0.3mの土壙内に木棺をおさめ、両小口に粘土を使用。木棺は長さ2.78m、幅0.78m、深さ0.3m。鉄鏃、刀子が出土。棺外から鈍1を検出。周堀中より須恵器（杯身1）、土師器（杯2、埦1）が出土。6世紀中葉。

4号墳

墳丘測量により南北約22m、東西19～20m、高さ約1.5mの円墳と推定。盛土の範囲は東西12m以上、南北15.3m以上、厚さ1.43m。周堀内縁の径南北22.7m、東西20.1m、幅4.2～5.2

mの周堀が一周する。周堀外縁の径30.9m。内部施設は2か所でそれらしきものを検出。墳頂部西寄りの土壙は東西約4.2m、南北約2.4m、深さ0.6m、内部から鉄鏃、刀子が出土したが、内部施設の可能性の少ないことを報告者は指摘している。墳頂部で円筒埴輪、形象埴輪（人物、馬）が出土。周堀内から須恵器（甕1、短頸壺1、壺1）、土師器（甕1、杯5）が出土。6世紀前半。本古墳も昭和23年に、トレンチ発掘をうけている。

5号墳

墳丘はすでに失われていた。周堀内縁径8.6～9.0mの円墳。幅1.2～1.8mの周堀が一周。外縁径は10.9m。東側周堀底で2か所の落ち込みを検出したが、内部施設の可能性はうすい。

6号墳

封土がわずかに遺存。径約10.6mの円墳。幅1.3～1.9mの周堀が一周する。周堀外縁径13.4～14.4m。内部施設は遺存しない。旧表土面から銀輪2が出土し、盛土中の低い位置に内部施設があった可能性も示唆。周堀から須恵器（短頸壺1、杯身1）、土師器（杯1、椀1）が出土。6世紀後半。

7号墳

墳丘はほとんど削平され、径3～4m、厚さ0.2m程が遺存するにすぎない。周堀も後世の溝2本によって切られ遺存は悪い。3号墳、8号墳の周堀をさけて作られ、幅は一定せず、3号墳と接する部分の約5.5mの間は途切れる。周堀の内縁径約10.5m、外径15～16.5mの円墳。封土最下層中より土師器（杯1）が出土。6世紀後半。

8号墳

墳丘は削平されていた。幅1.5～4mの周堀が円形に一周。周堀内縁径11.5～12m、外径15.2～17.2m。内部施設も失われていた。周堀中よりの出土遺物もなし。

昭和48年、上総国分寺台遺跡調査団（田中新史）調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。資料は同調査団保管。

西広モチ塚古墳　　市原市西広337番地（117・146）

径約35m、高さ約4.5mの円墳。幅5mの周堀がめぐる。内部施設は2基。墳頂下に木棺直葬の1号、その南東1mに2号。2号は長さ3.7m、幅1mの粘土槨。1号からは変形神獣鏡1、ガラス小玉300、琥珀棗玉15、碧玉質石製管玉4、直刀1が出土。2号からは直刀1、砥石1、鉄鏃が出土。琥珀及び砥石はともに銚子産と推定される。周堀内から円筒埴輪が、墳頂部からは須恵器（甕）、土師器片が出土した。

昭和38年、早稲田大学（滝口宏）調査。道路建設に伴い湮滅。

持塚2号墳　　市原市西広字持塚（240）

いわゆる国分寺台の台地上に所在する°前方後円墳1、方墳2、円墳5の計8基からなる小

古墳群中に所在。本古墳群は３つの支丘を中心として分布しさらに２分が可能であるという。西側支丘上の方墳は、内部施設から玉類、武器、工具を出土したという。１号墳は大形円墳で埴輪をめぐらす。墳頂部からは陶邑古窯址群第一型式の須恵器が、又、内部施設からは良質の変形獣文鏡が出土した。

本墳は１基のみ孤立して所在する。周堀を含めた全長34.3mの前方後円墳。後円部径20.5m、前方部幅21.3mをはかる。幅２～2.2mの周堀がめぐる。後円部周堀がくびれ部の墳丘下に存在し、その部分を埋めて前方部を築造している。報告者は「第一次設計は円墳であり、埋没溝の規模の深さをした円形周溝をめぐらしていたが、石室を築き墳丘の完成に近くなったころ、前方後円墳への設計変更が行なわれ、くびれ部を設定し、その部分の周溝を埋めて、埋没溝の上面に前方部盛土を積み上げたことが推定できる。」と述べている。後円部墳丘ほぼ中央に、南東に開口し、墳丘主軸線にほぼ直交する横穴式石室がある。天井部から盗掘をうけほぼ完全に破壊。玄室は現存している部分で奥壁幅1.78m、壁の長さ2.95m。粘土の存在範囲、土層の堆積状態等から玄室は長さ3.5m内外、幅1.8m、高さ2.1m程度のものと推定される。周堀内、石室内から土師器、須恵器の破片が出土。所謂「真間式」に属するものが含まれる。

昭和47年、市原市国分寺台遺跡調査会（須田勉）調査。後湮滅。遺物は同調査会保管。

持塚４号墳　　市原市西広（289）

養老川下流北岸台地上の丘陵突端に１基だけ孤立して所在。すでに土取りにより四周が崩されていた。墳丘は主に地山整形よりなり、周堀はめぐらない。西辺のみ良く遺存し、一辺約22mをはかる。調査後の推定では、一辺26～29m、高さ2.35m程の方墳と復元された。内部施設は３基（北、中央、南）検出された。それぞれ1.2～1.4mの間隔をもつ。北西から南東の方向をとる。北施設は掘込み面で長さ3.68m、幅0.62～0.44m。両小口に粘土ブロックを充填し、通有の箱形木棺と思われる。頭位は南東向き。遺物は遺骸に着装された状態で、勾玉２、管玉16、ガラス小玉７、滑石小玉15が出土。胸の位置には鋒を足元に向けて刀子１が出土。この範囲にはベンガラ（酸化鉄）が散布されていた。頭の東に鉇１と針状のものが、やや離れて鉄斧頭１が出土。北側壁に沿って剣１が鋒を足元に向けて出土。中央施設は全長4.81mで、２基の木棺痕が接続したもの。西側棺は、長さ2.52m、東側棺は長さ2.26m。東側棺は0.1mほど、西側棺より底面が高い。遺物は出土しなかった。南施設は中央施設と同様、東、西２棺が重複。西側棺に付設されたような状況。全長4.47m、西側棺の長さ2.10m、東側棺は長さ2.47m。遺物は出土しなかった。５世紀前半から中葉頃の築造と推定され、国分寺台の台地上では東間部多２号墳に続いて築造されたものと考えられる。

昭和48年、上総国分寺台遺跡調査団（田中新史）調査。後湮滅。資料は同調査団保管。

山倉１号墳　　市原市山倉（285）

養老川河口付近の東岸台地上に所在。東西にのびる細尾根上に、前方後円墳２、円墳３が、相接して１列にならぶ。やや離れて北方に方墳１がある。前方部ほぼ西南面の前方後円墳。全長45m。２段築成で、下段は地山を整形して形成。中段テラス上に埴輪列がめぐる。後円部背後と前方部前面にのみ幅1.5m程の周堀がめぐる。後円部南に開口する横穴式石室をもつが、盗掘により石材まで抜かれ、鉄製品残欠を出土したのみ。円筒埴輪、朝顔埴輪の他形象埴輪（人物、太刀）を検出。また石室の裏込め部から完形須恵器数点を検出。６世紀後半。

昭和50年、上総国分寺台遺跡調査団（米田耕之助）調査。後湮滅。資料は調査団保管。

海保古墳群　　市原市海保字古谷前（148）

養老川に南側から入り込む小支流によって形成された小支丘上に所在。８基の円墳によって構成された古墳群で、最北端から１、２、３号墳と呼称。

１号墳

本墳は調査前は径10m程の南北に長い楕円形をした円墳と推定。南側のみ周堀を確認。墳頂より北側の部分で粘土の散布を認め直刀破片を検出。また墳頂部攪乱壙内で鉄剣破片を検出。

２号墳

南北18.5m、東西15.5m、高さ1.5m程の円墳。裾部は地山整形によって形成。盛土の範囲は南北11m、東西10.3m、高さは最大0.9mをはかる。周堀が半周する。内部施設は未検出。墳丘下中央、旧地表上に破砕した土器を検出。完形に復元できた。五領式であり古墳築造に伴って廃棄された可能性が強い。

３号墳

径29.3m、高さ3.8mの円墳。裾部は地山整形により形成。地山を削って段をつくり段の下端で径24mをはかる。墳頂下で頭位を南東にとる木棺直葬施設を検出。長さ4.24m、幅0.75m、深さ0.15m。壙底は舟底状を呈す。両端に粘土塊を置く。ガラス小玉32、碧玉製管玉14、瑪瑙製勾玉２、剣３、鉄鏃５が出土した。

以上、昭和43年、早稲田大学（中村恵次）調査。宅地造成に伴い湮滅。資料は早稲田大学考古学研究室保管。

二子塚古墳　　市原市姉崎（27・45・295）

養老川河口の沖積平野中に所在。前方部ほぼ西南面の前方後円墳。墳丘長93m、後円部径45m、同高さ9.8m、前方部幅46.5m、同高さ９m。周堀は未確認。内部施設は攪乱を受けていたが、遺物の出土状況から前方部、後円部の二か所に存在したと思われる。前方部の施設は地元民による松根の採掘により破壊されたが、石枕１、直刀２、瑪瑙勾玉１を出土した。後円部の施設は度々の発掘により遺物の出土状況は混乱し不明であるが、蟠虺文鏡１、仿製変形文鏡２面、硬玉製勾玉７、滑石製大型勾玉１、滑石製管玉４、棗玉４、ガラス小玉300余、銀製垂

耳飾、石製模造品（刀子５、有孔円板２、臼玉３）、立花４、直刀片、鉄鉾、金銅片が出土した。この外に、後円部墳頂下約１ｍの地点から発見されたという四神十二支鏡が報告されている。

昭和22年、国学院大学（大場磐雄、亀井正道）調査。昭和43年、県指定史跡。遺物は国学院大学考古学資料室保管。

山王山古墳　　市原市姉崎（107・111・117）

姉崎古墳群中、西南端に位置する。墳丘長75～80ｍ、後円部径34ｍ、同高さ８ｍ、前方幅48～54ｍ、同高さ9.9ｍ、自然地形を整形して造られた前方後円墳。後円部墳頂下に、墳丘主軸に沿って粘土槨を検出。長さ９ｍ、幅3.5ｍの長方形で、木棺痕は長さ７ｍ、幅1.5、深さ0.3ｍ、棺床の幅0.95ｍをはかる。木棺東端部から銅製冠と一対の青銅製耳環、冠の下に朱、雲母片が散布。北側槨壁には環頭太刀１、刀子、鋲製鞘、小形の櫛、鼉竜鏡１、南壁際に木鞘の直刀２、北壁寄りに漆の皮膜を伴う二条の帯状の木質、鉄鏃、胡録が出土。後円部西南部より埴輪出土。

昭和38年、大場磐雄、甘粕健調査。湮滅。

天神山古墳　　市原市姉崎（27・339）

姉崎古墳群が所在する台地の、北東端に位置する。「台大塚」「大塚」とも呼ばれる。墳丘長約120ｍ、後円部径約70ｍ、後円部と前方部の比高差約５ｍの前方後円墳。前方部は西面する。周堀は部分的にめぐるという。墳形、立地から、姉崎古墳中で最も古い古墳と考えられ、５世紀前半代と推定される。

昭和49年、明治大学実測調査。昭和48年県指定史跡。

六孫王原古墳　　市原市姉崎（221・268）

従来、存在は確認されていたが、無名古墳とされていた。姉崎古墳群の南端に位置する。調査前は墳丘長約37ｍの前方後円墳ととらえられたが、調査の結果、長方形の周堀にかこまれた前方後方墳と判明。墳丘長45.4ｍ、後方部一辺26.5～27ｍ、前方部幅25ｍで、周堀外周は長さ51.5～52.5ｍ、幅32～32.5ｍをはかる。内部施設は、後方部側面に開口する横穴式石室だが、盗掘によって、徹底的に破壊され、本来の形状はまったく不明。石室の掘り方全長は現存部分上縁7.4ｍ以上、下底5.2ｍ以上。出土遺物はすべて原位置でなく金銅製鏡板、金銅製留金具、鋲頭、直刀、刀子、鉄鏃６、不明鉄製品が出土。後方部墳頂より破砕された須恵器大形甕、前方部北側周堀内より砥石が出土。６世紀後半から７世紀初頭と推定される。長方形の周堀形態が明らかとなったこと、墳丘の構築が厳密な築造企画によっていること、使用尺度が推定できそうなことなど、注目される所見を提示した古墳である。

昭和45年、中村恵次調査。現存。遺物は早稲田大学考古学研究室保管。

原一号墳　　市原市姉崎（163）

姉崎古墳群の中央部、台地の奥部に所在する。前方部を北面する前方後円墳。墳丘長約70m、後円部径約36m、同高さ5.7m、前方部幅約32m、同高さ6mをはかる。後円部トレンチで、幅8mの周堀が検出されたが、全形は不明。後円部墳頂下で、長さ2.2m、幅1.6mの棺床に粘土を敷いた遺構が検出され、木棺直葬と推定される。内部より直刀1、鉄製刀子3、鉄鏃4を検出。6世紀前半から中葉と報告されているが、後半代にする考え方もある。

昭和48年、石井則孝調査。後湮滅。

徳部台古墳　　市原市姉崎（168）

姉崎古墳群の東端に位置する。方墳で、南裾部に凝灰砂岩積みの両袖式横穴式石室が内蔵されていたという。出土遺物については公表されていない。

昭和44年、立正大学（丸子亘）調査。

木戸窪古墳　　市原市姉崎（168）

姉崎古墳群の東端に位置し、徳部台古墳の南に隣接する円墳。墳丘下に粘土槨2基が検出されたという。直刀片、刀子片、銅環、小玉、卜骨片が出土したというが詳細は不明。

昭和44年、立正大学（丸子亘）調査。

富士見塚古墳　　市原市姉崎（146）

姉崎古墳群に属するが、大形前方後円墳が散在する台地から派生する支丘上にあり、周囲には小円墳ばかりが所在する。径約25m、高さ約3.5mの円墳。墳頂下約0.6mで、木棺直葬施設を検出。主軸を東西にとる。棺床南縁から鋒を西に向けて直刀1、棺床の両端から鉄鏃20本を束状に収納した状態で鉄地金銅装胡籙が出土。北縁からは、鏡面を上にして、白銅製小形仿製鏡1が出土、その下から鹿角装刀子1が出土した。

昭和38年、早稲田大学（中村恵次）調査。工場建設により湮滅。

福増1号墳　　市原市海士有木（139・175）

養老川の北岸台地上に所在。周囲に数基の古墳が群集。耕作によりすでに墳丘をまったく失っていた。周堀も未調査で墳形不明。内部施設は、全長5.92m、幅約1m、後室幅約1.6mの複室構造の凝灰砂岩切石積横穴式石室。天井石は崩落。鉄鏃数片が後室内より出土。時期判定の資料に欠ける。

昭和42年、早稲田大学（中村恵次）調査。

福増２号墳

径20m、高さ0.7m。耕作による削平が著しい。周堀は不明。地山下に全長3.7m、玄室幅1.2m、羨道幅0.7m、南側に開口する黄色砂岩の切石積両袖式の横穴式石室が営まれ、内部より刀子３、切子玉１、琥珀製棗玉５、金銅製耳環２が出土。また前庭部から、須恵器多数が出土。７世紀前半と推定される。

福増１号墳に同じ。

牛久１号墳　　市原市牛久（150・159・169・187）

養老川の中流域に合流する内田川に沿って発達した河岸段丘の丘陵端に位置する。もと10数基の古墳が存在したが、調査時には３基を数えるのみ。１・２号墳は東西に並び、１号墳の南に近接して２号墳が位置する。

１・２号墳は高さ１～２m程の小円墳であり、詳細な報告はなされていないが、墳頂部から五領式の壺形土器及び銅鏃１本の出土が報告されており、養老川流域では最も時期の古く溯る古墳のひとつとして注目される。

昭和43年、石井昭調査、県立市原高校の校庭拡張に伴い消滅。

牛久３号墳

西側は破壊されている。東西約28.5m、南北約32mの方墳。その外側に約２～３mの平坦面をもち、さらに幅２mほどの周堀がめぐる。埋葬施設は、ほぼ南面する横穴式石室。堀方長約７m、幅3.6m。現存石室長4.2m。前室長1.5m、幅0.75m。後室長1.6m、幅0.85m、鉄鏃は前室閉塞石付近から出土。釘が後室床面から出土。墳丘北側段築付近で土師器、高杯、墳頂から須恵器台付長頸壺出土。７世紀中葉のものと推定される。

昭和48年、東京教育大学（増田精一、岩崎卓也）調査。学校々庭拡張に伴い湮滅。

瓢箪塚古墳　　市原市南総町江子田小字送り（111・115・117）

養老川により形成された沖積平野に突出した標高約65mの台地上に所在。付近には前方後円墳３基、円墳42基が存在し、すでに11基ほどが消滅したといわれる。墳丘長47m、後円部径26m、同高さ4.5m、前方端部幅25m、同高さ4.5m、前方部を西北西に向ける。幅4.3～10.7mの変形周堀がめぐる。後円部墳頂下に、長さ約3.5m、幅約0.7mの粘土を目張り等に使用した木棺直葬施設を検出。東半部の中央やや北寄りで直刀１、刀子１、この南側中央部に純金製耳環２、勾玉16、切子玉18が出土。西半部中央に轡一式、鉄地金銅張鏡板２、鉄地金銅張鉸具20、鉄地金銅張雲珠３、鉄地金銅張杏葉５、鉄鏃20、ガラス玉248が出土。これらの上面に麻布と思われる布片が炭化付着して出土。

昭和38年、武田宗久、中村恵次調査。牧草地造成に伴い湮滅。遺物は県立千葉高校保管。

女坂１号墳　　市原市江古田女坂（158）

内田川、田尾川にかこまれた丘陵上に所在。一辺約30～32mの方墳。高さ約3.5mで二段築成。幅約４mの周堀が一周する。墳頂下で２基の組合式木棺痕を検出。一は長さ2.96m、幅0.55m、内部より釘が出土。他は長さ1.17m、幅0.58m、内部より釘が出土。ともに副葬品なし。周堀内より須恵器（長頸壺、大形甕）、土師器（高杯、杯）が並べられた状態で出土。

昭和43年、武田宗久調査。宅地造成に伴い湮滅。

向原古墳群　　市原市郡本（96・100）

東京湾岸平野に突出した台地の縁辺部に所在する。円墳14基程度からなる。

１号墳

墳丘はすでに削平。残存裾部の孤形から径33m程の円墳と推定。７×４mの範囲で粘土の散布する部分があり、軟砂岩切石一個を検出、またかつて同様の大石７個を抜きとったと伝わり、横穴式石室を蔵していたことがわかる。墳丘下に鬼高期住居址が一軒あった。

２号墳

径26m、高さ3.5mの円墳状を呈す。「サンヤ塚」の里称があり、封土が黒色土のみよりなる点から、近世の塚の可能性が大きい。

３号墳

径18m、高さ0.9mの円墳。攪乱が著しいが、墳頂下約１mで刀子１、鉄鏃６を検出。粘土等をまったく認めず、木棺直葬施設と推定。

４号墳

径18m、高さ0.9mの円墳。耕作により削平をうける。南西に開口する横穴式石室を蔵す。長さ2.6m、幅0.8～1.07mで、奥壁から1.9m程の部位に柱石を両側壁際に立て、仕切りとする。すでに盗掘をうける。鉄鏃、刀子の残欠、金銅製耳環２、琥珀製棗玉片、須恵器片（瓶、甕、杯、提瓶）若干が出土。

昭和36年、国学院大学（寺村光晴）調査。採土工事に伴い湮滅。

菊間天神山古墳　　市原市菊間深道永台（339）

直径約39m、高さ約3.5mの円墳。円筒埴輪片をもつ。未調査。

東間部多16号墳　　市原市西広（240・289）

蛇谷遺跡内に所在。墳丘はすでに完全に削平。東西に主軸をとる。全長26.5mの前方後方墳。後方部コーナーにブリッジを有す。東間部多２号墳に類似する形態。詳細は未報告。

吉野古墳群　　市原市西国吉（343）

前方後円墳３基を含む約15基で構成された古墳群。１号墳は３基のうちで、最大のもので、墳丘長約44m、前方部幅約26m、後円部高さ約4.5m。円筒埴輪出土。市原市指定文化財として保存。２号墳は墳丘長約32m、前方部幅約11m、高さ約1.5m、後円部径約18m、高さ約3.2mの前方後円墳。３号墳は道路工事により前方部を削平され、後円部のみ遺存。

姫宮古墳　　市原市菊間（343）

墳丘長約51m、前方部高さ約3.6m、後円部径約18m、後円部高さ約3.9mの前方後円墳。未調査。市原市指定史跡として保存。

蛇谷遺跡周溝址　　市原市西広字蛇谷（289）

一辺約15mの方形。コーナーに１か所ブリッジを有す。東側周溝内から100個体近くの土器が出土。国分寺台遺跡調査団発掘。詳細は未発表。

南総中遺跡周溝址　　市原市牛久江古田（185・192・239）

養老川と内田川によって形成された鶴舞江古田丘陵を構成する１支丘上に所在。

H—17号址

19×17.5mのほぼ正方形を呈す。溝は幅1.7m、深さ0.6～0.8m。台状部は15.5×14m。周溝内より古式土師器が出土。

I—17号址

北溝長8.5m、幅1.5mで四隅の切れる形態のものと推定される。

J—18号址

北溝長７m、幅１m、西溝長3.8m、幅0.8m。南溝長4.2m、幅0.8mの３本の溝を検出。隅の切れる形態と推定。

H—20号址

北、西溝長５m、幅1.2m、深さ0.3m。四隅の切れる形態と推定。

K—21号址

北東溝長8.3m、南東溝8.4m。幅1.2～1.8m、深さ0.6m。台状部は東西10m、南北11.5m。中央部に長径２m、短径１mの土壙を検出。北東溝から宮ノ台期の長頸壺が出土。

M—24号址

北西溝8.5m、北東10m、幅1.4m、深さ0.5～0.9m。四隅の切れる形態。台状部は東西12m、南北13m。北東溝から合口甕棺（宮ノ台期）を検出した。

K—27号址

北西溝２m、北東溝３m、幅0.4m、深さ0.3m。四隅の切れる形態。台状部は南北５m、東西４m。

O—24号址

長さ4m、幅1mの溝1本を検出。

K—26号址

長さ3m、幅0.4mの溝2本を検出。

G—22号址

北西溝9m、南西溝9.5m、幅1.5m、深さ0.5m。台状部は、南北12.5m、東西12m。四隅の切れる形態。中央部に長径33m、短径1.6m、深さ0.5mの土壙を検出。

J—28号址

南東溝6.7m、南西溝7m、幅0.8～1m、深さ0.6m。台状部は南北9m、東西10m。四隅の切れる形態。中央部で長径1.8m、短径0.8m、深さ0.2mの土壙（A）。南東部に長径1.1m、短径0.7m、深さ0.5mの土壙（B）を検出。土壙Bからは人骨を検出した。

L—30号址

南東溝8m、幅0.8m、深さ0.7mの溝を検出。J—28号と同様な形態を示すと推定される。

昭和46年、南総中学校建設にともない駒沢大学（倉田芳郎）調査。

加茂遺跡C地点周溝址　　市原市加茂字中島（287）

溝の長さ南と北21m、東21m、西16m。幅は3m前後、深さ0.4～0.5mをはかる。西北、西南隅の切れる形態。台状部19×19m。中央部から9個の土壙を検出。周溝内より弥生町期の土器が出土。昭和50年、上総国分寺台遺跡調査団発掘。

台遺跡周溝址　　市原市加茂字台（287）

方形周溝2基を検出。5号址は、一辺8.5～19m、幅1.2～1.9m、深さ0.5～0.8mの方形。四隅の切れる形態。台状部は11.7×10m。溝から宮ノ台期の土器片出土。11号址は一辺6～8m、幅0.7～1.2mの溝3本検出。四隅の切れる形態。台状部は9×8m。

昭和50年、上総国分寺台遺跡調査団発掘。

向原遺跡周溝址　　市原市向原（96・100）

方形周溝遺構2基を検出。1号址は4号墳墳丘下に約3分の2が重複する。南北溝長約9.9m（周溝内側長約7.4m）、西側溝を欠くが四隅の切れる形と推定される。ほぼ中央部で東西2.0m、南北1.14m、深さ0.45mの土壙を検出。遺物の出土はなかった。2号址は4号墳によって破壊、かろうじて北溝、東南溝の一部を残す。東西長約8.15m（周溝内側6.25）。四隅の切れる形と推定される。北側溝長5.5m、幅1.25m、深さ0.56m。

昭和48年、南向原古墳群と同一機会に調査。

菊間遺跡周溝址　　市原市菊間（235・254）

新皇塚古墳と同一台地上に所在。同古墳と同時に調査。

1号址

北、西側は調査区外。東、南溝と西溝の一部を調査。現存東溝長21m、幅3.7m、深さ1.1m。南溝20m、幅3.2m、深さ0.9～1m。内部施設なし。周溝内から弥生式土器の出土がみられた。

2号址

南西溝は調査区外。長さは北東溝13.4m、南東10m、南西8m、北西8.4mとまちまちで、幅は2.2～3m、深さ0.6～0.95m。四隅の切れる形態。各溝とも、貝層、土器を出土した。貝はほとんど、ハマグリ、キシャゴ。土器は宮ノ台式が多い。

3号址

東西外周24m、南北外周25mの円形。幅2.5～4.5mの周溝がめぐる。深さ0.5～0.6m、東西周溝内に土壙が検出された。東側土壙は長さ2.25m、幅0.85m、深さ0.35m。内部より鉄鏃、刀子が出土。西側土壙は、長さ1.85m、幅1m。土壙の上位周溝部分に須恵器広口壺が正立して出土。

4号址

約5分の1が未調査。外周で南北18m、東西約18m。ほぼ正方形。幅約2.2mの周溝がめぐる。深さ0.4m。周溝内から宮ノ台式土器片の出土がみられた。

5号址

外周径21mの円形。幅2.4～3mの周溝がめぐる。深さ0.35～0.4m。北側周溝の底部に置かれた状態で須恵器広口壺が出土。他に周溝内から円筒埴輪片、弥生式土器等の出土がみられた。

神門4号墳　　惣社字神門（309）

養老川河口周辺の沖積平野を見下す台地上に所在。調査前に墳丘南側が削平されていた。推定墳丘長48～49mの前方後円墳。周堀は下底幅5.5～8.2mをはかり前方部前面でとぎれる。後円部周堀内側下底間30～31m。周堀を含めた全長は55mになる。墳丘の高さは後円部で約3.35mをはかる。墳丘下、旧地表面で、墳丘築造に際し、草木を焼き払った痕跡がみられる。また地山面に古墳築造に関連した特殊遺構、「A」「B」を検出。A、B遺構ともプランは通有の住居址と形態は同様であるが、A遺構には炉がなく、また、一隅に隅丸方形の柱穴が検出されている。B遺構からは、19個体の土師器（壺4、甕5、台付甕5、甑1、鉢2、器台1、高杯1）が出土。両遺構とも墳丘構築と同様の手法をもって埋設される。旧表土面からは100個体以上の土師器が出土した。器種は甕、台付甕、叩き手法の甕、高杯、装飾壺、手焙形土器がある。出土状況よりみて土器使用から盛土開始までに若干の時間があったと推定される。埋葬施

設は墳丘下0.5mで検出された。ほぼ南北に主軸をとる墓壙内木棺直葬墓である。墓壙は全長4.32m、下底4.05m、幅1.33～1.36m、深さは検出面から1.2mをはかり、棺底はU字形を呈す。遺物の出土地点は棺底、棺上の埋め戻し中間段階、墓壙埋め戻し完了の面の3段階に分けられる。棺底から（ベンガラの部分を頭部と推定）胸部部分に管玉31、ガラス玉、右手位置に剣1、下肢上半両側、足元に鉄鏃41、棺外壙底部分に鎗1が出土。棺上の埋め戻し中間段階から、鉇1、硬玉勾玉3、管玉約42、ガラス玉数十、が出土。玉類はすべて縦割りされており一連の首飾りと推定される。墓壙埋め戻し完了面から土師器（壺5、高杯5、器台7）が出土。遺物は棺の腐朽によって墓壙内上部から出土。これら土器群は在地的性格を有さないもので纒2向式とされた土器群に最も類似する。装飾小型壺は庄内式的特徴を有するものであり所謂前野町式土器との関連が問題とされる。また本古墳の墳形は、東間部多2号墳等に類例がみられる形態で、前方部で周堀が全周せずブリッジを有することである。最近の調査例が増加し、古式古墳の特徴の1つと考えられてきている。

昭和50年、田中新史他調査。

郡本A号墳　　市原市郡本字向原向（40・115）

市原古墳群の一支群である。直径約22m、高さ約3mの円墳、封土内から鉄鏃片と思われる鉄片を検出したのみである。

郡本B号墳

直径約10m、高さ約2mの円墳。ボーリング探査では埋葬施設らしきものは検出されなかった。

郡本C号墳

直径約20m、高さ約17mの円墳。古くから「石のカロト」と呼ばれていた。墳頂よりやや西南に凝灰砂岩使用の横穴式石室があり昭和10年代に盗掘されたとのことである。石室は西南方向に開口する。奥行 2.2m、幅 1.1m、高さ 1.5mで載石切組積である。人骨片、歯牙72、小玉5、銅剣2、金環9、鉄刀片、刀子3、鍔4、鉄鏃25、土師器片が出土。玄室床面に貝殻が一部散布されていた。前庭から須恵器片、土師器、甕形土器、鍔が出土した。

郡本D号墳

直径約10m、高さ2mの円墳。埋葬施設及びそれに伴う遺物は検出されなかった。

神門A号墳　　市原市惣社字神門（40・115）

直径約22m、高さ約4mの円墳、埋葬施設は検出されなかったが、墳丘基底面に若干の粘土層が検出され、その上面から鉄鏃2、鉄剣1、ガラス玉1が出土した。他は不明である。

神門B号墳　　市原市惣社字神門

直径約10m、高さ約3mの円墳、埋葬施設及びそれに伴う遺構は検出されなかった。

カロト塚古墳　　市原市姉崎（115）

姉ケ崎古墳群C支群に属す、明治年間に開墾により墳丘は湮滅。当時石材が出土したといわれる。「カロト」という方言から横穴式石室が構築されていたと推定される。

天神台遺跡方形周溝址　　市原市惣社（272）

養老川によって形成された河岸段丘上。標高25m。都市総合開発計画による道路建設のため湮滅。付近に条里灌漑用の「雷電池」がある。

1号周溝址

8.15×7.20mの方形で、周溝は全周。封土、埋葬施設は不明。

2号周溝址

6.80×6.70mのほぼ正方形で、周溝は全周、封土、埋葬施設は不明。

3号周溝址

6.67×6.77mのほぼ正方形で、周溝は全周、封土、埋葬施設は不明。

4号周溝址

5.43×5.35のほぼ方形で、周溝は全周、封土、埋葬施設は不明。

5号周溝址

10.7×5.35mのやや横長の方形で、周溝は全周。中央部に 3×1.5m、深さ0.3mの落込みがあり、埋葬施設と思われる。遺物等については不明。

6号周溝址

7.95m×7.95の正方形、周溝は全周。封土。埋葬施設は不明。

7号周溝址

7.00×6.65mのほぼ方形、周溝は全周。封土。埋葬施設は不明。

8号周溝址

11.0×9.75のほぼ方形。周溝は全周。封土、埋葬施設は不明。周溝内より古式土師器が出土とのこと。

9号周溝址

16.6×17.2mの方形。周溝は全周。封土、埋葬施設は不明。

10号周溝址

15.1×14.9mの方形。周溝は全周。封土、埋葬施設は不明。

11号周溝址

12.3×14.3mの方形、周溝は全周。封土、埋葬施設は不明。

12号周溝址

16.5×17.5mの方形、周溝は全周、封土、埋葬施設は不明。

13号周溝址

13.0×14.2の方形、周溝は全周。封土、埋葬施設は不明。

昭和49年、天神台遺跡発掘調査団（滝口宏、平野元三郎）調査。

台遺跡B地点2号墳　　市原市加茂字台（287）

養老川が東京湾に流入する河口東岸上。標高約19m、水田との比高12m、一辺9.7m～9.9mの方形、幅1.1～1.3mの周溝が一周する。埋葬施設及びそれに伴う遺物はない。北側溝底から須恵器長頸壺の頸部より上のみ出土。

昭和50年、上総国分寺台遺跡調査団（滝口宏、米田耕之助、半田堅三）調査。

堀の内中谷遺跡　　市原市大字士字字堀の内中谷（332）

養老川により開析された支谷が入り込んだ良好な舌状台地上。古墳時代の円形周溝墓を調査。

昭和52年、ゴルフ場造成にともない日本文化財研究所（柿沼修平）調査。

稲荷台遺跡　　市原市山田橋字稲荷台（332）

養老川により開析された沖積平野を見下す台地上、標高約20m。円墳の痕跡2ケ所を調査。

昭和52年、土地区画整理事業にともない市原市教育委員会（滝口宏）調査。

大厩遺跡周溝址　　市原市大厩（234）

E－3号址

一辺約7.2mの方形。溝幅0.6～0.8m、深さ0.1～0.4m。台状部中央に2×1.4mの方形の土壙を検出したが、内部施設とは考えられないという。周溝内から弥生式土器片が出土。

E－4、5b号址

5b号址は溝長11m、幅1.1mの溝状遺構。4号址は5b号址との間にブリッジを有する形で直交する。四隅の切れる方形周溝遺構に類似する。周溝内から弥生式土器片が出土。

E－12号址

東西11.4m、南北11.8mの方形。溝幅は0.9～1.4m、深さ約0.4m。内部施設なし。周溝内から弥生式土器が出土。

E18号址

南側を削平される。内径約10.9m、外径約13.7mの円形。4号墳の墳丘下から検出された。周溝内から弥生式土器片が出土。

昭和48年、大厩古墳と同一機会に調査された。

武士遺跡周溝址　　市原市福増字向台（290）

養老川によって形成された段丘上に所在、標高約70～80m。方形にめぐると推定される。東溝及び北、南溝の一部が残る。深さ約0.25～0.4m。南溝幅は広く約2m。溝内から弥生時代後期の土器片が出土。

昭和50年、市原東給水場建設にともない市原市教育委員会（須田勉）調査。

江古田北古墳群　（南総中学校内）（185・192）

市立南総中学校々舎建設用地内。養老川とその支流内田川にかこまれた鶴舞江古田丘陵の一支丘上。標高46～50m。水田との比高差20m。前方後円墳1、円墳10による古墳群（江古田北古墳群）を構成。

昭和46年、倉田芳郎他調査。詳細は未発表。

東関山古墳　　市原市菊間字北東関前（25）

主軸長約50m。前方部高さ約5.5m（17尺）、後円部高さ約6m（18尺）。

柴田常恵調査。大正13年「史積名勝天然記念物保存法」により仮指定。

塚の台2号墳

養老川に沿って伸びる標高60～70mの丘陵上に位置。1号墳は調査によって後世の塚と判明。

本墳は、南北31.5m、東西25.8mの楕円形を呈し、後世の攪乱をうけていた。周堀は不明。埋葬施設は軟砂岩による横穴式石室と思われる。内部から鉄釘7が出土。

昭和27年、樋口清之他調査。

福増中学校裏古墳（139・175）

埋葬施設は粘土槨で、内部から小形仿製鏡、刀子が検出された。

昭和41年、下津谷達男調査。

〔17.　千葉市〕

舟塚古墳　　千葉市土気町舟塚（141）

印旛沼に注ぐ鹿島川の水源付近の台地上に所在する。上総、下総の国界にあたる（土気は近年山武郡から編入）。南西面の前方後円墳。墳丘長37m、後円部径19m、高さ3.6m、前方部幅25m、高さ3.9m。墳丘相似形の二重周堀を伴う。内側周堀の方が幅広く3.5～4m、外側は3m前後。後円部墳頂下に奥壁をおく、ほぼ南東へ開口する横穴式石室を伴う。複室構造をとり、両室とも両袖式。砂岩切石により築かれる。全長6m、後室長2.1m、幅1.2～1.3m、高さ1.75m。前室長2.25m、幅1.1m、羨道は現存長1.15m、幅0.85～1m。前、後室とも床面に切石を

敷く。石室内は盗掘され、出土遺物は皆無。後円部墳丘内、石室付近、天井石と略同レベルの位置で須恵器（フラスコ型長頸瓶２、高杯１、蓋付短頸壺１）、土師器（手づくねの坩型)が出土。

昭和28年、早稲田大学（中村恵次）調査。県立農村青年研修所改築工事に伴い湮滅。

椎名崎古墳群　　千葉市椎名崎（206・209・262）

村田川下流北岸の台地上にあり、北へ侵入した小支谷の最奥部に面する。前方後円墳１、円墳４、墳形不明３の８基からなる。

１号墳

前方部ほぼ西面の前方後円墳。南側裾部は農道により削平。墳丘長44.6m、周堀を含めた全長53.8m。後円部径約30m、前方部幅26～28m。幅約５mの墳丘相似式の周堀が一周すると推定される。墳丘の基本的な構築方法は、まず古墳の輪郭線に沿って盛り土をし、次に土堤内を埋めて墳丘を築く。後円部の構築が先行するらしい。南側くびれ部に、ほぼ南向きに開口する単室の横穴式石室をもつ。石室ほり方は羽子板状に一方がすぼまる長方形を呈す。石室主軸長2.4m、奥壁幅1.47、袖石部幅1.27m、側壁長2.40～2.45m。石材は軟質砂岩を用い、基部のみ大石を縦に置き、２段目からは小さ目の切石を小口積みする。玄室内より直刀１、刀子１、鉄鏃40以上、用途不明鉄器１、金銅製耳環２、鉛製？耳環２、鉛製？釧４、ガラス小玉238、須恵器（短頸壺１）が出土。

２号墳

二重周堀をもつ円墳。耕作で削平され、封土の遺存はわずか。封土はかなり削平されていた。内側の周堀は内縁径約24m、幅２～３mでめぐる。ブリッジが２か所ある。外側の周堀は内縁径直径約34mで、幅２～３m。中間の堤は幅2.5～3.5m。墳丘構築方法は１号墳と同様。西側周堀に開口する横穴式石室と南東裾部の箱式石棺。横穴式石室掘り方は開口部がやや狭い長方形を呈す。掘り方底と周堀底のレベルはほぼ等しい。玄室は長さ2.11m、奥壁幅1.2m、袖石下の幅1.15m。幾分胴張り気味のプランをもつ。羨道は長さ1.48m、幅0.6～0.65m。石室全長は3.53m。玄室床面には、石を敷く。箱式石棺は主軸をN—75°—Eにとり、墳丘中央から約８m離れる。石棺内法は主軸長1.94m、幅0.33～0.42m。横穴式石室から直刀３、刀子２、鉄鏃20、耳環２、勾玉12、管玉４、棗玉９、【石製臼玉４、ガラス製臼玉31、ガラス小玉264が出土。すべて玄室からの出土で、出土状況から追葬の可能性が推定される。箱式石棺からは鉛製（？）耳環２が出土。内側周堀から、須恵器（長頸壺、杯身)、土師器(杯）が出土。

３号墳

耕作により削平され、周囲との比高１m程の小丘と化していた。周堀内縁径25～26m、幅１～４mの周堀がめぐる。２号墳に接する北東部の周堀は極度に幅せまくなり、２号墳をよけているので、築造の順序がわかる。周堀外縁径は約33m。西側周堀に開口する横穴式石室を検

出。石室中軸線の延長は墳丘中心点にほぼ一致し、奥壁から墳丘中心下で約８ｍを計る。玄室は長さ2.18m、奥壁下の幅１ｍ、袖石下の幅1.04m。羨道の長さ1.15～1.24m、幅0.86m。遺物はすべて玄室から出土。直刀５、鐔３、刀子４、用途不明鉄器６、耳環２、切子玉８、勾玉２、管玉２、臼玉15、ガラス玉131がある。追葬によるためか、奥壁よりの両わきに偏在していた。周堀内から須恵器（長頸壺片、甕片）が出土。

４号墳

西南裾約３分の１を道路工事により削平されていた。幅1.5～２ｍの周堀がめぐり、内縁径は約22mをはかる。南側に開口する横穴式石室をもつ。玄室は長さ2.13m、奥壁下の幅2.22m、羨道は、左側壁長0.98m、右側壁長1.30mと歪みがある。幅は0.84m。遺物は玄室、羨道の両方から出土し、盗掘を受けた形跡がみられた。玄室からは直刀１、鉄鏃15、ガラス小玉８、須恵器（フラスコ型長頸壺２）が出土し、羨道からは刀子１、鉄鏃が出土した。他に本来玄室にあったと考えられる遺物として、鉄鏃３、耳環１、須恵器（平瓶１）が石室外で検出された。

５号墳

墳丘は完全に削平されており、発掘によってはじめて存在が知られた。幅1.3～2.6mの周堀が一周する円墳で、内縁径21～23m、外縁径26～27mをはかる。墳丘南裾に、地山を掘り込んで箱式石棺を築造、長軸をほぼ正しく東西にとる。内法で長さ1.95m、幅0.4～0.5mをはかる。刀子２、鉄鏃11、用途不明鉄器３、棗玉８が出土。玉類は棺の東側から出土し、東枕と推定される。

６号墳

周堀をもたない特殊な古墳。平坦な畑地に、地山を掘りこんだ壙内に築いた横穴式石室のみ検出された。ほぼ南西に開口し、前庭部につづけて2.6×4.9mの長円形の掘りこみを設け、石室への出入りの施設とする。石室は単室で、羨道を付設しない。鉄鏃20、用途不明鉄器６、鉛製（？）釧１、ガラス小玉365が出土した。

以上、昭和49年、日本住宅公団土地区画整理事業（千葉東南部地区）に伴い、千葉県都市公社文化財調査事務所（沼沢豊）調査。後湮滅。資料は千葉県文化財センター保管。

７号墳

調査が不完全なため詳細はわからない。内部施設は軟砂岩による箱式石棺と思われる。棺内から直刀１、刀子１、鉄鏃11～12、飾金具１、勾玉９、棗玉５、臼玉10が出土。なお報告書の主体部の記述には疑問が多い。

８号墳

道路工事によりカットされた崖面に周堀の断面が露出し、古墳と判断されたというが詳細はわからない。

以上、昭和47年、栗本佳弘調査。資料は千葉県文化財センター保管。

生浜古墳群　　千葉市南生実町（311）

村田川下流北岸台地上、かなり奥部に所在し、赤塚支谷と呼ばれる谷に面する。約20基からなる古墳群で、このうち6基を調査。なお西側小支谷をはさんだ対岸に、鬼高期の一集落である有吉遺跡があり、古墳群との関係が注目される。

1号墳

径14.5m、高さ1.5mの円墳。封土外に幅3m程のテラスがめぐり、その外側に幅3mの周堀が一周する。周堀外縁径は26m。西側で、周堀外壁が幅10m、奥行6.5mの範囲で舌状に張り出す。墳丘構築は、墳裾部にドーナツ状に土を盛り、次にその内側に土を水平に盛る手法をとる。内部施設は未検出。周堀内より土師器杯（鬼高式）が出土。

2号墳

径約17m、高さ1.5mの円墳。盛土の範囲は径13～14m、高さ1.2mと判明。墳丘外に幅3.5～5mのテラスがめぐり、周堀は幅1～3mで一周。周堀外縁径、東西27m、南北24m。墳丘構築方法は1号墳と同様な方法をとる。南側周堀に開口する横穴式石室をもつ。単室で羨道を付設しない。室長2.05m、幅0.7～0.75m。石室ほり方は、長さ4.7m、奥幅3.6m、前幅3.6mの不正長方形。石室内から直刀3、刀子1、鉄鏃33、耳環4が出土。追葬が行なわれた公算が大きい。周堀中より須恵器（長頸壺1、杯身1）が出土。

3号墳

径18m、高さ1.25mの円墳。盛土は径11～12mの範囲。テラスを有すが、周堀に対してやや北東に偏する。したがって、テラスは墳丘の南西側が最大幅（3.5m）となる三日月状を呈する。幅2～3mの周堀が一周。外周径20mでほぼ円形。積土の方法は1号墳と同じ。内部施設及びそれに伴う遺物は検出されなかった。周堀中より土師器（甕、鬼高式）が出土。

4号墳

径約15m、高さ1.5mの円墳。実際の盛土は、径12～13mの範囲。幅1.3～3.5mの周堀が一周する。外周径は約29m。積土方法は1号墳と同じ。南東周堀壁に開口する横穴式石室をもつ。石室掘形は長さ約4.7m、中央幅3.4mの隅丸長方形。石室は単室の両袖式で、羨道を付設しない。長さ2.10m、中央幅0.85m、奥壁幅0.93m。直刀1、刀子3、鉄鏃1、耳環が出土。床面の一部で、破砕された主にシオフキの貝殻が各10余個体分づつ検出された。

5号墳

径14.5～15.5m、高さ1mの円墳。実際の盛土範囲は径10m程。幅3～4.5mの周堀が一周する。外周径約19.5m。内部施設及びそれに伴う遺物は検出されなかった。西側周堀より約4m浮いて、破砕された須恵器（短頸壺）が出土した。

6号墳

北側は区域外にかかるため、南側の約半分を発掘。封土はまったく遺存しない。幅2.5～4.5mの周堀があり、ほぼ円形にめぐるが、北東、南西部分で幅約5.5mにわたって途切れる。前

方部の短い、前方後円墳の可能性もある。

昭和50～51年、日本住宅公団千葉東南部地区土地区画整理事業に伴い、千葉県文化財センター（種田斉吾）調査。後湮滅。資料は同センター保管。

戸張作古墳群　　千葉市東寺山町（281・316）

都川の支流、葭川の東岸台地上に所在。小支谷をへだてた南側に石神２号墳以下の古墳群がある。前方後円墳を含む十数基からなる古墳群でこのうち８～14号の７基を調査。なお１～６号は、調査の結果、歴史時代の塚と判明。

８号墳

墳丘長23.5m、後円部径19.5m、前方部幅15mの前方後円墳。幅2.5～４mの周堀が後円部からくびれ部にかけてめぐり、前方部前面では途切れる。内部施設はくびれ部中央で検出。墳丘主軸上に長軸をとる。長さ4.17m、幅2.06m、深さ0.4mの土壙内に、長さ2.43m、幅0.65mの木棺痕が残る。棺内からは直刀２、刀子５、鉄鏃14が出土。７世紀中葉。

９号墳

径約23m、高さ2.6mの円墳。幅２～３mの周堀が一周する。長さ約1.9m、幅0.8m、深さ0.4mの土壙に、長さ1.5m、幅0.4mの木棺を埋納。直刀１、刀子３、鉄鏃５、ガラス小玉42が出土。周堀内より土師器（杯５）、須恵器（杯１）、緑泥色片岩製紡錘車１が出土。

10号墳

遺存状態不良の為に本来の形状は不明。現状は一辺８m程の方墳状を呈す。近世以降の構築物の公算が強い。

11号墳

径約12m、高さ１～1.75mの円墳。幅２～2.5mの周堀が一周する。墳頂下に正確な規模、形状は不明ながら、木棺直葬施設を検出。直刀３、刀子２、鉄鏃７が出土。周堀内より須恵器（杯、甕）、土師器（杯、椀）が出土。７世紀中葉と推定される。

12号墳

径約９mの円墳。墳丘はほとんど遺存せず。幅0.7～1.3mの周堀が一部を除きめぐる。内部施設は未検出。周堀内より土師器片出土。

13号墳

墳丘長20m、後円部径15.5m、前方部幅9.5mの前方後円墳。前方部西面。幅約3.5mの周堀が一周する。内部施設は、クビレ部中軸線上で検出。長さ4.9m、幅2.25mの長方形の土壙内に、長さ3.3m、幅1.1mの木棺痕を検出。刀子１、碧玉製管玉５、臼玉１、小玉12が出土。周堀内より土師器（杯）、須恵器（杯、提瓶）が出土。

14号墳

墳丘長23m、後円部径18～19m、前方部幅12.5mの前方後円墳。前方部西北面。幅約３mの

周堀が後円部からくびれ部までめぐり、前方部では途切れる。内部施設はくびれ部中央にあり、墳丘主軸上に長軸をとる。長さ3.4m、幅1.8mの土壙底に、長さ1.72m、幅0.35～0.49mの小土壙を掘り込んで棺とする。直刀1、刀子1、鉄鏃30が出土。他に後円部攪乱土内より直刀1が出土。後円部墳頂部にも内部施設のあった可能性がある。周堀内より須恵器（短頸壺）出土。

昭和50年、千葉県文化財センター（矢戸三男）調査。京葉道路建設に伴い湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

石神古墳群　　千葉市東寺山町（298・318）

石神2号墳

葭川の東支流に面する台地上に所在。直径30m、高さ3mの墳丘をもつ円墳で、幅5～6mの周堀が一周する。外周径42m。長さ6.8m程の割竹形木棺の痕が墳頂下1m程で検出された。粘土を小口部と両側壁に充塡。棺内から石枕2個が出土。北側の枕には、立花9、石製模造品の刀子10、鎌1、臼玉613、鉄製模造品を含む鉄製品13、剣2、南側の枕には立花9、石製模造品の刀子10、鎌3、勾玉1、臼玉1241、鉄製品5が伴い、棺中央に小刀子1があった。5世紀中葉と推定される副葬品の組み合わせと墳丘下の和泉式土器を伴う住居址との矛盾が指摘された。

昭和50年、千葉県文化財センター（沼沢豊）調査。京葉道路建設に伴い湮滅。遺物は文化庁保管。

3号墳

東西8.1～8.3m、南北8.5mの多少いびつな円墳で、封土はすでに削平されていた。幅0.95～1.7mの周堀が一周する。外周径10.9～11.2m。周堀内から和泉式土器の完形品等が出土している。5世紀後半代か。

4号墳

封土及周堀の一部が削平されていた。西辺約10m、東辺8mの方墳。内部施設は未検出。周堀内から土器片及銅鏃1出土。銅鏃は南側周堀の内壁に半身が幾分喰い込んで出土。土器は五領期のものが過半をしめるが、和泉期的なものもある。5世紀中葉か。

5号墳

径約15m、幅2.5～3mの周堀が一周する円墳。外周径20～21m。封上は第二次大戦後削平された。周堀底に長さ2m、幅0.55～0.6m程の土壙があったが、本古墳に伴うものかどうかは不明。周堀内から五領期を中心とする土器片が出土し、和泉期のものを含む。5世紀中葉か。

6号墳

径12～14m、東西にやや長い円墳。幅2～2.5mの周堀が一周する。外周径17～17.5m。封

土はすでに削平されていた。周堀中より古墳時代以降の鉄鏃1が出土。周堀が五領期の住居を切り、鬼高期にほぼ周堀は埋っている。五世紀中葉から後半か。

（以上、石神2号墳に同じ）

仁戸名古墳群　　千葉市仁戸名町（193）

東京湾に注ぐ都川水系の小支谷に面する台地上に所在する。前方後円墳1、円墳5からなり、付近には小規模な古墳群がいくつか分布する。

1号墳

径16.8m、高さ1.4mの円墳。幅1.5～3mの周堀がめぐる。墳頂下約1mで木棺直葬施設を検出。木棺は長さ2m、幅0.6m、両小口に多量の粘土を充塡する。出土遺物なし。盗掘はうけていないので、元来副葬がなかったか、あったとしても腐朽しやすいものだったと推定。

2号墳

ほぼ西面する前方後円墳。墳丘長31.5m（復元）、後円部径19.5m、高さ2m、前方部幅14m、高さ1.5m。周堀は浅く、全形は不明。後円部墳頂より南寄りの位置で木棺直葬施設を検出。長さ3.1m、幅0.4m。少量の粘土を使用。直刀1、刀子1、鉄鏃19と臼歯一本が出土。本来は複数の内部施設を蔵すものだったと思われる。

3号墳

径23m、高さ3mの円墳。幅2～3mの周堀がめぐる。墳丘北半の封土内中段で多量の焼土、灰、炭化物粒よりなる層が検出され、160個体以上の土器（若干の須恵器を含む）と鉄剣、刀子1が出土。また墳頂下にも焼土、灰の層があり、近くから土師器24個体が出土。築造の各段階における何らかの祭祀の痕跡であろう。墳頂よりやや南に寄った位置に、主軸をほぼ東西にとる木棺直葬施設を検出。長さ2.2m、幅0.4m、両小口に多量の粘土を充塡。直刀1、ガラス丸玉1、小玉2が出土。

4、5号墳

調査の結果、近世以降の塚と判明。

6号墳

径15.5m、高さ1.8mの円墳。幅3～5mの周堀がめぐる。墳頂下1mで木棺直葬施設を検出。長さ2.7m、幅0.6m、粘土を用いない。直刀1、刀子1、鉄鏃1、釘1が出土。本施設の南1m程の位置に、形状不明の別施設があり、須恵器大甕一個体分の破片と桂甲小札多数(100以上）が出土。

昭和47年、坂井利明調査。県立千葉南高校建設に伴い湮滅。

中原古墳群　　千葉市平山町（98・99・238・280）

東京湾に注ぐ都川の水源付近の台地上に所在する。前方後円墳3、円墳6の計9基からな

る。本古墳群の北側、小支谷をはさんだ対岸台地上には前方後円墳２、円墳１からなる塚原古墳群が所在する。

１号墳

墳丘は削平をうけており、本来は径15m、高さ２m程の円墳と推定。内部施設はすでに半壊し、よくわからないが、墳丘裾に地山を掘りこんだ土壙内に木棺を収納したものと推測される。直刀２、鉄鏃24が出土。

２号墳

径19m、高さ２mの円墳。南側裾部に地山を掘りこんだ長さ3.5m、幅１～1.7m、深さ0.4mの土壙をもうけ、壙底にさらに長さ2.85m、幅0.8m、深さ0.3mの細長い壙を掘り、両端に粘土を充塡する。粘土間の約２mが木棺の規模と推定。刀子１、鉄鏃２が出土。

３号墳

西面する前方後円墳。墳丘長33m、後円部径20m、高さ3.2m、前方部幅19m、高さ1.9m。南側くびれ部に、地山を掘りこんだ長さ3.3m、幅1.3m、深さ0.25mの土壙をもうけ、木棺をおさめる。粘土は用いない。直刀２、耳環５（金銅製２、鉄製２、鉛製１）、ガラス小玉120が出土。

４号墳

ほぼ西南面の前方後円墳。墳丘長35m、後円部径18m、高さ２m、前方部幅15m、高さ0.5m。東側くびれ部の地山下に箱式石棺を蔵す。内法長2.2m、幅0.65～0.75m、高さ0.9m。砂岩の切石を用い、３～４段積み上げる。石棺の長軸は後円部中心点を指す。直刀２、刀子２、鎌１、鉄鏃20が出土。

５号墳

ほぼ西面する前方後円墳。墳丘長28m、後円部径18m、高さ２m、前方部幅７m、高さ0.5m。くびれ部中央、墳丘主軸上に土壙をもうけ木棺をおさめる。両小口に粘土を充塡。粘土の間隔1.85m、幅は0.7～0.8mで、これが木棺規模とみられる。直刀１、刀子１、鉄鏃が出土。

昭和34年、早稲田大学（中村恵次、市毛勲）調査。袖ケ浦カントリークラブ造成に伴い湮滅。なお、本古墳群中出土と伝えられる人物埴輪（女子立像、ほぼ完形）が県立千葉高校に保管されている。

鈴子遺跡（県立コロニー内遺跡）　　千葉市誉田町１丁目（283）

都川南支流の水源付近の台地上に所在する。中原古墳群の南1.3km に位置する。方形周溝墓に類する12基の遺構を検出したが、溝中からの出土遺物は僅少で、縄文式土器以外では平安時代の所産にかかる土器を出土する。古墳時代以降の所産にかかる公算が強い。台状部一辺３mという小型のものから、６～７mをはかるものまで規模は多様で、辺の向きもまちまち。内部施設はもたないが、004号址だけは横穴式石室類似の施設を伴う。

004号址

台状部一辺７m強、幅２～2.5mの周堀が一周する。各辺を正しく東西南北にとる。台状部南半に白色粘土によって横穴式石室類似の施設を設ける。地山を掘りこんで、内法長3.05m、幅1.23～1.36mの長方形に、厚さ0.3～0.5mの粘土でかこう。粘土壁の高さは0.55m遺存。床面はローム層で、奥壁より⅔の範囲に木炭を敷く。南側小口部が開口し、周堀壁までの間に、幅0.28～0.68m、長さ１m程の溝を掘り、墓道の如く加工。出土遺物はなし。北側の周堀中で、焼成後に底部を穿孔された完形の須恵器（高台付長頸瓶）が覆土中位で出土。また国分式の土師器（杯１）が出土。ともに混入品と考えられるが、本址の造営期を推定する手がかりにはなる。本址は古墳時代終了後、国分期以前ないし初期までの間の所産にかかる公算は大きい。

昭和50年、千葉県文化財センター（菊池真太郎）調査。県立障害者総合福祉センター建設に伴い湮滅。

兼坂古墳群　　千葉市加曽利町字和田（209・213・217）

都川下流北岸台地上に所存する。円墳４、小形方墳２からなる。

１号墳

墳丘は古く削平。径18～22mの不整円形に、幅1.5～４mの浅い周堀がめぐる。中心より南西に片寄った位置に、地山を掘りこんで箱式石棺を設置。雲母片岩の板石を用る。４体分の人骨と、金銅製耳環１、管玉１、刀子１、ガラス小玉１が出土。周堀中より須恵器片若干出土。

昭和41年、整地工事に伴い新発見。千葉市教育委員会緊急調査。

２号墳（聖人塚古墳）

径20m、高さ１mほどの墳丘が遺存。幅３m程の周堀がめぐるが、全体に不整。内径約27m南西裾部に、地山を掘りこんで木棺直葬施設２基を設置。第１施設は粘土をかなり多量に使用。長さ3.2m、幅0.9～１m。直刀２、鉄鏃６、耳環が出土。第２施設は長さ2.3m、幅1.1m、粘土、出土遺物を見ない。周堀中より須恵器（甕１）、土師器（杯）が出土。

３号墳

墳丘なし。一辺9.6～10mの方墳。周堀が一周。台状部１、周堀内２の土壙を検出。台状部のものは粘土を使用。ともに遺物皆無。

４号墳

墳丘なし。一辺7.6～９mの方墳。台状部１、周堀内で２基の土壙を検出。前者は粘土を用いる。ともに出土遺物なし。

５号墳

墳丘なし。径9.1mの円墳。周堀一周。内部施設なし。周堀内より和泉式の甕出土。

６号墳

墳丘なし。径13.6mの円墳。周堀一周。内部施設なし。周堀内より和泉式の杯2出土。

1号方形周溝址

一辺5.2～5.7mの台状部をもち、五領式の壺1を出土。

以上、昭和47年、千葉県都市公社文化財調査事務所（三森俊彦）調査。京葉道路建設に伴い湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

平山古墳　　千葉市平山町（330）

都川南支流の水源付近の台地上に所在し、南方至近の距離に塚原古墳群、中原古墳群が存す。径18m、高さ1.8mの円墳。周堀が一周し、外周径24m。内部施設は未検出。周堀覆土中から須恵器（台付長頸瓶）1、土師器（椀）2が出土。

昭和52年、千葉県文化財センター（杉山晋作）調査。千葉東金バイパス建設に伴い湮滅。

七廻塚古墳　　千葉市生実町字峠台（99・102・238・280）

村田川の河口デルタに面する台地上に所在し、付近には大覚寺山古墳があり、有力な古墳群を形成していた。径54m、高さ8.8mの大円墳。墳頂部に戦後忠霊碑が建ち内部施設をかなり破壊。内部施設は3基あり、いずれも両端に粘土をあてる木棺直葬施設。他に石製模造品等を一括埋置した施設1があった。第1施設は主軸を南北にとる。北端部を残すのみで他は碑により破壊。第2施設は第1の南に、東西に主軸をとって設置。長さ6m、幅0.5～0.6m。東端部で立花5、直刀1、鉄鉾2、鎌、鉄斧等出土、第3施設は第1の西方に、主軸を北東に傾けて設置。北半をすでに失うが、遺存部で立花5、鉄剣1、鉄鉾2、鉄製農工具が出土。第1施設の東、第3施設と対応する位置、方向で、長さ1.2m、幅0.5mの範囲で石製模造品等を一括埋置した施設を検出。粘土は用いない。小型仿製鏡1、滑石質の大型、特殊な石釧1、石製模造品（刀子17、鎌2、斧4、剣1、不明棒状品2）が出土。5世紀中葉。

昭和33年、生浜中学校校庭拡張工事に伴い、武田宗久調査。後湮滅。遺物は千葉市教育委員会文化課保管。

大覚寺山古墳　　千葉市生実町字大覚寺脇（160・220・238・280）

昭和44年、宅地造成に先立つ伐採により新発見。明治大学考古学研究室他により測量され、墳丘長62m、後円部径30m、前方部幅25mの前方後円墳と判明。古式古墳に類するプロポーションを有する。千葉市内では最大の古墳であり、昭和46年、県指定史跡として保存。

狐塚古墳　　千葉市今井町（127・238・280）

東京湾岸平野に突出した台地上に所在する。湮滅寸前のところを緊急調査したが、すでに破壊が甚しかった。墳丘長54mの南面する前方後円墳とされるが、円墳2基が南北にならんだも

のかもしれない。周堀は未検出。「後円部」に粘土の散布が認められた。管玉１出土。

昭和39年、武田宗久調査。後湮滅。

新山古墳群　　千葉市加曽利町字新山（238・280）

都川の中流、二支流の分岐点北岸台地上に所在する。前方後円墳２、円墳１が近年まで遺存。

１号墳

墳丘長30～40m程の前方後円墳だったらしい。前方部北東面。後円部墳頂近くで粘土塊と雲母片岩の板石破片が出土したので、箱式石棺が設置されていたのだろう。

昭和41年、土取り工事に伴い千葉市教育委員会調査。後湮滅。

２号墳

墳丘長25m程の前方後円墳。前方部南西面。破壊が甚しく内部施設未検出。周堀の存否不明。

昭和42年、土取り工事に伴い加曽利貝塚博物館調査。後湮滅。

３号墳

明治年間、土木工事によって削平。雲母片岩を用いた箱式石棺が蔵されていたという。円墳だったとされるが、近年の調査（年次不詳）によっても、周堀のプランは判明しなかった。

内野５号墳　　千葉市多部田町字内野他（292）

都川中流で分岐した二支流のうち、北支流の南岸台地上に所在する。前方後円墳１、円墳７からなる古墳群中の１基。半壊していたが、径30m、高さ1.5m程の円墳と推定。幅1.5～2.5mの周堀がめぐり、外周径36～38m程の南裾部に地山を掘りこんで箱式石棺を設置。雲母片岩の板石を用いる。長さ約２m、幅0.6m。数体の人骨と直刀２、刀子数本、鉄鏃数本が出土。

昭和47年、市営霊園（平和公園）造成に伴い加曽利貝塚博物館調査。後湮滅。他の古墳は公園内に保存。

荒久古墳　　千葉市青葉町荒久（65・99・238・280）

東京湾から湾入する千葉寺谷の最奥部に所在する。北東約600mには奈良時代の創建になる千葉寺がある。一辺20m程の方墳とみられる。長さ2.07m、幅1.2～1.4mの玄室だけからなる横穴式石室が開口。凝灰質砂岩の切石からなり、さわめて整美、堅牢。明治24年に盗掘され、遺物は散佚。その後の調査（年次不詳）で人骨一体分、琥珀製棗玉３、鉄製馬具破片が出土したという。

へたの台古墳群　　千葉市仁戸名町字作山、辺田台（238・280）

東京湾に注ぐ都川の本流を約４km さかのぼった地点で南へ分岐する仁戸名支谷に面する台地上に所在する。せまい尾根上に円墳５基が散在。

1号墳

径18.5m、高さ1.2mの円墳。周堀がめぐり、外周の径は28m弱。すでに墳丘の削平をうけ内部施設は未検出。墳丘表土中で石製模造品（鏡）が出土。

2号墳

径15.5m、高さ2mの円墳。周堀が一周し、外周径は21m。墳頂下に木棺直葬施設を設置。長さ2.5m、幅0.7m。小口部に粘土塊をあてる。直刀1、刀子2、管玉2、切子玉2、ガラス玉68、鉄環2が出土。

3号墳

径18.4m、高さ3mの円墳。周堀が一周し、外周径は27.5m。墳頂下に長さ2m、幅0.5mの木棺直葬施設を設置。小口部に粘土塊をあてる。直刀1、刀子、琥珀製棗玉18が出土。

4号墳

径13.2m、高さ1.8mの円墳。周堀が一周し、外周径は15m。裾部に長さ2.2m、幅0.65mの木棺直葬施設を置く。ガラス小玉百数十個を出土。これに並行して、長さ1.5m、幅0.5mの木棺直葬施設を検出、鉄製轡金具片2、鉄鏃1が出土。

6号墳

径12.5m、高さ1.8mの円墳。浅い周堀がめぐり、外周径16m。墳丘中心の旧地表を掘りこんで木棺を埋置。小口部に粘土をあてる。長さ1.8m、幅0.7m。直刀1、鉄剣1、刀子十数口を出土。

昭和43～44年、小学校建設に伴い加曽利貝塚博物館調査。後湮滅。なお5、7、8号は調査の結果、後世の塚と判明。

武石遺跡周溝址　　千葉市武石町1丁目（313）

花見川に沿って形成された大小の支谷上に所在。標高約20m、水田との比高差約10mである。

1号址

西側及南側を欠く。円形を呈す。径約20mほどと推定される。内部施設なし。

2号址

西側は道路によって削平。円形を呈す。径約20m。幅1.7～3.2m、深さ約0.4～0.7m。内部施設なし。

昭和51～52年、関東地方建設局千葉地方法務局建設にともない、日本文化財研究所（森重彰文）調査。

すすき山遺跡周溝址　　千葉市源町すすき山（238・280）

都川の支流にのぞむ舌状台地上に所在。標高約28m。

1号址

6.8×6.0mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。周溝から土師器片出土。

2号址

5.7×5.2mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。周溝からの遺物もなく時期不明。

3号址

3.6×3.6mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。周溝内から土師器片出土。

4号址

現在径4.5m(東西)の不整円形を呈す。埋葬施設なし。周溝内より土師器、須恵器片出土。

5号址

3.7×3.5mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。出土遺物なし。

6号址

5.8×5.6mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。出土遺物なし。

7号址

5.9×6.0mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。出土遺物なし。

8号址

4.6×4.4mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。出土遺物なし。

9号址

5.3×5.3mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。須恵器片出土。

10号址

6.8×6.2mの隅丸方形を呈す。埋葬施設なし。須恵器片出土。

昭和45年、宅地造成にともない加曽利貝塚博物館調査。

東五郎遺跡周溝址　　千葉市大宮町(312)

都川に面する河岸段丘上に所在。標高約34m。東側及南隅は未調査。一辺約11.3mの方形と推定。溝はU字形を呈す。他の遺構との切合いから鬼高期以前、和泉期に属すものと推定される。

昭和48年、土砂採収工事にともない発見。平野考古学研究所調査。

石神1号墳　　千葉市東寺山町(238・280)

千葉県文化財センター調査の石神2号墳の南西約150mの所に所在。戦後削平の際、石製模造品(立花、刀子)が出土した。

出土遺物は県立千葉高校保管。

高品第2遺跡A地点周溝址　　千葉市高品町(217)

都川の一支谷である貝塚支谷の西側、東田川によって形成された洪積台地上に所在する。小

谷津をはさんで西をA地点、東をB地点とよぶ。東田川をはさんで東寺山古墳群が所在。

第1号周溝址

本址は、東西に走り、幅2～3m、長さは検出部分で約12m、底面に段を有す。切合いから第2号周溝よりも古い。内部より土師器、須恵器片出土。

第2号周溝址

南北に長くのびる。幅約2.5m、検出部分の長さ約35m。第5周溝を切る。

第3号周溝址

南北に走る幅1.5mの溝。検出部分の長さ約11m、性格は不明。

第4号周溝址

幅1mほどの溝、検出部分の長さ6.5m。性格不明。

第5号周溝址

隅丸方形に近いものと推定。一辺約17m。幅2～3の周溝が一周するものと思われる。埋葬施設は中央部が未調査のため不明。周溝内から土師器（鬼高期）を検出。

第6号周溝址

幅約1mの溝、検出部分長さ約14m。溝中央部に長さ3m。幅1.8mの土壙あり。

第7号周溝址

幅1.5mの溝、検出部分の長さ約9.5m、性格不明。

昭和46年、京葉道路建設にともない千葉県都市公社古内茂）調査。

荻生道遺跡　　千葉市小食土町

村田川の上流。標高約90m。円墳の残欠を3基調査。詳細不明。

昭和51～52年、駐車場用地造成にともない千葉市教育委員会（市川勇）調査。

椎名崎遺跡　　千葉市椎名崎町（326）

村田川右岸の千葉市東南部丘陵上で小金沢支谷の北側台地上、円墳を2基調査。

昭和51～52年、土地区画整理事業にともない千葉県文化財センター（種田斉吾）調査。

人形塚1号墳　　千葉市椎名崎町（326）

村田川によって形成される沖積平野を望む台地上。土地区画整理事業に伴う記録保存。人物埴輪がみられ現状保存、前方後円墳。人形塚2号墳は1号墳に近接して所在、現状保存。

孤塚1号墳

円墳、盗掘により主体部不明。ガラス玉、直刀、刀子が出土。

孤塚2号墳は円墳、土壙、直刀、刀子、鉄鏃が出土。

昭和51年　千葉県文化財センター（中村恵次、栗本佳弘）調査。

六通古墳群１号墳　　千葉市大金沢（326）

村田川の小支谷に北面する台地上。直径29mの円墳。埋葬施設は横穴式石室及土壙。周堀あり。石室内より直刀２、鉄鏃、人骨、金環２、メノウ玉１、切子玉１、丸玉３、臼玉（３）、棗玉１、金銅製玉４、須恵器、土師器、羨道内より直刀１、鉄鏃、土壙内より直刀１、鉄鏃、須恵器、土師器が出土。

２号墳

一辺18mの方墳。周堀あり。埋葬施設は横穴式石室、人骨、須恵器出土。

昭和51年、土地区画整理事業にともない、千葉県文化財センター（豊田佳伸）調査。

城の腰遺跡（大宮第一遺跡）　　千葉市大宮町（332）

都川に望む舌状台地上。標高23m。周溝状遺溝８、主体部１を検出。

昭和51年、道路建設に伴ない、千葉県文化財センター（野村孝希他）調査。

小金沢三山古墳群（小金沢１号墳）　　千葉市小金沢（326）

村田川の小支谷に東面する台地上。径26mの円墳、墳丘の大部分は失なわれていた。埋葬施設は横穴式石室が２基並列している。

刀子、耳環、ガラス玉、棗玉、メノウ丸玉、須恵器が出土。６世紀後半と推定。

昭和51年、土地区画整理事業にともない、千葉県文化財センター（田坂浩）調査。

北生実所在古墳　　千葉市北生実（17）

直径約10m（約５間）、高さ約４尺（約1.3m）。東方中腹より水晶曲玉１、漢式鏡破片３出土。明治42年県立生実学校敷地拡張に伴ない検出。

塚原古墳群（238・280）

中原古墳群の北側台地に所在。前方後円墳２、円墳１。千葉市史記載の人物埴輪は本古墳群中の出土の可能性がある。県立千葉高校保管。

〔18.　習志野〕

鷺沼Ａ号墳　　習志野市鷺沼（137）

東京湾に面する台地上に所在する。中世の鷺沼城内にとりこまれ、墳丘は改変されて土塁として利用されている。周堀のみ調査され、その結果前方部（西南面）の短小な前方後円墳と判

明。幅２～３ｍで、後円部横と前方部前面で途切れる。後円部径18ｍほど。内部施設はボーリング探査によって、くびれ部中央に砂岩を用いた施設（おそらく箱式石棺）のあることが確認されている。周堀内から円筒埴輪の破片多数と形象埴輪（人物、馬）の破片若干が検出された。６世紀後半。

昭和41年、群馬大学（藤岡一雄）調査。

鷺沼Ｂ号墳（137）

鷺沼Ａ号墳のすぐ南側に所在する。後世の城によって破壊されていたが、周堀の調査によって前方部の短い前方後円墳と推定される。Ａ号墳同様前方部は西南に面する。やはり前方部前面には周堀がめぐらない。規模はＡ号墳より若干小さいものだったらしい。周堀内からはほとんど埴輪片の出土がなく、本来墳丘上に樹立されていなかったものと思われる。くびれ部中央に砂岩製の箱式石棺の盗掘痕があり、さらにその東側にも砂岩製の箱式石棺があった。これは内法で長さ1.98ｍ、幅0.80ｍほどで、砂岩の切石を積んでつくられ、床面にも切石を敷く。盗掘されていたが、内部から人骨片、直刀、鍔、刀子、鉄鏃がいずれも破片で出土した。また径17ｍｍほどの土製の臼玉が１個あった。７世紀前半。

昭和41年、群馬大学（藤岡一雄）調査。石棺は習志野市指定文化財として保存。

〔19.　船橋市〕

竹ノ越古墳　　船橋市海神（84）

台地上。大正５年、京成線工事の土取りを近くの貝殻台で行なった際、土偶などとともに形象埴輪、円筒埴輪が出土した。墳形、規模、主体部、副葬品などは全く不明。

船橋市郷土資料館保管。

峯台古墳　　船橋市宮本（84）

台地上に位置する。明治９年、耕作により破壊された際に箱式石棺と考えられる主体部が露出した。墳形、規模、副葬品などについては全く不明。

海神古墳　　船橋市海神（84）

台地上の宅地内に現存する。航空写真により円墳であることが判明。未調査。

夏見大塚遺跡　　船橋市夏見（249）

東京湾岸の沖積地に面する台地端部に所在する。４隅の途切れる方形周溝址１が検出されている。台状部の軸長5.5～6.0ｍほどで、溝幅は中央の最も幅広い部分で１ｍほど。両側の溝中央に、溝底面からの深さ0.1～0.2ｍ、長さ１ｍほどの土壙があった。この土壙覆土上で坩形の

壺が１個出土している。

昭和48年、宅地造成に伴い八幡一郎他調査。後湮滅。

夏見大塚遺跡周溝址　　船橋市夏見

海老川にのぞむ小支丘上に所在。標高約20m、水田との比高差約15m。

１号址

溝の長さ北西で4.6m、南東4.9m、北東5.5m　南西5.4m。四隅の切れる形態。内部施設なし。北西溝の溝底ほぼ中央に、深さ0.1～0.2mの土壙があり、内部より小形壺形土器が出土。

２号址

一辺９mほどの直角にまがる２辺のみを検出。幅0.5～1m、深さ0.2～0.3m。顕著な出土遺物なし。

昭和48年、宅地開発にともない船橋市教育委員会（松浦宥一郎）調査。

〔20.　市川市〕

法皇塚古墳　　市川市国府台（339・346）

東京医科歯科大学構内に所在。江戸川を臨む下総台地の西端に位置する。復元推定で墳丘長54.5m、後円部径27m、同高さ5.7m、前方部幅35m、同高さ5.6mをはかる前方後円墳。後円部のくびれ部附近で石列、墳丘の西側部分では人物・家形などの形象埴輪片と円筒埴輪片が検出された。周堀は未確認。後円部には墳頂下２mの位置に凝灰岩質砂岩を用いた全長7.5mの片袖式横穴式石室が設けられていたが天井部は全く遺存していなかった。玄室内からは、ガラス製棗玉２、管玉９、丸玉296、銀製中空丸玉４、銅剣２、金環１、帯状金具２、太刀２、鉄製銀象嵌鍔１、刀子９、鉄鏃90　衝角付冑１、桂甲１、轡２、鞍１、雲珠３、辻金具３、鐙１、鉸具２、半珠形飾金具67、などが出土した。６世紀前葉に比定される石室構造と中葉以降と考えられる副葬品セットとの矛盾は追葬による時間差であると推定された。

昭和44年、明治大学（小林三郎）調査。調査後保存。遺物は市立市川博物館保管。

弘法寺古墳　　市川市真間（339）

弘法寺境内に所在。須和田丘陵の最西端に位置する。復元推定で墳丘長43m、後円部径20m、同高さ３m、前方部幅15m、同高さ３mをはかる前方後円墳。測量の結果から６世紀後半の造営と推定された。

昭和45年、市川市教育委員会が墳形のみ測量調査。調査後保存。

真間山古墳　　市川市真間（339）

真間山に所在。弘法寺古墳からは東へ200mの地点に位置する。未調査のため内容は不明で

ある。現状では、直径20m、現高2.5mの円墳と考えられる。

太鼓塚古墳　　市川市須和田（339）

須和田丘陵のほぼ中央に占地する。昭和18年、忠霊堂建設のため削平。一辺約24m、高さ5mをはかる二段築成の方墳。墳頂下1.3m の位置から鉄製小刀1を検出。木棺直葬と考えられる。7世紀前半の築造と推定。

明戸古墳　　市川市国府台（339）

里見公園内に所在。江戸川沿いを南北に走る丘陵の南端に位置する。地形が著しく変形を受けているため墳形、規模などは全く不明。2個の凝灰岩製の箱式石棺が露出しているのみで副葬品の内容も不明。6世紀後半の造営と考えられている。

昭和37年、明治大学調査。石棺は市川市指定の文化財として保存。

〔21.　松戸市〕

小金1号墳（愛宕塚）　　松戸市小金（97）

江戸川の東岸台地上に所在する。径23m、高さ3.5m の円墳状を呈すが、古く鉄道工事や宅地によって墳裾まで削られており、本来の墳形は不明。工事の際円筒埴輪多数と形象埴輪1片が採集された。円筒埴輪には×印や横一線の刻文をもつものが多い。いわゆる下総型円筒埴輪とは異系統の埴輪であるとされる。

昭和35年、松戸市史編纂委員会により実測調査。

栗山古墳　　松戸市栗山（97）

江戸川下流東岸の台地上に所在し、松戸市域の最南端に位置する。南約1km に市川市法皇塚がある。古くは数基の古墳があったらしく、周囲には広く円筒埴輪の散布が見られたという。径15m、高1.5m程の円墳状を呈する。かつて形象埴輪（人物5、馬2、太刀1）が出土したといわれ、その一部が現存している。

未調査。

河原塚古墳　　松戸市河原塚（88・171）

市川市須和田付近からつづくいわゆる国分谷の最奥に所在する。貝塚上に築かれ、封土中に多量の貝を含み、表面は純貝層でおおわれる。径25m、高さ4mの円墳で、幅5m程の浅い周堀がめぐる。内部施設は2か所あり、1は墳頂部より北側2.8m の位置にある。両端に粘土塊をあてたもので、その間の長さ2.3m 程、鉄釘が出土したので箱形木棺が収められたものと推定されている。人骨が良く遺存し、頭を東にした伸展葬で、ガラス小玉10、鉄剣1、直刀1、

鹿角製刀装具１、鹿角装刀子２、鉄鏃９、鉄釘１を伴う。２は墳丘南側斜面にあるが残りが悪く構造は不明。少量の人骨と、鉄剣片１、直刀片１、鉄製打ちグワ１、須恵器片２が周囲から出土した。この他、墳裾部で石製模造品４（刀子３、紡錘車１）が出土している。５世紀後半。

遺物は国学院大学保管。古墳は松戸市指定文化財として保存。

竹ヶ花古墳　　松戸市竹ヶ花（112・132）

江戸川の東岸台地上に所在する。自然地形と相まって前方後円墳に似たプランを示すが、調査の結果径22～25m、高さ2.5m程の円墳と判明。墳頂部下に、２～2.5m四方程の範囲に粘土、混礫粘土、厚さ0.4～0.5mの大石２個等が検出され、これは箱式石棺が盗掘により破壊された痕跡と推定される。直刀片３、鉄鏃片１、責金具１が出土。６世紀中葉以降の所産と思われるが、決め手に欠ける。

昭和36年、東京教育大学（岩崎卓也）調査。採土工事に先立ち調査、後湮滅。

稔台富山遺跡周溝址　　松戸市稔台（170）

通称国分谷の最奥部の台地に所在。東・西溝は耕作によって破壊されていた。北溝幅約1.2m、深さ0.25～0.35m。南溝幅0.9～1.3m、深さ0.2m。台状部は東西約９m、南北約5.5m。南溝に接して南北長2.3m、幅1.2mの土壙を検出。内部より骨粉が出土。内部施設と思われる。土壙内のピット及び周溝内からほぼ完形の土器が出土。周溝内には火を受けた部分も存在し、周溝内出土土器もこの部分からの出土であり、なんらかの儀礼が行なわれたと推測されている。

昭和42年、耕作にともなう土器の出土によって発見、関根孝夫、木下正史調査。

〔22.　流山市〕

新川村古墳群　　流山市東深井（44）

１号墳は径12m、高さ1.5mの円墳で、円筒埴輪列をもつ。人物埴輪破片も採集された。内部施設は未検出。２、３号墳は１号墳と「同様でやや大形」、高さ２m程の円墳とされる。２号墳は二重の円筒埴輪列をもち、形象埴輪（馬、人物）をもつ。内部施設は未検出。３号墳は木棺直葬の施設をもち、直刀片１、ガラス小玉１を出土。埴輪の有無については記載がない。４号墳は径12m、高さ３mで、埴輪の散布が見られたのみという。

古い時期の調査であり周堀はすべて未確認、また内部施設の認められなかったものは、木棺直葬施設を見のがしたか、構築位置が墳丘裾にあったのかどちらかであろう。６世紀後半。

昭和23年、国学院大学（樋口清之他）調査。

初石古墳群（38）

江戸川の東岸台地上に所在する。円墳数基からなる小規模古墳群で、4基が調査された。1号墳は径16m、高さ1.5mで、円筒、形象（馬）埴輪の破片を検出。2号墳以下は墳丘規模の報告なし。2号墳は円筒と人物埴輪破片が出土、3号墳は顕著な遺物を伴わない。4号墳では直刀片を検出したが施設の実態は不詳。また円筒埴輪列を伴い、二重に廻る可能性が指摘された。古い時期の調査のため周堀は未確認、内部施設も未検出だが、木棺直葬施設を見のがしたか墳丘裾に構築されていたためかどちらかであろう。

昭和23年、国学院大学（下津谷達男）調査。

東深井古墳群　　流山市東深井（43・117・138・156）

江戸川と利根川にはさまれた三角地帯の、江戸川に面する台地上に所在する。小規模な古墳40基などからなる。3次にわたり調査され、1～6号墳は昭和24年国学院大学（下津谷達男）調査。7、8号墳は昭和37年送電線工事に伴い、9～12号墳は昭和42年宅地造成に伴い、いずれも下津谷達男調査。7～12号は調査後湮滅。

1号墳

径21～22m、高さ2.5mの円墳で、中腹に段がある。この段上と裾部に2列の円筒埴輪列がある。内部施設は未確認。6世紀後半以降の所産であろう。

2号墳

径10～11m、高さ0.60mの円墳。埴輪はない。墳丘の南西部に、軟砂岩切石積みの横穴式石室を設ける。盗掘されていたが、直刀片1、鹿角装刀子片1、ガラス玉44を検出。6世紀後半以後の所産であろう。

3号墳

径13m、高さ1mほどの円墳。墳丘の南西部に軟砂岩切石積みの横穴式石室をもつ。玄室の長さ2m、羨道1.10m。盗掘をうけているらしく、鉄鏃と直刀片が若干出土したにすぎない。円筒埴輪列が一周していたらしい。形象埴輪の破片（さしば）も1点出土している。6世紀後半以後の所産であろう。

4号墳

径12～13m、高さ0.80mほどの円墳。墳丘の南西裾部に、軟砂岩切石を用いた施設の存在は確認されたが、破壊が甚しく構造は不明。埴輪、副葬品ともなし。

5号墳

径22～23m、高さ1.40mほどの円墳。内部施設未確認。墳頂部をかこんで円筒埴輪列がめぐるほか、墳丘の北側で形象埴輪（馬）の破片が多量に出土。円筒、形象ともに赤彩されたものが含まれているのは注目される。

6号墳

径19～21m、高さ3mほどの円墳。墳頂部表土直下で直刀1が出土しており、木棺が直葬さ

れたものと思われる。埴輪なし。

7号墳

径13～14m、高さ1.40mほどの円墳。幅2mほどの周堀がめぐる。内部施設は未確認。墳裾に円筒埴輪列が一周する。中段にも一列あった可能性もあるがはっきりしない。墳丘の南側に円筒埴輪列のすぐ内外に形象埴輪数個の列があった。円筒は44本以上確認。形象は、人物1、鶏1、魚1である。

8号墳

径11m、高さ1mの円墳。幅2mの周堀がめぐる。墳頂下60mほどの封土中で刀子片1が検出されたので、木棺が直葬されていたものと思われる。

9号墳

前方部の短小な前方後円墳で、墳丘長21m、径円部径13.5m、高さ1.5m、前方部幅5mをはかる。幅2mほどの周堀がめぐるが、前方部前端では幅せまく、浅くなる。円筒埴輪列が一周していたらしいが、盗掘が著しく配列の詳細は不明。前方部に形象埴輪（人物、馬）があった。内部施設は未確認。

10号墳

径14m、高さ1.30mほどの円墳。幅2.50～3.50mの、幅の一定しない周堀がめぐる。埴輪はなく、内部施設も未確認。

11号墳

径16.5m、高さ1.60mほどの円墳。幅2mほどの周堀は、両側で途切れて陸橋を形づくる。埴輪をもつが、乱掘のため詳細は不明。墳頂下約0.30mで鉄鏃、刀子が出土しているので、木棺が直葬されたものと推定される。

12号墳

径16m、高さ1.50mほどの円墳。幅3mほどの周堀がめぐる。埴輪をもつが、乱掘が甚しく詳細不明。内部施設は未確認。

東深井遺跡周溝址　　流山市東深井（190）

利根川に流れ込む小支谷によって形成された小支丘上に所在。標高約15m。

1号址

東西溝長8m、南北溝長7.7m。幅0.7～1.3m。溝底は平坦。溝の内側はほぼ直線を呈すが、外側は若干張出す形態を示す。北溝中央部にはブリッジ状の部分を有し、その両側に長方形のピットがある。内部施設なし。

1号周溝址

西側を破壊されている。径12mほどの円形。溝幅1.4m、深さ0.5m。溝底はU字形を呈す。

2号周溝址

破壊が著しく、形状不明。幅約5.4m、深さ約0.9mの溝内からは、円筒埴輪片が多数出土した。古墳の周堀址と推定される。

昭和42年、宅地造成にともない流山市教育委員会（下津谷達男、伊藤和彦他）調査。

〔23.　野田市〕

堤台遺跡　　野田市堤台（128）

江戸川に面する台地端部に所在する。調査時には墳丘のまったく認められなかった方形周溝遺構である。周溝の南半分のみ発掘。台状部一辺８mほどで、周溝は幅2.5～３m、深さ0.4～0.6mをはかる。溝内より供献土器７個体を検出。うちわけは壺６、高杯１で、壺５個は焼成後の底部穿孔が施されている。なお溝底に長さ1.7m、幅0.5mほどの長円形のピットがあったが、性格は不明である。

昭和36年、下津谷達男調査。

〔25.　柏　市〕

天神台古墳群　　柏市柏（43）

手賀沼の最西端の西岸台地上に所在する。円墳８基よりなり、いずれも後世の攪乱が甚しい。３基が発掘され、うち２号墳で直刀片１、円筒埴輪片が検出されたのみ。２号墳は径16.5m、高さ0.7mと群中最大、他は径９m内外であったという。

昭和25年、国学院大学（古宮隆信他）調査。

戸張城山遺跡周溝址　　柏市戸張城山台（49・237）

大津川とその支流によって形成された舌状台地上に所在。標高20.7m、水田との比高差約17m。この台地上には、昭和26年調査の「戸張遺跡」、昭和41年調査の「山田台遺跡」、昭和48年調査の「戸張遺跡第３次調査」等の遺跡がある。

昭和26年調査

昭和25年抜根作業中に発見され、26年に古宮隆信によって調査。方形周溝墓と推定される溝のコーナーを確認した。台状部より合口甕棺が発掘された。（昭和52年調査の項参照）。

昭和41～42年調査

山田台遺跡と呼ばれる。弥生時代後期に属すと推定される方形周溝墓を１基検出した。

昭和52年、体育館建設にともない、古宮隆信調査。

１号址

西、南辺の約２分の１のみ調査。南溝は溝幅0.8～1.3m、深さ約0.4～0.5m。西溝は最大溝幅1.8mの部分がある。深さも最大約1.2mを越す部分がある。溝は底及び壁共にかなり硬くロームが固められているという。内部施設らしきものは検出できなかった。周溝内から「前野町

式土器」の出土がみられた。

2号址

長径13m、短径11mのほぼ長方形。溝幅は1.4～1.6m、深さは0.3～0.7m。南側溝中央部で底及び壁の一部に灰白色の粘土が張り付けられていた。台状部東南隅に、長軸2.1m、短径1.4m、深さ0.2mの土壙がある。第一次調査で合口甕棺の出土した位置とされる。台状部北隅は深さ0.1mほどの落ち込みと柱穴群があった。調査者は殯のため等の祭祀的施設の可能性をのべている。

3号址

長径10.8m、短径10m、溝幅0.5～1.4m、深さ0.1～0.4m。北側溝の中央部にブリッジを有し、又東南隅が切れる形態を呈す。東溝の切れる部分に土壙がみられる。台状部の北西部分に土壙1か所を確認したが攪乱が著しく不明確。一応内部施設の可能性がある。

〔26.　我孫子市〕

日立精機1号墳　　我孫子市我孫子（122・157）

手賀沼の北岸台地上の奥まった位置にあり、利根川側から侵入した支谷に面する。西面する前方後円墳で、墳丘長45m、後円部径22m、高さ2.5m、前方部幅23m、高さ2mをはかる。幅2～3mの周堀をもつ。くびれ部中央に、南に開口する横穴式石室がある。玄室は長さ2.40m、幅1.44m、高さ2.15mの長方形で、両袖式軟砂岩の切石積み。玄門外は側壁が崩され、切石が両脇に散乱した状態で、羨道の構造、あるいは複室であったか等不明である。前庭部前の周堀内にも軟砂岩ブロックの集積が2か所あった。後円部墳頂で須恵器大甕の口縁部破片が出土、石室内では盗掘のため遺物は皆無。報告書は7世紀後半に比定。この古墳は前方後方墳のうたがいがあるが、周堀調査が不充分なため断定できない。

昭和36年、東京大学（藤本強他）調査。

日立精機2号墳　　我孫子市我孫子（157・162）

手賀沼の北岸台地上の奥まった位置にあり、我孫子4小古墳の100m北にあたる。西面する前方後円墳で、墳丘長30m、後円部径18m、高さ2.5m、前方部幅21m、高さ2.8mをはかる。幅4～5mの墳丘相似式周堀をめぐらす。くびれ部中央に南に開口する横穴式石室を設ける。軟砂岩の切石積みで、玄室は長さ2.25m、幅1.60m、高さ2m強の長方形プラン、両袖である。羨道は切石一個分の長さしかない短いもので、長さ0.9m、幅1.35mをはかる。石室内は盗掘され、出土遺物は皆無。石室の前方土中より須恵器片が若干出土している。報告書は7世紀初頭に比定。

昭和40年、東京大学（田中義昭他）調査。

我孫子第４小学校古墳　　我孫子市我孫子（157）

手賀沼北岸台地上のかなり奥部に所在する。長径25m、短径10m程の長円形の墳丘が遺存する。前方後円墳の崩れたものと思われるが、周堀もはっきりせず、本来の墳形はつかめない。長軸はほぼ東西を向く。くびれ部にあたる部分に南に開口する横穴式石室がある。軟砂岩製で、両袖の複室構造をとる。後室は長さ2.30×幅1.85×高さ1.85m、前室は1.90×1.70×1.85mの長方形。羨道は攪乱により側壁をもち去られており詳細不明。石室内の盗掘が著しく、金銅製耳環１対が出土したのみ。前庭部にあたる部位に須恵器杯蓋１があった。報告書は７世紀中葉に比定。

昭和36年、東京大学（藤本強他）調査。

白山１号墳　　我孫子市白山（86・102・157）

手賀沼の北岸台地上の南縁に所在し、計13基からなる白山古墳群中の１基である。径25mほどの円墳、周堀ははっきりしない。埴輪なし。南に開口する横穴式石室は、若干ローム層を掘りくぼめた中に構築されている。長さ4.80m、幅1.10mほどの長方形の玄室は、中央で仕切り石によって前後２室に分けられる特異な構造を示す。後室は長さ2.10m、前室は2.60mほど。両袖。羨道は退化し、玄門の外に長さ0.5mほどの石積みがつづくにすぎない。前後室から多量の遺物が出土した。後室では、直刀８、鍔２、鞘尻金具２、刀子４、鉄鏃片90以上、瑪瑙勾玉６、ガラス勾玉１、水晶切子玉１、土製臼玉16、ガラス丸玉23、小玉70が出土。前室では、直刀１、鍔１、刀子２、鉄鏃（破片とも）169、銅鋺１、金環１、水晶勾玉７、同切子玉８、ガラス丸玉６、小玉12が出土した。後室には成人の男２、女２、小児１、前室には成人女１を含む数体分の人骨があった。石室前面で５個体分の須恵器破片が、他の墳裾で土師器の椀と杯が各１出土した。報告書では７世紀前半ないし中葉に比定。銅鋺の出土した点が特記される古墳である。

昭和33年、東京大学（吉田章一郎他）調査。

白山２号墳（86・102・157）

我孫子市白山古墳群中の１基。墳丘をまったく遺存せず、畑地の表土下に横穴式石室が検出された。周堀は未確認。埴輪の散布なし。石室は軟砂岩の切石を用い、内法2.50×1.50mの長方形を呈す。両袖。羨道はなく、玄門外に短い石積みがつくだけで、白山１号墳に似た構造を示す。盗掘が甚しく、玄室内からは直刀１、耳璫形銅製品と報告されたもの２が出土したにすぎない。報告書では田中義昭が７世紀中葉、甘粕健が７世紀末と、異った見解を併載している。

昭和33年、東京大学（田中義昭他）調査。

高野山１号墳　　我孫子市高野山（102・157）

手賀沼の北岸台地上に所在する高野山古墳群（９基）中の１基。北西面する前方後円墳で、墳丘長35.5m、後円部径21.5m、前方部幅33m、高さは前後とも２mほどをはかる。墳裾に円筒埴輪列が１周めぐる。形象埴輪（人物、馬、盾など）も検出され、これらは墳丘上に置かれていたものと推定されている。周堀ははっきりしない。後円部裾部に２基、くびれ部裾部の両側に各１基、計４基の内部施設があった。いずれも箱式石棺で、ローム層を掘りこんで構築されている。１は軟砂岩を用い、内法で1.7×0.6m、深さ0.65m、刀子１、鉄鏃片５、管玉７、ガラス小玉14が出土した。２も軟砂岩で、1.85×0.60×0.50m。鉄鏃片３が出土したにすぎない。３は雲母片岩を用い、1.90×0.50×0.40mをはかる。成人男女と幼児の３体分の人骨の他、直刀３、刀子３、鉄鏃17以上、ガラス玉22が出土した。４は雲母片岩の割石を小口積みにしたもので、報告者は竪穴式石室としているが、機能的にはやはり石棺とすべきであろう。1.40×1.00×1.00mをはかる。７体分ほどの人骨片と、鉄鏃12点ほどが出土したが、古く盗掘をうけているらしい。報告書では６世紀中葉の所産と考えている。

昭和33年、東京大学（吉田章一郎他）調査。

高野山２号墳（102・157）

我孫子市高野山古墳群中の１基。東西15m、南北20mほどの卵形の墳形を示す。周堀調査が充分でなく墳形がはっきりしないが、前方部の短小な前方後円墳だったものとみてほぼ間違いない。墳丘中段に円筒埴輪列がめぐる。内部施設はくびれ部中央、主軸に直交する箱式石棺で、雲母片岩を用いる。内法は1.60×0.60×0.80m。成人２体、小児１体分の人骨が出土したほか、直刀１、刀子２、鉄鏃７、鹿角製刀子柄１があった。朝顔形埴輪と人物埴輪の一部も検出されている。報告書では６世紀後半に比定している。

昭和34年、東京大学（吉田章一郎他）調査。

高野山３号墳（102・157）

我孫子市高野山古墳群中の１基。封土はほとんど失なわれていたが、墳裾部の円筒埴輪列の基部が15個円形にめぐるのが確認され、径16～17m（埴輪列の径は13m）の円墳と推定された。周堀はない。ほぼ南西に開口する横穴式石室は軟砂岩製、玄室長2.60m、羨道は１mと報告されているが、実測図がなく詳細は不明。盗掘のため鉄鏃片若干が検出されたのみ。報告書によれば６世紀末の所産という。

昭和34年、東京大学（吉田章一郎他）調査。

高野山４号墳（102・157）

我孫子市高野山古墳群中の１基。前方部の短小な前方後円墳で、墳丘長約20m、後円部径21m、前方部幅13mをはかる。前方部はほぼ北面する。墳裾に円筒埴輪列がめぐり、ほぼ１周し

ていたらしい。周堀もめぐるが明確なプランはとらえられていない。内部施設はくびれ部中央に、主軸に直交する方向に箱式石棺が設けられている。内法2.05×0.55×0.60m、絹雲母片岩を用いる。人骨片のほか歯55本が出土し、成人4、幼児1の埋葬が確認された。直刀3、刀子2、鉄鏃片9。人物埴輪の台7基と腕、天冠部分の破片等も出土したが、朝顔形埴輪はなかった。報告書は6世紀後半に比定。

昭和37年、東京大学（尾形禎亮他）調査。

子の神8号墳　　我孫子市寿2丁目（157）

未調査。子の神古墳群中の1基。かつて人物埴輪（巫女）が出土している。

子の神10号墳　　我孫子市寿2丁目（157）

手賀沼の北岸台地上に存在する前方後円墳1、円墳13基からなる子の神古墳群中の1基。径19m、高さ3mの円墳。幅3.5m程の周堀がめぐるが、崖面にのぞむ南側では外側の立ちあがりが認められない。埴輪片が若干検出されたが、本来伴っていたものではないらしい。墳頂部に、ほぼ東西に主軸をとる土壙が2基あり、いずれも2段に鑿たれている。1は、内側の土壙（木棺の大きさを示す）の長さ2.6m。直刀3、鉄鏃約25が出土。2も長さ2.6mで、東端に粘土塊があった。副葬品はごく少量の赤色料のみ。報告書では6世紀前半の所産と推定しているが、副葬品に決め手を欠いておりなんとも言い難い。

昭和42年、東京大学（藤本強他）調査。

金塚古墳　　我孫子市根戸（157）

手賀沼の西端近くの台地南縁に所在する。径20m、高さ2m程の円墳で、周堀をもつ。墳頂部の内部施設を円形に囲繞する円筒埴輪列がある。内部施設の構造はまったく不明だが木棺直葬と推定される。後世の攪乱をうけているらしく、出土遺物の配置は不規則である。面径8.15mの勾玉文鏡1、横矧板鋲留短甲1、石枕1、立花1が出土したほか、墳頂部表土直下で須恵器大形甕が破砕して出土し、かなり良く復元されている。墳裾からは完形の土師器椀が出土している。埴輪の総数は60本で、このうち6本が朝顔形、残りはすべて円筒埴輪である。5世紀末葉に比定されよう。

昭和38年、東京大学（甘粕健他）調査。

水神山古墳　　我孫子市高野山（157）

手賀沼に面する台地の南縁に所在する。東面する前方後円墳で、墳丘長63m、後円部径32m、高さ5m、前方部幅28m、高さ2.5mを計る。周堀は幅6.5mほどで、墳丘の北半のみ囲繞（南半は斜面となるので外側の立ち上がりがない）。埴輪、葺石なし。後円部中心に、主軸上に長

さ5.1mの割竹形木棺と推定される内部設施かあり、内部がら刀子2、針数本、ガラス管玉1、滑石製管玉1、ガラス小玉280が出土。前方部で和泉式の壺か甕の胴部破片が出土しており、報告者は供献土器とみなしている。決め手に欠けるが5世紀中葉頃に比定されよう。

昭和40年東京大学（甘粕健他）調査。

中峠古墳群　　我孫子市中峠（230）

古利根川に南接する台地奥部に所在する。中世の中峠城内にとりこまれ、付近はまったくの平坦地であったが、表土下から横穴式石室3、箱式石棺3が検出され古墳の存在が判明した。ただし1基をのぞいては周堀も伴わず、元来墳丘を備えていたかどうか不明である。

1号石室（ローム層を掘りこんだ）は6.9×4.1mほどの長円形の土壙内に設けられた、軟砂岩切石積みの横穴式石室で、南東に開口する。玄室は3.4×1.5mほどの両袖式で、玄門外に切石を1個置くだけの羨道がまったく簡略化されたものである。須恵器破片1点が出土したのみ。石室の背後に幅1～1.5mほどの周堀が弧状にめぐる。

2号石室も5.4×3.7mの土壙内に営まれ、材質、構造、方向とも同じ。玄室は2.6×1.5m。遺物は皆無。

3号石室も同じく4.3×3.2mの土壙内にあり、玄室は2.2×1.3m。遺物皆無。

4号以下の石棺は基底部がわずかに残るにすぎないので、土壙の様相はつかめていない。すべて軟砂岩切石積みの箱式石棺で、主軸をほぼ南北方向にとる。4号は内法で1.7×0.6mをはかる。管玉1、琥珀製棗玉、ガラス丸玉2が床面上で出土。

5号石棺は内法で2.0×0.6mをはかる。須恵器長頸瓶の破片が1点出土。

6号石棺は内法で1.9×0.6mをはかり、遺物皆無。

羨道のまったく退化した横穴式石室の形態からみて、7世紀後半の所産と推定される。

昭和48年、宅地造成に伴い篠丸頼彦、渋谷興平調査。後湮滅。

子の神古墳　　我孫子市寿2丁目（19）

子の神古墳群中の1基。径18m、高さ2m程の円墳。内部施設、周堀は未検出。墳裾に埴輪列がめぐり、北半部では0.6m間隔に樹立された円筒埴輪列がよく遺存していたという。南西部には形象埴輪（人物2、馬2）があった。

明治45年、土取りによる破壊に立合って柴田常恵調査。

〔27.　沼南町〕

天神塚古墳　　東葛飾郡沼南町岩井（80）

手賀沼西半部の南岸台地上に所在する。周囲には円墳数十基があり古墳群を形成する。径26m、高さ1.4mの円墳と見られたが、周堀が未調査のため本来の形状は不明。西側墳裾にあた

る部位に横穴式石室を検出。砂岩の截石積みで、全長3.7m、玄室2.25m、幅1.73m、羨道長1.45mをはかる。玄室、羨道とも床面に板石をを敷く。直刀片1、鉄鏃1塊、刀子片、瑪瑙勾玉1、水晶切子玉3、ガラス小玉10数個、銅環2、鉄製鉸具2、人骨3体分を検出。

昭和29年、国学院大学（樋口清之）調査。

船戸古墳群1号墳　　東葛飾郡沼南町大井（43）

手賀沼の西北端部の南側台地上に所在する。大小35基程が群在し、前方後円墳を含む。

1号墳は畑地内にあり原形を損じていた。径15～18m、高さ1m程の円墳と計測されたが、周堀が未調査であり本来の墳形は不明。埴輪はもたない。単室の横穴式石室をもち、玄室は長さ2.25m、奥壁幅1.4mをはかる。羨道は幅0.8m、長さは不詳。石材は貝殻を含む砂岩の截石を用いる。盗掘をうけており、古く直刀2、刀子1、鉄鏃1塊が出土したとされ、調査時には直刀片1、刀子片1、鉄鏃片16が出土したにすぎない。6世紀後半。

昭和25年、国学院大学（古宮隆信他）調査。

船戸古墳群2号墳　　東葛飾郡沼南町大井（43）

1号墳の南50mにある円墳で径20～22m、高さ0.8mをはかるが、耕作によって削平されており、本来の形状は不明。埴輪はない。南西に開口する横穴式石室をもつ。単室構造をとるが記述に混乱があり、平面形、規模等判然としない。砂岩の截石を用い、截石は床面にも敷かれる。盗掘にあい、石室自体も損壊をうける。直刀1と鉄鏃、須恵器の破片が出土したのみ。

昭和25年、国学院大学（古宮隆信他）調査。

北作1号墳　　東葛飾郡沼南町片山（101）

径17m、高さ約2mの円墳とされる。墳頂下で長さ3.6m、幅1.1m（内法で長さ2.6m、幅0.75mほど）の粘土槨を検出、内部から直刀1、鉄剣1、銅鏃1、鉄鏃3、短冊形鉄斧2、鉋1という副葬品が出土したほか、供献土器16個体が検出された。すべて土師器で、壺6、高杯3、器台3、小形坩4の構成であった。4世紀後半。

昭和34年、早稲田大学（市毛勲他）調査。現存。遺物は、早稲田大学考古学研究室保管。

北作2号墳

北作1号墳の南西20mに所在する前方後円墳で、墳丘長30m、後円部径15m、前方部幅5mをはかる。後円部墳頂下に、主軸に直交する粘土槨2基があった。1号主体は内法長5.5m、幅0.7m、内部から管玉2が出土。2号主体は内法長1.3m、幅0.5mほどと小さく、管玉1を出土。土器の出土は少なく、異形高杯の破片が目立つ程度。北作1号墳とほぼ同時期の所産と目される。

昭和34年、早稲田大学（市毛勲他）調査。

〔29.　白井町〕

真木ノ内古墳群　　印旛郡白井町平塚（188・209）

手賀沼の南端部に北面する台地上に所在する。10基足らずの小規模な古墳群で、３基が調査された。いずれも地ぶくれ程度の小墳丘で、周堀は未検出。１、２号とも内部施設は盗掘によって破壊されていたが、軟砂岩製の箱式石棺だったものと推定される。３号も箱式石棺で、これはよく遺存し、内法で長さ1.3m、幅は一端で0.44m、他端で0.18mという、細長い矩形を呈す。出土遺物は、１号墳に直刀片１、石製丸玉２、須恵器（横瓶１、提瓶１、短頸壺１、土師器杯１）が、２号墳に金環１、土師器（甕１、杯２）が、３号墳に土師器（杯１）が残されていた。土師器はすべて鬼高式に比定される。

昭和46年、土取り工事に先立ち熊野正也他調査。後湮滅。

海老内台古墳　　印旛郡白井町平塚（133）

手賀沼西南端を北に見る台地上に所在する。調査の端緒となった土取り工事によってすでに封土を失い、箱式石棺が露出していた。当初の墳形、周堀の存否不明。石棺は、ローム層を掘り込んだ2.40×2.10mの方形の土壙内にある。砂岩の切石を用い、側壁で３枚、小口部は１枚の板石を立てて構成する。内法で長さ1.70m、幅は両端で0.70mと0.60m。床面にも板石を敷く。老年男性と幼児の２体分の人骨と、直刀１、鍔１、刀子片２、鉄鏃片13が出土。６世紀後半以降の所産であろう。

昭和40年、下総考古学会（高橋良治他）調査。調査後湮滅。

平塚船戸古墳　　印旛郡白井町平塚（177）

手賀沼の南西端部を北に見る台地上に所在する。土取りによって、内部施設付近をのぞいてカットされた後に調査されたため、墳丘のプラン等は不明。砂岩の切石を使用した箱式石棺は、墳丘裾に設けられていたらしく、ローム層を掘りこんだ土壙内にあった。内法で長さ1.95m、幅0.85～0.90m、深さ0.60mをはかる。直刀片２、鍔１、鉄鏃片16、釘（？）１が出土。決め手に欠けるが、６世紀後半以後の所産であろう。

昭和46年、茂木雅博調査。調査後湮滅。

復山谷遺跡周溝址　　印旛郡白井町復山谷（331）

印旛沼から流れ出る新川の支流神崎川によって形成された支丘上に所在。標高約20m、水田との比高差約10m。西側の約３分の１を削平されていた。一辺約9.5mの隅丸方形。溝幅1.3～1.8m。深さ約0.55m。北溝に接して1.0×2.5mの土壙を検出。深さは約0.3m。周溝中から弥生時代終末期の東海系土器を出土。

昭和51～52年、千葉ニュータウン計画にともない、千葉県文化財センター（種田斉吾）調査。

〔30.　印西町〕

下総鶴塚古墳　　印旛郡印西町小林（215）

利根川の沖積平野を北に見る台地端に所在する。径44m、高さ３mの円墳。裾部に特殊な埴輪があり、約10個体を確認。墳頂部に木棺直葬の土壙３基と五領式土器を利用した壺棺１があった。土壙の規模等は判然としない。第１土壙の副葬品は鉄剣１、直刀１、ガラス小玉７、第２は鉄鉾２、同破片１、直刀片２、刀子片１、鉄鏃片３、砥石１、同破片２、ガラス玉10、滑石製小玉30、第３は滑石製小玉140、直刀１、鉄鏃７、砥石片１。壺棺からは滑石製小玉11が出土した。埴輪は円筒と朝顔形に類するものの２種がある。報告者は５世紀前半も中葉に近い時期と考えているが、もうすこし古く見て良いかもしれない。

昭和46、47年、市毛勲他調査。採土工事に伴う調査で、後湮滅。

上宿古墳　　印旛郡印西町大森（242）

利根川にのぞむ台地上に所在する。すでに横穴式石室が開口しており、石室の上に若干の封土が遺存するのみで、墳形は不明。周堀は未確認。石室は単室の両袖式で、玄室は長さ2.90m、幅は奥壁で2.50m、玄門際で1.39mと細長い台形プランをもつ。側壁は砂岩切石を８段、持ち送りに積み上げ、高さ2.20m、奥壁は大きな切石２枚からなる。羨道は長さ２m、幅1.40m。側壁石は基部が残るだけで、ほとんど持ち去られていた。玄室の清掃で、人骨片、須恵器小片、鉄器片が出土。６世紀後半以後の所産であろう。本古墳で用いる石材は貝殻を含んだ成田砂層下部の砂岩で、竜角寺古墳群中の岩屋古墳の石室に用いられたものと同じものである。

昭和47年、高木博彦他調査。印西町指定文化財。

小林１号墳　　印旛郡印西町小林（263）

利根川の沖積平野を北に見る台地端に所在する。下総鶴塚の同一台地上の西南方に位置する。下総鶴塚をふくめ計６基ほどの円墳で小林古墳群を形成する。１号墳は径16m、高さ2.5mほどの円墳。幅１～1.5mの周堀は西側で途切れ、陸橋をなす。裾部に円筒埴輪列がめぐらされ、陸橋付近には形象埴輪（人物、馬、鶏、猪、牛？）があった。墳頂部表土直下に長さ2.8m、幅１mほどの、木棺を直葬した痕と見られる土壙があり、直刀１、鉄鏃40余、碧玉製管玉11、ガラス小玉５、滑石製棗玉２、硬玉製不整形の玉１が出土した。６世紀後半に比定されよう。

昭和49年、宅地造成に先立ち渋谷興平調査。後湮滅。２、３、４号墳とも同様。

小林２、３、４号墳（263）

小林古墳群に属す。

２号墳は一辺14mほどの方墳と見えるが、後世の改変による可能性もある。高さは3.3m。周堀、埴輪なし。墳頂部に大規模な攪乱壙があり、中から鉄鏃片１、ガラス玉２が出土した。木棺が直葬されたものと思われる。

３号墳は長径13m、短径9.6m、高さ0.6mほどの、長円径を示し、後世の改変が著しい。周堀、埴輪なし。内部施設も未検出。封土の積土状況から見て、古墳だったことは確からしい。

４号墳は径10m、高さ1.8mほどの不整円形を呈す。周堀、埴輪はない。墳頂部のやや南にずれて内部施設があった。長さ2.4m、幅0.8mほどの土壙で、東側小口にうすく粘土が散布していた。内部より鉄鏃片４が出土したのみ。

道作古墳群　　印旛郡印西町小林

利根川南岸台地上に所在する。円墳３基からなり、横穴式石室１基が開口している。

未調査。

〔31.　八千代市〕

村上古墳　　八千代市村上（236）

印旛沼西端に流入する新川の上流東岸台地上に所在する。封土は明治年間に削平されたと伝えられる。幅２～2.5mの周堀が一周する。南北に細長い方墳で、東西辺22m、北辺14m、南辺17mをはかる。南辺中央に開口する横穴式石室が営まれ、前庭部は周堀外にのびる。石室は軟砂岩の切石を用いる。玄室は長さ1.8m、幅1.6m、高さ２mほどの両袖式。羨道は長さ1.75m、幅１mほど。玄室内から人骨片、銅釧２、勾玉３、須恵器破片若干、羨道から直刀２、鉄鏃100以上、勾玉１、須恵器破片が、前庭部から勾玉２、切子玉４、ガラス玉36、鉄鏃６ないし８、遺存度の良い須恵器破片数個が出土した。７世紀前半に比定されよう。

昭和48年、団地造成に先立ち千葉県都市公社文化財調査事務所（天野努）調査。湮滅。

栗谷古墳　　八千代市神野（53）

印旛沼西端に流入する新川の下流、屈曲部の南岸台地上に所在する。神野芝山古墳群の東約500mに位置する。本古墳の西北50mにも箱式石棺が埋没しているという。開墾によりすでに封土を失い開棺済み。寛永通宝が棺内にあったので開棺の時期は古い。緑泥片岩の板石を用いた箱式石棺で、側壁各３、小口各１、床４、蓋３枚で構成。ローム層を掘りこんだ土壙内に設置。変則的古墳であろう。棺内には２体分の人骨、直刀３、鍔３、刀子３、鉄鏃約５、瑪瑙製勾玉１、琥珀製棗玉７、ガラス玉２が遺存していた。６世紀後半以後の所産。

戦時中の開墾に際し再び開棺されたことを聞き、昭和20年大川清調査。昭和47年破壊。

神野芝山２号墳　　八千代市神野（189）

印旛沼西端に流入する新川の下流、屈曲部の南岸台地上に所在する。４基の円墳からなり、東方500mには栗谷古墳がある。１号墳は雲母片岩製の箱式石棺が過去に開かれ、人骨、直刀等があったと伝わる。３号墳は未調査。

２号墳はすでに墳丘を失い、地山を掘り込んだ土壙内に営まれた石棺のみ遺存。周堀の調査で径20mほどの円墳と判明、石棺の位置は南西の裾部にあたる。箱式石棺は雲母片岩を用い、内法の長さ2.4m、幅１m、深さ0.85mをはかる。棺内から人骨約10体、刀子、鉄鏃が計10点ほど、勾玉12、琥珀製棗玉13、管玉１が出土。

昭和47年、農作業中棺蓋が落下し人骨が露呈したため、村田一男緊急調査。後埋めもどして保存。

４号墳

２号墳の北100mほど、新川をのぞむ台地端に所在する。調査を何ら経ずに湮滅したが、大正年間に盗掘が行なわれ、粘土を用いた施設内より鏡、刀等が出土したという伝承がある。近年になって土取りのため完全に破壊されたが、削平された後の土面に石枕のおちているのが確認され、現在県立八千代高校に所蔵されている。おそらく本古墳に伴っていたものと思われる。また埴輪の破片も採集されている。伝聞によれば径50m、高さ５mほどの大円墳だったとされ、事実であればきわめて重要な古墳であったことになる。

根上神社古墳　　八千代市村上

新川上流から東方に派生する小支谷の北岸台地南縁に所在する。八千代市内唯一の前方後円墳とされ、市指定文化財として保存。未調査であり規模等不明。

七百余所神社古墳

新川上流にのぞむ台地西端に所在する。円墳と推定される。八千代市指定文化財として保存。

〔32.　佐倉市〕

星谷津１号墳　　佐倉市岩富（321）

印旛沼に注ぐ鹿島川の上流に面する台地上に所在する。径16m、高さ0.70mほどの円墳。耕作によって削平され、内部施設は流失。木棺が直葬されていたと推定される。埴輪なし。幅５mほどの周堀がめぐるが、西側で途切れ、幅３mの陸橋をなす。また周堀外壁が２ケ所で外側へ張り出す。周堀底付近でかなり遺存度の良い鬼高式土器数個体が出土した他、覆土中より内部施設から流失したと考えられる碧玉製管玉２が検出された。６世紀前半。

昭和50年、千葉県文化財センター（鈴木道之助他）調査。後湮滅。房総風土記の丘資料館保

管。

山崎ひょうたん塚古墳　　佐倉市山崎（288）

印旛沼西南端部に流入する鹿島川河口の東岸台地上に所在する。かなり変形しているが前方後円墳だろう。墳丘長37m、後円部径23m、高さ７mほどをはかる。前方部先端が削られており、全長は40mほどになろう。

昭和50年、市教委により測量調査。佐倉市指定文化財として保存。

飯塚古墳群　　佐倉市飯塚（288）

印旛沼に注ぐ鹿島川の中流にのぞむ台地上に所在する。前方後円墳１、円墳約15からなる。開墾や土取りによってすでに６基が全半壊している。７号墳（径18m、高さ２mほどの円墳）の周堀が確認されたが内部施設や顕著な遺物は未検出。16号墳は昭和30年に宅造のため破壊。その際墳丘裾で箱式石棺２基を検出、うち１基で直刀約13が出土、もう１基は盗掘のため遺物を見ないが、石棺内面に赤色料が塗彩されていたという。この古墳群の成立は６世紀中葉以降であろう。

昭和50年、土取り工事に先立ち７号墳を市教委が調査。

石川１号塚　　佐倉市石川（288）

印旛沼に流入する鹿島川に、河口付近で合する高崎川の西岸台地上に所在する。径21～27mの不整円形で高さは約1.70m。幅の一定しない二重周堀を伴う。墳丘の南東裾部に箱式石棺をもつ。墓壙はローム層を掘りこむ。石棺は片岩系の板石でつくられ、蓋４、側壁各３、小口各１、床石４の計16枚を用いる。５～６体分の人骨があり、うち２体は女性。直刀５、鉄鏃20以上、イタボガキ製の貝釧２が出土。

昭和47年、造成工事に先立ち市教委（海野道義）調査。後湮滅。石棺は根郷公民館に移築。

大篠塚古墳　　佐倉市大篠塚（164）

印旛沼に流入する鹿島川の中流東岸台地上に所在する。調査時に合計７基のマウンドがあったが、６基は近世の塚で、古墳は本古墳１基だけと判明。径15m、高さ２mほどの円墳と見えたが、周堀の探索から前方部の短小な前方後円墳と判明。墳丘長30m、後円部径22m、前方部幅14mで、前方部は西面する。周堀は幅１～2.5mで一周。くびれ部中央に箱式石棺があった。緑泥片岩の板石を用い、内法で長さ1.7m、幅0.75mをはかる。すでに盗掘をうけており、人骨片、直刀片１、刀子片１、鉄鏃片２、銀製の耳環１が検出されたにすぎない。７世紀前半頃か。昭和54年、高速道路建設に伴い村田一男調査。後湮滅。

光勝寺境内古墳　　佐倉市臼井（338）

印旛沼南端部に面する台地上に所在する。光勝寺の境内にあり、全長18mほどの前方後円墳と伝えられる。古墳下がすぐ崖になり、昭和28年に崖くずれを防ぐための工事が行なわれた際、偶然に石枕が検出された。このため出土状況等わかっていない。石枕は緑泥片岩？製で高縁２段立花受孔を20数個もつものという。

石枕は光勝寺蔵。

姫宮古墳　　佐倉市馬渡（85・102）

印旛沼に注ぐ鹿島川上流にのぞむ台地上に所在する。墳丘長23mほどの前方後円墳で、西南面する。墳丘裾と後円部中段に円筒埴輪列がめぐる。北側のくびれ部には形象埴輪（人物、馬）の破片もかなりあった。埴輪は総計40以上になる。内部施設は未検出だが、くびれ部付近に多量の石片があったというから、箱式石棺が破壊されたものと思われる。６世紀後半から７世紀初頭頃に比定されよう。

昭和33年頃、松裏善亮他調査。

江原台遺跡　　佐倉市臼井田（315）

印旛沼南端部に面する台地上に所在する。大規模な集落遺跡である。１、２号方形周溝墓は昭和50年度の調査で検出。１号は軸長9.2×8.6m、溝幅は１～２mで一定しない。大型壺２（うち１は焼成後底部穿孔）、坩型壺２が出土。２号は別遺構との重複ではっきりしないが、軸長11mほどで１号よりひとまわり大きい。大型壺１が出土したのみ。なお、１号と２号は周溝の一辺づつを共有していた可能性が大きいが、重複部に後世の別遺構があるため確認はできない。

昭和48年以来、千葉県文化財センターにより継続調査されている。

飯合作１号墳　　佐倉市下志津（329）

印旛沼西南端に流入する手操川の下流西岸台地上に所在する。径15m、高さ1.50mほどの円墳と見えたが、調査の結果墳丘長25m、周堀を含めた全長37m、後方部主軸長14.5m、前方部幅16mの西南面する前方後方墳と判明した。周堀は１周するが幅は一定しない。北側くびれ部横に、周堀が外側へ大きく舌状に張り出す部分があり注目される。墳頂下0.70mで4.05×1.85mの長方形土壙内に収められた長さ3.20m、幅0.45～0.75mの木棺痕を検出、内部からガラス玉３個が出土した。この他封土中で銅鏃２が、墳頂部表土直下で底部を穿孔された壺１が出土した。

昭和51、52年、高等学校建設に先立ち、千葉県文化財センター（沼沢豊他）調査。後湮滅。房総風土記の丘資料館保管。

飯合作２号墳等　　佐倉市下志津（329）

飯合作１号墳の西40mにある。２号墳は径20m、３、４号墳は径10mほどの円墳と見えたが、発掘の結果２号墳は前方後方墳、３、４号墳は方墳と判明、さらに３、４号墳に接して方形周溝５基があり、これらがすべて周溝を共有しあい、ひとつづつきの周堀を構成することが判明した。２号墳々丘長30m、周堀を含めた全長36.5m、後方部軸長18m、前方部幅9.20mで、前方部は１号墳同様西南面する。３号墳は一辺9.50～12m、４号墳は９～11mとやや小さく、ともにいびつな長方形を呈す。５基の方形周溝は、台状部一辺が大は6.5×7.0m、小は4.0×3.8mと大きさがまちまちである。２、３、４号墳、５基の方形周溝とも周堀内から供献土器を数個づつ出土している。

１号墳と同一の機会に調査されたものであるが、上記の状況から重要性が認められ、工事計画を一部変更して、県立佐倉西高等学校々庭内に現状保存。したがって、２、３、４号墳の墳丘内の調査はひかえ、内部施設は未確認のままおわったが、２号墳々頂部は盗掘が甚しく、すでに内部施設は失なわれていると推定される。

飯合作遺跡方形周溝址　　佐倉市下志津（329）

飯合作１～４号墳と同一台地上に所在し、同じ機会に調査された。２号墳等と重複したD01～05のほかに18基の方形周溝が検出された。周溝内で検出された土器は、すべて五領式土器である。また底部の穿孔されたものにあっては、穿孔は例外なく焼成後に行なわれていた。

D01　一辺約８mの方形。南溝を３号墳と、西溝をD—02と共有する。周溝内から五領式の椀５が出土。

D02　一辺約5.5mの方形。北東溝をD—01と、南東溝を３号墳と、西南溝をD—03と共有する。遺物の出土はなかった。

D03　約10×９mの方形。北東溝をD—02と、東南溝を４号墳と、西南溝をD—04と共有する。五領式の小形坩１、椀１が出土。

D04　一辺約９mの方形。北東溝をD—03と、東南溝を４号墳と共有する。五領式の壺２が出土。

D05　約6.5×7.5mの方形。東溝を４号墳と共有する。伴出する遺物なし。

D06　台状部軸長11.8×10.9m（東西×南北、以下同）、周溝の幅2.5～３m。周溝内から供献土器（大型壺３、坩形の壺２、甕２、器台２、小型坩１）が出土。

D07　軸長12.3×14mと18基中最大。幅２～３m。周溝内から供献土器（大型壺２、坩形の壺１、甕２、小型坩２）が出土。

D08　軸長5.2×4.9m、幅１m未満と小さい。北側の溝底に組合式木棺を収めたと見られる土壙が検出され、壙底で管玉５、ガラス玉１、水晶玉１が出土。溝中で坩形の壺１が出土。

D09、10、11　この３基は周溝の１辺づつを共有しあい、ほぼ東西一列に並ぶ。D09の北側

の溝底でも土壙が検出され、石製勾玉１、ガラス玉１が出土。土壙の形状から見て遺骸が直葬されたものと思われる。D09は7.5×9.0m、D10は7.0×7.9m、D11は８×８mで、溝幅は２m未満。D09では壺１、椀１、D10では小型坩１、椀１、D11では壺１、小型坩１が出土。

D12　9.7×10.3m、溝幅２～2.5m、供献土器と目されるものは未検出。

D13、14　コーナーの部分で重複しているが、偶然の切り合いの可能性もある。13は8.8×9.3m、溝幅２m未満、D14は7.4×7.3mで溝幅１m以下とやや小さい。D13では壺３、甕２小型坩２、器台１が、D14では坩１が出土した。

D15、16　D15以下の９基は上記各址とは占地を異にし、土器の様相にも幾分古期の様相をとどめる。D15は6.8×6.0m、D16は7.4×７mで溝幅はともに１m程度。D15では坩形の壺１、祖製の大型壺１、D16では器台１、椀１が出土。この２基は周溝の一辺を共有し、南北に並ぶ。

D17、18　この２基も周溝を共有し、南北に並ぶ。D17は8.2×7.3m、D18は12×10.2mと大きい。D18は南東のコーナーが陸橋をなす。D17には供献土器がなく、D18では坩形の小形壺１が出土したのみ。

D19　８×8.2mで溝幅１m前後。壺４、甕１が出土。

D20　11.9×10.7mで溝幅１m、西辺中央は２m近くにふくれる。その部分に供献土器があった。大型の壺３、台付甕１が出土。

D21、22、23　この３基は周溝を共有し東西一列に並ぶ。３基とも南半分を失っており正確な規模不明。D21は一辺7.7mほど、D22は5.5m、D23は５mほどで、溝幅も狭い。D21で壺１、甕１が出土した。

石神第Ⅰ地点２号墳　　佐倉市臼井（266）

印旛沼南西端部の南岸台地上のやや奥部に所在する。高さ2.30mほどの墳丘を残すが、かなり破壊され、周堀の調査も十分でないので、正確な墳形、規模不明。墳丘南側裾部に長さ4.30m、幅1.50m、深さ0.40～0.50mの長方形の土壙があり、内部から直刀２、刀子３、鉄鏃約10が出土した。

昭和48年、伊礼正雄、熊野正也他。宅地造成に先立ち調査され、後湮滅。同１号墳は内径21m、外径31mの円形周堀のみ検出、３、４、５号墳は古墳と断定できない。

臼井南遺跡渡戸Ａ地点　　佐倉市臼井（266）

印旛沼南西端部にのぞむ台地上に位置する臼井南遺跡（群）中に所在する。台状部一辺9.5～10m、溝幅1.5m、深さ0.8mほどの、きっちりした正方形を呈する。出土遺物は皆無で、古墳時代の所産かどうかも判然としない。

臼井南遺跡（群）は、宅地造成に先立ち伊礼正雄、熊野正也他によって昭和48年調査され、

後湮滅。

臼井南遺跡渡戸B地点（266）

臼井南遺跡（群）中に所在する。方形周溝は２基あり、１は台状部１辺15.2×12.8mの長方形で、溝幅は１mほど。周溝覆土中から、肩部が櫛描文で飾られ、頸部に突帯のめぐる、東海地方西部の影響を強く示す壺が２点出土した。２は長辺16m、短辺15mほどのやや菱形状にゆがむ長方形を呈す。東南コーナーが陸橋をなす。顕著な出土遺物を見ない。

萱橋遺跡周溝址　　佐倉市上座字萱橋

井野川に面する台地上に所在。標高約26m。水田との比高差約11m。

１号址

９×9.8mのほぼ方形、溝の深さは0.2～0.5m。幅は0.9～1.1m。埋葬施設らしきものなし。出土遺物なし。

２号址

5.4×5.6mの隅丸方形。溝の深さ0.15～0.25m、0.7～0.8m。埋葬施設らしきものなし。須恵器高杯片出土。

３号址

東西溝長6.0m、南北溝長5.75m。幅は0.5～0.6m、深さ0.2～0.4m。埋葬施設らしきものなし。出土遺物なし。

西ノ台遺跡１号址　　佐倉市小竹字西（291）

井野川に面する台地上に立地する。７×7.65mのほぼ方形。溝の深さは0.2～0.24m、溝幅は0.85～１m。埋葬施設らしきものなし。出土遺物なし。

昭和50～51年、佐倉市教育委員会調査。

大崎台遺跡周溝址　　佐倉市六崎（216）

印旛沼から流れ出る鹿島川とその支流の高崎川によって形成された舌状台地上に立地。標高約30m、水田との比高差約15mをはかる。

１号址

四隅の切れた形態で、溝長東6.7m、南８m、北６m（現存長）、いずれも幅は0.6～0.9m、深さ0.6m。台状部は東西9.2m、南北9.4mで、中央に主軸をほぼ東西にもつ長軸2.5m、短軸1.4m、深さ0.7mの土壙を検出。南溝西端の深さ約0.6mの位置で、転落したのではないと推定される状態で、弥生時代後期の壺形土器が出土。

２号址

北東溝長10.4m、東南9.2m、南西9.4m、幅は0.3～0.5m、深さ0.15～0.3mほど。台状部は約9.7×8.4m。西隅一か所にブリッジを有す。

昭和48年、佐倉市教育委員会（米内邦雄他）調査。

生谷境堀遺跡周溝址　　佐倉市生谷字境堀（300）

印旛沼をのぞむ小丘陵上に立地。標高約30m。

1号址

長辺13.6m、短辺12.9mの方形。溝幅1.9～1.5m、深さ0.7m、溝の断面は逆台形。台状部は10.3×9.7m。内部施設なし。溝中から須恵器杯が出土。

2号址

一辺7.2mのほぼ正方形。溝幅1m、深さ0.8m。台状部は約5.2m四方。台状部中央部にわずかに盛土らしきものが存在する。内部施設なし。

昭和48年、桑原護調査。

生谷遺跡A地点周溝址　　佐倉市生谷（300）

石神遺跡、渡戸遺跡と小支谷をはさんだ対岸に所在。

1号址

東側半分は調査区外。一辺約4.7mの方形と推定。溝幅0.5～0.7m。出土遺物はなし。

2号址

10.3×9.1mの東西につぶれた形を呈す。溝の深さ0.3～0.45m。出土遺物はなし。

3号址

13×12.2mのほぼ正方形。深さ約0.6m。台状部の中央に長径4m、短径2.32mの掘込みがあり、その内側に2.2×1.3mの長方形の土壙が検出された。深さ1.8m。土壙の長軸に直交する形で、3本の溝が掘られている。内部からは遺物の出土なし。南側溝から須恵器長頸壺と杯が出土。

4号址

6.55×6.1mの南側のややせまい方形。台状部は一辺約5mの方形。溝の深さ0.7～1.0m。出土遺物はなし。

5号址

4.84×4.68mのややゆがんだ方形。溝幅0.72～0.92m。深さ0.28～0.44m。出土遺物はなし。

6号址

6.72×6.4mのいびつな方形。台状部は3.2×3.08m。溝幅は1.16～1.4mが、深さは0.48～0.56m。溝は内側にテラス状の段を有す。出土遺物はなし。

7号址

4×3.48mのいびつな方形。台状部は2.4×2.24m。溝幅は0.6～0.9m、深さ0.2～0.32m。出土遺物はなし。

8号址

5.36×5.18m方形。台状部は2.6×2.6mの正方形。溝幅1.16～1.42m、深さ0.44～0.56m。出土遺物はなし。

昭和51年、臼井、生谷地区土地区画整理事業にともない、（田川良外）調査。

飯重新畑遺跡周溝址　　佐倉市飯重字新畑（246）

標高約30mほどの尾根上に所在。

1号址

南北6.8m、東西5.8mの方形を呈す。溝幅1.3～1.5m、深さ約0.3m。溝底はほぼ平坦。内部施設はなし。時期不明。

2号址

東側に開く「コ」字形。南北溝長6.4m、溝幅0.8m、深さ0.1m。時期不明。

〔33.　四街道町〕

千代田遺跡周溝址　　印旛郡四街道町千代田（208）

1号址

南北9.4m、東西8.5mの長方形。長軸を南北にとる。溝幅1.0～1.3m。溝は全周。南溝の中央よりやや西側に長径1.15m、短径0.3m、深さ0.2mの楕円形の土壙を検出。内部施設なし。

2号址

南北6.75m、東西6.8mのほぼ方形。溝幅0.7～1.2m。北西コーナーに長径0.5m、短径0.35m、深さ0.25mのピットが存在。台状部は4.8×4.8mの方形。内部施設なし。

3号址

南北6.9m、東西6.8mの隅丸方形。溝幅0.5～0.8m。台状部は5.6×5.5m。内部施設なし。北溝内より須恵器の甕が出土。

4号址

南北6.7m、東西6.7mの隅丸方形。溝幅0.85～1.2m。台状部は4.5×4.3m。周溝内より須恵器長頸壺の頸部が出土。内部施設なし。

5号址

南北3.4m、東西3.7mの隅丸方形。溝幅0.5～0.9m、深さ0.2m。北溝の中央部にブリッジを有す。西溝内に0.3m、深さ0.1mのピットがあった。内部施設なし。

6号址

南北4.7m、東西5.1mの隅丸方形。溝幅0.7～0.9mで、深さは0.2m。台状部は3.5×4.4mほど。内部施設なし。

7号址

南北3.8m、東西4.15mの隅丸方形。溝幅0.65～0.85m。台状部は2.7×2.6mほど。内部施設なし。

昭和46、47年、団地造成に先立ち八幡一郎調査。後湮滅。

〔36.　富里村〕

烏山2号墳　　印旛郡富里村（265）

松ノ木台2号墳のほぼ500m南に所在する。径27m、高さ3mほどの墳丘を遺存。幅1.50mほどの周堀がめぐり、周堀内壁の径は23mであった。墳頂部やや南寄りで、表土直下から横矧板鋲留短甲1、鉄剣1、鉄鏃3が出土した。土壙のプランはつかめていないが、木棺が直葬されていたものであろう。また墳丘南側の中腹から裾部にかけて多量の須恵器、土師器が出土した。須恵器は有蓋高杯13（身8、蓋5）、壺破片1、土師器は坩形の壺と短頸壺各1等である。5世紀後半に位置づけられよう。同1号墳は径20mほどの円墳で、周堀を伴うが内部施設未確認。

昭和48年、浜田徳永他調査。宅地造成に先立ち調査され、後湮滅。

松ノ木台2号墳　　印旛郡富里村松ノ木台（265）

印旛沼東岸台地のやや奥部に所在する。墳丘はごくわずか遺存するのみ、周堀の全掘によって当初の規模を確認。16×17mの、ほぼ正方形の方墳で、周堀は幅2～3mで1周する。墳丘の南辺中央に開口する横穴式石室をもつ。玄室は両袖で、長さ2.22m、幅は奥で1.12m、前で0.90m、高さは1.60mをはかる。羨道は省略されている。周溝内から刀子3と、海獣葡萄鏡と目される径62mmの小型鏡1面が出土。7世紀もかなり降る時期の所産であろう。

昭和48年、浜名徳永他調査。宅地造成に伴い調査され、後湮滅。同1号墳は近世の塚と判明。

日吉倉遺跡Ⅱ区（265）

烏山2号墳と同一地区内にある。円形周溝墓2基が検出されている。

1号は台状部径9.4m、周溝外径12m、深さ0.3～0.4mの正円形。

2号は9.6m～13.5m、深さ0.3～0.4m。ともに出土遺物はなく、年代、性格不明。

昭和48年、浜名徳永他調査。

日吉倉遺跡　　印旛郡富里村日吉倉（165）

印旛沼に流入する根木名川の西岸台地上に所在する。3基の方形周溝址が相接して検出された。

1号は台状部軸長10×8mほどの長方形、溝幅は2mほどでほぼ一定、溝内から壺2、甕1と焼成前に穿孔された甕か壺の底部1等が出土。

2号は1号の周溝と一部重複する。8×6.5mほどの長方形で溝幅1mほどと小さい。

3号も6×6mと小さい。北側の溝底に長さ2m、深さ0.2mほどの細長い土壙があったが遺骸の埋葬施設との確証は得られなかった。2、3号とも顕著な出土遺物はなかった。

昭和45年、道路建設に先立ち栗本佳弘調査。後湮滅。

日吉倉遺跡Ⅳ区（265）

昭和45年調査地のすぐ北側の台地上に所在する。台状部径12m、周溝外径16m、溝の深さ0.2～0.3mの円形周溝1基が検出された。溝底で鬼高式と見られる甕1点が出土している。

昭和48年、浜名徳永他調査。

〔37.　印旛村〕

山王古墳　　印旛郡印旛村吉高（317）

印旛村の北端部西岸台地上に所在する。南面する前方後円墳で、墳丘長約30m、後円部径15m、前方部幅13mほどをはかる。くびれ部を横断し、後円部東裾を削ってのびる後世の溝による破壊が著しい。裾部に円筒埴輪列がめぐるが、基部の残るものは少ない。後円部墳頂に絹雲母片岩を使った箱式石棺があったが、盗掘で徹底的に破壊されていた。金銅製耳環1、刀子片2、鞘尻金具1が出土。円筒埴輪の他、人物埴輪の一部と推定される破片若干が見られる。

昭和52年、三浦和信他調査。採土工事に伴う調査であり、後湮滅。

〔39.　栄町〕

岩屋古墳　　印旛郡栄町竜角寺（166・345）

印旛沼の北東岸台地上に所在する。前方後円墳22、円墳4、方墳2からなる竜角寺古墳群中の1基。同古墳群中の東南部に位置する。一辺80m、高さ12.4mの大方墳で、3段築成をなし、墳頂部平坦面は東西17m、南北19mをはかる。幅3m前後の周堀がめぐるものとみられる。南辺墳裾部に墳丘主軸をはさんで2基の横穴式石室が古くから開口。東石室は北20度西をさす両袖式で、凝灰質砂岩の切石を用い、石室全長6.45m、玄室長5.8m、奥壁幅2.41m、中央部幅1.14m、玄門部で1.14m（推定）をはかる。高さは3m前後。羨道は元来付設されなかった公算が高い。奥壁に接し石室主軸と直角に床面より一段高く棺台を設ける。西石室は東よりやや小型、プランは類似する。全長4.8m、玄室長4.18m、奥壁幅1.64m、玄門部幅1.38m高さ2.2m前後をはかる。同様奥壁に接して棺台を設ける。羨道はもともと省略されていたと

みられる。古くから開口しており、副葬品は知られていない。天皇陵にも必敵する大型方墳であり、終末期古墳として房総の古墳史上重要な位置をしめる。7世紀後半。

昭和45年、明治大学（大塚初重）測量調査。昭和16年、国指定史跡。

竜角寺111号墳（54）

径25m、高さ3mほどの円墳で、墳丘の南側裾部に箱式石棺をもつ。緑泥片岩の板石を用い、側壁各3枚、小口各1枚、蓋石4枚よりなり、床面にも大小不ぞろいの板石が敷かれる。内のりの長さ1.60m、幅0.90mほどをはかる。蓋石上に直刀1があったほか、棺内で須恵器、土師器破片若干、人骨片を検出。盗掘にあったものと思われる。

昭和28年、玉口時雄、久保哲三調査。

竜角寺112号墳（54）

111号墳の北東95mに位置する。径26m、高さ約3mの円墳で、南側の墳丘裾に箱式石棺をもつ。緑泥片岩の板石を用い、側壁各3枚、小口各1枚、蓋石5枚よりなる。内のりで長さ1.64m、幅0.98mをはかる。盗掘にあい、出土遺物は皆無であった。

昭和25年頃、滝口宏調査。

竜角寺92号墳（57号墳）（128）

岩屋古墳の北西30mに位置する径27m、高さ3mの円墳。南東裾部に開口する横穴式石室をもつ。砂岩の截石積みで、全長2.9mと小さく、玄室は平面ほぼ正方形の両袖式。玄室内から人骨1体分、直刀1、砥石2、馬具の一部と見られる金具1、須恵器長頸壺1が出土。

昭和40年、中村恵次調査。

〔40.　成田市〕

瓢塚古墳群　　成田市橋賀台、米野、郷部、弁須（260）

利根川に流入する根木名川の支流小橋川と、印旛沼に流入する江川に狭まれた台地上に所在。

9号墳

一辺16m、高さ1.5mの方墳で、幅3mの周堀が一周する。外部施設、内部施設とも検出されず、周堀底から完形の土師器壺2が出土。4世紀に属すると推定。

12号墳

一辺15m、高さ1mの方墳で、幅2.5～3mの周堀が一周する。外部施設なし。内部施設は中央部の旧地表面にて落込みを検出。付近で刀子1が出土しているため、これを施設と推定。終末期に属すると報告しているが、遡らせてもよいのではないか。

15号墳

長径22m、短径18m、高さ1m強の楕円状を呈する円墳で、幅4m強の周堀が一周する。外部施設はない。内部施設は、墳頂部近くで長さ2.8m、幅1.1mの木棺直葬遺構を検出。中から刀子1が出土。6世紀の築造と推測される。

16号墳

一辺13.5×11.5m、高さ1m弱の方墳で、幅1.5～2.5mの周堀が一周する。外部施設はない。内部施設は、中央部の旧地表面直上における木棺直葬遺構と推定。仿製変形四神鏡1が出土。また、周堀から小形壺1出土の報文があるが、図がないため不詳。後期の築造と報告しているが、遡らせてもよいのではないか。なお、鏡は、報告書の挿図では17号墳の出土とある。

17号墳

船塚古墳（前方後方墳）を対岸にのぞむ台地上に立地。径25m、高さ2.5mの円墳で、幅6m弱の周堀をめぐらすが西側は切れている。外部施設はなし。内部施設は検出されなかったが、墳頂部近くの封土中から乳文鏡1が出土しているので、木棺直葬遺構と推測される。また、墳丘西裾から鉄斧1が出土。なお、墳丘下に和泉期の住居址を検出したと報告している。5世紀後半ないしは6世紀前半の築造と推測される。

18号墳

径8m、高さ0.5mの円墳で、幅2mの周堀が一周する。外部施設、内部施設とも検出されず。墳頂下から鉄片1が出土。なお、墳丘下に和泉期の住居址3軒が検出され、周堀がこれを切っている。6世紀に属すると推測される。

19号墳

径10m、高さ0.5m強の円墳で、幅2.5mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、復元長3m、幅0.9mの粘土を使用した木棺直葬遺構と推定される。この外から、鐔付直刀1、ガラス小玉1が出土。墳丘下に和泉期の住居址が検出された。6世紀に属すると推測される。なお、挿図には刀子1、茎2の報告があるが不詳。

20号墳

径19m、高さ2mの円墳であるが、幅2mの周堀が西側で約5m切れ馬蹄形の周堀を示す。また、封土と周堀の間に幅1m強のテラスを設ける。外部施設、内部施設、遺物とも検出されず。あるいは、円墳でなく、導入初期の前方後円墳と把えることができるのか問題が残る。

21号墳

径16m、高さ1mの円墳で、幅2～3mの周堀を半円状にめぐらせている。外部施設、内部施設とも検出されず。周堀への流入土中から須恵器杯片1出土。須恵器片は比較的古式である。6世紀前半に属すると推測。

22号墳

長径18.5m、短径17m、高さ1mの円墳で、幅2.5mの周堀が一周する。外部施設はなし。

内部施設は、旧地表面から0.85m上に粘土を使用した木棺直葬遺構と推測される。この付近から短剣1、刀子1が出土。5世紀後半ないし6世紀初頭に属すると推測される。なお、報文には刀子片2とあるが、挿図では1個体分と推定している。

23号墳

径10m、高さ0.6mの円墳で、幅2mの周堀が一周すると推測される。外部施設はなし。内部施設は木棺直葬遺構と推定されたが、詳細不明。付近から鉄鏃片1、刀子片1が出土と報文にあるが、挿図なしで不詳。6世紀前半までに属すると推測される。

27号墳

北辺22m、南辺25m、東西辺19m、高さ1.8mの長方形を呈する方墳で、幅2mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、南辺の中央部に開口する横穴式石室で、旧地表下に掘られた土壙内に、軟砂岩の切石を全長6.3m、幅1.3mの複室となるよう構築している。石室内からは、鉄片（剣？）と金銅片が、石室上からは須恵器長頸瓶1、片刃箭（？）の鉄鏃20が、前庭部にあたる周堀から須恵器長頸瓶1が出土。8世紀初頭と報告しているが、築造は7世紀後半とするのが妥当であろう。

29号墳

径16mの円墳で、幅3.5mの周堀が一周する。墳丘は消失しており、外部施設はなし。内部施設は、粘土を用いた長さ3.3m、幅0.8mの木棺直葬遺構で、剣1、刀子片1、片刃箭の鏃1、棘被笹式鏃15、大形平根鏃2が出土。6世紀初頭に属する。なお、挿図にさらに2つの土壙を図示しているが、内部施設かどうか不詳。

30A号墳

径14m、高さ0.4mの円墳で、幅3mの周堀がめぐる。外部施設、内部施設は検出されず。周堀から土玉が出土しているが、古墳に伴うものか不明。時期不明。

30B号墳

径14.5m、高さ0.3mの円墳で、幅2.5～3mの周堀が一周する。封土は消失していたため、外部施設、内部施設、遺物は検出されず。時期不明。

31号墳

径15m、高さ1m強の円墳で、幅2.5mの周堀がめぐる。外部施設、内部施設、遺物とも検出されず。時期不明。

32号墳

径26m、高さ2.5mの円墳で、幅7mの周堀が一周する。外部施設は周溝の一区画に、人物埴輪1（女）、動物埴輪2（鳥）、円筒埴輪10（朝顔1、円筒9）が検出された。内部施設は、墳頂下に2つの木棺直葬遺構が検出され、第1施設は長さ6.1m、幅0.7m、第2施設は長さ3.6m、幅0.7mをはかる。第1施設から、石枕1、立花片1、鉄鎌1、刀子3、鉄鏃7、土師器杯1、同高杯1、滑石片が、第2施設から、剣1、滑石片が出土。墳丘下、周堀に和泉期の住

居址を検出しており、鬼高期の土師器、石枕、埴輪から6世紀後半ないし7世紀初頭と報告しているが、6世紀前半に遡るものであろう。

33号墳

長径18m、短径16m、高さ1m強の円墳で、幅2.5～4mの周堀がめぐる。外部施設なし。内部施設は、墳頂下に長さ2m、幅0.6mの木棺直葬遺構を検出。中から、銅釧1、刀子1、鉄鏃4種14本が出土。古墳時代末期と報告しているが、6世紀前半ないし中葉に属すると推測される。

34号墳

径11m、高さ1m強の円墳で、幅3.8mの周堀がめぐる。外部施設、内部施設、遺物とも検出されず。挿図は、鉄鏃1のみの報告あり。

35A号墳

径9m強、高さ1m弱の円墳で、幅3mの周堀がめぐる。外部施設なし。鉄鏃1が墳丘中から出土しているので、内部施設は木棺直葬遺構と推測される。鉄鏃は新しく、6世紀後半ないし末葉に属すると推測される。

35B号墳

径10.5m、高さ0.5mの円墳で、幅2～3mの周堀がめぐる。外部施設はなし。墳丘中から鉄鏃片が出土しているため、木棺直葬遺構と推測される。後期に属すると報告している。

36号墳

一辺10.5m、高さ0.7mの方墳で、幅1.5mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、南辺中央部の旧地表下に掘られた土壙に構築された単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を使用している。石室内から人骨片が出土。また、前庭部から須恵器長頸壺1、平瓶1が出土。7世紀前半に属すると推測される。

38号墳

東西辺22m、南北辺29m、高さ1m弱の方墳で、幅2mの周堀がめぐる。外部施設はなし。内部施設は、南辺中央部の旧地表下に掘られた長さ5.5m、幅5mの土壙に構築された単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を用いており、長さ2.7m、幅2.1mをはかる。石室内から金環1が、周堀底から須恵器長頸瓶片1が出土。7世紀後半に属すると推定される。

39号墳

一辺23.5m、高さ2.5mの方墳で、幅2.5～3mの周堀が一周する。また、封土と周堀の間に幅3mのテラスが認められる。外部施設はなし。内部施設は、南辺中央部の旧地表下に掘られた土壙内に構築された複室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を使用しており、長さ4m、幅1.4mをはかる。石室上部から須恵器長頸瓶1が、前庭部から刀子1、鉄製壺鐙2、円環状鏡板付轡1、鉸具2が出土。7世紀中葉から後半に属すると推測される。

40号墳

東西辺10m、南北辺14m、高さ１m弱の方墳で、幅２mの周堀が一周する。南辺は幅６mにわたり１m外側へ張り出している。外部施設はなし。内部施設は、南辺近く構築された箱式石棺で、片岩を用いており、長さ１m、幅１mを測る。石棺上から方頭大刀１が、石棺内から木芯金銅張把頭、鋲付銅板、金糸が、周溝から、鈴３、鉸具２、須恵器大甕１が出土。なお、鉄鏃１の出土を示す挿図がある。また、周堀内から、墳丘下の住居址に伴うと考えられている和泉式土師器の出土が認められた。７世紀前半に属するものと推測される。いわゆる変則的古墳に属する。

41号墳

北辺12m、南辺14m、東西辺16m、高1.3mの方墳で、幅２mの周堀が一周する。また、封土と周堀の間に幅１mのテラスが認められる。外部施設なし。内部施設は、南辺中央部の旧地表下に掘られた土壙内に構築された単室の横穴式石室で、片岩を用いており、全長2.8m、幅1.1mをはかる。石室内から須恵器平瓶２、短頸壺１、直刀１、鉄鏃、轡片（？）が、羨道部から大刀拵金具、鉸具２、轡片（？）が出土。終末期と報告しているが、７世紀前半か若干遡る時期に属しよう。なお、この石室は、箱式石棺に羨道部を加えた形態で、箱式石棺の系譜をひくものであることは明確である。また、いわゆる変則的古墳に含めてよいか問題を残す。

42号墳

一辺13m、高さ１m強の方墳で、幅３mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は南辺の中央部に長さ６m、幅５m前後に掘られた土壙内に構築された単室の横穴式石室で、旧地表下に位置し、軟砂岩の切石を用いており、長さ3.7m、幅１mをはかる。石室上から須恵器平瓶１が前庭部から周堀にかけて須恵器片が出土している。７世紀前半に属すると推測される。

43号墳

径13mの円墳で、不整円形に近く、幅２mの周堀が一周する。封土は消失しており、外部施設、内部施設、遺物は検出されず。

44号墳

一辺10.5～11mの正方形に近い方墳で、封土は消失しており、幅1.5～２mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、南辺の中央部の旧地表下に、長さ2.2m、幅1.4mに掘られた土壙内に構築された単室の横穴式石室で、片岩を用いており長さ1.6m、幅0.6mをはかる。羨道から周堀にかけて須恵器長頸瓶が出土。７世紀前半から中葉にかけての時期に属すると推測される。石室は片岩を用いており、箱式石棺の系譜をひくものであることは明確であろう。

45号墳

一辺９mの方墳で、封土はわずかで、幅２mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、南側周堀内に土壙が認められたが性格不明。周堀内から土師器甕が出土。５世紀に属すると推測される。

46号墳

一辺12m、高さ0.7mの方墳で、幅２mの周堀が一周する。外部施設なし。墳頂下に臼玉が出土しており、木棺直葬遺構と推測される。５世紀代と考えられる。

47号墳

一辺10.5～12m、高さ0.8mの方墳で、幅1.5～２mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、長さ6.7m、幅１mの木棺直葬遺構で、剣１、刀子１、臼玉186が出土。後期と報告しているが、５世紀に属すると推測される。

48号墳

一辺11～12m、高さ0.6mの不整形な方墳で、幅2.5mの周堀が一周する。外部施設はなし。周堀隅部に長さ２m、幅0.5mの土壙があり、内部施設とも考えられる。封土から鉄鏃が出土。５世紀の所産であろうか。

以上、昭和44～46年、千葉県北総開発公社文化財調査事務所調査。成田ニュータウン建設のため湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

天王・船塚古墳群　　成田市台方、山口他（123・260）

瓢塚古墳群の北につづく台地上に所在する。瓢塚古墳群との境界は不分明であり、古墳群としてのとらえ方に問題があるが、ここでは調査当時の分類に従っておく。調査前に前方後円墳２、前方後方墳１（船塚）、円墳30を確認。

４号墳

径21mの円墳で、幅４～８mの周堀が２重にめぐる。外部施設はなし。内部施設は南に開口する単室の横穴式石室で、旧地表下に位置し、６×８m程の土壙に軟砂岩の切石で構築されており、長さ5.2m、幅3.5mをはかる。直刀３、刀子１、鉄鏃６、壺鐙２、轡２、帯金具その他が副葬され、周堀および前庭部から土師器高杯、須恵器長頸壺が出土。７世紀前半と報告しているが若干遡らせてもよいであろう。埴輪窯の操業、工房址の存在と関連すると見られている点が、また、南側の石室面に位置する周堀形態が注目される。

５号墳

径18mの円墳で、幅５～７mの不整形の周堀がめぐる。断面図では２重周堀の可能性がある。外部施設はなし。内部施設は、墳頂部に長さ2.5m、幅0.9mの木棺直葬施設を認め、剣５、直刀１、鉾１、鉄鏃17が出土。６世紀前半と推定される。

８号墳

墳丘長29m、後円部径25m、前方部幅15mの前方部の短い前方後円墳で、幅2.5～３mの墳丘相似形の周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、くびれ部に構築された箱式石棺の系統をひく石室で、天井石に片岩、側壁に軟砂岩の切石を用いており、内法長2.1m、幅１m強をはかる。石室内から刀子５、鉄鏃31、勾玉２、棗玉２、金銅鈴２、歯が、天井石上から刀子１が、石室周辺から提瓶などの須恵器が出土。６世紀末葉から７世紀初頭の時期に属すと思わ

れる。

10号墳

一辺17.5mの方墳で平行四辺形状にゆがんでおり、幅1.7～2mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は南辺中央の5×8mの土壙内に構築された単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を用い、長さ約3m、幅約1.5mをはかる。石室床面にて貝の出土が見られ、天井石上から須恵器長頸瓶が、墳丘中心部から直刀が出土。7世紀中葉頃であろうか。

27号墳（伝伊都許利命墳墓）

印旛沼東岸の八代台地上に位置する。一辺約35mの方墳。内部施設は2つあり、1つは南に開口する切石を用いた単室の横穴式石室で、玄室長は約3.8mをはかる。1つは西裾に構築された箱式石棺で、片岩を用いており長さ約2mをはかる。既に開口しており出土遺物はないが、7世紀代に属しよう。現存。横穴式石室と箱式石棺を合わせ有する点が注目される。

32号墳

一辺18m弱の方墳で、幅約4m標準の周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は墳丘中央部に設けられた木棺直葬遺構で、推定長3.7m、幅0.7mをはかる。刀子1、臼玉31が出土。6世紀代と報告されており、前半に属すると推測される。33号墳に近接する周堀部分がゆがんでいるため、33号墳の次の築造になるものと考えてよい。

33号墳

一辺16～17mの方墳で、幅2～3mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は、墳丘中央部に設けられた長さ3.2m、幅0.8mの木棺直葬遺構で、臼玉46が出土。6世紀初頭に属すと推定される。

34号墳

径18m強の円墳で、現存幅1.5mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は南からやや東に開口する軟砂岩切石を用いた単室の横穴式石室で、長さ33m、幅1mをはかる。玄室内から刀子1、人骨が、羨道部から刀子1、須恵器片が、前庭部から直刀1、刀子1、鉄鏃16、須恵器長頸瓶、長頸壺、平瓶、土師器椀が出土したとされるが、須恵器は長頸瓶のかわりに短頸壺の挿図あり。7世紀前半に属すと推測される。

35号墳

径7m程の円墳かと推定。幅1.5mの周堀がめぐる。内部施設は軟砂岩の切石を用いた石室らしい。

36号墳

径11mの円墳で、幅4～5mの周堀をめぐらすが、西半部は特に幅0.8mの溝を重複して掘っている。外部施設はなし。内部施設は墳頂下に設けられた2つの木棺直葬遺構で、1つは長さ2.3m、幅0.8m、1つは長さ2.1m、幅0.7mをはかる。各々から直刀1が、また、重複した溝から、石製模造品、臼玉、鉄斧、須恵器、土師器片が出土したと報じている。6世紀代に属

すると思われる。

37号墳

径20mの円墳で、幅1.8mの周堀が一周する。外部施設はなし。内部施設は南裾部に軟砂岩を用いて構築された箱式石棺で、内法長1.9m、幅0.8mをはかる。石棺内から直刀1、刀子1、鉄鏃11、骨が、周堀から須恵器1、土師器甕1が出土。7世紀前半に属すると推測される。

40号墳

径約15mの円墳かと推定。幅1.7mの周堀が存在する。内部施設は軟砂岩の切石を用いた単室の横穴式石室と推定。長さ2m、幅1mをはかる。石室から鉄鏃2、切子玉1の出土を報じている。7世紀に入ると推測される。

41号墳

径10m弱の円墳で、幅2m程の周堀が一周する。

42号墳

一辺9m弱の方墳で、幅1.8mの周堀が一周する。

43号墳

径8mの円墳で、幅2～3mの周堀が一周する。

44号墳

一辺16mの方墳で、幅1.6mの周堀が一周する。内部施設は南辺に設けられた単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を用いており、長さ2.8m、幅0.8mをはかる。7世紀代に属すると思われる。

45号墳

径約11mの円墳で、幅2mの周堀がめぐる。周堀の切り合いから天王船塚44号墳より古い。

46号墳

径24mの円墳で、幅1.8mの周堀が一周し、一部に2重にめぐる可能性がある。内部施設は南裾部で旧地表に掘られた木棺直葬施設で、長さ3.7m、幅0.55mをはかる。これから刀子1、鉄鏃5が検出されたほか、周堀からは土師器杯2が出土している。7世紀と報告しているが、6世紀に遡るものであろう。

48号墳

昭和40年、茂木雅博により大山古墳として報告された古墳である。一辺11～13mの方墳で、幅2～2.5mの周堀が一周する。内部施設は旧地表から掘り込まれた2.5×3mの土壙内に構築された箱式石棺で、内法長1.8m、幅0.9mをはかる。棺外から尾錠1、鉄鏃50が、周堀から土師器椀1が出土している。

49号墳

一辺23mの方墳で、幅2.5mの周堀がめぐる。内部施設は片岩と砂岩片の出土から、石棺か

石室の存在が推定される。周堀から土師器甕、須恵器甕片が出土。7世紀代と推測される。

50号墳

一辺19.5mの方墳で、幅2.5mの周堀が一周する。内部施設は南辺中央部に構築された単室の横穴式石室で、軟砂岩の切石を用いており、長さ2.5m、幅1.2mをはかる。石室内から須恵器平瓶1が、前庭部および周堀から馬具の一部が出土しており、また、勾玉1、管玉1の挿図がある。7世紀前半に属すると思われる。

以上、昭和46年、千葉県北総開発公社文化財調査事務所調査。成田ニュータウン建設のため湮滅。

八代台古墳群　　成田市八代（260）

天王・船塚古墳群より北、印旛沼に面する台地縁辺部に所在する。25基からなる。

7号墳

径25mの円墳で、幅3.5～5mの周堀がめぐる。

8A号墳

一辺9.5～11mの方墳で、幅1.5mの周堀が一周する。

8B号墳

方墳で、幅1.5mの周堀がめぐる。

20号墳

北、南辺15m、東、西辺10mの長方形墳で、幅1.2mの周堀が一周する。南辺寄りに掘られた2.8×1.6mの土壙内に片岩を用いて箱式石棺を構築している。7世紀代に属するであろう。

21号墳

径10mの円墳で、幅2m弱の周堀がめぐる。

22号墳

径11.5mの円墳で、幅1.5mの周堀がめぐる。

昭和46年、千葉県北総開発公社文化財調査事務所調査。成田ニュータウン建設に伴い湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

赤坂、瓢塚古墳群第13号墳　　成田市赤坂（222）

根木名川流域の台地上に位置し、瓢塚古墳群に属する。一辺18mの方墳で、幅3.5～4mの周堀がめぐる。内部施設は、墳頂部で粘土塊を検出していることから木棺直葬遺構と推測される。墳丘下に和泉期の住居址を検出しており、古墳は6世紀代に属すと推測される。消滅。

昭和48年、成田市教育委員会（藤下昌信）調査。墳丘下出土遺物は成田市教育委員会保管。

浅間台古墳　　成田市野毛平浅間台（87）

香取川流域北岸の台地に位置し、他に７基の古墳が所在する。径６ｍの円墳と報告されているが、完掘すれば更に大きいと推測される。内部施設は粘土棺と報告されているが、砂岩切石を用いた石棺または石室と推測される。残存部計測値は長さ2.9ｍをはかる。頭椎大刀１、直刀１、刀子または鉄鏃が10数本出土。内部施設に伴うか不明であるが、土師器、土錘、石製模造品、開元通宝が検出されている。７世紀代に属するものであろうか。現状不明。

昭和34年、成田高校郷土史研究部（山田巌）調査。遺物は成田高校資料室保管。

上福田古墳（上福田岩屋古墳・上福田古墳群第７号墳）　　成田市上福田（22）

八代台地のうち根木名川流域に面する台地上に位置する。一辺32ｍの方墳で、内部施設は南東に開口する貝殻混入の切石を用いた単室の横穴式石室。全長4.4ｍ、玄室幅2.7ｍ、玄室長２ｍをはかる。古くからの開口のため出土遺物はなし。竜角寺岩屋古墳との関連から７世紀後半と報じているが、疑問視してよい。いわゆるＴ字形と呼ばれる石室形態が注目される。

大正11年、小松真一、昭和50年、成田市教育委員会（工藤英行）調査。現存。

長田１号墳　　成田市長田土上台（323）

香取川流域北岸の台地上に位置し、他に３基の古墳が所在する。墳形は不明。内部施設は旧地表下に掘られた３×2.2ｍの土壙内に構築された箱式石棺で、壁に砂岩の切石を、蓋に片岩を用いる。石棺の内法は長さ1.7ｍ、幅1.5～1.7ｍをはかる。棺内から直刀３、刀子１、鉄鏃12と人骨を検出した。７世紀代に属すと推測される。人骨は７体以上と推定され、熟成年男子２、熟成年女子２、少年２は確認されている。

昭和52年、小川和博、工藤英行調査。石棺は残存。遺物は成田市教育委員会保管。

荒海古墳群第15号墳　　成田市磯部字狭間（245）

根木名川下流域の台地上にある全長27ｍ、後円部径15ｍ、前方部幅12.5ｍの前方後円墳で、円筒埴輪のほか人物の形象埴輪が存在した。土砂採取による調査前削平のため、内部施設、副葬品は不明。西暦６世紀後半かと推測される。

昭和49年、荒海古墳群発掘調査団（小川和博、工藤英行）調査。遺物は成田市教育委員会保管。

〔41.　下総町〕

木挽崎古墳群（第１次調査）　　香取郡下総町名木（277）

利根川水系の支流にのぞむ舌状台地上に所在。墳丘長26.5ｍの前方後円墳１基、径18.5ｍ、14ｍの円墳２基を調査。すべて埴輪列をもち、内部施設は木棺直葬。円筒埴輪、剣、直刀、鉄鏃、管玉、臼玉、ガラス玉、水晶製切子玉が出土。砂利採取に伴い湮滅。

昭和50年、渋谷興平調査。遺物は下総町教育委員会保管。

木挽崎古墳群（第２次調査）　　香取郡下総町名木（332）

円墳２基が調査された。古墳の詳細な報告はされていない。埴輪列を有し、内部施設は木棺直葬。円筒埴輪、形象埴輪、直刀、管玉、臼玉、ガラス玉、切子玉が出土。

昭和50・51年、越川敏夫調査。他は第１次調査に同じ。

大日山古墳　　香取郡下総町字高（176）

利根川に面する標高30m程の台地上に所在。北側へ舌状に突出した台地端部に古墳４基があり、調査時には前方後円墳以外の３基は湮滅していた。墳丘長約54m、後円部径約33m、同高さ４mの前方後円墳。周堀はめぐらない。墳丘裾部は地山整形され、盛土は４mであるが外観上の古墳の高さは5.5m程となる。前方部は削平が著しく詳細は不明。内部施設は後円部墳頂下の木炭槨。長さ約5.5～６m、幅1.1mをはかり、長軸は墳丘の主軸と同方向。木炭槨内より、剣、鉄斧、刀子、管玉、ガラス小玉、人骨が出土。４世紀末～５世紀初頭と推察される。

昭和45年、早稲田大学（市毛勲）調査。採土工事により湮滅。遺物は房総風土記の丘資料館保管。

武田古墳群　　香取郡神崎町武田（198）

利根川に面し東北から南西にのびる台地平坦面東北端に所在する。標高は約30m。

１号墳

径16m、高さ２mの円墳。墳丘東側の墳頂部よりやや下った位置に円筒埴輪列がめぐる。内部施設は不明。

２号墳

一辺13.2m、高さ２mの方墳。墳頂直下より経筒が出土したが、墳丘の構築状態より古墳と考えられる。経筒埋納時に墳丘が整形された可能性が考えられる。内部施設は未検出。

３号墳

径20m、高さ2.5mの円墳。墳丘西側裾部に円筒埴輪列がめぐる。内部施設は未検出。

昭和47年、栗本佳弘調査。土砂採掘により湮滅。

〔42.　神崎町〕

舟塚原古墳　　香取郡神崎町新（181・209）

利根川の沖積地より約3.5m奥まった台地上に所在する。台地の北側はなだらかな傾斜面となり、この斜面に小円墳とまじって本墳が存在する。全長4.5m、後円部径27.5m、同高さ4.2m、前方部幅35m、同高さ４mの前方後円墳。前方部はほぼ西面する。周堀は幅約2.3m、深さ約１mで「長方形」を呈し、一周する。裾部で埴輪が出土し、出土状況から円筒埴輪を墳丘全体にめぐらし、その間隔は極めて疎であったと推測される。人物、家形埴輪は墳丘南側のみ

で検出された。内部施設は未検出。旧表土層面より土師器杯、高杯が故意に破砕された状況で出土、盛土中に土壙状を呈す遺構があり、土師器杯、甕、臼玉、紡錘車が出土、墳丘南側裾部より、須恵器杯、土師器杯が出土。6世紀中葉以降と推察される。

昭和46年、早稲田大学（市毛勲）調査。現存。

小松古墳　　香取郡神崎町小松（23）

利根川の南側台地の北端部に所在する。墳丘長約109m、後円部径約32.7m、同高さ約5.2m、前方部を北面する前方後円墳。内部施設のみ調査。後円部墳頂下の箱式石棺。石棺長軸はほぼ東西を示し墳丘主軸と直交する。内容長約2.4m、高さ約0.75mをはかる。石枕、立花、直刀、ガラス小玉が出土。

大正13年、調査。

〔43.　大栄町〕

地蔵原1号墳　　香取郡大栄町久井崎（51）

大須賀川沿岸台地上に所在。付近には小円墳が確認される。径約15m、高さ約1mの円墳。墳丘南側裾部で石棺を検出。箱式石棺で、長軸はほぼ東西を示す。長さ1.8m、幅0.6m、高さ0.8m。床面、側壁は軟質砂岩、蓋石は緑泥片岩が用いられ、小口は各1枚、側壁は持ち送りの截石積み、蓋石は扁平な板石5枚からなる。直刀、刀子、鉄鏃、耳環、人骨5体出土。

昭和27年、早稲田大学（大川清）調査。耕作により湮滅。

〔44.　佐原市〕

片野古墳群　　佐原市片野（201）

利根川の南岸台地の奥部に所在する。片野古墳群は4群に分かれるとされ、第1群は前方後円墳2、円墳8、第2群は前方後円墳3、円墳3、第3群は前方後円墳4、円墳11、第4群は前方後円墳1、円墳4からなり、総計36基をかぞえる。

1号墳

第2群に所属。墳丘、周堀が未調査の為、詳細は不明。前方後円墳と報告。内部施設はすでに露呈していた。墳丘南側裾部と思われる個所に位置する。軟砂岩の板石による箱式石棺で、内法長1.76～1.81m、幅0.58m、側壁高0.43～0.6m、長軸方向N—23°—Eをはかる。床面は切石を全面に敷く。

4号墳

第2群中の前方後円墳。全長23.6m、後円部径14.5m、前方部幅13.5m、高さ2.5mをはかる。墳丘は主軸をN—10°—E、前方部をほぼ北に向ける。幅3～3.7mの周堀が一周する。内部施設は、くびれ部中央に旧表土層を掘り込んだ土壙内に存する箱式石棺。乱掘されていた

が、雲母片岩を用い、長軸はN—40°—W、1.25×0.75m の規模と推定された。管玉、小玉が出土。周堀内覆土中からは須 恵器長頸壺が出土。

8号墳

第2群中の円墳。径18.5～20.5m、高さ約2mをはかる。周堀は認められない。内部施設は墳丘南側裾部に旧表土層を掘り込んだ土壙内の箱式石棺。長さ1.86～2m、幅0.8～0.9m、高さ0.9～0.95mをはかる。石材は雲母片岩の板石で、底石は5枚。棺内より人骨2体が検出され、検出状況より2体合葬と推察される。直刀、耳環、勾玉、切子玉、そろばん玉、管玉、棗玉、丸玉、ガラス小玉、赤色顔料が出土。石棺掘り方中より須恵器甕が出土。7世紀前半ないし7世紀中葉に推定される。

9号墳

第3群中の円墳。径約10.5m、高さ1mをはかる。周堀は認められない。内部施設は墳丘南側裾部に、旧表土層を掘り込んだ土壙内の箱式石棺。蓋石は遺存しない。内法長1.85m、幅0.75～0.84m、側壁高0.79～0.8mをはかり、長軸はN—40—°E。石壁面に荒い削痕が認められる。床面には角のとれた雲母片岩の小礫が敷かれる。棺内より刀子、ガラス小玉、棗玉、人骨が出土。7世紀後半と推定される。

10号墳

第3群中の前方後円墳。墳丘長約24.8m、後円部径約18m、同高さ約2m、くびれ部幅約14m、前方部幅約10m、同高さ約0.7mをはかる。周堀は一周する。内部施設は後円部墳頂部に構築される。現墳頂下約0.6mから掘り込まれる。雲母片岩の板石を組み合わせた箱式石棺で、N—80°—Eを示す。内法長約1.9m、幅0.5m、高さ0.48m、蓋石が遺存する。底石は3枚。棺内より直刀、刀子、鉄鏃、ガラス小玉が出土。7世紀初頭から7世紀前半と推定される。

11号墳

第4群中の前方後円墳。墳丘長32m、後円部径21m、同高さ3m、前方部幅20.8m、同高さ2.2mをはかる。外観は二段築成の墳丘を呈する。周堀は幅4.2～5.7m、深さ0.5～0.7mで、前方部東側に幅3mのブリッジがあり一周しない。後円部東側裾部からくびれ部、前方部にかけて埴輪列がめぐる。円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪（馬、人物）がある。内部施設は後円部墳頂下にある。墳丘中途まで盛土が行なわれ、そこを掘り込み面として構築された土壙。ほぼ東西に向き、長辺約3.9m、短辺約1.3m、深さ1.1mをはかり、断面U字形を呈す。炭化材が一部検出され、木棺の存在が示唆される。土壙内より直刀、刀子、鉄鏃が出土。6世紀後半と推定される。

12号墳

第4群中の円墳。周堀と墳丘との間にテラスがあり、周堀外径18.5～23m、テラス平坦部内径11～12m、墳丘高2.2mをはかる。周堀は2～3m、深さ0.3～0.5mで一周する。内部施設は未検出。

13号墳

第４群中の円墳。周堀と墳丘との間にテラスがあり、テラスは幅0.9～1.9m。周堀の外径17.5m、墳丘高約２mをはかる。周堀は幅約２m、深さ約0.6mで一周する。内部施設は未検出。

21号墳

第３群中の円墳。径約11mをはかる。周堀は認められない。内部施設は未検出。

22号墳

第３群中の円墳。外径約30.6m、内径約25.8m、墳丘高1.8mをはかる。周堀は幅約3.5m、深さ0.7～0.9mをはかる。内部施設は未検出。

23号墳

第３群中の前方後円墳。墳丘長33.7m、後円部径20.4m、同高さ3.1m、くびれ部幅13m、前方部幅21.7m、同高さ2.6m、主軸N―78°―Eをはかる。外観上二段築成の墳丘を呈する。周堀は幅5.5～8.3m、深さ0.4～0.6m。後円部北側からくびれ部及び前方部に埴輪列がめぐる。裾部に配列されるほか、後円部には墳頂部付近にも認められる。墳頂部付近より円筒埴輪、基壇部分より家形、人物、円筒埴輪が検出された。内部施設は土壙で、後円部墳頂下約３mで検出された。旧表土層より約0.7m程盛土が行なわれた段階で、土壙を掘りこむ。木棺直葬と推定される。土壙底部より2.5m程上部で、直刀、鉄鏃が出土。棺外副葬品と考えられる。６世紀末～７世紀初頭と推察される。

昭和46年、東国古文化研究所（尾崎喜左雄）調査。東京電力新佐原変電所建設に伴い湮滅。

堀之内古墳群　　佐原市堀之内（277）

利根川とその沖積地を北側眼下に望む舌状台地平坦部に古墳７基が所在。古墳の詳細は未報告。７基とも円墳で、内部施設は箱式石棺１、他は木棺直葬と考えられる土壙であった。１基から石枕、立花が出土。昭和49年、渋谷興平調査。宅地造成に伴い湮滅。

鴇崎天神台古墳　　佐原市鴇崎（277）

大戸川にのぞむ台地東側先端部に所在。径30mをはかる円墳で、周堀は一周する。墳頂下で３つの粘土槨が並例した状態で検出された。１号棺より鉄剣、石製模造品（刀子、斧）、２号棺より直刀、刀子、臼玉、石製模造品（刀子、斧）が出土。５世紀中葉と推定される。

昭和48年、渋谷興平調査。砂利採掘に伴い湮滅。遺物は伊能忠敬記念館保管。

大戸川古墳　　佐原市大戸川（318）

利根川に流入する大須賀川下流の沿岸、河岸段丘上に所在する。採土工事によって偶然に発見された。前方後円墳と推測されるが判然としない。画文帯鏡、赤彩された石枕、戟、桂甲小

札、直刀、鉄鏃、馬鐸、鏡板、杏葉、円筒埴輪が出土。6世紀初頭と推察される。

墳丘の一部を残し湮滅。遺物は房総風土記の丘資料館保管。

白幡古墳　　佐原市大戸（27）

大戸神社東南方向約1m、標高約40mの台地平坦面に所在する。20余基の古墳が確認された。径約14mの円墳。周堀は未調査。箱式石棺をもつ。構築位置等不明。石棺長軸はほぼ東西を示し、内法長約2m、幅約0.7m、高さ約0.64mをはかる。緑泥片岩の扁平な板石を使用。床面は同質の板石が敷かれる。棺内より人骨、直刀、刀子、鉄鏃、耳環、丸玉、棗玉、小玉、ガラス小玉、勾玉が出土。

神道山古墳　　佐原市香取（184）

香取神社北方約1km程の台地平坦面に所在する。前方後円墳1基、円墳11基が確認され、前方後円墳1基の調査が行なわれた。墳丘長約47.3m、後円部径約27.3m、同高さ約4.4m、前方部幅約25.5m、同高さ約4.4mをはかり、前方部を西面する。

〔45.　小見川町〕

阿玉台北A－1号墳　　香取郡小見川町五郷内（267）

下総台地東北部に位置し、黒部川にのぞむ台地上に所在する。遺跡東側部分をA地点、西側をB地点とし、AB両地点間には微低地が存在する。A－1号墳（A地点001号墳）は不整な方墳で、一辺8.1～10.4m、周溝外縁の一辺10.3～12.6mをはかる。封土は遺存しない。南辺中央に横穴式石室が開口する。主軸はN－3°－W、石室は損乱が著しく掘り方のみ遺存する。掘り方長5m、幅2.4～1.8m。須恵器長頸壺片、勾玉、ガラス玉、鉄鏃片、鉸具が出土。

昭和49年、千葉県都市公社文化財調査事務所（矢戸三男他）調査。調査後湮滅。出土遺物は房総風土記の丘資料館保管。

阿玉台北A－2号墳

一辺7.5～8.5mをはかる幾分長方形を呈する方墳。幅1～1.6m、深さ0.5～0.7mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に横穴式石室が開口する。主軸はN－25°－E。攪乱が著しく、玄門寄りの側壁下段のみ残存する。板状の砂岩が使用されている。羨道部の状況より両袖式、半地下式と推察される。玄室より人骨、歯、周堀覆土中より須恵器長頸壺が出土。

阿玉台北A－1号墳に同じ。

阿玉台北A－3号墳

前方部の短い前方後円墳で、主軸外縁長13m、後円部外縁径約10m、前方部外縁径約7mと

報告されている。周堀は後円部からくびれ部まで認められ、幅0.5～1.5、深さ0.25～0.5mをはかる。前方部前面には周堀がめぐらない。くびれ部中央でロームを掘り込んで構築された箱式石棺を検出。主軸N—69°—E。内法長1.52×0.62m、高さ0.5mをはかる。床面には、小砂岩塊が全面に敷かれる。人骨、耳環が出土。

阿玉台1号墳に同じ。

阿玉台北A—4号墳

一辺8～9mの不整形の方墳。幅1～1.2mの、深さ0.25～0.4mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室が伴うが、攪乱が著しく、詳細は不明。掘り方の規模は長さ約4m、幅1.5mで、ロームを掘り込んで構築される。鉸具、責金具、耳環、須恵器片が出土。

阿玉台北A—1号墳に同じ。

阿玉台北A—5号墳

一辺8.8～9.6mの長方形気味の方墳。幅1m、深さ0.2～0.4mの周堀が一周する。封土は遺存しない。両辺中央に横穴式石室が開口する。主軸はN—34°—E。攪乱が著しく基底部の石材が遺存するのみ。玄室長1.8m、幅1.05m、羨道部幅0.6mをはかる。直刀、勾玉、切子玉、棗玉、小玉、ガラス玉が出土。

阿玉台北A—1号墳に同じ。

阿玉台北A—6号墳

一辺10～10.4mの方墳。幅1m、深さ0.3～0.5mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室を伴う。盗掘をうけていたが石室はかなり良好な状態で遺存。主軸はN—24°—Wの砂岩の切石と砂岩塊によって構成される。玄室は長さ2m、奥壁幅0.9m、玄門幅0.8m、床面より天井まで高さ1.1mをはかる、羨道は長さ約1.3m、幅約0.7mをはかる。玄室から直刀、鍔、責金具、羨道から直刀が出土。他に須恵器長頸壺が各室内より出土。

阿玉台北A—1号墳に同じ。

阿玉台北A—7号墳

前方部をほぼ東面する前方後方墳。墳丘長25.5m、後方部一辺16m、前方部幅7mをはかる。幅2～3mの周堀がめぐるが、重複遺構のため全体のプランは不明。封土は遺存せず、内部施設も未検出。周堀内より遺存度の良い五領式土器が出土しており、この時期の築造と推測される。

阿玉台北A—1号墳に同じ。

阿玉台北B－1号墳

一辺9.2～11.2mをはかる方墳。幅1.5～2m、深さ0.4～0.6mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室を伴う。攪乱が著しく、基底部が残るのみ。石室は砂岩切り石により構築される。主軸はN－13°－E。玄室は長さ約2m、奥壁幅1.38m、玄門幅1.2m。羨道部は攪乱が著しく不明。玄室内より人骨、直刀、刀子、ガラス玉、周堀覆土中より須恵器が出土。周堀底に長さ2.7m、幅0.7mの細長い土壙が検出され、直刀1、管玉10が出土。追葬用施設と推測される。

阿玉台北A－1号墳に同じ。

阿玉台北B－2号墳

径約20mをはかる円墳で、周囲との比高0.4mほどの墳丘が認められた。周堀は幅4～6m、深さ0.7～0.9mで一周する。内部施設は未検出。

阿玉台北A－1号墳に同じ。

阿玉台北B－3号墳

一辺10～12mをはかる方墳。幅約0.8m、深さ0.25～0.4mの周堀が一周する。封土は遺存しない。南辺中央に開口する横穴式石室を伴う。主軸はN－32°－E。石室は攪乱によりほとんどその痕跡を残さない。石材の抜きとり痕からみて、玄室長2m、幅1m、掘り方内より須恵器長頸壺が出土。

阿玉台北A－1号墳に同じ。

阿玉台北B－4号墳

南側⅔が調査区外に存在する為、調査区内のみ調査された。一辺約8mをはかる方墳と考えられる。幅0.7～0.8m、深さ0.15～0.25mの周堀がめぐる。封土は遺存しない。調査区内において内部施設は未検出。

阿玉台北A－1号墳に同じ。

城山1号墳　　香取郡小見川町城山（124・125・146）

利根川にそそぐ黒部川にのぞむ標高約45.5mの台地上に城山古墳群が所在する。墳丘長68m、後円部径約30m、くびれ部幅約25m、前方部幅約35mをはかり、前方部が、後円部に較べ約0.5m程高い。主軸はN－6°－Eを示し、前方部が北面する。周堀は部分的に認められた。墳丘中段に、埴輪列が一周する。円筒埴輪と形象埴輪が認められる。円筒埴輪は墳丘全体にめぐるが、形象埴輪は、前方部西側からくびれ部、後円部一部にのみ配列される。配列は、北から、男子・馬・馬・武装男子・武装男子・正装男子・両手を挙げる男子・冠帽の男子・家形の順。内

部施設は、後円部南側裾部に開口する。横穴式石室で、左袖が0.4m張り出す左片袖形式である。玄室は長さ4.5m、奥壁幅1.7m、玄門幅1.35m、高さ1.45m、羨道部は長さ2m、幅9m、高さ1mをはかる。石材は凝灰岩と常陸石といわれる水成岩。羨門部は凝灰岩の板石1枚で閉塞される。石室床面は拳大の河原石が敷かれ、玄室中央西寄りで、木棺が確認された。木棺内より三角縁三神五獣鏡1、耳環7（銀4・金銅3）、刀子10、金銅鈴11、銀珠30、トンボ玉5、小玉、金銅透彫金具（唐草文・天冠の一部）が出土した。鏡は、「吾作明竟甚大好、上有神守及竜虎、身有文章口銜巨、古有聖人東王父西王母、渇飲玉泉、飢食棗、寿如金石」と吾作銘が認められ、椿井大塚山古墳出土鏡と同笵である。玄室内から、環頭大刀5、円頭大刀1、頭椎大刀1、直刀11、鉄鏃、衝角付冑、桂甲、腰当、鞍、壺鐙、轡、雲珠、針、懸金具が出土。また前庭部には、凝灰岩切り石を用いた石敷が認められ、故意に破砕された状況で、土師器高杯、須恵器台付長頸坩、蓋付高杯、高杯、提瓶、杯、杯蓋、瓮が出土した。鏡等、豊富な遺物を出土した古墳として特筆すべきもので、東国古代史上に占める位置、意義は大きい。6世紀後半と推察される。

昭和38年、立正大学（丸子亘）調査。学校建設に伴い湮滅。出土遺物は小見川町教育委員会保管。正式報告は近刊。

城山5号墳（134）

墳丘長50m、後円部径約30m、くびれ部幅約20m、前方部前幅約30mをはかり、後円部より前方部がやや高い。幅約3mの周堀が一周する。墳丘中段に円筒埴輪・形象埴輪を樹立。円筒埴輪は、墳丘を一周するが、形象埴輪は、前方部西側のみに認められ、城山1号墳と類似する。形象埴輪の配列は、人物、馬、人物、人物、馬、人物、人物、人物の順。内部施設は未検出。後円部南側くびれ部付近で、埴輪と同レベルで、須恵器杯、杯蓋が、前方部北側稜端で埴輪と同レベルで、土師器手捏ね土器、坩、杯、有孔円板、臼玉が、後円部北側で埴輪と同レベルで、小札、銅釧が出土した。6世紀中葉と推察される。

昭和40年、立正大学（丸子亘）調査。

城山6号墳（232・295）

調査前から横穴式石室が開口しており、墳丘等の攪乱が著しく認められた。墳丘長42m、後円部径18m、前方部幅20m、墳丘高3mをはかる前方後円墳。幅2.8m、深さ0.2mの周堀が一部確認された。内部施設は、奥壁中央を後円部中心点に置き、東側くびれ部中段に開口する横穴式石室。玄室は隅丸方形の両袖式。全長3.3m、玄室長2.4m、奥壁から0.7m玄門寄りで最大幅2.4m、玄門部幅1.5m。羨道は長さ0.7m、幅1.7m。玄室は高さ1.8m、天井部は四周より持ち送られてきた壁がドーム形を呈する。長方形切り石の壁内面を湾曲させ、さらに持ち送った時の傾斜に合わせてえぐり整形する。傾斜角平均63°。石室内より、鉄鏃、鉄釘、刀子が出

土。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。耕作により湮滅。

城山７号墳（134）

攪乱が著しく遺存状態は悪い。規模、周堀の存否に関しては報告されていない。内部施設は、組合式箱式石棺で、ローム層を掘り込んで構築される。石棺は、内法で長さ1.5～1.4m、幅0.6m、高さ0.4mをはかる。長軸はほぼ東西を示す。床面には板石が敷かれる。棺内より、人骨、須恵器片、鉄釘が出土。

昭和40年、中村慎二調査。耕作により湮滅。

城山古墳群１号石棺（232）

同古墳群中に露呈した石棺５基の調査である。１号石棺は底石のみ残存し、地山に掘り込まれた土壙内に、石棺が構築されていたものと思われる。底石５枚で全長1.95m、幅0.95mをはかる。長軸はN—34°—Eを示す。人骨２体出土。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。学校建設に伴い湮滅。

城山古墳群２号石棺

２号石棺は、地山に掘り込まれた土壙内に構築された箱式石棺。内法長1.6m、幅0.8m、深さ0.65m。蓋石は移動しており、旧状は不明。４枚の板石からなっていたものと思われる。両側壁各１枚、小口部各１枚の計６枚、底石は５枚の板石が用いられる。長軸はN—43°—E。棺内より人骨２体が出土。

城山古墳群１号石棺に同じ。

城山古墳群３号石棺

箱式石棺で内法長1.65m、幅0.55m、深さ0.5mをはかる。蓋石４枚、両側壁各４枚、小口部各１枚、底石４枚、総計18枚の板石で構成される。長軸は、N—68°—E。両側壁に沿って人骨２体が検出された。２体の中央、頭部付近で朱が検出され、遺骸の頭胸部に朱が施される通例から類推して、３体埋葬されていたものと推察される。

城山古墳群１号石棺に同じ。

城山古墳群４号石棺

地山を掘り込んで構築された箱式石棺。全長1.8m、幅１m、深さ１mをはかる。長軸はN—12°—E。人骨３体が並行して検出された。また直刀が出土した。

城山古墳群１号石棺に同じ。

城山古墳群５号石棺

地山を掘り込んで構築された箱式石棺、内法長1.55m、幅0.85mをはかる。長軸はN—30°—E。人骨が検出され、大腿骨と脛骨の末端部に朱が施されているのを確認。

城山古墳群１号石棺に同じ。

阿玉台北遺跡　　香取郡小見川町五郷内（267）

A001号址

東西9.1m、南北8.8mのほぼ方形。溝幅0.8～1m、深さ0.2～0.5m。

A002号址

南西、北溝の一部を欠く。東西溝長6.8m、南北5～6.5mの方形。東側のコーナー部分は多少浅くなっており、ブリッジ状を呈す。

A004号址

北側、東側未調査。一辺約9mの方形と推定される。南側溝は切れており、中央部がブリッジ状を呈す。溝中から多くの古式土師器、鉄滓及び鞴の羽口が出土した。

A008号址

北側約半分は未調査。南溝長7.5m。溝幅2～3m。

A012号址

外縁径東西8.3m、南北8.1m。内縁径東西6.1m、南北6.1mのほぼ正円形。内部施設及びそれにともなう出土遺物はなし。溝中より、古墳時代後期の土器が出土した。

A023A号址

内径約16m。幅2～3mの溝がめぐる。深さ0.45～0.55m。内部施設、出土遺物はなし。

A028号址

溝の一部のみ調査。円形と推定。溝幅1.9～2m。

A045号址

外縁径14.8m、内縁径12.6mほどの円形。深さ0.3～0.4m。周溝内に2か所の土壙があるが、性格は不明。

B003号址

円形を呈すと報告されているが、方形の可能性もある。ほとんどの部分が調査区外のため詳細は不明。溝は幅1.4～1.9m。

阿玉台北古墳群と同一台地上に所在し、方同じ機会に調査された。

〔47.　東庄町〕

婆里古墳　　香取郡東庄町羽計（199・209）

利根川に面する台地東端部に所在する。羽計古墳群中の１基。墳丘はすでに削平され、墳丘

の高さは不明。全長約20m、後円部径約15m、くびれ部幅約10m、前方部幅約14m、主軸N—82°—Eをはかる。周堀は幅1.3～2m、深さ約0.3mをはかり一周する。内部施設は、前方部のくびれ部寄り、墳丘の主軸線上に構築される。旧表土層より掘り込まれており、内法長約1.75m、幅0.52mの箱式石棺。長軸は、墳丘主軸と同方向。石材は、絹雲母片岩。男性人骨1体、女性人骨1体が検出され、女性人骨顔面には点状に赤色料が認められた。頭部を後円部側に向ける。ガラス小玉が出土。古墳周辺より円筒埴輪片、形象埴輪片が出土し、本墳に関係する遺物と考えられる。

昭和46年、杉山晋作調査。宅地造成に伴い湮滅。

寺台古墳　　香取郡東庄町平山（68）

利根川の沖積平野にのぞむ標高約50mの台地平坦面に所在。墳丘はすでに削平され消滅しており、内部施設のみの調査が行なわれた。箱式石棺で地山を掘り込んで構築される。長軸はN—67°—Wを示し、内法長2m、幅0.73m、高さ0.7mをはかる。黒雲母片岩の板石を用い、床面には、石棺石材と同質の細石片が全面に敷かれ、棺内より人骨3体、耳環、金銅製飾薄板が出土。

昭和26年、早稲田大学（金子浩昌）調査。耕作により湮滅。

扶喰古墳　　香取郡東庄町羽計（199）

立地は、婆里古墳参照。墳丘はすでに削平されており、墳丘の高さは不明。径2.6mの円墳で、幅2m、深さ1～1.5mの周堀がめぐる。内部施設は土壙で、長さ2.5m、幅2mの長円形。墳丘南側部分に位置し、長軸はほぼ南北を示す。鉸具、轡、鉄鏃、歯が出土。周堀中より故意に破損された観を呈す状態で須恵器杯、甕、土師器杯、高杯、甕、支脚、鉄が出土し、これらの示す時期は真間期から国分期初頭。内部施設と、周堀出土土器の両者間の時間的隔り等の問題が提起された。

昭和46年、坂井利明調査。宅地造成により湮滅。

〔48.　銚子市〕

野尻古墳群（第1次調査）　　銚子市野尻町（332）

利根川の北岸台地上、標高50mの位置に所在。円墳2基が調査され、2次調査後詳細に報告される予定。1号墳は石室の石材1枚のみ検出された。2号墳は、内部施設は石室、周堀が認められた。石室内より人骨2体、直刀、鉄鏃が出土。

昭和51年、小松繁調査。学校建設に伴い湮滅。遺物は市立銚子高校保管。

柴崎台古墳　　銚子市柴崎3丁目（196）

利根川に面する標高40～50mの台地平坦部に所在。墳丘はすでに削平され消滅していた。周堀は一部確認され、幅1.1m、深さ0.55m、L字状を呈する。全掘していない為形態は不詳であるが、少なくとも円墳ではない。内部施設は南側に一部確認された周堀に隣接する。地山を掘り込んで構築された箱式石棺。攪乱による板石の移動が認められた。長軸はほぼ東西を示し、長さ1.65m、幅0.6mをはかる。蓋石は移動されていた。棺内より直刀、周堀中より須恵器大甕、長頸壺が出土。7世紀末～8世紀初頭と推察される。

昭和45年、銚子市教育委員会調査。耕作により湮滅。遺物は市立銚子高校保管。

〔52.　干潟町〕

長熊古墳　　香取群干潟町鏑木（94）

旧椿海の北岸台地平坦部に、本古墳を含めた古墳群が存在する。墳丘はすでに削平され消滅していた。周堀に関しては未報告。内部施設は、地山を掘り込んで構築された箱式石棺。内法長2m、幅0.75～0.8m、長軸はほぼ東西を示す。側壁3枚、小口各1枚、蓋石1枚、床石3枚の扁平な板石で構築される。人骨3体、耳環、不明鉄製品片が出土。

昭和31年、慶応大学（清水潤三）調査。耕作により湮滅。

〔53.　八日市場市〕

関向古墳　　八日市場市飯塚字関向（252）

大平洋岸の沖積地にのぞむ台地の東端部に所在する。墳丘はほとんど遺存せず。墳形、規模、周堀の存否は不明。横穴式石室遺存。主軸N—12°—Eを示す。玄室、羨道、墓道に区分される。全長5.7m、玄室は長さ約3m、幅約2m、高さ1.7mをはかる。羨道は、長さ2.5～2.7m、幅1.1～1.4mと、羨門から玄門に向うに従い広くなる。飯岡石と呼ばれる硬質砂岩の切石を使用。奥壁、玄室側壁、羨道側壁とも、腰石に大形の切石をたて、その上にやや小形の切石を小口積みにする。玄室右側壁から奥壁に沿って、石棺が造り付けられる。石室と同じ石を用いた組合せ式石棺で、長さ2m、幅0.7m、深さ0.35mをはかる。北側小口石として奥壁を利用するが、西側長側石には玄室右側壁を利用せず、すぐ脇に板石が2枚施される。蓋石は未検出だが、西側長側石の存在より、何らかの被覆施設の存在が示唆される。石棺床面には河原石を敷いていたと推定される。石棺内の出土遺物は皆無。玄室内より、勾玉、管玉、ガラス小玉、九曜文杏葉、轡、刀子、刀装具、歯、羨道内より、環頭大刀（双龍銜珠）、頭椎大刀、直刀、耳環、銅鋺蓋、鉄鏃が出土。6世紀後半～7世紀初頭と推察される。

昭和49年、安藤鴻基調査。古墳は湮滅。石室は芝山はにわ博物館に移築。遺物も同館保管。

内山古墳　　八日市場市内山字観音（294）

栗山川支流、借当川をのぞむ台地上に所在。前方後円墳らしいが、古墳の詳細に関しては未

報告。墳丘は調査前に削平。軟砂岩の切り石積み石棺を検出。人骨、直刀、鉄鏃が出土。古墳時代後期と推定される。

昭和48年、立正大学（丸子亘）調査。

神崎古墳　　八日市場市神崎

台地上の畑地より箱式石棺のみ検出。墳形不明。石棺内より直刀、鉄鏃、勾玉、切子玉、棗玉、管玉が出土。特に直刀は科学分析により「逆甲伏造り」に近い鍛造技術によったものと推定され、注目されている。箱式石棺の詳細は不明。

調査年、調査者不明。湮滅。遺物は八日市場市立公民館保管。

塚原古墳群　　八日市場市入山崎（91・92・93）

九十九里浜にそそぐ栗山川支流借当川にのぞむ台地上に所在。塚原古墳群は前方後円墳１、小円墳40からなる。多くは耕作等により墳丘が削平されている。前方後円墳１基、円墳４基の調査が行なわれた。

１号墳

１号墳は前方後円墳で、墳丘の削平が著しい。墳丘長35m、後円部径15m、同高さ3.2m、前方部は削平の為旧状を遺存しない。周堀は未調査。後円部墳頂下５mで、東西1.5m、南北3.5mの範囲で粘土塊が検出され、盗掘を受けていることが判明。粘土槨に類する施設があったものと思われる。粘土部分より滑石製扁平勾玉と刀子が出土。粘土残存部下層より、手づくね土器、土師器片が出土。また、旧表土層面において手づくね土器が出土。粘土残存部下層及び、旧表土層面よりの出土状況から、２回の祭祀が墳丘築造の過程で行なわれたと推定される。５世紀末～６世紀初頭と推察される。

４号墳

径10m、高さ１mの円墳。周堀は未調査。内部施設の位置、形態に関しては報告されていないが、その存在が、副葬品の出土位置から推定されたと報告されており、木棺直葬施設の存在が推測される。直刀、刀子、銀環、銅釧、管玉、ガラス小玉が出土。

昭和35年、立正大学（丸子亘）調査。後湮滅。

〔54.　光町〕

小川台古墳群　　匝瑳郡光町小川台（251）

栗山川本流と高谷川の合流地点から、栗山川本流をやや遡った東岸台地上に所在する。標高35～40mをはかる。前方後円墳、円墳12、方墳１、計18基で構成され、５基が調査された。

１号墳

径28～29m、高さ約２mの円墳。周堀は古墳北側では認められず、南側部分のみ約½程墳丘

をめぐる。幅３～4.3m、深さ0.3～0.4mをはかる。内部施設は２か所検出され、ともに土壙。第１、第２とも墳頂下0.9～0.95mで確認された。第１は長さ4.8m、幅1.48m、深さ0.3mをはかり、長軸はほぼ東西を示す。第２は長さ４m、幅0.8m、深さ0.15mをはかり、長軸はほぼ東西を示す。第１と第２は、約４mの間隔をとって並行する。第１からは剣、鉄鉾、刀子、鉄鏃、有孔円板、臼玉、第２からは剣、鉄鏃が出土。第１と第２の中間から剣、鉄斧、鉄鏃、臼玉が出土。他に周堀底面より土師器、盌、墳頂部より土師器壺が出土。５世紀代と報告されているが、６世紀初頭頃と推察される。

２号墳

攪乱が著しい。径約21mの円墳で、幅約2.6m、深さ0.8mの周堀が一周する。内部施設は未検出。ただ砂質粘土様の土砂が耕作土中に混入しており、内部施設の一部であれば、耕作により消滅したものと推察される。

３号墳

攪乱が著しい。墳丘長34.5m、後円部径23.5m、前方部幅21m、前方部を南西面する前方後円墳。幅２～３m、深さ約0.35mの周堀が一周する。内部施設は未検出。

４号墳

攪乱が著しい。一辺約13.8mの方墳で、幅1.5～2.3mの周堀がめぐる。内部施設は墳丘南側に位置し、石材が攪乱の為散在していたが、掘り方が周堀南辺に開口する横穴式石室と推察される。掘り方は周堀から奥壁まで約４m、幅1.5m。周堀内に石材が散在。掘り方内から直刀、須恵器片、開口部付近の周堀中より直刀、倒卵形鍔、刀装具、鉄鏃、須恵器高台付長頸壺、杯、甕が出土。７世紀末～８世紀初頭と推察される。

５号墳

墳丘長約33.4m、後円部径約22m、同高さ2.6m、前方部幅約21m、同高さ約2.55mの前方後円墳で、長軸はほぼ東西を示す。周堀は一部で二重にめぐる。前方部前端の一方のコーナー部分に、ブリッジがある。北側墳丘中段の前方部から後円部間には形象埴輪列が検出された。形象埴輪は人物埴輪（馬子、武人、女子、男子）、動物埴輪（馬、鶏首、水鳥、鹿）、家形埴輪が出土した。形象埴輪列下段には、円筒埴輪、朝顔形埴輪の列が、墳丘裾部付近に配列されていたと考えられる。埴輪は、原位置を保っているものが少ないが、形象埴輪の配列順序は、注目されよう。後円部墳頂下約1.2mで土壙を検出。土壙は長さ約3.8～４m、幅0.8～１m、深さ約0.5mをはかり、長軸は東西を示す。直刀、刀子、鉄鏃、鍔、鐙、勾玉、丸玉、ガラス小玉が出土。北側周堀内より土師器杯が出土。５世紀末～６世紀初頭と報告されているが、６世紀中葉頃と推察される。

昭和49年、芝山はにわ博物館（浜名徳永）調査。農業構造改善工事により湮滅。遺物は同博物館保管。

宝米５号墳　　匝瑳郡光町宝米（142）

栗山川下流右岸の、標高20～30ｍの台地上に所在し、計９基を確認。径約17ｍ、高さ約３ｍの円墳。墳丘南側裾部旧表土面下に横穴式石室が検出された。凝灰岩の切り石を用いた単室の石室で、全長3.1ｍ、玄室長1.9ｍ、奥壁幅1.13ｍ、羨道長0.7ｍ、羨道部幅0.67ｍ、主軸はＮ―23°―Ｗを示す。床面は砂岩砕石が全面に敷かれ、玄室床面は羨道床面より約0.2ｍ程低い。玄門閉塞石が遺存。出土遺物は皆無。

昭和41年、杉山晋作が緊急調査。後湮滅。

宝米６号墳

墳丘はすでに削平され湮滅していた。凝灰質砂岩を用いた横穴式石室があり、単室無袖式。全長３ｍ、玄室長２ｍ、奥壁幅1.19ｍ、羨道長0.66ｍ、幅1.04ｍ、主軸はＮ―16°―Ｗを示す。玄門閉塞石が遺存。遺物は皆無。

宝米５号墳に同じ。

〔55.　多古町〕

多古台古墳　　香取郡多古町多古台（286）

栗山川と多古橋川の合流する地点の、標高約40ｍの台地に所在する。墳丘は後世の変改が著しい。径19.5ｍ、高さ３ｍの円墳で、墳丘裾部において地山整形が認められる。周堀は認められない。内部施設は旧表土面から掘り込まれた土壙で、長さ3.95ｍ、幅0.7ｍ、深さ0.15ｍ、長軸はほぼ南北方向を示す。遺物の出土状況から頭位は北向きと推察される。剣、直刀、刀子、鉄鏃、石製模造品（鏡、双孔円板、鎌、剣、刀子、斧頭）、鉄斧、針、釣針、臼玉、須恵器坩、土錘、丹が出土。５世紀後半と推察される。

昭和51年、日本文化財研究所（柿沼修平）調査。宅地造成により湮滅。

坂並白貝古墳群　　香取郡多古町坂並（243・324）

栗山川東岸台地上に所在する。坂並白貝古墳群は前方後円墳を含む計69基からなる。

17号墳

径12ｍ、高さ1.2ｍの円墳で、幅1.5～2.8ｍ、深さ0.55～0.9ｍの周堀がめぐる。内部施設は未検出。

18号墳

墳丘は後円部約¼のみ遺存。墳丘長30ｍ、後円部径約21ｍ、くびれ部幅約12ｍ、前方部幅12.4ｍの前方後円墳。幅3.3～5.2ｍ、深さ0.5～0.9ｍの周堀が一周する。主軸は、Ｎ―17°―Ｅ。内部施設は４か所検出された。第１は後円部西側裾部に位置する。地山を掘り込んで構築された箱式石棺。内法の長さ1.9ｍ、幅0.53ｍ、床高さ0.6ｍをはかり、長軸はＮ―2°―Ｅを示す。床面は、ローム層。第２は後円部東側くびれ部に位置する。半地下式の箱式石棺。内法の

長さ1.9m、幅0.57mをはかり、長軸はN—36°—Eを示す。床面はローム層。第3は後円部東側ややくびれ部に寄った位置にある。半地下式の箱式石棺。内法の長さ0.95m、幅0.25m、高さ0.25mをはかる。床面に拳大の軟砂岩が敷かれる。長軸はN—44°—Eを示す。第4は後円部東側に位置し、床面のみ遺存。内法の長さ1.85m、幅1mをはかり、長軸はN—18°—Eを示す。床面は雲母片岩が敷かれる。第1、第2は軟質砂岩、第3は軟質砂岩及び雲母片岩、第4は雲母片岩を使用。出土遺物は、第1から直刀、剣、刀子、鉄鏃、金銅張装身具、鉄製装身具、人骨2体、第2から直刀、鉄鏃、人骨3体、第3からガラス小玉、歯、第4から耳環、人骨が出土。

20号墳

径19.5mの円墳で、幅1.7～4.2m、深さ0.4～0.75mの周堀がめぐる。内部施設は南側裾部に位置する。旧表土層より掘り込まれた土壙。2段に構築され、上段長さ3.2m、幅1.6m、深さ0.55m、下段は上段壙底を掘り込み、長さ2.8m、幅0.8m、深さ0.15mをはかる。周囲に厚さ約0.2mの粘土帯が施される。下段土壙の規模が木棺の規模であろう。長軸はほぼ東西を示す。下段土壙内より直刀、刀子、鉄鏃が出土。

21号墳

調査前に墳丘の半分が削平されていた。径17.5mの円墳で、幅2.8～3.8m、深さ0.3～0.65mの周堀がめぐる。内部施設は、旧表土上0.3m程積まれた墳丘盛土面より掘り込まれた土壙。長さ2m、幅0.6mをはかり、長軸はほぼ東西を示す。土壙の両端に粘土が施され、木棺小口部にあてられたものと推定される。

66号墳

墳丘は約½のみ遺存。径15～12mをはかる、やや長円形の円墳。幅1.5～2mの周堀がめぐる。地山を掘り込んで構築される地下式の箱式石棺を内蔵。石棺は約½のみの残存で、詳細な規模は不明。石材は雲母片岩の板石で、床面は、粘土面上に雲母片岩破片が敷かれる。人骨2体、直刀が出土。

昭和50年、多古町教育委員会調査。66号墳のみ昭和49年調査。後湮滅。

駒木台古墳群　　香取郡多古町字駒木台（294）

栗山川を望む標高35～40mの平坦な台地上に、円墳5基、方墳1基が所在。古墳の詳細は未報告。軟質砂岩の切り石組の石棺を内部施設とする古墳5基（方墳を含む）があり、人骨、直刀、鉄鏃、管玉、勾玉、ガラス玉、刀子が出土したとされる。墳丘下より、鬼高期の住居址を検出。

昭和47年、立正大学（丸子亘）調査。学校建設により消滅。遺物は、多古町教育委員会保管。

正徳院古墳　　香取郡多古町染井（102）

染井古墳群10号墳とも呼称される。方墳で、一辺約30m、高さ約７mをはかり、各稜は、東、西、南、北を指す。幅３mの周堀が一周する。内部施設は未検出。

昭和33年、明治大学（後藤守一）調査。

〔57.　横芝町〕

殿塚古墳　　山武郡横芝町中台（68）

木戸川に面する台地上にある。墳丘長88m、後円部、前方部幅ともに58mを測る前方後円墳で、長方形の２重周堀がめぐる。埴輪は墳頂部、墳丘中段、墳丘下段、内堤に樹立されており、円筒埴輪のほか器財、人物、動物、家等の形象埴輪が検出された。内部施設は後円部中段に構築された長さ３m以上の横穴式石室で、全面に赤色料が塗布され、頭椎大刀１、直刀５、刀子１、鉄鏃、銅鋺３、鉸具２、金銅鈴８、金環６、勾玉１、ガラス丸玉９、ガラス小玉、棗玉５が出土した。７世紀初頭の築造と推測される。種々の形象埴輪が列を形成しているのが確認された著名な古墳。

昭和31年、早稲田大学考古学研究室（滝口宏）調査。墳丘は指定保存され、遺物は芝山はにわ博物館および早稲田大学考古学研究室保管。

姫塚古墳　　山武郡横芝町外記（68）

木戸川に面する台地上にあり、殿塚古墳と並ぶ。墳丘長58mの前方後円墳で、墳丘中段に埴輪列が樹立されていた。円筒埴輪のほかに、人物、動物等の形象埴輪が検出された。内部施設は、前方部南側に軟砂岩を用いて構築された長さ5.7mの横穴式石室で、方頭大刀１、直刀、刀子、鉄鏃、鉄釘、馬具（雲珠、轡、杏葉）、金銅製球形飾、金銅製飾金具、金環６、勾玉４、切子玉２、棗玉３、ガラス小玉100、須恵器２が出土した。西暦600年前後の築造と推測される。

昭和31年、早稲田大学考古学研究室（滝口宏）調査。墳丘は保存され、遺物は芝山はにわ博物館、早稲田大学考古学研究室保管。

取立古墳　　山武郡横芝町

前方後円墳で、埴輪が樹立し、円筒埴輪のほかに、人物、家等の形象埴輪が認められた。また直刀、鉄鏃も出土した。

大総小学校保管。両総用水工事にて破壊。

〔58.　芝山町〕

山田１号墳　　山武郡芝山町山田（105）

高谷川と木戸川の上流に挟まれた台地上にある。径30m余の円墳で、外部施設はない。内部

施設は西南裾に軟砂岩を用いて構築された長さ約２ｍの箱式石棺で、耳環２、ガラス小玉、直刀５、鉄鏃６、須恵器片が出土した。７世紀前半の築造かと推測される。

山田２号墳

径25ｍ程の円墳で、外部施設はない。内部施設は西南裾に軟砂岩を用いて構築された長さ２ｍの箱式石棺で、直刀１、刀子２、鉄鏃、耳環２、ガラス小玉、土製小玉等が出土した。７世紀前半の築造と推測される。

山田３号墳

径20ｍ弱の円墳とみられ、外部施設、内部施設とも検出できなかった。

山田４号墳

径20ｍ以上の円墳で外部施設はなし。内部施設は墳丘中に構築された長さ２ｍ程の箱式石棺で砂岩を用いていた。中から直刀３、銀象嵌を有する円頭大刀柄頭２、鉄鏃、鉄地銀銅張耳環２が出土した。６世紀後半の築造かと推測される。

昭和37年、早稲田大学考古学研究会（馬目順一他）調査。遺物は早稲田大学考古学研究室保管。

殿部田１号墳　　山武郡芝山町殿部田

高谷川に面する台地上にあり、墳丘長31ｍの前方後円墳で、埴輪列を有していた。円筒埴輪のほかに、人物、動物、家形等の形象埴輪が検出された。内部施設は不明。６世紀後半の築造と認められる。遺物は芝山はにわ博物館保管。

木戸前１号墳（高田第１号墳）　　山武郡芝山町高田（135）

木戸川流域の台地上にある墳丘長40ｍの前方後円墳で、２段に埴輪が樹立されていた。円筒埴輪のほかに人物、動物、家、器財等の形象埴輪が検出されている。内部施設は、後円部頂に軟砂岩を用いて構築された長さ２ｍの箱式石棺で、耳環、ガラス小玉、直刀、刀子、鉄鏃が出土した。６世紀後半の築造と推測される。墳丘は削平。

昭和40年、芝山はにわ博物館（坂井利明）調査。遺物は芝山はにわ博物館保管。

高田古墳　　山武郡芝山町高田字御林

木戸川流域の台地上にある前方後円墳で、南裾から片岩を用いた長さ２ｍの箱式石棺が発見された。直刀２、鉄鏃、棗玉10、耳環４、土器２、勾玉８、金銅環１、管玉１、緒締玉１が出土している。木戸前１号墳に近接するものか。遺物所在不明。

宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）　　山武郡芝山町高田（94）

木戸川に面する台地上にあり、墳丘長40ｍの前方後円墳で、人物、動物、家等の形象埴輪を

樹立していた。内部施設はくびれ部に構築された箱式石棺で、赤色料が全面に塗布され、耳環４、銀製刀子１、雲珠１、轡１、ガラス小玉89、直刀、鉄鏃が出土した。西暦600年前後の築造と推測される。

昭和32年、芝山はにわ博物館（玉口時雄）調査。遺物は芝山はにわ博物館保管。

〔59.　松尾町〕

朝日ノ岡古墳　　山武郡松尾町蕪木朝日ノ岡（73・74）

九十九里に面した台地上に立地。墳丘長76m、後円部径48m、前方部幅40ｍの前方後円墳で、３列の埴輪列をめぐらし、円筒埴輪と人物、動物等の形象埴輪が配置されていた。内部施設は、玄室長4.1mの横穴式石室で、管玉１、須恵器片、土師器片を検出した。６世紀後半頃の築造と推測される。焼粘土を使用しているとされるが不明。

昭和27年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。墳丘は保存され、遺物は日本大学保管。

蕪木第５号墳（名城５号墳）　　山武郡松尾町八田字名代（55・57・73・106）

九十九里平野に面する台地上にある墳丘長46mの前方後円墳で外部施設はなし。内部施設は長さ約７ｍの複室の横穴式石室で、須恵器３、直刀12、刀子３、金銅製耳環４、金銅製巾着形容器１、金銅製刀子鞘１、ガラス小玉46、馬具１（雲珠、辻金具等）、鉄鋲（鉄釘？）等が出土した。西暦600年前後の築造と推測され、特に金銅製品に特異なるものが存在する点に注目される。また、朱も検出されている。

昭和28年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。遺物は東京国立博物館蔵。

諏訪塚古墳　　山武郡松尾町大堤（76）

大堤権現塚古墳が中心となる大堤古墳群中の大円墳で、金銅製刀子鞘、金銅鈴が出土している。

日本大学考古学会調査。遺物は日本大学保管。

〔60.　成東町〕

不動塚古墳　　山武郡成東町板附（47・62・65）

成東川流域に面する台地上にあり、墳丘長63m、後円部径、前方部幅ともに30mの前方後円墳で、盾形の周堀がめぐり、外堤も存在する。外部施設はなく、内部施設は横穴式石室で4.8ｍを測り、ガラス小玉、鉄鏃、鉄釘が出土した。７世紀前半の築造と推測される。

遺物は日本大学保管。線刻画の存在が指摘されたが詳細不明。

西ノ台古墳　　山武郡成東町板附字西ノ台（62・80）

成東川流域に面する台地上にあり、墳丘長90mの前方後円墳で、盾形の周堀を一部には2重にめぐらす。埴輪は裾に2列、壇上部に2列、墳頂部に2列の計6列が配置されていたと報告され、円筒埴輪のほかに、人物、動物等の形象埴輪も認められる。また、2重周堀間の堤上にも円筒埴輪が樹立されていたという。内部施設は長さ6.6mの横穴式石室で、土師器片が検出されている。7世紀初頭かと推測される。

昭和29年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。遺物は日本大学保管。

板附1号墳　　山武郡成東町板附（80）

西ノ台古墳に隣接する径約20mの円墳とみられ、外部施設、内部施設とも検出せず。周堀の一部で円筒埴輪片を検出しているが西ノ台古墳の埴輪と考えられる。土砂採取のため破壊。

板附2号墳

板附古墳群のなかの西ノ台古墳に隣接する。径約20mの円墳とみられ、外部施設はなし。内部施設は墳頂部に設けられた幅1.2m、長さ2.8mの土壙で、鉄斧1、鉄剣1、刀子1が出土した。6世紀前半に属するのであろうか。なお、周堀の一部から埴輪が検出されているが、西ノ台古墳の埴輪と考えられる。土砂採取のため破壊。遺物は成東町歴史民俗資料館保管。

板附所在の一円墳（板附4号墳）　山武郡成東町板附字西ノ台

西ノ台古墳の前方部周堀にかかっている円墳で、内部施設は検出されなかった。墳頂部から、直刀片、銅釧、勾玉等が出土したとされる。古墳の位置図は「日本考古学年報、7」141頁の西ノ台古墳墳丘実測図にある。

昭和29年、日本大学考古学会（軽部慈恩）調査。遺物は日本大学保管。

経僧塚古墳　　山武郡成東町野堀（174）

境川流域の台地上にある麻生新田古墳群に属する墳丘径45mの円墳で、2重周堀をめぐらし外径78mを測る。埴輪は内堤、墳丘中段、墳頂部の3段に見られ、円筒埴輪のほか、人物、動物等の形象埴輪が出土した。内部施設は南に長さ6.3mの横穴式石室が、南西に長さ1.85mの箱式石棺が検出された。石室から棗玉、小玉、直刀、刀子、馬具が、石棺から金銅製鈴、金銅製圭頭大刀、直刀6、刀子2、鉄鏃、馬具、金銅製耳環2、鉄地銀張耳環2、小玉、胡籙等が出土した。6世紀後半の築造と推測される。墳丘規模、内部施設の多様性、遺物の種類等が注目される。

昭和45年、芝山はにわ博物館（市毛勲）調査。遺物は芝山はにわ博物館保管。墳丘は保存。

〔61.　山武町〕

中津田古墳　　山武郡山武町板中新田（297）

木戸川流域西岸の台地上にあり、他に3基の古墳が所在した。殿塚、姫塚古墳の対岸に位置

する。径23mの円墳で、幅３ｍの溝がめぐる。内部施設は旧地表下に掘られた3.3×2.1ｍの土壙内に構築された箱式石棺で、壁に砂岩切石、蓋に片岩を用いており、長さ1.8m、幅0.6mをはかる。直刀３、鉄鏃18および人骨４体分が出土し、赤色料も検出した。人骨は成人以上で、女１、男３と鑑定されている。７世紀後半から８世紀前半の築造と報告しているが、７世紀前半に遡るであろう。

昭和51年、山武考古学研究会（平岡和夫）調査。遺物は山武町教育委員会保管。

埴谷１号墳　　山武郡山武町埴谷（75）

境川流域の台地上にあり、前方後円墳３基のほか、円墳６基が所在する。墳丘長36m、後円部径25m、前方部幅22mの前方後円墳で、幅3.5～５ｍの周堀がめぐり、盾形の周堀かとも思われる。内部施設は後円部に構築された複室の横穴式石室で、長さ５ｍ、幅0.5～0.7mをはかり、狭長な羽子板平面形を呈する。石室内から刀子１、鉄鏃３、須恵器脚付盌１のほか２点が、後円部頂から直刀１、鉄鏃１、土師器片１が出土。外部施設は、前方部および墳丘西側裾に埴輪列が検出され、円筒埴輪の他、武人、馬、家の形象埴輪が認められた。６世紀末葉から７世紀初頭の築造と推測される。

昭和30年頃、東金高校考古学クラブ（川戸彰）調査。遺物は東金女子高等学校保管。

矢部の一円墳　　山武郡山武町矢部

円墳で、約2.5mの軟砂岩使用の横穴式石室を半地下式に構築している。

昭和26年、日本大学考古学会調査。

〔62.　東金市〕

家之子古墳群　　東金市家之子（132）

九十九里平野に面する台地突端から1km程奥へはいった位置に所在する。前方後円墳５、方墳５、円墳64の計74基からなり、南西から北東へ細長く、1.5km程の範囲に分布する。

24号墳

東西11m、南北16m、高さ2.7m程の墳丘が遺存。幅４～５ｍの周堀が、内縁径23m程の円形にめぐる。南東に開口する横穴式石室を伴う。単室、玄室は両袖式。砂岩切石を用いる。玄室長2.1m、幅1.1m、高さ1.6m、羨道長約２ｍ、幅１ｍ。盗掘にあい、羨道の破壊が著しい。羨道、羨門外で鉄鏃19を採集。

62号墳

古く盗掘にあい石棺は露出、墳丘も変容をうけていた。幅２ｍ程の周堀を１か所で確認したが、全体のプランは不明。おそらく円墳と思われる。石棺は西裾寄りにあり、主軸をほぼ南北にとる。砂岩切石を用いる。内法長、1.96m、幅0.5m、高さ0.76m。盗掘時に直刀１出土。

66号墳

墳丘は変容の度がひどいが、周堀を３か所で検出、本来は径約26m程の円墳と推定。ほぼ真南に開口する横穴式石室を伴う。単室、玄室は両袖式。砂岩の切石を用いる。玄室長約２m、幅0.9m、羨道長約1.4m、幅0.55～0.6m。盗掘にあい、鉄鏃約20が出土したのみ。

75号墳

東西20m、南北15m、高さ３mの、やや長方形の方墳。幅２～2.5mの周堀がめぐる。墳丘南裾に横穴式石室が開口。単室、玄室は両袖式。砂岩の切石を用いる。玄室は天井石も落下せず残り良好な遺存度を示す。玄室長2.2m、幅1.2m、高さ1.6m、羨道長1.03m、幅0.53m。天井石は４枚。玄室床面にも切石を敷く。

以上４基は昭和42年、丸子亘、下津谷達男、川戸彰調査。ゴルフコース造成に伴い湮滅。他の古墳はコースにとり入れて保存。

51号墳

径約16mの円墳。全長5.5mの横穴式石室を伴う。玄室長1.9m。羨門外から鉄鏃６mが出土。

昭和36年、耕作により石室の一部が露出したため川戸彰調査。

〔66.　一宮町〕

待山１号墳　　長生郡一宮町待山（162・200）

一宮川下流右岸の沖積微高地に所在する。水田面よりの比高２m～３mをはかり、周辺に６基の古墳がある。墳丘の大部分が削平を受け遺存度は悪い。墳丘高は、2.8mを現存する。北側残存部調査の結果、径23m前後の円墳または帆立貝式古墳と判明。円筒埴輪列が、墳丘北西裾部で検出された。埴輪は原位置を保っていると思われ、埴輪の間隔は0.25～0.30mをはかる。周堀は一部で確認されたが調査が不充分で一周するかどうか不明。幅は1.6m。内部施設は検出されなかった。

昭和40年、上智大学史学会調査。宅地造成に伴い消滅。

〔67.　睦沢村〕

浅間山１号墳　　長生郡睦沢村下之郷字根崎（253）

一宮川の支流瑞沢川にのぞむ標高30mの台地上に所在する。径約26m、高さ3.5mをはかる円墳。周堀は認められない。墳頂下約0.7mで、二基の主体部が検出された。ともに粘土敷の土壙で、墳丘盛土中途より切り込まれ構築される。第１主体部は、全長3.8～3.9m、幅0.8m、深さ0.2mをはかり、長軸はN—40°—Eを示す。第２主体部は、第１主体部に隣接して検出され、長さ1.45m、幅0.85m、深さ0.16mをはかり、長軸はN—30°—Eを示す。第１主体部より変形獣形鏡、剣、直刀、鉄鏃、三輪玉、有孔円板が出土。第１主体部棺外遺物として、剣、

鉄鏃、胡籙、鉸具、環状鉄製品があった。第２主体部からは剣が出土。墳丘盛土中より、直刀が出土。５世紀末から６世紀初頭と推察される。

昭和48年、宅地造成に先立ち寺村光晴調査。後湮滅。

〔68.　長南町〕

油殿古墳群　　長生郡長南町豊原（250）

一宮川支流の埴生川にのぞむ標高40mをはかる独立丘陵上に所在する。前方後円墳２、墳円２の計４基があり、４基とも墳丘測量、墳丘周辺部のみに限った調査が行なわれた。

１号墳

１号墳は全長93m、前方部幅26mの前方後円墳で、幅6.8m、深さ約0.4mの周堀が認められた。後円部北側からくびれ部にかけ、底部穿孔された土師器の大形壺（五領式）が出土した。

２号墳

墳丘の詳細な規模は確認出来なかったが、墳丘測量数値では、墳丘長30m、後円部径20m、前方部幅10m、墳丘高2.3mの前方後円墳である。周堀は認められない。

３号墳

径10m、高さ１mをはかる円墳と推察される。周堀は認められない。

４号墳

径10m、高さ１mをはかる円墳と推察される。周堀は認められなかった。

昭和50年、早稲田大学（滝口宏）調査。昭和49年県史跡に指定。

能満寺古墳　　長生郡長南町芝原（39）

九十九里に流出する一宮川支流の長楽寺川北岸の舌状台地突端部に所在する。標高60mをはかり、周囲には数基の円墳が所在する。全長73.5m、後円部径50m、前方部幅20mをはかる前方後円墳。主軸はN—80°—Wを示し、ほぼ東西に向き、前方部が西面する。周堀は未確認。内部施設は、後円部墳頂下1.5mで検出された。木炭槨で長さ7.5m、幅２mをはかり、舟形に近い形態を呈す。槨の長軸は、墳丘主軸とほぼ同一方向を示す。土層断面より槨の切り込み面は、墳丘盛土最上面と推察される。木炭槨内より、鏡２（一面は獣形鏡、一面は判別不可能）、大刀１、剣２、ガラス丸玉２、ガラス小玉８、鉇１、銅鏃７、鉄斧１、朱、土師器片が出土。また、木炭槨上部層より土師器高杯が故意に破砕された状況で出土した。４世紀末から５世紀初頭と推察される。

昭和22年、明治大学（大塚初重）調査。昭和50年、県史跡に指定。出土遺物は明治大学考古学研究室保管。

〔71.　大多喜町〕

横山古墳群　　夷隅郡大多喜町下大多喜（51）

夷隅川にのぞむ標高約20mの台地に所在する。本古墳群より南東方向約１mに打岡台古墳群が存在する。

１号墳

明治20年代、小学校建設に伴い消滅し、詳細は不明。直刀、鏡板、杏葉が採集され、鏡板・杏葉は、現在早稲田大学考古学研究室が保管。

２号墳

墳丘が約½削平されていた。墳丘形態の報告なし。内部施設は未検出。

昭和28年、早稲田大学（滝口宏）調査。後湮滅。

大宮氏旧宅裏山古墳　　夷隅郡大多喜町下大多喜（51））

夷隅川の上流、大多喜町の北東方向にひろがる台地上に位置する円墳。昭和13年頃所有者が発掘。半円方形帯神獣鏡、勾玉、鉄鏃、馬具が出土。鏡は直径15.2cm、鏡面は半径で反り２mm、紐の周囲に22個の珠文帯を配す。内区には８個の環状乳を置き、交互に神獣を配する。銘帯は珠文地、半円、方格は各12個あり、半円中央に１個の螺旋文をおき、放射状に４区をつくり、T字形を４線及び直線で入れる。方格内には４字宛の銘文が認められるが、磨滅が著しく判読できない。白銅製、県指定有形文化財。最近、さきたま古墳群中稲荷山古墳の銘文入り鉄剣と伴出した鏡の同范鏡として注目された。古墳は現存する。推定規模径15m、高さ2.5m。内部施設の構造は不明。

打岡台古墳群　　夷隅郡大多喜町下大多喜（51・106）

大多喜町の東方、夷隅川にのぞむ台地上に所在する。台地平坦部は広く、標高約30m、南へゆるやかに傾斜する。南端は夷隅川の侵蝕により深い谷となる。台地上に５基の古墳が確認され、４基が調査された。

１号墳

径10～15mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設とは報告されていないが墳頂下0.4mで直刀が出土しており、木棺直葬施設があったと推定される。

２号墳

径約10m、高さ約2.8mの円墳と報告。周堀は未調査。内部主体は未検出。

３号墳

径約14m、高さ約2.6mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設として報告されていないが、墳頂下0.5mで鉄製品断片が出土しており、木棺直葬施設があったと推定される。

4号墳

径約15m、高さ約3mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設は未検出。

昭和28年、早稲田大学（滝口宏）調査。

高谷古墳群　　夷隅郡大多喜町高谷（63）

大多喜町の北東、夷隅川にのぞむ標高約60mの舌状台地上に所在。現存3基であるが、開墾等により4～5基消滅したという。

1号墳

径約13.5m、高さ約2.75mの円墳。周堀は未調査。内部施設は未検出。

2号墳

径14～16m、高さ約2.1mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設は未検出。

3号墳

径約19m、高さ3.6mの円墳と報告。周堀は未調査。内部施設としては報告されていないが、墳丘中央やや南寄り、墳頂下0.36mで、直刀、剣が0.4mの間隔で並列して出土したので、木棺直葬施設の存在が推定される。

昭和29年、渡辺包夫調査。

台古墳　　夷隅郡大多喜町下大多喜（51）

夷隅川の上流、大多喜町の北東にひろがる標高60m程の台地上に所在する。墳丘長33.8m、後円部径16m、前方部幅8m、同高さ約1.5mをはかる前方後円墳。周堀に関しては報告がない。内部施設として明瞭に検出されなかったが、後円部墳頂下約0.4mで、厚さ約10cmの粘土層が認められ、直刀が出土している。規模、形態に関しては報告されていない。北側くびれ部から前方部にかけ、須恵器片、土師器片が出土。

昭和27年、早稲田大学（滝口宏）調査。

2　（横穴）

〔2.　館山市〕

南條横穴群　　館山市南條

３群36基確認。１群１基、２群18基、３群17基。付近に数基の横穴が開口しており、群、基数は増加するものと報告されている。横穴の概略は、玄室、羨道が明確に区別されず、奥壁面中央部分、床面よりやや高い位置に、壁面を穿って小穴が施される。小穴は、長さ約1.2～1.9m、幅約1.8m前後、床面よりの高さ約0.7～１m程の規模。このような横穴形態は安房地方特有の形態である。

昭和３年、踏査。

東長田横穴群　　館山市東長田

17基確認。横穴形態は、南條横穴群とほぼ同様の横穴と報告されている。

昭和３年、踏査。

〔12.　富津市〕

絹根方横穴群　　富津市大貫町根方（72・138）

岩瀬川に開析された北側台地南斜面に所在する。岩瀬川流域一帯は、鹿島、谷堀、池田、立畑、堀口の横穴群が存在する。この台地の斜面には、２か所に横穴群が認められ、西側に位置するものを絹横穴群、東側に位置するものを絹根方横穴群と区分している。絹根方横穴群は１群10基、上下２段で構成され、下段４基（１～４号）、上段６基（５～10号）。

１号

全長5.2m、玄室長2.05m、幅2.21m、羨道長3.15m、幅1.23～1.5m、主軸N—43°—W。玄室は両袖式、羨道床面より1.35m高い棺台が施される。棺台に刳り抜き棺等の施設は認められない。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.4mをはかる。羨道左側壁面に、「許世」「大同元年」の銘が陰刻される。書体は六朝風とされる。右側壁面には「大同□年」「古世」と陰刻される。両文字とも「コセ」と読め、偽銘でなければ、房総の巨勢氏との関係が考えられる。

６号

全長7.95m、玄室長3.2m、幅3.04m、羨道長4.75m、幅1.15～1.5m。主軸方向は未報告。玄室は両袖式。羨道床面より1.4m高い棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井

までの高さ1.76ｍをはかる。

9号

全長５ｍ、玄室長1.85ｍ、幅2.15ｍ、羨道長2.85ｍ、幅1.3～1.35ｍ、主軸N—46°—W。玄室は両袖式、羨道床面より1.35ｍ高い棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.25ｍをはかる。

10号

全長5.43ｍ、玄室長2.05ｍ、幅2.26ｍ、羨道長3.38ｍ、幅1.15～1.4ｍ、主軸N—56°—W。玄室は両袖式、羨道床面よりの高さ1.3ｍの棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで高さ1.4ｍをはかる。羨道右側壁、ほぼ中央に、「木」字の陰刻がある。

昭和37年、平野元三郎、滝口宏調査。現存。昭和41年県指定史跡。

大満横穴群　　富津市岩坂字大満（344）

湊川下流北岸の台地斜面に所在する。４群からなり、第１群２基、第２群19基、第３群30基、第４群７基をかぞえる。付近には湊岩崎（１群８基）、湊山崎（１群30基）、岩坂白塚（３群21基）、岩坂水神谷（２群８基）、加藤入山（１群13基）、砂坂（５群46基）、高山（１群30基）、湊正方（２群30基）の各横穴群が所在する。

第１群１号

全長5.85m、玄室長3.6m、幅3.45m、羨道長2.25m、幅１～1.2m、主軸N—10°—W。玄室は両袖式。羨道底面よりの高さ１m、幅1.07ｍの棺台が、コの字状に施される。奥壁、左側壁側の２か所に刳り抜き棺が施され、奥壁側は長さ0.6m、幅1.85m、深さ0.45m、左側壁側は長さ２m、幅0.65m、深さ0.4mをはかる。羨道には、羨門より0.3m入った両壁面に、0.05×0.2m、奥行0.05mの上下に細長い方形の仕口穴が各３か所ずつ認められる。左右とも、対応していることにより木製の閉塞施設を設置するための仕口穴と報告されている。玄室奥壁、羨道両壁面に線刻画が認められる。奥壁中央部に船体が描かれる。船体は半月状を呈し、船体上に格子状の垣立が、船体中央に檣の下半が表現される。船体の全長は約0.6m。羨道左壁にも船体が描かれる。図柄は舳を右に向け一枚の帆に風を受けて帆走する帆船で、船体全長0.46m、檣先端から船底まで0.54m。船体は舳と艫が高くあがった半円形を呈す。舳の右方には波と思われる表現が認められる。羨道右壁にも帆船が描かれる。左壁の帆船に比し、小形で抽象的。舳艫を高くあげたゴンドラ状の船体中央に檣を立てる。船体全長0.44m、檣先端より船底まで0.32m。この左隣に、多数の曲線を組みあわせた幅0.2m、高さ0.21mの、網を表現したと推察される線刻がある。天井はドーム形、棺台床面より天井まで2.35mをはかる。玄室内より直刀、鉄鏃、鉄製釣針、須恵器（杯蓋）、土師器（杯）が出土。

第１群２号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長5.8m、玄室長3.3m、幅3.5m、羨道長2.5m、幅１

～1.5m。ほぼ真南に開口する。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ1mの棺台が施される。玄門部左右壁に幅0.5m、深さ0.1mの掘り込みが認められ、玄門閉塞施設に関連するものと報告されている。棺台床面に貝殻破片が認められた（貝はツメタ貝、ハマグリ、ベンケイ貝、バカ貝、ホタテ貝、マガキ、オキシジミ、アカ貝、イタボ貝）。玄室天井ほぼ中央に、船の線刻画が認められる。檣の上半部を欠く船体で、全長0.66m、檣上端より船底まで0.29m。船体は半月形を呈し、舳が艫にくらべ著しく高く上る。船体上部には格子状に棚状のものが描かれる。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.65mをはかる。玄室内より人骨、鉄鏃、土師器（杯）が出土。なお前庭部は昭和47年の再調査で確認された。

以上2基は昭和27年、学習院高等科史学部（酒詰仲男）調査。現存。

第3群1号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長8.5m、玄室長3.4m、幅3.7～3.9m、羨道長3.1m、幅1.8～2.4m、前庭長2m、主軸N—41°—W。玄室は両袖式、羨道床面より高い位置に棺台が施されるが、攪乱されている。天井中央に円形の浅い掘り込みがあり、ここから四隅に、幅広の、のみによる整形痕が残る。一見方形寄棟のつくりにみえるが、全体としてドーム形を呈す。羨道床面より天井まで2.5m。前庭部は羨門より左右へ、台地岩盤をほぼ垂直にカットし、梯形状を呈す。羨道床面と同レベルよりはじまり、ゆるやかに傾斜する。第3群2号横穴を切って構築される。羨道より、土師器片（糸切り底）が検出されたのみ。

第3群3号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長8.8m、玄室長4m、幅4m、羨道長3m、幅1.8m、前庭長1.8m、主軸N—7°—W。玄室は右片袖式。羨道床面よりの高さ1.1mの棺台が施される。棺台奥壁、右側壁に沿い造り出しの刳り抜き棺がある。奥壁側は長さ0.6m、幅1.95m、深さ0.55m、右側壁側は長さ1.65m、幅0.55m、深さ0.64m。両棺とも壁反対側には棺側壁が施されず、両端部にはめ込みの受けが施される。天井中央に一辺0.55m、深さ約0.05mの方形の掘り込みが施され、方形四隅から玄室コーナへ幅0.15mの浅い溝がつづく。宝形四柱造りの家形天井。棺台床面より天井まで2.2mをはかる。天井の一部は赤彩され、部分によってはかなり鮮やかに認められる。

第3群3号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。玄室長8.7m、玄室長3.2m、幅3.7～4m、羨道長4.6m、幅1～1.68m、前庭長0.9m、幅2.5m、主軸N—46°—E、玄室は両袖式、羨道床面よりの高さ0.7mをはかる棺台が施される。棺台は攪乱が著しい。奥壁コーナから右側壁に沿い浅い溝で長方形に区画された棺状部分が僅かに残る。羨道右側壁中央に五輪塔、左側壁中央部には馬と考えられる線刻が残る。羨門は、垂直にカットした岩盤面をさらに前庭部側より一段掘り窪め、額縁状の羨門を形成する。宝形の天井を模し、ドーム形を呈す。棺台床面より天井まで、2.15mをはかる。羨道より須恵器（長頸瓶）出土。

第３群４号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長5.75m、玄室長2.45m、幅3.23m、羨道長3.3m、幅1.36m、主軸N—54°—W。玄室は両袖式。玄室床面よりの高さ0.46m、幅約１mをはかる棺台がコの字状に施される。棺床には貝ブロック（ハマグリ、アサリ、ベンケイ貝、ホタテ貝）が遺存。壁面には削痕が認められる。天井は、ドーム形、棺台床面より天井まで1.3mをはかる。羨道より土師器（杯）出土。

以上４基は、昭和48年、富津市教育委員会（椙山林継）調査。現存。

第３群７号

全長3.55m、玄室長2.32m、幅2.1m、羨道長1.23m、幅0.8～1.05m、主軸N—70°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ約0.8mをはかる棺台が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで高さ1.42mをはかる。羨道より須恵器（長頸瓶）出土。

第３群19号

全長3.37m、玄室長2.22m、幅1.7m、羨道長1.15m、幅0.78～0.82m、主軸N—105°—W。玄室は左片袖式。左側壁に沿って幅約0.9m、高さ0.53mの棺台が施される。棺台中央に長さ1.7m、幅0.44m、深さ0.4mの刳り抜き棺が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.9mをはかる。玄室より耳環、羨道より須恵器（杯蓋）、土師器（椀）が出土。

第３群24号

全長4.02m、玄室長1.82m、幅2.16m、羨道長2.2m、幅1.12m、主軸N—75°—W。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ約１mの棺台が施される。棺台床面には貝殻が敷かれる。貝は、幅約0.4mの帯状を呈し、奥壁に沿った帯を起点とし、左側壁沿いに１帯、玄室中央部に１帯、右側壁沿いに１帯と計４帯がEの字状を呈す。ツメタ貝、バイ、イタボガキ、ハイ貝、イボニシ、アカニシ、ハマグリ、サルボウ、ベンケイ貝が認められる。貝上面より人骨４体分が検出され、Eの字状を呈す貝帯のそれぞれの上にのせて伸展葬されたものと考えられる。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.1mをはかる。

以上３基は昭和27年、県立天羽高校（神尾明正）調査。現存。

岩瀬横穴群　　富津市大貫町岩瀬（106）

東京湾にのぞむ台地の中腹に所在。３基が確認、調査されたが、横穴自体の形状、規模についての報告はない。１号横穴では人骨２体分、直刀、刀子、鉾、鉄鏃、金銅製倒卵形透鍔、金銅製心葉形杏葉、銜、金銅製雲珠、須恵器、土師器が出土。２号横穴は出土遺物皆無。３号横穴では人骨、直刀、刀子、鉄鏃が出土。

昭和28年、武田宗久調査。遺物は大貫小学校保管。

神宿横穴群　　富津市宝竜寺字神宿

八染川上流、鬼須山山系の中腹に所在。横穴８基の調査が行なわれたが、詳細な報告は未刊。棺台、刳り抜き棺が施され、うち７基には貝殻が敷いてあったという。それぞれから、人骨、鉄鏃、鋸、鉄斧、鉋、耳環、勾玉、切子玉、丸玉、須恵器（杯、瓶）、土師器（杯、壺）が出土。

昭和52年、土取り工事に伴い、野中徹調査。後湮滅。資料は県立天羽高校保管。

西山横穴群　　富津市更和字西山

湊川右岸丘陵の中腹に所在。横穴30基の調査が行なわれ、詳細な報告はされていない。人骨、直刀、鉄鏃、釘、管玉、勾玉、須恵器（杯、長頸壺）、土師器（杯、壺）が出土。各横穴は山腹に３段に配置されている。

昭和51年、宅地造成に伴い野中徹調査。後湮滅。資料は県立天羽高校保管。

池田横穴群１号横穴　　富津市大貫町池田（71）

岩瀬川中流北岸台地の南斜面に所在。全長５ｍ、玄室長4.7ｍ、幅３～3.2ｍ、羨道長３ｍ、幅1.5ｍ、主軸N—50°—W。玄室平面プランは羽子板状を呈し、羨道面と同レベルで奥壁まで達する。奥壁に沿い、長さ１ｍ、幅２ｍ、深さ0.2ｍの刳り抜き棺が施される。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで、高さ1.9ｍをはかる。玄室内より人骨が出土。

昭和31年、坂詰秀一調査。現存。

谷堀横穴群２号横穴　　富津市大貫町谷堀（71）

岩瀬川中流北岸台地の南斜面に所在。全長5.8ｍ、玄室長５ｍ、幅1.35～2.8ｍ、羨道長0.8ｍ、幅1.8ｍ、主軸N—30°—E。玄室は両袖式、羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄門左右前壁に、長方形の掘り込みが左右対称に施される。掘り込みは0.21×0.3ｍの大きさ、天井はアーチ形、玄室床面より天井まで高さ1.8ｍをはかる。玄室内より人骨が出土。

昭和31年、坂詰秀一調査。現存。

鹿島横穴群　　富津市大貫町鹿島（71）

岩瀬川中流北岸台地の南斜面に所在。R群、L群の２群で構成される。L群は総数70基以上と推測される。

Ｌ５号

全長2.8ｍ、玄室長2.5ｍ、幅0.85～1.8ｍ、羨道長0.3ｍ、幅0.85ｍの主軸N—10°—E。玄室は両袖式、羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄室床面には貝殻が敷かれる。オオノ貝、ハマグリ、アカ貝を確認。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで高さ1.6ｍをはかる。

Ｒ１号

全長3.5m、玄室長2.7m、幅2.8m、羨道長0.8m。玄室は両袖式、天井は、アーチ形を呈す。

昭和31年、坂詰秀一調査。現存。

加藤横穴群　　富津市加藤字入山（186）

湊川上流北岸台地の南斜面に所在する。遺跡直下の水田部標高43～50mをはかり、横穴群は水田面よりの比高15～33mに位置する。5群46基で構成され第1群9基、第2群7基、第3群18基、第4群10基、第5群2基に分けられる。1、5群が横一列に配置される他は、上下2段に配置される。

3号

第1群に属す。林道工事により羨道から玄門にかけ削平され、玄室部分のみの調査。玄室現存長4.5m、幅2.98m、主軸N—97°—E。玄室の形態、棺台の高さ等詳細は不明。玄室床面には、長さ2.24m、幅0.44mの掘り込みが認められ、刳り抜き棺が施されていたと考えられる。奥壁際、左側壁寄り0.78mのところに、奥行0.32mの段が施される。この段と玄室床面の状態から、玄室の拡張が行なわれたと推察される。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで高さ2.2mをはかる。玄室内より須恵器（高杯）、土師器が出土。

18号

第5群に属す。全長6.53m、玄室長2m、幅3.96m、羨道長3.6m、幅1.2m、主軸N—70°—W。玄室は両袖式、羨道床面よりの高さ0.6mをはかる棺台が施される。左右側壁に沿い刳り抜き棺が施され、左棺は長さ1.9m、幅0.83m、深さ約0.2m。棺床面には河原石が敷かれる。右棺は長さ1.94m、幅0.9m、深さ約0.2m、左棺と同じく河原石が敷かれる。玄室各壁下に溝がまわる。棺台床面より貝（桜貝）が認められ、刳り抜き棺を除く部分に貝が敷かれていたものと考えられる。天井はアーチ形、棺台床面より天井までの高さ2mをはかる。羨道より鉄製品、土師器が出土。

昭和46年、高橋在久、渡辺智信調査。調査は群の計測を主体とし、発掘されたのは数基で、3号、18号のみ報告された。現存。

〔13.　君津市〕

花里山横穴群　　君津市大和田（209）

小櫃川上流の西岸丘陵中腹に4基所在し、同じ台地の平坦部には古墳群が存在する。横穴個々の詳細は未報告。出土遺物の名称数量のみ知られるが、遺物の帰属はわからない。直刀2、鉄釘1、刀子1、柄1、須恵器（平瓶、蓋付短頸壺、長頸壺、広口大形壺、椀、杯蓋）、土師器（蓋付短頸壺、椀、甕、小形甕）があるという。

昭和46年、野中徹調査。区画整理事業に伴い湮滅。

〔16.　市原市〕

西国吉横穴群　　市原市愛宕山（209・340）

養老川中流に流入する支流が形成する支谷先端部東斜面に所在する。11基で構成される。上下２段に配列され、上段は標高35mのライン３基、下段は標高25mのラインに８基認められる。11基中８基の調査が行なわれた。

１号

羨道はすでに消滅し、玄室のみ残存。現存長4.3m、幅2.5m、主軸N—26°—W。平面プランは羽子板状を呈し、上、下２段の棺台が施される。上段棺台の右側には、長さ1.65m、幅0.5m、深さ0.25mの長方形の刳り抜き棺が施される。棺床には一面に貝殻が敷きつめられ、その上に頭を玄門に向けた人骨が検出された。また棺台床面より人骨が認められた。上段棺台下0.25mに下段棺台が施される。下段棺台左側壁下で須恵器長頸瓶出土。天井は、アーチ形、上段棺台床面より天井まで2.1mをはかる。側壁には、縦方向の削り痕を認める。削り痕は幅0.17m前後と一定している。

２号

玄室の一部、上段棺台のみ残存。現存長2.5m、幅3.1m、主軸N—19°—W。平面プランは羽子板状と推察される。上段棺台左側壁側に、長さ1.8m、幅0.7m、深さ0.2mの刳り抜き棺が施される。棺床より須恵器瑞口縁部が出土。上段棺台右奥壁コーナー部に河原石が遺存しており、棺台全体に敷きつめられていたものと推察される。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで高さ1.85mをはかる。

３号

玄室の一部を残存する。現存長2.9m、幅3.2m、主軸N—2°—W。玄室部に上下二段の棺台が施される。上段棺台は長さ２m。下段棺台は一部分を残存するのみ。上段棺台に沿って幅0.08mの浅い溝がめぐる。天井はアーチ形。上段棺台床面より天井まで２mをはかる。

４号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長8.3m、玄室　3.84m、幅1.56m、主軸N—20°—W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下２段の棺台が施され、上段棺台は幅2.3m、長さ1.5mをはかる。下段棺台は上段棺台より0.5mの段差をもつ。幅2.2～1.75m、長さ2.25m。右側壁寄りに長さ1.55m、幅0.45m、深さ0.05mの刳り抜き棺が施される。棺台は羨道部底面より1.65m高いか、前庭部はゆるやかな傾斜を示す。天井はアーチ形。上段棺台床面より天井まで1.5m。天井、壁面には削り痕が全面に残る。ガラス、棗玉、鉄鏃、刀子、土師器（杯、高杯）が出土。すべて棺台寄りに集中して出土した。

５号

現存長6.9m、玄室長3.7m、幅1.7～2.8m、羨道長3.2m、幅1.2～1.6m、主軸N—36°—

W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下２段の棺台が施され、上段棺台は、幅2.8m、長さ２m。左側壁下に長さ1.85m、幅0.6m、深さ0.09mの刳り抜き棺が施される。また中央奥壁寄りに0.83～0.5m、深さ0.13ｍの方形の切り込みが認められる。この中に数個の河原石が検出された。下段棺台は上段より0.35m低い。長さ1.85m、幅1.7～2.2m、羨道底面よりの高さ1.9m。天井はアーチ形、上段棺台より天井まで2.1m。天井及び壁面に削り痕が著しい。須恵器（台付長頸瓶、杯蓋、大甕、甕、広口壺、鼓）が出土。すべて羨道よりの出土。出土層位は上下２層に分かれるという。

６号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長7.05m、玄室長2.34m、幅1.2～3.03m、羨道長4.26m、幅0.9～1.14m、前庭部長0.45ｍ、主軸N—35°—W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。羨道床面より1.68m高い棺台が施される。長さ2.34m、幅1.9～3.03m。奥壁下及び左側壁下の２か所に刳り抜き棺が施される。前者は、長さ1.7m、幅0.7m、深さ0.1m、後者は長さ1.75m、幅0.68m、深さ0.1mをはかる。羨道は途中で段を作り、約0.12m下がる。前庭部は攪乱が著しい。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで2.32mをはかる。天井及び側壁面には削り痕が残る。鉄鏃出土。

７号

玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長12m、玄室長5.35m、幅2.3～3.55m、羨道長5.15m、幅1.1～2.65m、前庭長1.55m、幅１m、主軸N—35°—W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上中下３段の棺台が施される。上段棺台は長さ1.3m、幅3.25～3.55mをはかり、ほぼ中央に長さ2.2m、幅0.95m、深さ0.35mの刳り抜き棺が施される。中段棺台は上段より0.5mの段差をもって施される。長さ2.4m、幅2.63～3.25mをはかる。左側壁寄りに長さ1.7m、幅0.65m、深さ0.3mの刳り抜き棺が施される。下段棺台は中段より0.38mの段差をもって施される。長さ1.2m、幅2.6m、羨道底面よりの高さ２mをはかる。天井はアーチ形、上段棺台床面より天井まで1.8m。天井及び壁面に削り痕が残る。鉄鏃、須恵器（甕、長頸壺、杯蓋）、土師器（高杯）が羨道より出土。

８号

全長8.96m、玄室長4.46m、幅2.85～3.85m、羨道長4.5、幅1.6～2.9m、主軸N—49°—W。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下２段の棺台が施される。上段棺台はやや半円状を呈し、長さ1.3m、幅3.54mをはかる。下段棺台は上段より約0.5mの段差をもって施される。長さ3.16、幅2.85～3.85m、羨道床面よりの高さ2.15mをはかる。左側壁寄りに長さ1.83m、幅0.75m、深さ0.25mの刳り抜き棺が施される。天井はアーチ形、上段棺台床面より天井まで1.72m。

昭和46年、県道木更津線改良工事に伴い杉山晋作他調査。後湮滅。

池和田横穴群　　市原市鶴舞町（27）

養老川中流北岸台地の斜面に所在する。玄室平面プランは両袖式、天井は家形を呈す横穴２基が報告されている。

昭和３年の踏査記録による。

大和田横穴群　　市原市鶴舞町（27）

養老川中流東岸台地の斜面に所在する。３基確認されている。玄室平面プランは羽子板状を呈し、低い棺台が施される。棺台には施設は認められない。２基の天井はアーチ形を呈す。また３基中のいずれかの玄室奥壁に、６人の人物像が陰刻されている。

昭和３年の踏査記録による。

浅間台横穴群　　市原市鶴舞町（52）

養老川下流域、河川に沿って延びる標高60.9mの台地斜面に所在する。横穴群は、６基で構成され、養老川に面して開口する。

１号

道路により羨道は一部破壊。現存長12m、玄室長6.23m、幅4.17m、羨道長5.57m、幅1.45m、主軸方位は未報告。羨道底面よりの高さ2.1mの棺台が施される。奥壁に沿って、造り付け石棺があり、長さ0.8m、幅2.25m、高さ0.6m、棺側壁の厚さ0.35～0.45mをはかる。棺の正面に径0.07m程の小穴が７か所認められる。左側壁に沿って刳り抜き棺が施され、長さ1.65m、幅0.65m、深さ0.42mをはかる。天井形態等は未報告。

２号

未調査。

３号

全長13ｍ。各部の規模、主軸方位は未報告。玄室は羽子板状を呈す。上、中、下、３段の棺台が施される。下段棺台は左側壁に沿い、長さ3.46m、幅0.93m、羨道部底面より1.75mをはかり、長さ1.8m、幅0.42m、深さ0.2mの刳り抜き棺が施される。中段棺台は羨道部底面より高さ1.67mをはかり、棺台中央部に幅広の溝があり、溝により左右に二分される。左右とも側壁に沿って刳り抜き棺が施される。左側壁側は長さ1.9m、幅0.4m、深さ0.4m、右側壁側は、長さ1.9m、幅0.4m、深さ0.23mをはかる。上段棺台は、中段棺台床面より高さ0.85mをはかり、棺台には何の施設も認められない。天井はアーチ形。玄室より人骨が、羨道より刀子、釘、須恵器片、土師器片が出土。

４号

全長11.43m、各部の規模、主軸方位等は未報告。玄室は羽子板状を呈す。羨道底面よりの高さ1.9mをはかる棺台が施される。棺台中央部に、主軸と平行する長さ1.97m、幅0.8m、深

さ0.24ｍの刳り抜き棺が施される。天井はアーチ形。玄室内より人骨が出土。

5号

全長1.06m、各部の規模、主軸方位等未報告。玄室は羽子板状を呈す。羨道部底面よりの高さ1.8mの棺台が施される。棺台には左側壁に沿って、長さ1.4m、幅0.46m、深さ0.37mの刳り抜き棺が施される。天井はアーチ形。

6号

全長７ｍ、各部の規模、主軸方位等は未報告。玄室平面形態、天井形態も未報告。羨道底面よりの高さ1.83mの棺台が施され、左右側壁に沿って刳り抜き棺を設ける。左の棺は長さ1.8ｍ、幅0.6ｍ、深さ0.48m、右の棺は長さ２ｍ、幅0.8m、深さ0.5mをはかる。玄室内より鉄鏃、ガラス玉、人骨、羨道より人骨、鍔、須恵器（横瓶）、土師器（甕、椀）が出土。

昭和27年、小山剛調査。

外部田横穴群　　市原市外部田（27）

養老川中流西岸の台地（標高約87m）斜面中腹に所在する。南斜面に位置し、上下２段で構成される（確認総数に関しては報告されていない。）

1号

全長約4.83m。各部の規模、主軸方位は未報告。玄室は両袖式で棺台が施される。棺台には刳り抜き棺等の施設はない。天井は家形を呈す。奥壁、左右壁面に人物、馬が陰刻により描かれている。

2号

全長、各部の規模、主軸方位等未報告。玄室は両袖式で棺台が施される。天井は家形を呈す。

3号

全長、各部の規模、主軸方位等未報告。一つの玄室に二つの羨道がつくという特異な構造をとる。玄門から羨道の途中までは一本だが、羨道のほぼ中央で左右に分かれ、各羨門にいたる。左右羨門より羨道中央までの間は、岩盤によって独立しており、羨道中央で一本となる。これは後世の加工ではなく、横穴構築時からのものと報告されている。玄室棺台は長方形を呈し、奥壁には接しているが、左右壁とは離れている。天井は家形を呈す。

３基とも昭和４年、内藤政光、石田茂作、矢島恭介調査。現存。

岩横穴群　　市原市岩（301）

養老川の南岸にある丘陵の北西方向にのびる台地端部、三角錐状を呈す台地の南斜面、東斜面、西斜面（標高82～91m）に所在する。南斜面に６基、東斜面に３基、西斜面に１基、計10基で構成される。

1号

西側斜面に位置する。全長6.92m、玄室は長さ1.2m、幅2.95m、羨道長5.72m、幅1.84m。主軸S—83°—E。玄室の平面プランは羽子板状を呈す。羨道底面より高さ1.48m、奥壁より羨道方向への長さ0.72mの棺台が施される。棺台奥壁寄りに長さ2.11m、幅0.52m、深さ0.22mの刳り抜き棺が施される。天井はドーム形、崩落が著しい。羨道底面より天井まで約2.1mをはかる。刀子、須恵器（短頸壺、台付長頸壺、椀、甕）、土師器（椀）が、すべて羨道から出土した。

2号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭に区切られる。全長4.86m、玄室長2.04m、幅2.74m、羨道は長さ2.12m、幅1.2m。主軸N—19°—E。玄室は両袖式、羨道底面より1.62m高い棺台が施される。前庭部底面は、ゆるかに傾斜し台地斜面に達する。羨道より須恵器片（形状不詳）、前庭部より土師器片（形状不詳）が出土。

3号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長7.76m、玄室長4.46m、幅3.20m、羨道長3.3m、幅1.37～0.92m。主軸N—31°—E。玄室は両袖式。奥壁から左側壁にかけて、玄室底面より1.1～1.3m高い棺台がL字状に施される。奥壁、左側壁棺台に刳り抜き棺が施される。奥壁側のものは、長さ1.8m、幅0.66m、深さ0.16m、左側壁側のものは長さ1.72m、幅0.5m、深さ0.16mをはかる。羨道部外は 0.62m程低くなり前庭部にいたる。天井はドーム形、天井は崩落が著しく高さは不明。玄室より人骨、直刀、刀子、管玉、棗玉、丸玉、臼玉、ガラス玉、直刀、刀子、耳環、鉄環、鉄鏃、須恵器（甕、杯）、土師器（壺）、緑釉陶器片、羨道より、鉄鏃、勾玉、須恵器（杯）、前庭部より土師器（杯、高杯、甕）が出土。

4号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長4.67m、玄室長1.91m、幅2.23m、羨道長2.76m、幅1.08m。主軸N—6°—E。玄室は両袖式。羨道床面より1.06m高い棺台が施される。棺台玄門寄りに一部攪乱で破損しているが、長さ1.7m、幅0.78m、深さ0.36mの刳り抜き棺がある。羨道は、ほぼ中央で羨門側へ0.18m下がる段を有し2段となる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.6mをはかる。玄室より鉄鏃、羨道より土師器（高杯）、前庭部より須恵器（高杯、甕）が出土。

5号

南斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長5.58m、玄室長3.06m、幅3.48～2.28m、羨道長2.52m、幅1.2～1.4m。主軸N—37°—E。玄室は右片袖式。右側壁から奥壁に沿って玄室底面より1.2m高い棺台がL字状に施される。右側壁寄り、奥壁寄りの2か所に刳り抜き棺が施され、右側壁のものは長さ1.68m、幅0.42～0.5m、深さ0.24～0.3m、奥壁側は長さ1.96m、幅0.49m、深さ0.42～0.27mをはかる。天井はドーム形、天井は崩落が著しく

高さは不明。出土遺物はない。

6号

南側斜面に位置する。全長8.07m、玄室長3.07m、幅2.74m、羨道長5m、幅0.9～1.2m。主軸N—52°—E。玄室は右片袖式、右側壁に沿い長さ2.92m、幅1.14m、玄室底面よりの高さ1.07mの棺台が施される。棺台中央に長さ1.85m、幅0.48m、深さ約0.25mの刳り抜き棺が施される。羨道は途中に0.24mの段を有し、玄室側が一段高くなる。天井はドーム形、玄室底面より天井まで2.14mをはかる。天井及び側壁面には、縦方向の削り痕が残る。前庭部は明確に検出されなかった。土師器（杯）が羨道より出土。

7号

南斜面に位置し、全長6.7m、玄室長3.3m、幅3.78m、羨道長3.4m、幅0.91～1.04m。主軸N—62°—E。玄室は両袖式、羨道底面は同レベルで幅0.9mの溝が奥壁まで達している。溝の両側に左右棺台が施される。左棺台は長さ3.3m、幅1.3m、玄室底面よりの高さ0.8mをはかる。棺台中央に長さ1.88m、幅0.58m、深さ0.21mの刳り抜き棺が施される。右棺台は長さ3.3m、幅1.3m、玄室底面よりの高さ0.84mをはかり、攪乱が認められる。羨道は途中で0.14mの段を有し、玄室側が一段高くなる。天井はドーム形、玄室底面より天井まで2.04mをはかる。

8号

東斜面に位置する。炭焼窯として二次的に使用されたため、遺存度が極めて悪い。玄室、羨道、前庭部からなる。全長6.49m、玄室長1.81m、幅3.54m、羨道長3.18m、幅1.06～1.52m、前庭長1.5～3.54m、主軸N—74°—W。玄室は両袖式、羨道底面よりの高さ1.74mの棺台が施される。棺台床面は攪乱により付属施設は検出できない。奥壁には、棟持柱を表現した角形の造り出しが左右に認められる。現存長は左側で奥壁から0.26m、側壁から0.31m、高さ0.79m、右側で奥壁から0.2m、側壁から0.29m、高さ0.9m。羨道は途中で、0.24mの段を有し、玄室側が一段高くなる。前庭部はゆるやかな傾斜を呈す。天井は崩落により、形状、高さとも不明。羨道部より刀子、須恵器（壺、長頸壺、甑、杯）、土師器（椀、杯）、前庭部より須恵器（杯、甕）が出土。

9号

東斜面に位置し、玄室、羨道、前庭部に区切られる。全長6.66m、玄室長2.88m、幅3.68m、羨道長3.78m、幅1.29～2.02m、主軸N—74°—W。玄室は両袖式、羨道底面よりの高さ1.62mの棺台が施される。奥壁側、左側壁側、右側壁側の3か所に刳り抜き棺がコの字状に施される。奥壁側のものは長さ1.72m、幅0.69m、深さ0.14m、左側壁側のものは長さ1.86m、幅0.79m、深さ0.15m、右側壁側のものは長さ2.59m、幅0.67m、深さ0.1mをはかる。前庭部はやや傾斜しており、右側部分のみ調査され、長さ1.79mをはかったが幅は確認されなかった。天井は崩落により形状、高さともに不明。須恵器（長頸瓶、甕）がともに羨道で出土。

10号

東斜面に位置し、全長6.4m、玄室長1.7m、幅1.68m、羨道長4.7m、幅1.5m、主軸N—35°—E。玄室はわずかに左壁が張り出した左片袖式。何ら施設は認められない。天井はアーチ形、玄室床面より天井までをはかる。二次的な使用が考えられる。

昭和49年、よみうりランドゴルフ場造成に伴い野中徹調査。後湮滅。

米沢横穴群　　市原市米沢（204）

養老川の支流により樹枝状に開析された北岸台地南斜面（標高約40～60m）に所在する。横穴は斜面に3段に分けて構築され、上段2基、中段3基、下段3基、計8基を確認。調査は、下段3基を対称として測量を中心として実施。なお横穴群が所在する台地平坦部で、円墳4基が確認されている。

1号

全体に攪乱が著しく、玄室のみ残存。現存長2.7m。南に開口する。構築時の玄室形態、規模等まったく不明。天井はアーチ形で、幅0.17m程の削り痕が残る。棺台が施されていた痕跡が認められる。

2号

全長約7.2m、玄室長3.9m、幅2.6～3.4m、羨道長3.3m、幅2.3～3.4m、南に開口する。玄室平面プランは羽子板状を呈す。上下2段の棺台が施され、上段棺台は長さ1.78m、幅3.4m、下段棺台は上段より0.36m程の段差をもって施される。長さ2.12m、幅3.3m、羨道床面よりの高さ2.14mをはかる。両棺台とも床面は平坦。天井はアーチ形、上段棺台床面より天井まで2.14mをはかる。天井、壁面には幅約0.14mの削り痕が残る。

3号

全長約5.8m、玄室長3.14m、幅3.14～3.57m、羨道長2.64m、幅1.28m、南に開口する。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで、玄門から奥壁へ長さ1.85m、幅1.28mの溝が掘られる。溝底面よりの高さ約2.15mの棺台が、コの字状に施される。棺台床面は平坦。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで約1.79mをはかる。天井、壁面には、削り痕が残る。

昭和44年、市原高校郷土史クラブ（二宮栄学）調査。現存。

〔17.　千葉市〕

小食土横穴群　　千葉市小食土町字南谷、乙払込

樹枝状に開析され、太平洋に向って突出する舌状台地中腹斜面（標高26～28m）に所在する。南谷横穴群7基、乙払込横穴群4基の2群11基が確認されている。

昭和49年、踏査。現存。

〔35.　酒々井町〕

新堀横穴群１号横穴　　印旛郡酒々井町新堀（46）

印旛沼方向へ延びる台地西南側に、舌状に若干張り出した標高30m程の台地西側斜面に所在する。上下２段に分かれ、上段３基、下段４基計７基で構成される。１号横穴のみ報告がある。羨道の一部は崩落により消滅。現存長3.8m、玄室長3.5m、幅1.12～2.85m、羨道長0.3m、幅1.02m、主軸N—76°—W。玄室はやや胴の張る羽子板状を呈す。羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄室床面中央より玄門方向へ、主軸線上に幅0.1m、深さ0.11mの溝が施される（羨道床面は攪乱が著しく溝がつづいていたか否か不明）。各壁下に幅0.09m、深さ0.06mの溝がめぐる。天井はアーチ形を呈し崩落が著しい。玄室内より勾玉、直刀、鉄鏃、銅鋺、須恵器（平瓶）、人骨３～４体が出土。

昭和22年、小出義治調査。現存。

〔41.　下総町〕

西大須賀横穴群　　香取郡下総町滑川（７）

利根川に沿い、西南から東北へのびる台地斜面に所在する。１群45基が確認され、これは、下総地域における横穴群中最大規模と言える。玄室、羨道からなり、玄室は両袖式、羨道床面より0.15～0.2m高い棺台が施され、棺台中央には羨道床面と同レベルで幅約0.3mの溝が、主軸線上に認められるものがある。溝により棺台は左右に分かれる。天井は、アーチ形、ドーム形の種が多く存在し主流を占める。この形態は、利根川流域に普遍的に認められ、主流をなす。なおいずれの横穴より出土したのか明確でないが、直刀、刀子、勾玉、須恵器が出土遺物として報告されている。

明治27年、下村三四吉、八木奘三郎踏査。明治37年、和田千吉により再踏査。その後はまったく未調査。

〔43.　大栄町〕

片野横穴群　　香取郡大栄町所（201）

大戸川の支流奥地の台地斜面裾部（標高約25m）に５基の横穴が所在する。５基の横穴は横一列に配列される。

１号

全長3.1m、玄室長２m、幅2.4m、羨道長0.6m、幅0.7m、主軸N—4°—W。玄室は両袖式。玄室中央に幅0.3mの溝が認められる。溝の左右両側に棺台が施される。棺台溝側端部には幅0.15m、高さ0.05mの有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで１mをはかる。

2号

全長2.3、玄室長1.7m、幅1.8m、羨道長0.6m、幅0.5m、主軸N—10°—W。玄室は両袖式。無棺台。天井はドーム形、玄室床面から天井まで0.8mをはかる。

3号

全長2.2、玄室長1.7m、幅1.8、羨道長0.5m、幅0.65m、主軸N—10°—W。玄室は両袖式。無棺台。天井はドーム形、玄室床面より天井まで0.9mをはかる。全体に粗雑な構築。

4号

全長2.4m、玄室長1.8m、幅1.55m、羨道長0.6m、幅0.85m、主軸N—55°—W。玄室は両袖式。玄室中央に羨道床面と同レベルで、幅0.3～0.5mの溝が奥壁手前0.2mまで掘られる。溝の両側に高さ0.15m程の棺台が施される。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで0.75mをはかる。小形で粗雑なつくり。

5号

全長2.7m、玄室長2.2m、幅0.75m、羨道長0.5m、幅1.55m、主軸N—19°—E。玄室は両袖式。無棺台。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで0.7mをはかる。

昭和46年、矢戸三男、大村祐踏査。現存。

〔44. 佐原市〕

野中横穴群　　佐原市岩ケ崎字野中台（178・179）

佐原市街より西方約1km、下総台地の最北端、利根川にわずかに突き出た標高35mの舌状台地の丘陵南斜面に所在。9基で構成される。

1号

全長2.7m、玄室長2.1km、幅1.5m、羨道長0.6m、幅0.6m、主軸N—1°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.2m程の棺台が施され、棺台中央には、羨道床面と同レベルで幅0.25mの溝が玄室奥壁まで達する。棺台内側には高さ0.04m、幅0.08mの有縁が施される。奥壁、両側壁沿いに幅0.02～0.03mの溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.15mをはかる。玄室内より土師器片2片出土。

2号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4m、玄室長2.1m、幅1.6～1.9m、羨道長1.2m、幅0.9m、入口長0.7m、幅1.3m、主軸N—26°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.26m程の棺台が施される。棺台中央部、玄門から奥壁に高さ0.04m、幅0.13mの有縁が施される。右棺台周囲には溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.15mをはかる。

3号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.77m、玄室長2.39m、幅1.02m、羨道長0.9m、幅0.8m、入口長1.48m、幅1.3m、主軸N—12°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ

0.17m程の棺台が施される。棺台の周囲壁下には幅0.06m、深さ0.15mの浅い溝がめぐる。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.03mをはかる。玄室内堆積土上部より人骨片及び燈明皿が出土したが、横穴築造時の遺物ではなく、2次的、3次的な横穴利用時のものと思われる。

4号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.15m、玄室長1.84m、幅2～2.2m、羨道長0.5m、幅0.4m、入口長1.91m、幅0.7m、主軸N—21°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.2mの棺台が施され、棺台中央には羨道床面と同レベルで幅0.2mの溝が奥壁手前0.25mまで掘られる。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.57mをはかる。入口部床面に長さ0.72m、幅0.18m、深さ0.06mの溝が認められた。羨門部溝内より金銅製品断片出土。

5号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.18m、玄室長2.07m、幅2.05～2.77m、羨道長0.8m、幅0.8m、入口長1.31m、幅1.2m、主軸N—20°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.28m程の棺台が施され、コの字状を呈す。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.33mをはかる。

6号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.4m、玄室長2.05m、幅1.86m、羨道長0.45m、幅0.74m、入口長1.9m、幅1m、主軸N—10°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.28m程の棺台が施され、棺台中央部には羨道床面と同レベルで幅0.25mの溝が玄室奥壁まで達する。棺台内側には高さ0.05m、幅0.06mの有縁が施される。棺台の周囲壁下には幅0.03mの浅い溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.41mをはかる。入口部に、高さ0.06m、幅0.27mの段、段に隣接して開口部側に長さ0.75m、幅0.2m、深さ0.09mの溝が施される。

7号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長2.5m、玄室長1.93m、幅1.65～1.94m、羨道長0.3m、幅0.7m、入口長0.27m、幅1m、主軸N—1°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.19m程の棺台が施される。棺台中央部には、羨道床面と同レベルで幅0.22mの溝が奥壁手前0.42mまで掘られる。棺台の内側に高さ0.04m、幅0.08mの有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.3mをはかる。

8号

玄室、羨道、入口部に区切られる。全長4.1m、玄室長2.5m、幅1.7～2m、羨道長0.75m、幅0.6m、入口長0.85m、幅1.2m、主軸N—11°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ0.13m程の棺台が施され、コの字状を呈す。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.29mをはかる。入口部に長さ0.96m、幅0.2m、深さ0.09mの長方形の溝が施される。

9号

玄室、羨道、入口部、前庭部に区切られる。全長3.35m、玄室長1.65m、幅1.54～1.7m、羨道長0.5m、幅0.9m、入口長1.2m、幅0.9m、主軸N—2°—E。玄室は左片袖式。羨道床面よりの高さ0.14m程の棺台が施され、羨道床面と同レベルで幅0.18mの溝が奥壁まで掘られる。棺台の内側には、高さ0.06m、幅0.15～0.19m程の砂岩切り石をブロック状に組み合わせるようにして有縁が施される。左棺台は拡張痕が認められる。天井はドーム形、棺台床面より天井までをはかる。入口部に長さ1.12m、幅0.16m、深さ0.08mの溝が施される。全体に粗雑な構築である。前庭部は、入口部床面より急傾斜で0.4m下ったレベルで認められた。前庭部床面より土師器（坩）が出土。

昭和45年、岩立喜一調査。国道51号線佐原バイパス工事に伴い湮滅。

〔47. 東庄町〕

夏目横穴群　　香取郡東庄町夏目（201）

利根川に背を向けた下総台地の裏側で、飯岡、海上地域より５～６ｍ入る最も奥まった地域に位置する。台地南斜面中腹部（標高約35m）に所在する。４基で構成され、横穴はほぼ同レベルで、横一列に配される。１号横穴は全長4.26m、玄室長2.92m、幅2.6m、羨道長1.34m、幅0.57m、主軸N—32°—W。玄室は両袖式。玄門から0.7m程奥まったところで、玄室床面より0.15m高い棺台が施される。天井はドーム形、天井壁面には家形を模倣した浮彫が施される。棺台床面より天井まで1.83mをはかる。２～４号の３基は、崩落及び土砂の堆積が著しく詳細は不明。

昭和46年、豊田佳伸、越川敏夫踏査。現存。

〔48. 銚子市〕

小舟木横穴群１号横穴　　銚子市小舟木町（328）

国鉄成田線椎柴駅より西方約1.2km、利根川に面する台地の小支谷東側斜面裾部(標高18m)に所在する。２基で構成され、１基のみ調査。１号、２号とも、玄室形態はほぼ同一。規模は若干２号が大きい。現存長3.3m、玄室長2.08m、幅2.78～3.29m、羨道長1.22m、幅0.58m、主軸N—26°—W。玄室は両袖式。玄室中央には羨道床面と同レベルで幅0.3～0.5mの溝が奥壁まで達する。溝の両側に棺台が施される，左棺台は溝底面より0.2m高く、溝側端部に幅0.09m、高さ0.05～0.06mの造り付け有縁が施される。右棺台は溝底面より0.12m高く、溝側端部に幅0.09m、高さ0.06mの造り付け有縁が施される。左右とも有縁中央にV字溝が掘られる。棺台床面には転石がまばらな状態で敷かれる。左棺台には、頭部を玄門側に向ける２体分（成人１、小児１）が、ともに伸展葬されていた。羨門部に，転石と粘土を用いた閉塞施設が認められた。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.45mをはかる。玄室内より直刀、刀子、鉄鏃、鹿角製品が出土。

昭和47年、渋谷興平調査。現存。

赤塚横穴群　　銚子市赤塚町（167）

銚子市の西方約6km、利根川の河岸段丘を形成する台地東斜面裾部（標高約20m）に所在する。2基で構成される。

1号

全長2.64m、玄室長1.92m、幅2.05m、羨道長0.72m、幅0.68m、主軸は東西を示す。玄室は両袖式。羨道床面より0.25m程高い棺台が施される。棺台中央部に羨道床面と同レベルで、幅0.6mの溝が奥壁まで達する。左右棺台溝側端に幅0.05m、高さ0.05m程の粘土を貼り付けた有縁が施される。羨門に灰白色泥岩2枚を用いた閉塞石が認められた。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.25mをはかる。天井、壁面には、荒い削り痕を認める。玄室内より人骨12体、直刀、刀子、鉄鏃が出土。

2号

全長3m、玄室長2m、幅2.5m、羨道長1m、幅0.8m、主軸は東西を示す。玄室は両袖式。羨道床面より0.2m程高い棺台が施される。棺台中央には、羨道床面と同レベルで幅約0.6mの溝が奥壁まで達する。左右棺台の溝側端には有縁が施される。棺台床面には蛤が敷かれる。周壁に沿って幅0.08m、深さ0.15mの溝がめぐる。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで0.85mをはかる。天井、壁面には削り痕が残る。玄室内より耳環、人骨2体出土。

昭和44年、大木衛調査。現存。遺物は銚子市青少年文化会館保管。

西小川町横穴群　　銚子市西小川町（219）

下総台地の東端部にあたる台地上の東突出部東側斜面裾部（標高約20m）に所在。昭和30年代の砂取り工事により4基発見された。現存するのは、1号、2号の2基のみ。当時、4基中のいずれからの出土か不明だが、人骨2体分、須恵器（器形、時期不詳）等が検出された。

1号

全長約3.3m、玄室長2.09m、幅2.16～2.29m、羨道長1.21m、幅0.48m、主軸N—63°—W,玄室は両袖式。玄室中央に羨道床面と同レベルで幅0.2m程の溝が奥壁まで達する。溝の両側に棺台が施され、溝底面より左棺台は0.15m、右棺台は0.22m高い。左棺台中央に直径0.2m、深さ0.06mのピットがあった。左右棺台溝側に高さ0.05m、幅0.13mの有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.3mをはかる。

2号

全長3.2m、玄室長2.5m、幅1.82～2.36m、羨道長0.7m、幅0.45m、主軸N—71°—W。玄室は両袖式。玄室中央に、羨道床面と同レベルで幅0.22～0.36mの溝が奥壁まで掘られる。溝の両側に棺台が施され、左右棺台溝底面より0.4m高い。左右棺台溝側に高さ0.12m、幅0.17

の有縁が施される。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.77mをはかる。

昭和44年、銚子市教育委員会調査。開口したまま現存。

長塚町横穴群１号横穴　　銚子市長塚町（219）

利根川に並行する台地で、僅かに北側に突出した部分東斜面裾部（標高約15m）に２基所在する。台地眼下には利根川の沖積地が広がる。全長3.4m、玄室長2.4m、幅3.05～3.42m、羨道長１m、幅0.64m、主軸N—63°—W。玄室は両袖式。玄室中央には上下２段の溝が奥壁まで掘られている。上部溝は幅0.64m、下部溝は幅0.15m、上部溝よりの深さ0.08mをはかる。溝両側に棺台が施され、上部溝底面より0.3mほど高い。左右側壁下には幅0.15m、深さ0.04m程の溝がめぐる。この溝は棺台中央を横断し、有縁に孔を穿ち、玄室中央に掘られた溝と連結する。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.31mをはかる。

昭和44年、銚子市教育委員会調査。２基中、１基のみの調査。２基ともに現存。

〔46.　飯岡町〕

平松岡横穴　　海上郡飯岡町平松（302）

太平洋に面する台地南斜面（標高26m）に１基所在。半島へ続く。全長2.8m、玄室長0.85～0.9m、幅２m、羨道長1.9m、幅0.75～0.95m、主軸N—38°—E。玄室平面プランは長円形を呈し、主軸の方が短い。羨道床面よりの高さ0.7mの棺台が施される。棺台壁周囲には、幅0.05～0.06m、深さ0.03～0.04mの溝がめぐる。天井は不整形なドーム形、棺台床面より天井まで0.75mをはかる。棺台床面上で人骨２体検出。なお飯岡町上永井地区における横穴分布踏査が行なわれており、22基の横穴の所在が確認されている。報告によれば、天井形態が寄棟平入的ドーム形のものが多い。

昭和51年、佐藤克己調査。調査後再閉塞し、保存。

〔53.　八日市場市〕

吉田横穴群　　八日市場市吉田字小下原（294）

太平洋岸に流入する栗山川と栗山川支流借当川合流地域付近の台地斜面に所在する。９基調査。詳細は未報告。ドーム形１基、アーチ形８基、直刀、須恵器が出土。古墳時代後期と推定される。

昭和47年、桜井茂隆調査。砂利採取に伴い湮滅。資料は八日市場市立公民館保管。

米倉横穴　　八日市場市米倉

九十九里平野に面する台地斜面に所在する。詳細な報告はされていない。調査者の言によれば、石棺内より直刀、水晶製切子玉、須恵器長頸壺が出土したという。

桜井茂隆調査。砂利採取に伴い湮滅。資料は八日市場市立公民館保管。

馬洗横穴群　　八日市場市馬洗（201）

立地の詳細は不明。２基で構成される。

１号

土砂の堆積が著しく詳細は不明。

２号

全長3.48m、玄室長2.53m、幅1.93m、羨道長0.95m、幅0.9m、主軸N—76°—W。玄室は両袖式。奥壁及び両側壁下に棺台がコの字状に施される。奥の棺台は玄室床面よりの高さ1.16m、長さ1.93m、幅0.9m、左右棺台は、玄室床面よりの高さ0.91m、長さ1.22m、幅1.15mをはかる。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで2.1mをはかる。

昭和46年、池上悟踏査。現存。

丸山横穴　　八日市場市大寺（201）

九十九里平野に面する一見独立丘陵を呈す標高44.6mの台地南東斜面に所在する。水田よりの比高約５m。全長3.9m、玄室長3.4m、幅1.9m、羨道長0.5m、幅0.83m、主軸N—51°—E。玄室は左片袖式。奥壁と左側壁下の２か所に棺台が施される。奥の棺台は玄室床面よりの高さ1.18m、長さ1.9m、幅1.05m、棺台左右に幅0.06m、深さ0.03mの溝が施される。左の棺台は玄室床面よりの高さ0.82m、長さ1.72m、幅0.56m、玄門側、右側壁側に高さ0.09m、幅0.12mの有縁が施される。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで2.2mをはかる。

昭和46年、池上悟踏査。現存。

〔55.　多古町〕

高津原横穴群　　香取郡多古町高津原字愛宕（243）

栗山川の支谷が西に貫入した奥まった位置に所在する。支谷に南面する台地斜面（標高21m～22m）に位置する。３基で構成される。

１号

玄室部のみ残存する。現存長2.68m、幅１～２m、主軸は南北方向。玄室は羽子板状を呈すると推察される。上下２段の棺台が施され、上段棺台と下段棺台の段差は0.1m。天井はドーム形、上段棺台より天井まで2.4mをはかる。

２号

現存長5.22m、玄室長2.74m、幅1.75～1.8m、羨道長1.9m、幅１m、主軸N—13°—W。玄室は羽子板状を呈す。上下２段の棺台が施され、上段棺台は、長さ0.9m、幅1.85m、下段棺台側端には高さ0.1m、幅0.1mの有縁を施す。棺床には厚さ0.01～0.02mのロームの貼り床

が認められた。有縁にも、表面にうすくロームによる整形が認められた。下段棺台は、上段より約0.4m低い。長さ1.3m、幅1.96m、玄門側端に高さ0.1m、幅0.07mの有縁が施される。下段棺台から羨道まで0.75mをはかる。羨門で砂岩切石を用いた閉塞石を1個検出。閉塞石は最下段のみ残存し、当初は、砂岩切石が数段積まれたものと推察される。天井はドーム形、上段棺台より天井まで0.68mをはかる。上台棺台より人骨、ガラス玉が出土。

3号

調査時においてすでに消滅。横穴内より出土した須恵器（平瓶、フラスコ形長頸瓶）が報告されている。

昭和48年、村田一男調査。林地崩壊防止事業により湮滅。

63. 〔大網白里町〕

宮谷横穴群　　山武郡大網白里町宮谷

九十九里平野に面する台地の西斜面に所在する。大坊山に4基、来伝山に2基確認。大坊山の横穴の一基は、玄室は両袖式、コの字状に棺台が施され、奥壁、左右側壁に沿って刳り抜き棺が3か所認められる。別の一基は玄室平面プランは両袖式、コの字状に棺台が施され、左右側壁に沿って刳り抜き棺が2か所認められる。また玄室平面プラン両袖式、棺台が施され、棺台中央部、主軸に直交する形で刳り抜き棺が1か所認められる横穴1基が報告されている。

昭和3年、踏査。現存。

〔64. 茂原市〕

渋谷横穴群　　茂原市北塚字提前渋谷，字白幡（277）

一宮川の支流が南側を流れ、東には九十九里平野を望む台地中腹斜面、9基の調査が行なわれた。横穴の詳細は未報告。横一列に配置され、全般的に高い棺台が施される。人物、鳥、舟等の線刻画が施されるものがある。土師器、人骨1体が出土。

昭和49年、海保四郎調査。砂利採取に伴い湮滅。

押日横穴群　　茂原市押日西之谷（277）

一宮川支流の長谷川北岸台地斜面に所在。11基の調査が行なわれた。詳細は未報告。

昭和49年、高橋三男調査。団地造成に伴い湮滅。

押日横穴群　　茂原市押日（35）

一宮川支流長谷川によって開析された台地で、長谷川北岸に所在する。台地南斜面に4群確認され、4群中、最も上流、国府関寄の1群を除いた3群の調査報告。調査された横穴の具体的なデータは不明。報告者の分類により、各類の特徴を記すが、各類の基数、配置等は不明。

1類

平面形において、主軸の長さが横軸とほぼ一致し、高い棺台が施される。棺台には、深い刳り抜き棺が1か所施される。玄室平面プランは、両袖式、左右片袖式が認められる。

2類

玄室平面プランは両袖式。棺台は、羨道床面と同レベルの溝が奥壁まで達し、左、右に分かれる。棺台は羨道床面よりかなりの高さを有す。左右棺台には、それぞれ1か所づつ刳り抜き棺が施される。

3類

玄室平面プランは両袖式，右片袖式で、主軸の長さと横幅が3：2の比率を示す。奥壁から右側壁に沿ってL字状に棺台が施される。棺台には、奥壁側は主軸と直交し、右側壁側は主軸に平行して刳り抜き棺が施される。棺台が施されない玄室床面部分（この場合左側壁側）は、羨道床面と同レベルとなる。

4類

第1類、第3類とやや類似する。第3類とその構造を等しくするものだが、奥壁沿いの棺台を欠き、右側壁沿いの棺台のみが施される。棺台には刳り抜き棺が1か所施されるが、第1類より玄室、刳り抜き棺とも大きく、棺台が低い。主軸と横幅は1：1か、若干主軸が長い傾向を示す。

5類

主軸と横幅が2：3の横に長い玄室で、平面プランは両袖式。羨道床面よりかなり高い棺台が施される。棺台は長方形を呈するものと、コの字状を呈すものがある。棺台に、左右壁に沿って浅い刳り抜き棺が2か所施される。左右側壁沿いの刳り抜き棺にくわえ、主軸と直交する形で奥壁に沿って浅い刳り抜き棺が施され2棺を有す横穴もある。第5類が押日横穴群中に最も多く認められる。

6類

玄室床面は、羨道床面と同レベルで奥壁まで達し、玄室内部には何ら施設が認められない。玄室平面プランは限定されない。また棺台が施されていても、棺台床面に何ら施設を有さない横穴も第6類に属す。

7類

押日横穴群中一例のみ。第6類と同様、玄室床面は羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。玄室床面には、主軸と直交する形で刳り抜き棺が施される。

昭和10年、三木文雄調査。現存。

〔65.　長柄町〕

源六谷横穴群　　長生郡長柄町字徳増源六谷（79・338）

一宮川本流により開析された北岸台地南斜面（標高約30m）に所在する。横一列に８基が配される。

１号

玄室長、主軸方向は未報告。羨道長34m。玄室は両袖式。羨道床面より1.58m高い棺台が施される。棺台床面は攪乱を受けるが、刳り抜き棺が２か所施されていた痕跡が認められる。天井は家形を呈し、切妻平入り形で、棺台床面より棟まで1.8mをはかる。羨道左右壁面に、３か所に直径0.15m、奥行き0.08m程の小穴がある。竹または丸太を用いた閉塞施設と推測されている。

２号

玄室長、主軸方向は未報吉。羨道長3.68m、幅1.71～1.91m。玄室は両袖式。羨道床面より1.65m高い棺台が施され、両側壁下に側壁と平行して有縁の刳り抜き棺が施される。天井は家形を呈し、切妻平入り形で、棺台床面より棟まで2.07mをはかる。天井、各壁面には幅0.15m程の削り痕が認められる。

３号

全長、主軸方向等は未報告。玄室は両袖式。羨道床面より2.05m高い棺台が施される。棺床面は攪乱が著しい。刳り抜き棺が１か所施されていた痕跡を認めるが規模は不明。玄室右側壁から４号横穴左側壁に、高さ0.53m、幅0.61m、長さ1.36mのトンネルが掘られ、これは両側から掘り込まれている。このトンネルは本横穴群構築期に造られたものと報告されている。玄門部に閉塞施設の一部とみられる穴があった。天井は家形を呈し、切妻平入り形。棺台床面より棟まで1.8mをはかる。

４号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで、幅1.36mの溝が玄門より奥壁に向ってのびる。棺台は各壁に沿いコの字状に施され、溝底面より1.75mをはかる。両側壁下に有縁の刳り抜き棺が施される。羨門部壁面に８か所穴が認められ、閉塞施設の一部と報告されている。天井は家形を呈す。羨道右壁下に地下式壙が掘り込まれており、地下式壙の壁面削り痕は横穴壁面削り痕にくらべ非常に粗い。土壙よりガラス玉が出土。横穴構築と同時に掘り込まれたものと報告されている。

５号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで、玄門より奥壁に向かって溝が入り込む。棺台はコの字状に施され、溝底面より1.55mはかる。右側壁から奥壁、奥壁から左側壁、左側壁に沿い３か所刳り抜き棺が施される。右棺は長さ2.27m、幅0.63m、奥の棺は長さ0.6m、幅1.87m、左棺は長さ1.81m、幅0.58mをはかり、深さは各棺とも平均0.2m。刳り抜き棺はコの字状に施され３方に縁をもつ。羨門壁面に閉塞施設に関わるとされる穴６個があった。天井は平形。

6号

玄室長2.66m、幅3.66m、羨道長1.76m。玄室は両袖式。奥壁下に幅2m、羨道床面より1.59m高い棺台が施される。右側壁より7号横穴左側壁へ、長さ0.94m、幅0.5m、高さ0.68mのトンネルが掘られる。トンネルは横穴構築時に造られたものと報告されている。奥壁、右側壁面に線刻画があり、奥壁は2か所で、一は弓を持つ4人の人物像と顔像、他は人物顔像。右側壁は人物顔像。羨道右側壁に2列の穴があり、1列目は5穴、2列目は4穴。閉塞施設の一部と報告されている。天井は平形。棺台床面より天井まで2.2mをはかる。

7号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面と同レベルで玄室中央まで溝がのび、溝底面より1.64m高い棺台が施される。棺台はコの字状を呈す。奥壁及び右側壁に線刻画がある。奥壁は3人の人物像、右側壁は倒立した2人の人物像が描かれ、天井は平形。

8号

全長、主軸方向等未報告。玄室は両袖式。羨道床面より1.72m高い棺台が施される。右側壁に沿い深さ0.15mの刳り抜き棺が施される。玄門の天井及び棺台床面に、幅0.04m、深さ0.05m、長さ0.4～0.5mの溝が各2か所施される。玄門よりの羨道左、右壁面に各3か所の穴が縦方向に配される。閉塞施設の一部と報告されている。天井は平形。

昭和32年、高橋三男調査。現存。

〔66.　一宮町〕

柚ノ木横穴群　　長生郡一宮町柚ノ木（149）

瑞沢川流域南岸丘陵地帯に所在する。丘陵は東南の方向に支谷が樹枝状に入り込み、柚ノ木横穴群は丘陵東端南斜面（標高約30m）に所在する。丘陵の僅かな張り出しにより、A・B群に分かれる。A群5基、B群8基の2群13基で構成される。

A1号

全長5.6m、玄室長2.1m、幅3.1m、羨道長3.5m、幅1～1.7m、主軸N—60°—E。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ1.4mの棺台が施される。棺台中央部には、長さ1m、幅2m、深さ0.15mの刳り抜き棺が施され、棺床から玄門に向い溝が掘られる。奥壁から左側壁下に幅0.1～0.15m、深さ0.07m程の溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.35mをはかる。羨道より耳環、管玉、土師器（杯、壺）が出土。

A2号

全長3.5m、玄室長2m、幅2.7m、羨道長1.5m、幅0.65～1.7m、主軸N—65°—W。玄室は両袖式。奥壁より玄門側へ幅1.4m、羨道床面よりの高さ0.9mの棺台が施される。棺台中央部には長さ0.9m、幅2.1m、深さ0.15mの刳り抜き棺が施される。壁下には浅い溝がめぐる。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.2mをはかる。羨道より貝釧、須恵器（横瓶、壺）

が出土。

A３号

全長8.8m、玄室長2.8m、幅2.4m、羨道長６m、幅0.8m、主軸N—75°—W。玄室は左片袖式。羨道床面よりの高さの棺台が施される。主軸に直交して２か所に刳り抜き棺が施される。奥の棺の長さ0.6m、幅1.8m、深さ0.14m、他は長さ0.55m、幅1.7m、深さ0.13m。羨道は極端に細長い。天井はドーム形、棺台床面より天井まで1.5mをはかる。

B１号

全長6.1m、玄室長3.05m、幅3.6m、羨道長3.05m、幅0.95～2.1m、主軸N—55°—W。玄室は羽子板状を呈す。奥壁より玄門側へ幅2.5m、羨道床面よりの高さ1.15mの棺台が施される。左右側壁寄りに刳り抜き棺が施される。左棺は長さ２m、幅1.6m、深さ0.1m、右棺は長さ1.85m、幅１m、深さ0.09m。天井はアーチ形、棺台床面より天井まで1.95mをはかる。羨道より須恵器（盌）が出土。

昭和39年、上智大学調査。現存。

〔68.　長南町〕

地引横穴群　　長生郡長南町地引（175）

一宮川の支流埴生川上流の南岸台地斜面（標高35～40m）に所在する。長さ80m程の間に６群29基の横穴が、A群６基、B群４基、C群６基、D群４基、E群８基、F群１基の構成で群在する。B群のみ上下２段になる他は横一列に配置される。

A１号

玄室のみ遺存。現存長3.6m、幅3.5m、主軸N—33°—W。玄室形態、棺台の高さは不明。床面に幅0.12～0.13m、深さ0.05mの溝が掘られる。天井はドーム形、棺台床面より天井までの高さ1.8mをはかる。玄室内より歯、直刀、鍔、刀子、鉄鏃、須恵器（短頸壺）が出土。

A２号

全長4.75m、玄室長３m、幅2.35～3.1m、羨道長1.75m、幅1.35～1.85m。玄室平面形は羽子板状を呈す。羨道床面よりの高さ1.4mをはかる棺台が施される。棺台には奥壁、左側壁、右側壁に沿って３か所刳り抜き棺がコの字状に配される。奥の棺は長さ0.45m、幅1.6m、深さ0.1m、左棺は長さ1.6m、幅0.62m、深さ0.2m、右棺は長さ1.45m、幅0.5m、深さ0.15m。棺台各壁下には浅く細い溝がめぐる。天井はアーチ形、棺台床面より天井までの高さ1.8mをはかる。玄室より人骨、歯、鉄鏃、耳環、羨道より須恵器（長頸壺、横瓶、杯）、土師器（杯）が出土。

B１号

上下段に配される横穴群中下段の横穴。全長4.6m、玄室長3.2m、幅2.5～3.25m、羨道長1.4m、幅0.95m、主軸N—22°—W。玄室は両袖式。棺台施設は認められず、各壁下周囲及び中

央部主軸沿いに溝が施され、それらが羨道へ続く。壁下溝は幅0.09～0.12m、深さ0.06～0.08m、中央溝は幅0.09～0.3m、深さ0.06～0.12mをはかり、中央溝は奥壁から羨門に向うに従い幅、深さとも増大する。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで1.5mをはかる。玄室内より鉄鏃、小玉、羨道より須恵器（杯）、土師器（杯）出土。

B２号

全長5.7m、玄室長４m、幅3.6～4.6m、羨道長1.7m、幅1.2～1.45m、主軸N—20°—W。玄室は両袖式。無棺台で、玄室床面は羨道底面と同レベル。付属施設はない。天井はアーチ形、玄室床面より天井まで1.7mをはかる。玄室内より人骨、歯、須恵器（短頸壺）、土師器高杯が出土。

昭和40年、上智大学調査。現存。

中ノ郷横穴群　　長生郡長南町又富字中ノ郷（149）

一宮川本流の上流谷奥に所在する。谷の北側丘陵斜面に４群の横穴がある。谷奥より小平田横穴群（３基）、三本松横穴群（13基）、水ノ口横穴群（11基）、中ノ郷横穴群（11基）の４群38基をかぞえる。38基すべての玄室形態が、家形寄棟平入形態という斉一性を有す点注意される。中ノ郷横穴群は、A、B２群により構成される。

A１号

全長7.75m、玄室長3.75m、幅4.6m、羨道長３m、幅2.1～2.3m、主軸N—81°—W。玄室は両袖式。羨道床面よりの高さ1.7mの棺台が施される。左右両側壁下に刳り抜き棺が施される。左棺は長さ1.9m、幅0.75m、深さ0.82m、右棺は長さ2.1m、幅0.7m、深さ0.25m。玄門部床面には、奥壁と平行して幅0.4m、高さ0.1m程の段が施される。天井は家形寄棟形態を呈し、平入り構造で、廂状の彫り込みによって天井と側壁が明確に区別される。玄室内には、棟木、棟柱、桁、柱等の浮き彫りが施される。棺台床面より天井まで高さ2.5mをはかる。羨道より須恵器片（形態不詳）が若干出土。

A２号

全長7.25m、玄室長3.25m、幅2.95～3.4m、羨道長４m、幅1.8m、主軸N—56°—W。玄室は両袖式。羨道より1.6m高い棺台が施される。両側壁下に刳り抜き棺が施され、左棺は長さ1.8m、幅0.75m、深さ0.25m、右棺は、長さ1.8m、幅0.8m、深さ0.3m。玄門付近に奥壁と平行して幅0.25m、高さ0.05mの段が床面に施される。天井は家形寄棟形態を呈し、平入構造。床面より天井まで1.8mをはかる。羨門より須恵器（広口壺）が出土。

昭和42年、上智大学調査。現存。

立鳥汲井谷横穴群A４号横穴　　長南町立鳥字汲井谷（149）

一宮川本流河口より約20km程さかのぼった汲井谷に所在する。汲井谷は、長さ１km、幅100

mの谷で、横穴は谷の西側台地斜面（標高約60m）に９群31基ある。全長6.1m、玄室長3.6m、幅5.4m、羨道長2.5m、幅２～2.4m、主軸N—60°W。玄室は両袖式。羨道より約1.5m高い棺台が施される。天井は、家形を呈し、寄棟平入り形。各壁面と天井の境には0.1～0.12mの廂状の掘り込みがある。壁高は1.25m。天井には、棟木、垂木が浮彫される。棟木と垂木の組合せに特徴を有し、垂木端部が、棟木端部より0.1m程内側に入る合せ方を呈す。この棟木は、長さ3.1m、幅0.3m、左右の垂木幅0.19m。棺台床面より棟木部分まで2.1mをはかる。

昭和38～42年、上智大学分布調査。現存。

長富岩柵谷横穴群Ｂ３号横穴　　長南町長富字岩柵谷（149）

一宮川本流の上流、西岸台地東斜面に所在する。３群33基で構成される。全長5.6m、玄室長2.9m、幅3.2m、羨道長2.7m、幅1.1～1.23m、主軸Ｎ—42°—W。玄室は両袖式。羨門から玄室ほぼ中央まで、羨道幅よりやや細い溝が掘られる。溝底面より1.6m高い棺台がコの字に施される。玄室奥壁、左右壁に沿いコの字状に刳り抜き棺が施される。３棺とも長さ２m、幅0.7m、深さ0.15～0.2mをはかる。天井はドーム形で、中央に径0.44m、深さ0.05mの円形掘り込みがあり、掘り込みを中心とし、放射状の削痕が装飾的に施される。天井と各壁の境に0.1m程の廂状の掘り込みが認められる。棺台床面より天井まで1.7mをはかる。

昭和38～42年、上智大学分布調査。現存。

棚毛馬場谷横穴群４号横穴　　長南町棚毛字馬場谷（149）

一宮川本流の上流の北岸台地南斜面に所在する。棚毛横穴群は、15群59基で構成され、谷入口部に馬場谷横穴群が位置する。全長4.5m、玄室長4.4m、幅3.4～3.95m、羨道長0.5m、幅1.5m、主軸N—13°—W。玄室は両袖式。棺台は施されず、羨道床面と同レベルで奥壁まで達する。天井はアーチ形、棟木に相当する陰刻が、主軸に平行して、玄門から奥壁まで天井中央に施される。この陰刻を中心として、左右壁に向って削痕が装飾的に施される。玄室床面より天井まで1.9mをはかる。羨道は極端に短い。

昭和38～42年、上智大学分布調査。現存。

長生郡一宮川流域の横穴（149）

東上総を流れる一宮川本・支流流域には、横穴の分布が濃密である。上智大学の踏査記録により、一宮川全体を本・支流合計７流域に大別し、横穴所在地、確認数・横穴形態を記す。

（1）　長谷川流域

押日４群40基、長谷５群27基、国府関戸田谷１群７基、庄吉谷１群２基、原田１群５基、立堀１群３基、芦網１群５基、殿谷１群１基、岩出２群２基、力丸２群５基、米和久１群10基、計20群107基。玄室天井形態は、アーチ形が大勢を占め、家形は少ない傾向を示す。

（2） 一宮川本流域

箕輪５群14基、榎本７群28基、 徳育５群27基、 本台１群６基、 今泉４群18基、 又富４群38基、棚毛15群59基、岩柵谷３群33基、新堀谷10群53基、桜谷４群11基、泉谷１群１基、針ケ谷１群２基、金谷１群３基、汲井谷９群31基、刑部４群８基、 計74群309基。 家形が半数を占め164基、次いでアーチ形114基、ドーム形12基、不明19基となる。家形は、寄棟平入り形152基、切妻平入り形９基、宝形３基と寄棟平入り形が大半を占める。

（3） 長南川流域

須田１群２基、 米満宮田１群24基、 米満堰向１群13基、 坊谷２群７基、 千田三ケ谷１群４基、千田吹羅１群４基、千田井山１群15基、千田外原１群１基、三途台２群５基、深沢１群２基、計12群77基。アーチ形が半数を占め38基、次いで家形26基、ドーム形２基、不明11基となる。家形は寄棟平入り形18基、切妻平入り形８基と、寄棟平入り形が約⅔を占めている。

（4） 鶴枝川流域

猿袋１群４基、三ケ谷４群27基、立木２群３基、上永吉７群15基、法華谷２群13基、坂本５群13基、計21群75基。家形、アーチ形ともに21基、次いでドーム形14基、平形12基、不明７基となる。ほぼ平均して各形態が認められる。家形は、寄棟平入り形13基、切妻平入り形７基、宝形１基と寄棟平入り形が約⅔程を占める。

（5） 埴生川流域

寺崎２群４基、北山田１群５基、白ケ谷１群４基、大谷木１群５基、関戸１群５基、木ノ村１群１基、永井２群17基、豊原２群３基、久原１群４基、うり谷１群１基、八坂１群２基、妙詮寺１群６基、ひろげ谷１群４基、八板１群１基、地引６群29基、小沢１群16基、報恩寺１群９基、計25群116基。アーチ形37基、ドーム形21基、家形18基、 平形11基、 不明30基と、アーチ形が僅かに優勢。家形は、寄棟平入り形８基、宝形４基、切妻平入り形５基と寄棟平入りが多いが、かなり平均化され多様性を示す。

（6） 佐貫川流域

大作１群７基、鞠谷１群４基、森谷１群４基、福円寺１群２基、養老子谷１群３基、次郎ケ谷１群１基、計６群21基。アーチ形が半数を占め11基、次いで家形５基、ドーム形４基、不明１基となる。家計はすべて寄棟平入り形。

（7） 瑞沢川流域

柚ノ木４群23基、小池４群13基、細田４群20基、今堰１群１基、奥谷３群６基、岩井３群６基、池田谷２群７基、下根方５群14基、東谷４群９基、次郎田谷３群13基、鳴田猿田谷２群６基、中谷２群10基、天ケ谷２群９基、大谷10群19基、上の郷東谷３群６基、山田谷３群９基、飯沢１群１基、長楽寺１群２基、坏六１群３基、杉山１群12基、計59群189基。アーチ形50基。家形47基、 ドーム形の３形態が平均化している。 家形は、 切妻平入り形32基、 寄棟平入り形14基、宝形１基と切り妻平入り形が、大勢を占める。

昭和38～42年、上智大学踏査。なお、当然実数はこれを上まわるものと思われる。

Ⅳ　要素別古墳一覧

（番号は市町村を示す）

1　墳　　形

〔前方後円墳〕

12　弁天山古墳。内裏塚古墳。九条塚古墳。三条塚古墳。稲荷山古墳。わらび塚。西原古墳。

13　八幡神社。

14　さかもり塚。丸山塚古墳。山伏作１号墳。鹿島塚14号墳。稲荷森古墳。下郡古墳。高柳銚子塚古墳。清川村古墳。手古塚古墳。金鈴塚古墳。大塚山古墳。

16　天神山古墳。持塚古墳群２号墳。荻作１号墳。瓢箪塚古墳。東間部多11号墳。山王山古墳。大厩１号墳。大厩４号墳。大厩東古墳群。東関山古墳。二子塚古墳。神門４号墳。山倉古墳群１号墳。姫宮古墳。吉野１号墳。吉野２号墳。原１号墳。

17　内野古墳群１号墳。狐塚古墳。仁戸名２号墳。戸張作８号墳。戸張作13号墳。舟塚古墳。中原３号墳。中原４号墳。中原５号墳。

18　鷺沼Ａ号墳。鷺沼Ｂ号墳。

20　法皇塚古墳。弘法寺古墳。

22　東深井９号墳。

26　日立精機１号墳。日立精機２号墳。我孫子第４小学校古墳。高野山１号墳。高野山２号墳。高野山４号墳。水神山古墳。

27　北作２号墳

32　山崎ひょうたん塚古墳。大篠塚古墳。光勝寺境内古墳。姫宮古墳。

37　山王古墳。

40　天王船塚８号墳。荒海古墳群第15号墳。

41　大日山古墳群１号墳。

42　小松古墳。舟塚原古墳。

44　神道山古墳。大戸古墳。片野古墳群１号墳。片野古墳群４号墳。片野古墳群10号墳。片野古墳群11号墳。片野古墳群23号墳。

45　城山古墳群１号墳。城山古墳群５号墳。城山古墳群６号墳。

47　羽計古墳群婆里古墳。

53　塚原古墳群１号墳。内山古墳。

54　小川台古墳群３号墳。小川台古墳群５号墳。

55　坂並白貝古墳群18号墳。

57　取立古墳。姫塚古墳。殿塚古墳。

58　木戸前１号墳（高田第１号墳）。高田古墳。宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。殿部田１号墳。

59　大堤権現塚古墳。蕪木第５号墳（名城５号墳）。朝日ノ岡古墳。

60　西ノ台古墳。不動塚古墳。

68　油殿古墳群１号墳。油殿古墳群２号墳。能満寺古墳。

71　台古墳。

〔前方後方墳〕

13　道祖神裏古墳。

16　諏訪台古墳群33号墳。六孫王原古墳。東間部多２号墳。東間部多11号墳。東間部多16号墳。新皇塚古墳。

32　飯合作１号墳。飯合作２号墳。

45　阿玉台北Ａ－７号墳。

〔方　　墳〕（方形周溝遺構を含む）

12　割見塚古墳。野々間古墳。

13　堀込古墳。

14　山伏作４号墳。山伏作５号墳。山伏作６号墳。山伏作Ａ－１号墳。山伏作９号方形墳。庚申塚方形墳群第１号方形墳。庚申塚方形墳群第２号方形墳。庚申塚方形墳群第３号方形墳。大山台方形墳群７号方形墳。大山台方形墳群８号方形墳。大山台方形墳群10号方形墳。大山台方形墳群11号方形墳。大山台方形墳群12号方形墳。大山台方形墳群16号方形墳群。大山台方形墳群32号方形墳。大山台方形周溝墓群第51遺構。大山台方形周溝墓群第52遺構。大山台方形周溝墓群第53遺構。大山台方形周溝墓群第54遺構。大山台方形周溝墓群第55遺構。大山台方形周溝墓群第56遺構。大山台方形周溝墓群第57遺構。請西遺跡Ａ－１号周溝。請西遺跡Ｂ－１号周溝。請西遺跡Ｂ－２号周溝。

16　天神台遺跡第13号周溝。天神台遺跡第12号周溝。天神台遺跡第11号周溝。天神台遺跡第10号周溝。天神台遺跡第９号周溝。天神台遺跡第８号周溝。天神台遺跡第７号周溝。天神台遺跡第６号周溝。天神台遺跡第５号周溝。天神台遺跡第４号周溝。天神台遺跡第３号周溝。天神台遺跡第２号方形周溝。天神台遺跡第１号方形周溝。諏訪台古墳群６号墳。台遺跡Ｂ地点２号墳。持塚古墳群４号墳。徳部台古墳。大厩９号墳。大厩８号墳。大厩７号墳。大厩６号墳。大厩５号墳。大厩３号墳。東間部多14号墳。東間部多12号墳。東間部多10号墳。

東間部多4号墳。東間部多8号墳。東間部多7号墳。東間部多6号墳。東間部多5号墳。東間部多4号墳。東間部多3号墳。牛久Ⅲ号墳。女坂第1号墳。武士遺跡Y—2号遺構。台遺跡5号方形周溝墓。南総中遺跡方形周溝墓M—24号。南総中遺跡方形周溝墓K—21号。南向原1号方形周溝墓。南向原2号方形周溝墓。大厩遺跡E—3号址。大厩遺跡E—4・5b号址。大厩遺跡E—12号址。菊間遺跡第1号周溝。菊間遺跡第2号周溝。菊間遺跡第4号周溝。菊間遺跡第1号溝状遺構。蛇谷遺跡方形周溝墓。台遺跡11号方形周溝墓。南総中遺跡方形周溝墓H—17号。南総中遺跡方形周溝墓I—17号。南総中遺跡方形周溝墓J—18号。南総中遺跡方形周溝墓H—20号。南総中遺跡方形周溝墓K—27号。南総中遺跡方形周溝墓O—24号。南総中遺跡方形周溝墓K—26号。南総中遺跡方形周溝墓G—22号。南総中遺跡方形周溝墓L—30号。南総中遺跡方形周溝墓J—28号。加茂遺跡C地点。

17 高品第2遺跡A地点第2号周溝。高品第2遺跡A地点第1号周溝。戸張作10号墳。県立コロニー内018号址。県立コロニー内017号址。県立コロニー内012号址。県立コロニー内011号址。県立コロニー内010号址。県立コロニー内009号址。県立コロニー内007号址。県立コロニー内008号址。県立コロニー内004号址。県立コロニー内003号址。県立コロニー内001号址。県立コロニー内002号址。石神4号墳。兼坂遺跡第6号周溝。兼坂遺跡第2号周溝。兼坂遺跡第6号周溝。高品第2遺跡A地点第7号周溝。高品第2遺跡A地点第6号周溝。高品第2遺跡A地点第5号周溝。高品第2遺跡A地点第3周溝。高品第2遺跡A地点第4号周溝。すすき山遺跡1号方形周溝墓。すすき山遺跡2号方形周溝墓。すすき山遺跡3号方形周溝墓。すすき山遺跡4号方形周溝墓。すすき山遺跡5号方形周溝墓。すすき山遺跡6号方形周溝墓。すすき山遺跡7号方形周溝墓。すすき山遺跡8号方形周溝墓。すすき山遺跡9号方形周溝墓。すすき山遺跡10号方形周溝墓。東五郎遺跡方形周溝墓。

19 夏見大塚遺跡周溝状遺構

20 太鼓塚古墳。

21 稔台富山遺跡。

22 東深井遺跡方形周溝墓。

23 堤台遺跡。

25 戸張城山遺跡。

29 復山谷遺跡016方形周溝墓。

30 小林2号墳。

31 村上古墳。

32 臼井南遺跡渡戸A地点。臼井南遺跡渡戸B地点1号方形周溝墓。臼井南遺跡渡戸B地点2号方形周溝墓。江原台遺跡1号方形周溝墓。江原台遺跡2号方形周溝墓。飯合作3号墳。飯合作4号墳。飯合作D01。飯合作D02。飯合作D03。飯合作D04。飯合作D05。飯合作D06。飯合作D07。飯合作D08。飯合作D09。飯合作D10。飯合作D11。飯合作D12。

飯合作D13。飯合作D14。飯合作D15。飯合作D16。飯合作D17。飯合作D18。飯合作D19。飯合作20。飯合作D21。飯合作D22。飯合作D23。生谷遺跡A地点第1号周溝。生谷遺跡A地点第2号周溝。生谷遺跡A地点第4号周溝。生谷遺跡第5号周溝。生谷遺跡第6号周溝。生谷遺跡第7号周溝。生谷遺跡第8号周溝。萱橋遺跡方形周溝墓1号址。萱橋遺跡方形周溝墓2号址。萱橋遺跡方形周溝墓3号址。生谷境堀遺跡第1号方形周溝状遺構。生谷境堀遺跡第2号方形周溝状遺構。飯重新畑遺跡第1号方形周溝状遺構。飯重新畑遺跡第2号方形周溝状遺構。西の台遺跡1号方形周溝墓。大崎台遺跡2号址。大崎台遺跡方形周溝墓1号址。生谷遺跡A地点第3号周溝。

33　千代田遺跡V区方形周溝遺構1号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構2号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構3号址。千代田遺跡区方形周溝遺構4号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構5号址。千代田遺跡V区方形周溝遺構6号址。千代田遺跡区方形周溝遺構7号址。

36　松ノ木台2号墳。日吉倉遺跡3号方形周溝墓。日吉倉遺跡2号方形周溝墓。日吉倉遺跡1号方形周溝墓。

40　天王船塚27号墳（伝伊都許利命墳墓）。上福田古墳（上福田岩屋古墳・上福田古墳群第7号墳）。赤坂・瓢塚古墳群第13号墳。八代台20号墳。八代台8B号墳。八代台8A号墳。天王船塚50号墳。天王船塚49号墳。天王船塚32号墳。天王船塚10号墳。瓢塚48号墳。瓢塚47号墳。瓢塚46号墳。瓢塚45号墳。瓢塚44号墳。瓢塚42号墳。瓢塚41号墳。瓢塚40号墳。瓢塚39号墳。瓢塚38号墳。瓢塚36号墳。瓢塚27号墳。瓢塚16号墳。瓢塚12号墳。瓢塚9号墳。天王船塚48号墳。天王船塚42号墳。天王船塚44号塚。

42　武田古墳群2号墳。

45　阿玉台北遺跡A地点001号墳。阿玉台北遺跡A地点002号墳。阿玉台北遺跡A地点004号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡A地点006号墳。阿玉台北遺跡B地点001号墳。阿玉台北遺跡B地点003号墳。阿玉台北遺跡B地点004号墳。阿玉台北遺跡A—001号址。阿玉台北遺跡A—002号址。阿玉台北遺跡A—003号址。阿玉台北遺跡A—004号址。阿玉台北遺跡B—008号址。

54　小川台古墳群4号墳。

55　正徳院古墳。

〔円　　墳〕（円形周溝遺構を含む）

12　一本松古墳。白姫塚。西谷古墳。八丁塚古墳。向原古墳。虫神古墳（きさき塚）。野々間古墳。丸塚古墳。

13　馬門古墳。下道古墳。南子安古墳。南子安所在の古墳。小安坂古墳。八重原6号墳。八重原7号墳。

14　庚申塚6号墳。山伏作7号墳。清見台A—3号墳。清見台A—4号墳。清見台A—5号

墳。清見台A－8号墳。清見台B－1号墳。清見台B－2号墳。清見台B－3号墳。清見台B－4号墳。道上谷1号墳。道上谷2号墳。道上谷3号墳。大山台1号墳。大山台4号墳。大山台5号墳。大山台6号墳。大山台14号墳。大山台15号墳。大山台21号墳。大山台27号墳。大山台24号墳。鹿島塚20号墳。清水谷古墳。瑠璃光塚古墳。鶴巻塚。下部田山古墳。

15　大竹12号墳。

16　塚の台2号墳。富士見塚古墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。諏訪台古墳群1号墳。諏訪台古墳群7古墳。南向原古墳群1号墳。南向原古墳群2号墳。南向原古墳群3号墳。南向原古墳群4号墳。南向原古墳群5号墳。南向原古墳群6号墳。南向原古墳群7号墳。南向原古墳群8号墳。神門A号墳。神門B号墳。郡本A号墳。郡本B号墳。郡本C号墳。郡本D号墳。稲荷台遺跡。堀の内中谷遺跡。大厩2号墳。木戸窪古墳。福増1号墳。福増2号墳。東間部多1号墳。東間部多13号墳。持塚古墳群2号墳。大厩1号墳。大厩2号墳。菊間天神山古墳。向原2号墳。大厩遺跡E—18号址。向原3号墳。向原4号墳。菊間遺跡第3号周溝。菊間遺跡第5号周溝。

17　中原1号墳。中原2号墳。聖人塚古墳。戸張作9号墳。戸張作11号墳。戸張作12号墳。平山古墳。仁戸名古墳群1号墳。仁戸名3号墳。兼坂遺跡第3号周溝。兼坂遺跡第4号周溝。石神2号墳。石神3号墳。石神5号墳。石神6号墳。荻生道遺跡。内野古墳群2号墳。舟塚古墳。武石遺跡第1号周溝。武石遺跡第2号周溝。

19　海神古墳。

20　真間山古墳。

21　栗山古墳。河原塚古墳。竹ケ花古墳。

22　初石古墳群1号墳。初石古墳群2号墳。初石古墳群4号墳。新川村古墳群1号墳。新川村古墳群2号墳。新川村古墳群3号墳。東深井1号墳。東深井2号墳。東深井3号墳。東深井4号墳。東深井5号墳。東深井6号墳。東深井7号墳。東深井8号墳。東深井10号墳。東深井11号墳。東深井12号墳。東深井遺跡第1号周溝。

25　天神台古墳群2号墳。

26　中峠古墳群1号墳。白山1号墳。高野山3号墳。子の神10号墳。金塚古墳。子の神古墳。

27　北作1号墳。

30　下総鶴塚古墳。小林1号墳。小林3号墳。小林4号墳。

31　神野芝山2号墳。神野芝山4号墳。

32　石神第1地点1号墳。星谷津1号墳。石川1号塚。飯塚古墳群7号墳。

36　日吉倉遺跡2区1号円形周溝墓。日吉倉遺跡2区2号円形周溝墓。日吉倉遺跡4区円形周溝墓。烏山2号墳。

39　竜角寺92号墳（57号墳）。竜角寺111号墳。竜角寺112号墳。

40　瓢塚17号墳。瓢塚18号墳。瓢塚19号墳。瓢塚20号墳。瓢塚21号墳。瓢塚22号墳。瓢塚23号墳。瓢塚29号墳。瓢塚30Ａ号墳。瓢塚30Ｂ号墳。瓢塚31号墳。瓢塚32号墳。瓢塚33号墳。瓢塚34号墳。瓢塚35Ａ号墳。瓢塚35Ｂ号墳。瓢塚43号墳。天王船塚４号墳。天王船塚５号墳。天王船塚33号墳。天王船塚34号墳。天王船塚35号墳。天王船塚36号墳。天王船塚37号墳。天王船塚40号墳。天王船塚41号墳。天王船塚43号墳。天王船塚45号墳。天王船塚46号墳。瓢塚15号墳。八代台７号墳。八代台21号墳。八代台22号墳。浅間台古墳。

41　木挽崎古墳群。

42　武田古墳群１号墳。武田古墳群３号墳。

43　地蔵原古墳群１号墳。

44　白幡古墳。鴇崎天神台古墳。片野古墳群８号墳。片野古墳群９号墳。片野古墳群12号墳。片野古墳群13号墳。片野古墳群21号墳。片野古墳群22号墳。

45　阿玉台北遺跡Ａ―012号址。阿玉台北遺跡Ａ―023号址。阿玉台北遺跡Ａ―045号址。阿玉台北遺跡Ａ―028号址。阿玉台北遺跡Ｂ―003号址。阿玉台北遺跡Ｂ地点002号墳。

47　羽計古墳群扶喰古墳。

53　塚原古墳群４号墳。

54　宝米古墳群５号墳。小川台古墳群１号墳。小川台古墳群２号墳。

55　坂並白貝古墳群17号墳。坂並白貝古墳群20号墳。坂並白貝古墳群21号墳。坂並白貝古墳群66号墳。多古台遺跡群No.4地点。

57　殿塚第７号墳。

58　小池第１号墳。山田１号墳。山田２号墳。山田３号墳。山田４号墳。

59　諏訪塚古墳。

60　板附１号墳。板附２号墳。板附所在の一円墳（板附４号墳）。経僧塚古墳。

61　埴谷３号墳。埴谷古墳群２号墳。中津田古墳。矢部の一円墳（１）。

66　待山古墳群１号墳。

68　油殿古墳群３号墳。油殿古墳群４号墳。

71　高谷古墳群１号墳。高谷古墳群１号墳。高谷古墳群２号墳。打岡台古墳群１号墳。打岡台古墳群２号墳。打岡台古墳群３号墳。打岡台古墳群４号墳。大宮氏旧宅裏山古墳。

〔横　　穴〕

2　東長田横穴群。南條横穴群。

12　加藤横穴群３号横穴。絹根方横穴群18号横穴。絹根方横穴群１号横穴。絹根方横穴群６号横穴。絹根方横穴群９号横穴。絹根方横穴群10号横穴。岩瀬横穴群１号横穴。岩瀬横穴群２号横穴。岩瀬横穴群３号横穴。池田横穴群１号横穴。谷掘横穴群２号横穴。鹿島横穴群Ｌ５号横穴。鹿島横穴群Ｒ１号横穴。神宿横穴群。西山横穴群。大満横穴群第３群１号横

穴。大満横穴群第３群２号横穴。大満横穴群第３群３号横穴。大満横穴群第３群４号横穴。大満横穴群第１群１号横穴。大満横穴群第１群２号横穴。大満横穴群第３群７号横穴。大満横穴群第３群19号横穴。大満横穴群第３群24号横穴。

13　花里山横穴群。

14　中尾横穴群西本谷Ａ１号墳。中尾横穴群西本谷Ａ５号横穴。高畑横穴群。金屋敷横穴群。柊谷横穴群。東本谷横穴。西入横穴群。

16　西国吉横穴群１号横穴。西国吉横穴群２号横穴。西国吉横穴群３号横穴。西国吉横穴群４号横穴。岩横穴群５号横穴。西国吉横穴群６号横穴。西国吉横穴群７号横穴。西国吉横穴群８号横穴。西国吉横穴群１号横穴。岩横穴群２号横穴。岩横穴群３号横穴。岩横穴群４号横穴。岩横穴群５号横穴。岩横穴群６号横穴。岩横穴群７号横穴。岩横穴群８号横穴。岩横穴群９号横穴。岩横穴群10号横穴。米沢横穴群１号横穴。米沢横穴群２号横穴。米沢横穴３群号横穴。外部田横穴群１号横穴。外部田横穴群２号横穴。外部田横穴群３号横穴。浅間台横穴群１号横穴。浅間台横穴群２号横穴。浅間台横穴群３号横穴。浅間台横穴群４号横穴。浅間台横穴群５号横穴。浅間台横穴群６号横穴。池和田横穴群。大和田横穴群。

17　小食土横穴群。

35　新堀横穴群１号横穴。

41　西大須賀横穴群。

43　片野横穴群１号横穴。片野横穴群２号横穴。片野横穴群３号横穴。片野横穴群４号横穴。片野横穴群５号横穴。

44　野中横穴群第１号横穴。野中横穴群第２号横穴。野中横穴群第３号横穴。野中横穴群第４号横穴。野中横穴群第５号横穴。野中横穴群第６号横穴。野中横穴群第７号横穴。野中横穴群第８号横穴。野中横穴群第９号横穴。

47　夏目横穴群１号横穴。夏目横穴群２号横穴・３号横穴・４号横穴。

48　赤塚横穴群１号横穴。赤塚横穴群２号横穴。小舟木横穴群１号横穴。西小川町横穴群１号横穴。西小川町横穴群２号横穴。長塚町横穴群１号横穴。

49　平松岡横穴。

53　米倉横穴。吉田横穴群。馬洗横穴群１号横穴。馬洗横穴群２号横穴。丸山横穴。

55　高津原横穴群１号横穴。高津原横穴群２号横穴。高津原横穴群３号横穴。

63　宮谷横穴群。

64　渋谷横穴群。押日横穴群第１類横穴。押日横穴群第２類横穴。押日横穴群第３類横穴。押日横穴群第４類横穴。押日横穴群第５類横穴。押日横穴群第６類横穴。押日横穴群第７類横穴。

65　源六谷横穴群１号横穴。源六谷横穴群２号横穴。源六谷横穴群３号横穴。源六谷横穴群４号横穴。源六谷横穴群５号横穴。源六谷６号横穴。源六谷横穴群７号横穴。源六谷横穴群

8号横穴。

66　柚ノ木横穴群A１号横穴。柚ノ木横穴群A２号横穴。柚ノ木横穴群A３号横穴。柚ノ木横穴群B１号横穴。

68　立鳥汲井谷横穴群A４号横穴。長富岩柵横穴群B３号横穴。棚毛馬場谷横穴群４号横穴。地引横穴群A１号横穴。地引横穴群A２号横穴。地引横穴群B１号横穴。地引横穴群B２号横穴。中ノ郷横穴群A１号横穴。中ノ郷横穴群A２号横穴。

長生郡一宮川流域の横穴１長谷川流域。長生郡一宮川流域の横穴２一宮川 本流域。 長生郡一宮川流域の横穴３長南川流域。長生郡一宮川流域の横穴４鴨枝川流域。長生郡一宮川流域の横穴５埴生川流域。長生郡一宮川流域の横穴６佐貫川流域。長生郡一宮川流域の横穴７瑞沢川流域。

2 内部施設

〔横穴式石室〕

12 割見塚古墳。西谷古墳。西原古墳。わらび塚。白姫塚。八丁塚古墳。向原古墳。虫神古墳(きさき塚)。野々間古墳。丸塚古墳。

14 瑠璃光塚古墳。丸山塚古墳。清川村古墳。塚の越古墳。山伏作5号墳。金鈴塚古墳。

16 持塚古墳群2号墳。福増2号墳。福増1号墳。郡本C号墳。南向原古墳群2号墳。塚の台2号墳。六孫王原古墳。カロト塚古墳。牛久3号墳。徳部台古墳。向原4号墳。

17 舟塚古墳。県立コロニー内004号址（方墳)。舟塚古墳。

20 法皇塚古墳。

22 東深井2号墳。東深井3号墳。

26 中峠古墳群2号墳。中峠古墳群3号墳。白山2号墳。我孫子第4小学校古墳。日立精機2号墳。日立精機1号墳。中峠古墳群1号墳。白山1号墳。高野山3号墳。

27 天神塚古墳。船戸古墳群1号墳。船戸古墳群2号墳。

30 上宿古墳。

31 村上古墳。

36 松ノ木台2号墳。

39 竜角寺92号墳（57号墳)。

40 天王船塚40号墳。天王船塚35号墳。天王船塚34号墳。天王船塚4号墳。天王船塚27号墳(伝伊都許利命墳墓)。上福田古墳（上福田岩屋古墳・上福田古墳群第7号墳)。天王船塚50号墳。天王船塚49号墳。天王船塚10号墳。瓢塚44号墳。瓢塚42号墳。瓢塚41号墳。瓢塚39号墳。瓢塚38号墳。瓢塚36号墳。瓢塚27号墳。天王船塚44号墳。

45 城山古墳群6号墳。城山古墳群1号墳。阿玉台北遺跡A地点001号墳。阿玉台北遺跡A地点002号墳。阿玉台北遺跡A地点004号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡B地点001号墳。阿玉台北遺跡B地点003号墳。

48 野尻古墳群（第1次調査)。

53 関向古墳。

54 小川台古墳群4号墳。宝米古墳群5号墳。

57 殿塚第7号墳。姫塚古墳。殿塚古墳。

58 小池第1号墳。

59 大提権現塚古墳。蕪木第5号墳（名城5号墳)。朝日ノ岡古墳。

60 経僧塚古墳。西ノ台古墳。不動塚古墳。

61　矢部の一円墳（1）。埴谷古墳群1号墳。埴谷古墳群2号墳。

〔竪穴式石室〕

12　弁天山古墳。九条塚古墳。

17　中原4号墳。

40　天王船塚8号墳。

〔石　　棺〕

10　広場古墳群1号墳。

14　さかもり塚。鶴巻塚。金鈴塚古墳。大塚山古墳。

16　向原1号墳。

17　新山古墳群1号墳。

18　鷺沼A号墳。鷺沼B号墳。

19　峯台古墳。

20　明戸古墳。

21　竹ヶ花古墳。

26　中峠古墳群4号墳。中峠古墳群5号墳。中峠古墳群6号墳。高野山1号墳。高野山2号墳。高野山4号墳。

29　海老内台古墳。平塚船戸古墳。真木ノ内古墳群1号墳。真木ノ内古墳群2号墳。真木ノ内古墳群3号墳。

31　栗谷古墳。神野芝山2号墳。

32　石川1号墳。飯塚古墳群16号墳。姫宮古墳。大篠塚古墳。

37　山王古墳。

39　竜角寺111号墳。竜角寺112号墳。

40　八代台20号墳。瓢塚40号墳。天王船塚48号墳。天王船塚8号墳。天王船塚37号墳。長田古墳第1号墳。天王船塚27号墳（伝伊都許利命墳墓）。天王船塚49号墳。瓢塚44号墳。瓢塚41号墳。浅間台古墳。

42　小松古墳。

43　地蔵原古墳群1号墳。

44　片野古墳群1号墳。片野古墳群4号墳。片野古墳群8号墳。片野古墳群9号墳。片野古墳群10号墳。白幡古墳。

45　城山古墳群7号墳。城山古墳群1号石棺。城山古墳群2号石棺。城山古墳群3号石棺。城山古墳群4号石棺。城山古墳群5号石棺。阿玉台北遺跡A地点003号墳。

47　羽計古墳群婆里古墳。寺台古墳。

48　柴崎台古墳。

52　長熊古墳。

53　内山古墳。神崎古墳。

55　坂並白貝古墳群18号墳。坂並白貝古墳群66号墳。

58　山田１号墳。山田２号墳。山田４号墳。木戸前１号墳（高田第１号墳）。高田古墳。宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。

59　大堤権現塚古墳。

60　経僧塚古墳。

61　中津田古墳。

〔粘土施設〕

13　下道古墳。

14　道上谷２号墳。道上谷３号墳。大山台１号墳。大山台４号墳。清見台Ａ－３号墳。手古塚古墳。

16　荻作１号墳。瓢箪塚古墳。山王山古墳。大厩２号墳。大厩４号墳。原１号墳。木戸窪古墳。東間部多古墳群１号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。諏訪台古墳群７号墳。南向原古墳群１号墳。南向原古墳群３号墳。持塚古墳群４号墳。新皇塚古墳。

17　狐塚古墳。中原５号墳。中原１号墳。中原２号墳。聖人塚古墳。石神２号墳。兼坂遺跡第２号周溝。

27　北作１号墳。北作２号墳。

31　神野芝山４号墳。

53　塚原古墳群１号墳。

〔木炭施設〕

41　大日山古墳群１号墳。

68　能満寺古墳。

〔土壙・直葬〕

13　馬門古墳。南子安所在の古墳（２）。小安坂古墳。八重原６号墳。八重原７号墳。

14　庚申塚６号墳。清見台Ａ－４号墳。清見台Ａ－５号墳。清見台Ａ－８号墳。清見台Ｂ－１号墳。清見台Ｂ－２号墳。清見台Ｂ－３号墳。大山台５号墳。大山台６号墳。大山台14号墳。大山台15号墳。大山台21号墳。大山台24号墳。山伏作４号墳。山伏作Ａ－１号墳。鹿島塚20号墳。大山台27号墳。矢畑１号墳。請西遺跡。大山台方形墳群７号方形墳。大山台方形墳群８号方形墳。大山台方形周溝墓群第53遺構。大山台方形周溝墓群第55遺溝。大

山台方形周溝墓群第57遺構。庚申塚方形墳群１号方形墳。庚申塚方形墳群２号方形墳。請西遺跡Ｂ－２号周溝。

16　大廐５号墳。富士見塚古墳。南向原古墳群４号墳。南向原古墳群５号墳。二子塚古墳。大廐７号墳。大廐９号墳。諏訪台古墳群６号墳。瓢箪塚古墳。大廐４号墳。原１号墳。大廐２号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。諏訪台古墳群７号墳。南向原古墳群１号墳。南向原古墳群３号墳。持塚古墳群４号墳。南総中遺跡方形周溝墓Ｊ－28号。

17　仁戸名２号墳。戸張作８号墳。戸張作13号墳。中原３号墳。戸張作９号墳。戸張作14号墳。石神５号墳。兼坂遺跡第１号周溝。県立コロニー内008号址。中原５号墳。中原１号墳。中原２号墳。聖人塚古墳。石神２号墳。兼坂遺跡第２号周溝。戸張作11号墳。仁戸名古墳群第１号墳。仁戸名３号墳。

20　太鼓塚古墳。

21　河原塚古墳。

22　東深井６号墳。東深井８号墳。東深井11号墳。新川村古墳群３号墳。

23　堤台遺跡。

25　戸張城山遺跡２号方形周溝墓。

26　金塚古墳。子の神10号墳。水神山古墳。

29　復山谷遺跡016方形周溝墓。

30　小林４号墳。小林１号墳。下総鶴塚古墳。

32　生谷遺跡Ａ地点第３号周溝。星谷津１号墳。飯合作Ｄ09。飯合作Ｄ08。飯合作１号墳。石神第１地点２号墳。

33　千代田遺跡Ｖ区方形周溝遺構１号址。

36　烏山２号墳。大崎台遺跡方形周溝墓１号址。

40　瓢塚22号墳。瓢塚23号墳。瓢塚29号墳。瓢塚32号墳。瓢塚33号墳。瓢塚35Ａ号墳。瓢塚35Ｂ号墳。天王船塚５号墳。天王船塚33号墳。天王船塚36号墳。瓢塚19号墳。瓢塚17号墳。天王船塚46号墳。瓢塚15号墳。赤坂・瓢塚古墳群第13号墳。天王船塚32号墳。瓢塚48号墳。瓢塚47号墳。瓢塚46号墳。瓢塚45号墳、瓢塚16号墳。瓢塚９号墳。

41　木挽崎古墳群。

44　片野古墳群23号墳。

45　阿玉台北遺跡。

47　羽計古墳群扶喰古墳。

53　塚原古墳群４号墳。

54　小川台古墳群１号墳。小川台古墳群５号墳。

55　坂並白貝古墳群21号墳。多古台遺跡群No.４地点。

60　板附２号墳。

71　高谷古墳群3号墳。打岡台古墳群1号墳。打岡台古墳群3号墳。

〔特 殊 施 設〕

30　下総鶴塚古墳。

3 遺　　物

〔円 筒 埴 輪〕

12　九条塚古墳。弁天山古墳。内裏塚古墳。稲荷山古墳。

13　馬門古墳。

14　清見台A－4号墳。清見台A－8号墳。高柳銚子塚古墳。

16　山倉古墳群1号墳。天神山古墳。南向原古墳群4号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。吉野1号墳。菊間天神山古墳。

18　鷺沼A号墳。

19　竹の越古墳。

20　法皇塚古墳。

21　小金1号墳（愛宕塚）。

22　新川村古墳群1号墳。新川村古墳群2号墳。東深井12号墳。初石古墳群1号墳。初石古墳群2号墳。初石古墳群4号墳。新川村古墳群。東深井11号墳。東深井9号墳。東深井3号墳。東深井1号墳。東深井遺跡第2号周溝。

25　天神台古墳群2号墳。

26　子の神古墳。高野山1号墳。高野山2号墳。高野山4号墳。金塚古墳。

30　小林1号墳。下総鶴塚古墳。

31　神野芝山4号墳。

32　姫宮古墳。

37　山王古墳。

40　瓢塚32号墳。荒海古墳群第15号墳。

41　木挽崎古墳群。

42　武田古墳群1号墳。武田古墳群3号墳。舟塚原古墳。

44　大戸古墳。片野古墳群11号墳。片野古墳群23号墳。

45　城山古墳群1号墳。城山古墳群5号墳。

47　羽計古墳群婆里古墳。

54　小川台古墳群5号墳。

57　姫塚古墳。殿塚古墳。取立古墳。

58　木戸前1号墳（高田第1号墳）。殿部田1号墳。

59　朝日ノ岡古墳。

60　経僧塚古墳。

61　埴谷古墳群１号墳。

66　待山古墳群１号墳。

〔形 象 埴 輪〕

12　内裏塚古墳。

13　馬門古墳。

14　清見台Ａ―８号墳。

16　山倉古墳群１号墳。南向原古墳群４号墳。

17　塚原古墳群。

18　鷺沼Ａ号墳。

19　竹ノ越古墳。

20　法皇塚古墳。

21　栗山古墳。小金１号墳（愛宕塚）。

22　初石古墳群１号墳。初石古墳群２号墳。新川村古墳群２号墳。新川村古墳群１号墳。東深井３号墳。東深井５号墳。東深井７号墳。東深井９号墳。

26　子の神古墳。高野山１号墳。高野山２号墳。高野山４号墳。子の神８号墳。

30　小林１号墳。

32　姫宮古墳。

35　新堀横穴群１号横穴。

37　山王古墳。

40　天王船塚８号墳。瓢塚32号墳。荒海古墳群第15号墳。

41　木挽崎古墳群（第１次調査）。

42　舟塚原古墳。

44　片野古墳群11号墳。片野古墳群23号墳。

45　城山古墳群１号墳。城山古墳群５号墳。

47　羽計古墳群婆里古墳。

54　小川台古墳群５号墳。

57　取立古墳。殿塚古墳。姫塚古墳。

58　山田１号墳。宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。木戸前１号墳（高田第１号墳）。殿部田１号墳。

60　経僧塚古墳。西ノ台古墳。

61　埴谷古墳群１号墳。

〔土　師　器〕

12　わらび塚。虫神古墳（きさき塚）。加藤横穴群18号横穴。 岩瀬横穴群１号横穴。 神宿横穴群。西山横穴群。大満横穴群第３群１号横穴。大満横穴群第３群４号横穴。大満横穴群第群１号横穴。大満横穴群第１群２号横穴。大満横穴群第３群19号横穴。 1

13　花里山横穴群、道祖神裏古墳。

14　中尾横穴群西本谷Ａ１号横穴。 丸山塚古墳。 大山台15号墳。 道上谷２号墳。 道上谷３号墳。清見台Ａ―８号墳。請西遺跡Ｂ―１号周溝。手古塚古墳。金鈴塚古墳。大山台方形墳群７号方形墳。大山台方形墳８号方形墳。大山台方形墳11号方形墳。大山台方形周溝墓群第51遺構。庚申塚方形墳群第１号方形墳。山伏作方形墳９号方形墳。

15　大竹12号墳。

16　東間部多４号墳。諏訪台古墳群33号墳。東間部多２号墳。東間部多１号墳。神門４号墳。大庇８号墳。大庇６号墳。大庇３号墳。西広モチ塚古墳。大庇７号墳。大庇９号墳。大庇４号墳。大庇２号墳。諏訪台古墳群７号墳。南向原古墳群１号墳。大庇５号墳。南向原古墳群６号墳。持塚古墳群２号墳。郡本Ｃ号墳。南向原古墳群２号墳。牛久３号墳。南向原古墳群７号墳。東間部多11号墳。西国吉横穴群４号横穴。西国吉横穴群７号横穴。岩横穴群１号横穴。岩横穴群３号横穴。岩横穴群４号横穴。岩横穴群６号横穴。岩横穴群８号横穴。浅間台横穴群３号横穴。浅間台横穴群６号横穴。天神台遺跡第８号周溝。武士遺跡Ｙ―２号遺構。加茂遺跡Ｃ地点。南総中遺跡方形周溝墓Ｈ―17号。蛇谷遺跡方形周溝墓。新皇塚古墳。牛久１号墳。

17　すすき山遺跡４号方形周溝墓。すすき山遺跡３号方形周溝墓。戸張作12号墳。平山古墳。兼坂遺跡第３号周溝。舟塚古墳。 県立コロニー内004号址。 戸張作13号墳。戸張作９号墳。石神５号墳。聖人塚古墳。石神２号墳。戸張作11号墳。仁戸名３号墳。兼坂遺跡第４号周溝。石神３号墳。高品第２遺跡Ａ地点第１号周溝。高品第２遺跡Ａ地点第５号周溝。県立コロニー内010号址。県立コロニー内003号址。石神４号墳。兼坂遺跡第６号周溝。

19　夏見大塚遺跡。夏見大塚遺跡方形周溝墓。

21　稔台富山遺跡。

23　堤台遺跡。

25　戸張城山遺跡。

26　白山１号墳。水神山古墳。金塚古墳。

27　北作２号墳。北作１号墳。

29　真木ノ内古墳群１号墳。真木ノ内古墳群２号墳。 真木ノ内古墳群３号墳。復山谷遺跡016方形周溝墓。

32　星谷津１号墳。飯合作Ｄ09。飯合作Ｄ08。飯合作１号墳。飯合作Ｄ18。飯合作Ｄ20。飯合

作D19。飯合作D21。飯合作D07。飯合作D10。飯合作D11。飯合作D13。飯合作D14。飯合作D15。飯合作D16。飯合作2号墳。臼井南遺跡渡戸B地点1号方形周溝墓。江原台遺跡1号方形周溝墓。江原台遺跡2号方形周溝墓。飯合作4号墳。飯合作3号墳。飯合作D02。飯合作D01。飯合作D03。飯合作D06。飯合作D04。大崎台遺跡方形周溝墓1号址。飯合作D01。飯合作D05。

36　日吉倉遺跡1号方形周溝墓。日吉倉遺跡4区円形周溝墓。烏山2号墳。

39　竜角寺111号墳。

40　天王船塚34号墳。天王船塚4号墳。天王船塚36号墳。瓢塚45号墳。瓢塚16号墳。瓢塚9号墳。天王船塚49号墳。瓢塚44号墳。天王船塚48号墳。天王船塚37号墳。浅間台古墳。瓢塚32号墳。

42　舟塚原古墳。

44　野中横穴群第1号横穴。野中横穴群第9号横穴。

45　城山古墳群5号墳。城山古墳群1号墳。阿玉台北遺跡A—012号址。阿玉台遺跡A—004号址。

47　羽計古墳群扶喰古墳。

53　塚原古墳群1号墳。

54　小川台古墳群5号墳。小川台古墳群1号墳。

61　埴谷古墳群1号墳。埴谷古墳群2号墳。

66　柚ノ木横穴群A1号横穴。

68　地引横穴群A2号横穴。地引横穴群B1号横穴。地引横穴群B2号横穴。油殿古墳群1号墳。能満寺古墳。

71　台古墳。

〔須　恵　器〕

12　三条塚古墳。九条塚古墳。八丁塚古墳。姫塚。向原古墳。白姫塚。西原古墳。西谷古墳。大満横穴群第3群7号横穴。わらび塚。虫神古墳（きさき塚）。岩瀬横穴群1号横穴。神宿横穴群。大満横穴群第I群1号横穴。西山横穴群。大満横穴群第3群19号横穴。野々間古墳。丸塚古墳。

13　花里山横穴群。

14　元新地（松面）古墳。清見台A—3号墳。瑠璃光塚古墳。塚の越古墳。清川村古墳。山伏作5号墳。山伏作A—1号墳。山伏作4号墳。山伏作6号墳。新田谷地先古墳。道上谷1号古墳。中尾横穴群西本谷A1号横穴。大山台15号墳。道上谷2号墳。金鈴塚古墳。大山台方形墳群32号方形墳。請西遺跡A—1号周溝。

15　大竹12号墳。

16　諏訪台古墳群７号墳。南向原古墳群１号墳。南向原古墳群６号墳。持塚古墳群２号墳。郡本Ｃ号墳。南向原古墳群２号墳。牛久３号墳。 東間部多11号 墳。西国吉横穴群７号横穴。岩横穴群１号横穴。岩横穴群３号横穴。岩横穴群４号横穴。岩横穴群８号横穴。浅間台横穴群３号横穴。浅間台横穴群６号横穴。台遺跡Ｂ地点２号墳。六孫王原古墳。東間部多９号墳。岩横穴群２号横穴。西国吉横穴群１号横穴。西国吉横穴群５号横穴。岩横穴群９号横穴。東間部多２号墳。東間部多古墳群１号墳。大廐３号墳。西広モチ塚古墳。大廐４号墳。大廐２号墳。向原４号墳。菊間遺跡第５号周溝。菊間遺跡第３号周溝。

17　舟塚古墳。県立コロニー内004号址（方墳）。舟塚古墳。戸張作13号墳。高品第２遺跡Ａ地点第１号周溝。戸張作11号墳。聖人塚古墳。戸張作９号墳。平山古墳。戸張作14号墳。県立コロニー内011号址。県立コロニー内007号址。戸張作10号墳。すすき山遺跡４号方形周溝墓。すすき山遺跡９号方形周溝墓。すすき山遺跡10号方形周溝墓。

21　河原塚古墳。

26　金塚古墳。日立精機２号墳。我孫子第４小学校古墳。中峠古墳群１号墳。中峠古墳群５号墳。日立精機１号墳。白山１号墳。

27　船戸古墳群２号墳。

29　真木ノ内古墳群１号墳。

30　上宿古墳。

31　村上古墳。

32　生谷遺跡Ａ地点第３号周溝。萱橋遺跡方形周溝墓２号址。生谷境掘遺跡第１号方形周溝状遺構。

33　千代田遺跡Ｖ区方形周溝遺構３号址。千代田遺跡Ｖ区方形周溝遺構４号址。

36　烏山２号墳。

39　竜角寺111号墳。竜角寺92号墳（57号墳）。

40　天王船塚36号墳。天王船塚49号墳。瓢塚44号墳。天王船塚37号墳。天王船塚４号墳。天王船塚34号墳。瓢塚27号墳。瓢塚36号墳。瓢塚38号墳。瓢塚39号墳。瓢塚42号墳。天王船塚50号墳。瓢塚41号墳。瓢塚40号墳。天王船塚10号墳。瓢塚21号墳。

41　西大須賀横穴群。

42　舟塚原古墳。

44　片野古墳群１号墳。片野古墳群８号墳。

45　城山古墳群１号墳。城山古墳群５号墳。城山古墳群７号墳。阿玉台北遺跡Ａ地点004号墳。Ａ地点002号墳。阿玉台北遺跡Ｂ地点003号墳。阿玉台北遺跡Ａ地点001号墳。阿玉台北遺跡Ｂ地点001号墳。阿玉台北遺跡Ａ地点006号墳。

47　羽計古墳群扶喰古墳。

48　柴崎台古墳。西小川町横穴群１号横穴。

54　小川台古墳群４号墳。

55　高津原横穴群３号横穴。多古台遺跡群No. 4 地点。

57　姫塚古墳。

58　小池第１号墳。

59　蕪木第５号墳（名城５号墳）。

61　埴谷古墳群１号墳。埴谷古墳群２号墳。

66　柚ノ木横穴群Ｂ１号横穴。柚ノ木横穴群Ａ２号横穴。

68　地引横穴群Ａ１号横穴。中ノ郷横穴群Ａ１号横穴。中ノ郷横穴群Ａ２号横穴。地引横穴群Ａ２号横穴。地引横穴群Ｂ１号横穴。地引横穴群Ｂ２号横穴。

71　台古墳。

〔石　　枕〕

16　二子塚古墳。

17　石神２号墳。

26　金塚古墳。

31　神野芝山４号墳。

32　光勝寺境内古墳。

40　瓢塚32号墳。

44　大戸川古墳。

〔立　　花〕

16　二子塚古墳。

17　石神２号墳。

26　金塚古墳。

40　瓢塚32号墳。

〔石製模造品〕

14　道上谷２号墳。請西遺跡Ａ－１号周溝。

16　大鹿３号墳。

17　石神２号墳。

21　河原塚古墳。

40　浅間台古墳。天王船塚36号墳。

44　鴇崎天神台古墳。

45　城山古墳群５号墳。

54　小川台古墳群１号墳。

55　多古台遺跡群 No. 4 地点。

67　浅間山１号墳。

〔朱・赤色料〕

13　八重原７号墳。

14　手古塚古墳。

16　東間部多１号墳。神門４号墳。持塚古墳群。山王山古墳。新皇塚古墳。

26　子の神10号墳。

32　飯塚古墳群16号墳。

57　殿塚古墳。

58　宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。

59　大堤権現塚古墳。蕪木第５号墳（名城号墳）。

61　中津田古墳。

〔 鏡 〕

12　内裏塚古墳。

14　手古塚古墳。金鈴塚古墳。大塚山古墳。塚の越古墳。さかもり塚。鶴巻塚。

16　持塚古墳。富士見塚古墳。 福増中学校裏古墳。 山王山古墳。 西広モチ塚古墳。 新皇塚古墳。

26　金塚古墳。

31　神野芝山４号墳。

36　松の木台２号墳。

40　瓢塚17号墳。瓢塚16号墳。

44　大戸古墳。

45　城山古墳群１号墳。

67　浅間山１号墳。

68　能満寺古墳。

71　大宮氏旧宅裏山古墳（無名円墳）。

〔車　輪　石〕

14　手古塚古墳。

〔石　　釧〕

14　手古塚古墳。

16　新皇塚古墳。

〔銅　　釧〕

12　わらび塚

16　木戸窪古墳。郡本C号墳。

20　法皇塚古墳。

31　村上古墳。

40　瓢塚33号墳。

53　塚原古墳群4号墳。

60　板附所在の一円墳（板附4号墳）。

〔 冠 〕

12　わらび塚。

19　山王山古墳。

45　城山古墳群1号墳。

〔 櫛 〕

16　山王山古墳。

〔耳　　環〕

12　九条塚古墳。八丁塚古墳。姫塚。向原古墳。白姫塚。西原古墳。虫神古墳（きさき塚）。わらび塚。神宿横穴群。大満横穴群第3群19号横穴。丸塚古墳。野々間古墳。

13　南子安古墳。

14　清川村古墳。瑠璃光塚古墳。丸山塚古墳。新田谷地先古墳。大山台14号墳。金鈴塚古墳。

16　大廐2号墳。南向原古墳群6号墳。岩横穴群3号横穴。瓢箪塚古墳。福増2号墳。郡本C号墳。山王山古墳。向原4号墳。

17　中原3号墳。聖人塚古墳。

20　法皇塚古墳。

26　我孫子第4小学校古墳。白山1号墳。

27　天神塚古墳。

29　真木ノ内古墳群2号墳。

32　大篠塚古墳。

37　山王古墳。

40　瓢塚38号墳。

43　地蔵原古墳群１号墳。

44　片野古墳群８号墳。白幡古墳。

45　阿玉台北遺跡Ａ地点003号墳。城山古墳群１号墳。

47　寺台古墳。

48　赤塚横穴群２号横穴。

52　長熊古墳。

53　関向古墳。塚原古墳群４号墳。

55　坂並白貝古墳群18号墳。

57　姫塚古墳。殿塚古墳。

58　宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。高田古墳。山田２号墳。山田４号墳。山田１号墳。木戸前１号墳（高田第１号墳）。

59　大堤権現塚古墳。蕪木第５号墳（名城５号墳）。

60　経僧塚古墳。

66　柚ノ木横穴群Ａ１号横穴。

68　地引横穴群Ａ２号横穴。

〔垂　耳　飾〕

14　大塚山古墳。

16　二子塚古墳。

〔管　　玉〕

12　西原古墳。八丁塚古墳。西山横穴群。

12　丸塚古墳。

13　八重原７号墳。

14　大山台方形墳群８号方形墳。庚申塚方形墳群第１号方形墳。手古塚古墳。瑠璃光塚古墳。大山台21号墳。清見台Ｂ－２号墳。大山台５号墳。大山台27号墳。

16　瓢箪塚古墳。岩横穴群３号横穴。大廻７号墳。大廻８号墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳群４号墳。神門４号墳。持塚古墳。新皇塚古墳。

17　戸張作13号墳。狐塚古墳。

20　法皇塚古墳。

26　水神山古墳。中峠古墳群４号墳。高野山１号墳。

27　北作２号墳。

30　小林１号墳。

31　神野芝山２号墳。

32　星谷津１号墳。飯合作D08。

04　天王船塚50号墳。

41　木挽崎古墳群。大日山古墳群１号墳。

44　片野古墳群４号墳。片野古墳群８号墳。

53　塚原古墳群４号墳。関向古墳。神崎古墳。

54　小川台古墳群５号墳。

55　駒木台古墳群。

58　高田古墳。

59　大堤権現塚古墳。朝日ノ岡古墳。

66　柚ノ木横穴群A１号横穴。

〔勾　　玉〕

12　西山横穴群。神宿横穴群。丸塚古墳。

13　馬門古墳。

14　瑠璃光塚古墳。大山台５号墳。大山台24号墳。清川村古墳。金鈴塚古墳。庚申塚方形墳群２号方形墳。大山台方形墳群８号方形墳。

16　持塚古墳群４号墳。新皇塚古墳。

17　石神２号墳。

26　白山１号墳。

27　天神塚古墳。

31　神野芝山２号墳。栗谷古墳。村上古墳。

32　飯合作D09。

35　新堀横穴群１号横穴。

40　天王船塚50号墳。天王船塚８号墳。

41　西大須賀横穴群。

44　片野古墳群８号墳。白幡古墳。

45　阿玉台北遺跡A地点001号墳。阿玉台北遺跡A地点005号墳。

53　塚原古墳群１号墳。関向古墳。神崎古墳。

54　小川台古墳群５号墳。

55　駒木台古墳群。

57　殿塚第７号墳。姫塚古墳。殿塚古墳。

58　高田古墳。

59　大堤権現塚古墳。

60　板附所在の一円墳（板附４号墳）。

〔切　子　玉〕

12　九条塚古墳。神宿横穴群。丸塚古墳。

13　南子安古墳。

14　大山台24号墳。瑠璃光塚古墳。清川村古墳。金鈴塚古墳。

16　福増２号墳。瓢箪塚古墳。諏訪台古墳群６号墳。

26　白山１号墳。

27　天神塚古墳。

31　村上古墳。

40　天王船塚40号墳。

41　木挽崎古墳群（第１次調査）。

44　片野古墳群８号墳。

45　阿玉台北遺跡Ａ地点005号墳。

53　神崎古墳。

57　姫塚古墳。

59　大堤権現塚古墳。

〔棗　　玉〕

12　八丁塚古墳。丸塚古墳。

13　下道古墳。

14　鶴巻塚。璃瑠光塚古墳。金鈴塚古墳。

16　福増２号墳。岩横穴群３号横穴。西広モチ塚古墳。持塚古墳。西国吉横穴群４号横穴。

20　法皇塚古墳。

26　中峠古墳群４号墳。

30　小林１号墳。

31　神野芝山２号墳。栗谷古墳。

40　天王船塚８号墳。

44　白幡古墳。片野古墳群９号墳。片野古墳群８号墳。阿玉台北遺跡Ａ地点005号墳。

53　神崎古墳。

54　小川台古墳群５号墳。

57　殿塚古墳。姫塚古墳。

58　高田古墳。

60　経僧塚古墳。

〔丸　　玉〕

12　神宿横穴群。丸塚古墳。

14　金鈴塚古墳。庚申塚方形墳群第１号方形墳。

16　岩横穴群３号横穴。

17　仁戸名３号墳。

20　法皇塚古墳。

26　白山１号墳。中峠古墳群４号墳。

29　真木ノ内古墳群１号墳。

44　白幡古墳。片野古墳群８号墳。

54　小川台古墳群５号墳。

57　殿塚古墳。

58　小池第１号墳。

59　大堤権現塚古墳。

68　能満寺古墳。

〔小　　玉〕

12　西谷古墳。西原古墳。九条塚古墳。丸塚古墳。

13　南子安古墳。下道古墳。

14　金鈴塚古墳。大山台方形墳群８号方形墳。手古塚古墳。庚申塚古墳群２号方形墳。大山台５号墳。塚の越古墳。大山台27号墳。大山台21号墳。清川村古墳。

16　岩横穴群３号横穴。神門A号墳。郡本C号墳。持塚古墳群４号墳。木戸窪古墳。神門４号墳。

西広モチ塚古墳。持塚古墳。西国吉横穴群４号横穴。瓢箪塚古墳。諏訪台古墳群６号墳。大廐９号墳。大廐５号墳。新皇塚古墳。

17　戸張作13号墳。中原３号墳。戸張作９号墳。仁戸名３号墳。

21　河原塚古墳。

22　新川村古墳群３号墳。東深井２号墳。

26　水神山古墳。高野山１号墳。

27　天神塚古墳。

30　小林１号墳。小林２号墳。下総鶴塚古墳。

31　村上古墳。栗谷古墳。

32　飯合作D09。飯合作1号墳。飯合作D08。

40　瓢塚19号墳。

41　木挽崎古墳群。大日山古墳群1号墳。

42　小松古墳。

44　片野古墳群9号墳。片野古墳群4号墳。片野古墳群10号墳。片野古墳群8号墳。白幡古墳。

45　阿玉台北遺跡A地点005号墳。阿玉台北遺跡A地点001号墳。城山古墳群1号墳。阿玉台北遺跡B地点001号墳。

47　羽計古墳群婆里古墳。

53　関向古墳。塚原古墳群4号墳。

54　小川台古墳群5号墳。

55　坂並白貝古墳群18号墳。駒木台古墳群。

57　殿塚古墳。姫塚古墳。

58　宝馬にわとり塚古墳（宝馬6号墳）。山田2号墳。山田1号墳。木戸前1号墳（高田第1号墳）。小池第1号墳。

59　大堤権現塚古墳。蕪木第5号墳（名城5号墳）。

60　不動塚古墳。経僧塚古墳。

68　能満寺古墳。地引横穴群B1号横穴。

〔臼　　玉〕

12　向原古墳。

13　馬門古墳。南子安所在の古墳（2）。小安坂古墳。

14　清見台B－2号墳。清見台A－4号墳。

16　岩横穴群3号横穴。

17　戸張作13号墳。石神2号墳。

18　鷺沼B号墳。

26　白山1号墳。

40　天王船塚36号墳。瓢塚46号墳。天王船塚32号墳。瓢塚47号墳。天王船塚33号墳。

41　木挽崎古墳群（第1次調査）。

42　舟塚原古墳。

44　鵠崎天神台古墳。

45　城山古墳群5号墳。

54　小川台古墳群1号墳。

55　多古台遺跡群No.4地点。

〔空　　玉〕

20　法皇塚古墳。

〔銅　　玉〕

14　大山台27号墳。大山台24号墳。

〔腰　　佩〕

14　元新地（松面）古墳。金鈴塚古墳。

〔 鈴 〕

14　鶴巻塚。稲荷森古墳。清川村古墳。丸山塚古墳。金鈴塚古墳。

40　天王船塚８号墳。瓢塚40号墳。

57　殿塚古墳。

59　諏訪塚古墳。

60　経僧塚古墳。

〔帯　金　具〕

12　西原古墳。九条塚古墳。

14　金鈴塚古墳。

20　法皇塚古墳。

27　天神塚古墳。

40　天王船塚48号墳。瓢塚40号墳。天王船塚４号墳。

45　阿玉台北遺跡Ａ地点001号墳。

57　殿塚古墳。姫塚古墳。

〔銅　　鋺〕

14　丸山塚古墳。金鈴塚古墳。

26　白山１号墳。

35　新堀横穴群１号横穴。

53　関向古墳。

〔環 頭 大 刀〕

14　元新地（松面）古墳。金鈴塚古墳。

16　山王山古墳。

40　浅間台古墳。

45　城山古墳群１号墳。

53　関向古墳。

〔頭 椎 大 刀〕

14　金鈴塚古墳。

45　城山古墳群１号墳。

53　関向古墳。

59　大堤権現塚古墳。

〔圭 頭 大 刀〕

14　鶴巻塚。金鈴塚古墳。

59　大堤権現塚古墳。

〔方 頭 大 刀〕

14　元新地（松面）古墳。金鈴塚古墳。

40　瓢塚40号墳。

57　姫塚古墳。

〔円 頭 大 刀〕

12　野々間古墳。

14　鶴巻塚。金鈴塚古墳。

45　城山古墳群１号墳。

58　山田４号墳。

〔 剣 〕

12　白姫塚。弁天山古墳。三条塚古墳。九条塚古墳。内裏塚古墳。

13　馬門古墳。

14　清見台A－４号墳。鹿島塚20号墳。矢畑１号墳。さかもり塚。手古塚古墳。

15　大竹12号墳。

16　東間部多１号墳。神門４号墳。大廐５号墳。神門A号墳。持塚４号墳。東間部多２号墳。新皇塚古墳。

17　石神２号墳。仁戸名３号墳。

21　河原塚古墳。

27　北作１号墳。

30　下総鶴塚古墳。

36　烏山２号墳。

40　天王船塚48号墳。瓢塚22号墳。瓢塚47号墳。瓢塚32号墳。瓢塚29号墳。天王船塚５号墳。

41　大日山古墳群１号墳。木挽崎古墳群。

44　鴇崎天神台古墳。

54　小川台古墳群１号墳。

55　多古台遺跡群 No. 4 地点。坂並白貝古墳群18号墳。

60　板附２号墳。

67　浅間山１号墳。

68　能満寺古墳。

71　高谷古墳群３号墳。

〔直　　刀〕

2　相の沢古墳群。

10　広場古墳群１号墳。

12　八丁塚古墳。虫神古墳（きさき塚）。向原古墳。白姫塚。西山横穴群。岩瀬横穴群１号横穴。大満横穴群第１群１号横穴。一本松古墳。西原古墳。割見塚古墳。内裏塚古墳。九条塚古墳。三条塚古墳。弁天山古墳。丸塚古墳。野々間古墳。

13　小安坂古墳。南子安所在の古墳。花里山横穴群。堀込古墳。南子安古墳。下道古墳。杢師古墳。馬門古墳。八重原６号墳。

14　瑠璃光塚古墳。清見台Ａ―５号墳。下郡古墳。丸山塚古墳。庚申塚６号墳。大山台14号墳。道上谷２号墳。大山台１号墳。稲荷森古墳。清川村古墳。大山台27号墳。大山台５号墳。大山台21号墳。大山台15号墳。清見台Ｂ―１号墳。さかもり塚。清見台Ａ―４号墳。矢畑１号墳。手古塚古墳。

16　原１号墳。南向原古墳群３号墳。諏訪台古墳群６号墳。浅間台横穴群６号横穴。山王山古墳。岩横穴群３号横穴。木戸窪古墳。西広モチ塚古墳。持塚古墳。大厩２号墳。大厩４号墳。六孫王原古墳。富士見塚古墳。郡本Ｃ号墳。荻作１号墳。南向原２号墳。東間部多１号墳。新皇塚古墳。

17　仁戸名２号墳。戸張作８号墳。戸張作14号墳。戸張作11号墳。中原３号墳。戸張作９号墳。聖人塚古墳。中原４号墳。中原５号墳。中原１号墳。仁戸名３号墳。

18　鷺沼Ｂ号墳。

20　法皇塚古墳。

21　竹ヶ花古墳。河原塚古墳。

22　東深井６号墳。初石古墳群４号墳。新川村古墳群３号墳。東深井２号墳。東深井３号墳。

25　天神台古墳群２号墳。

26　高野山４号墳。高野山２号墳。子の神10号墳。高野山１号墳。白山２号墳。白山１号墳。

27　船戸古墳群２号墳。船戸古墳群１号墳。天神塚古墳。北作１号墳。

29　真木ノ内古墳群１号墳。平塚船戸古墳。海老内台古墳。

30　小林１号墳。下総鶴塚古墳。

31　栗谷古墳。神野芝山４号墳。村上古墳。

32　石神第１地点２号墳。石川１号塚。大篠塚古墳。飯塚古墳群16号墳。

35　新堀横穴群１号横穴。

39　竜角寺92号墳（57号墳）。竜角寺111号墳。

40　浅間台古墳。天王船塚37号墳。天王船塚36号墳。天王船塚４号墳。天王船塚10号墳。瓢塚41号墳。天王船塚34号墳。瓢塚19号墳。長田古墳群第１号墳。天王船塚５号墳。

41　木挽崎古墳群。西大須賀横穴群。

42　小松古墳。

43　地蔵原古墳群１号墳。

44　白幡古墳。片野古墳群８号墳。片野古墳群23号墳。鴇崎天神台古墳。大戸古墳。片野古墳群11号墳。

45　阿玉台北遺跡Ｂ地点001号墳。阿玉台北遺跡Ａ地点005号墳。阿玉台北遺跡Ａ地点006号墳。城山古墳群１号墳。城山古墳群４号石棺。

48　小舟木横穴群１号横穴。赤塚横穴群１号横穴。野尻古墳群。柴崎台古墳。

53　関向古墳。神崎古墳。塚原古墳群４号墳。

54　小川台古墳群５号墳。小川台古墳群４号墳。

55　坂並白貝古墳群20号墳。坂並白貝古墳群66号墳。駒木台古墳群。坂並白貝古墳群21号墳。坂並白見古墳群18号墳。多古台遺跡群 No. 4 地点。

57　殿塚第７号墳。取立古墳。殿塚古墳。姫塚古墳。

58　小池第１号墳。木戸前１号墳（高田第１号墳）。山田４号墳。山田２号墳。宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。高田古墳。山田４号墳。

59　蕪木第５号墳（名城５号墳）。

60　板附所在の一円墳（板附４号墳）。経僧塚古墳。

61　埴谷古墳群１号墳。埴谷古墳群２号墳。中津田古墳。

67　浅間山１号墳。

68　地引横穴群Ａ１号横穴。

71　高谷古墳群３号墳。台古墳。打岡台古墳群１号墳。

三　輪　玉

67　浅間山1号墳。

〔銅　　鏃〕

14　手古塚古墳。

16　牛久1号墳

17　石神4号墳。

27　北作1号墳。

32　飯合作1号墳。

68　能満寺古墳。

〔鉄　　鏃〕

10　広場古墳群1号墳。

12　岩瀬横穴群3号横穴。大満横穴群第Ⅰ群2号横穴。わらび塚。神宿横穴群。弁天山古墳。八丁塚古墳。虫神古墳（きさき塚）。向原古墳。姫塚。西山横穴群。岩瀬横穴群1号横穴。大満横穴群第Ⅰ群1号横穴。西原古墳。割見塚古墳。内裏塚古墳。九条塚古墳。野々間古墳。丸塚古墳。

13　南子安所在の古墳。馬門古墳。南子安古墳。下道古墳。八重原7号墳。八重原6号墳。

14　大山台6号墳。塚の越古墳。元新地（松面）古墳。中尾横穴群西本谷5号横穴。鶴巻塚。清見台B－2号墳。山伏作6号墳。下郡古墳。丸山塚古墳。庚申塚6号墳。大山台14号墳。清川村古墳。大山台1号墳。道上谷2号墳。清見台B－1号墳。大山台15号墳。大山台21号墳。大山台5号墳。大山台27号墳。金鈴塚古墳。大塚山古墳。手古塚古墳。

16　牛久3号墳。荻作1号墳。郡本C号墳。富士見塚古墳。六孫王原古墳。大廐4号墳。大廐2号墳。南向原古墳群2号墳。持塚古墳。東間部多1号墳。福増1号墳。南向原古墳群1号墳。神門A。神門4号墳。西国吉横穴群6号横穴。南向原古墳群4号墳。郡本A墳。西国吉横穴群7号横穴。二子塚古墳。西国吉横穴群4号横穴。瓢箪塚古墳。岩横穴群4号横穴。南向原古墳群3号墳。西広モチ塚古墳。岩横穴群3号横穴。山王山古墳。菊間遺跡第3号周溝。向原3号墳。向原4号墳。新皇塚古墳。

17　中原2号墳。戸張作8号墳。仁戸名2号墳。聖人塚古墳。中原1号墳。中原5号墳。戸張作9号墳。中原4号墳。戸張作11号墳。戸張作14号墳。

18　鷺沼B号墳。

20　法皇塚古墳。

21　竹ヶ花古墳。河原塚古墳。

22　東深井３号墳。東深井11号墳。

26　高野山３号墳。 高野山４号墳。 高野山２号墳。 子の神10号墳。高野山１号墳。 白山１号墳。

27　北作１号墳。天神塚古墳。船戸古墳群１号墳。船戸古墳群２号墳。

29　海老内台古墳。平塚船戸古墳。

30　下総鶴塚古墳。小林１号墳。小林４号墳。小林２号墳。

31　村上古墳。栗谷古墳。神野芝山２号墳。

32　大篠塚古墳。石川１号塚。石神第１地点２号墳。

35　新堀横穴群１号横穴。

36　烏山２号墳。

40　長田古墳群第１号墳。天王船塚34号墳。瓢塚41号墳。天王船塚４号墳。天王船塚37号墳。浅間台古墳。瓢塚23号墳。天王船塚５号墳。瓢塚35Ａ号墳。瓢塚35Ｂ号墳。天王船塚40号墳。瓢塚32号墳。瓢塚29号墳。天王船塚46号墳。瓢塚48号墳。天王船塚８号墳。瓢塚27号墳。瓢塚40号墳。瓢塚33号墳。木挽崎古墳群（第１次調査）。

43　地蔵原古墳群１号墳。

44　白幡古墳。片野古墳群23号墳。木戸古墳。片野古墳群11号墳。片野古墳群10号墳。

45　阿玉台北遺跡Ａ地点001号墳。城山古墳群１号墳。城山古墳群６号墳。

47　羽計古墳群扶喰古墳。

48　小舟木横穴群１号横穴。赤塚横穴群１号横穴。野尻古墳群（第１次調査）。

53　関向古墳神。崎古墳。

54　小川台古墳群５号墳。小川台古墳群４号墳。小川台古墳群１号墳。

55　坂並白貝古墳群20号墳。 駒木台古墳群。 坂並白貝古墳群18号墳。 多古台遺跡群 No. 4 地点。

58　小池第１号墳。

59　大堤権現塚古墳。

61　埴谷古墳群１号墳。埴谷古墳群２号墳。中津田古墳。

67　浅間山１号墳。

68　地引横穴群Ａ１号横穴。地引横穴群Ａ２号横穴。地引横穴群Ｂ１号横穴。

71　大宮氏旧宅裏山古墳（無名円墳）。

〔矛　・　鎗〕

12　九条塚古墳。内裏塚古墳。

13　八重原６号墳。

14　金鈴塚古墳。

16　神門4号墳。

30　下総鶴塚古墳。

40　天王船塚4号墳。天王船塚5号墳。

44　大戸川古墳。

〔 冑 〕

14　鶴巻塚。さかもり塚。大塚山古墳。金鈴塚古墳。

25　法皇塚古墳。

45　城山古墳群1号墳。

〔短　　甲〕

13　八重原6号墳。

16　二子塚古墳。東間部多1号墳。

26　金塚古墳。

36　烏山2号墳。

〔挂　　甲〕

14　金鈴塚古墳。大塚山古墳。

16　二子塚古墳。

20　法皇塚古墳。

45　城山古墳群1号墳。

〔胡　籙・靫〕

16　山王山古墳。富士見塚古墳。

60　経僧塚古墳。

67　浅間山1号墳。

〔 斧 〕

12　神宿横穴群。内裏塚古墳。

13　馬門古墳。八重原6号墳。

14　手古塚古墳。

16　持塚古墳群4号墳。新皇塚古墳。

27　北作1号墳。

40　天王船塚36号墳。瓢塚17号墳。

41　大日山古墳群1号墳。

44　鴇崎天神台古墳。

54　小川台古墳群1号墳。

55　多古台遺跡群 No. 4 地点。

60　板附2号墳。

68　能満寺古墳。

〔 鎌 〕

12　内裏塚古墳。

13　八重原6号墳。

16　新皇塚古墳。

17　中原4号墳。石神2号墳。

40　瓢塚32号墳。

〔鍬　・　鋤〕

16　新皇塚古墳。

21　河原塚古墳。

〔 鋸 〕

12　神宿横穴群。西山横穴群。

〔 鑿 〕

16　新皇塚古墳。

〔 針 〕

12　大満横穴群第1群1号横穴。

26　水神山古墳。

45　城山古墳群1号墳。

55　多古台遺跡群 No. 4 地点。

〔 鉋 〕

16　持塚4号墳。神門4号墳。南向原古墳群3号墳。新皇塚古墳。

27　北作1号墳。

68　能満寺古墳。

〔刀　　子〕

12　西谷古墳。岩瀬横穴群３号横穴。弁天山古墳。神宿横穴群。向原古墳。虫神古墳（きさき塚）。八丁塚古墳。岩瀬横穴群１号横穴。丸塚古墳。

13　馬門古墳。花里山横穴群。南子安古墳。下道古墳。八重原７号墳。八重原６号墳。

14　大山台24号墳。道上谷１号墳。清見台Ａ－８号墳。鹿島塚20号墳。大山台５号墳。大山台21号墳。大山台15号墳。下郡古墳。大山台14号墳。金鈴塚古墳。手古塚古墳。大山台方形周溝墓群第57遺構。

15　大竹12号墳。

16　岩横穴群１号横穴。持塚古墳群４号墳。南向原古墳群３号墳。山王山古墳。富士見塚古墳。福増中学校裏古墳。岩横穴群３号横穴。瓢箪塚古墳。西国吉横穴群４号横穴。南向原古墳群２号墳。持塚古墳。六孫王原古墳。郡本Ｃ号墳。福増２号墳。南向原古墳群４号墳。東間部多１号墳。木戸窪古墳。原１号墳。諏訪台古墳群７号墳。浅間台横穴群３号横穴。向原３号墳。菊間遺跡第３号周溝。新皇塚古墳。

17　中原４号墳。石神２号墳。戸張作14号墳。戸張作11号墳。戸張作９号墳。中原５号墳。仁戸名２号墳。戸張作８号墳。中原２号墳。戸張作13号墳。仁戸名３号墳。

18　鷺沼Ｂ号墳。

20　太鼓塚古墳。法皇塚古墳。

21　河原塚古墳。

22　東深井２号墳。東深井11号墳。東深井８号墳。

26　高野山４号墳。白山１号墳。高野山１号墳。高野山２号墳。水神山古墳。

27　船戸古墳群１号墳。天神塚古墳。

29　海老内台古墳。

30　下総鶴塚古墳。

31　栗谷古墳。神野芝山２号墳。

32　大篠塚古墳。石神第１地点２号墳。

36　松ノ木台２号墳。

37　山王古墳。

40　瓢塚39号墳。瓢塚33号墳。瓢塚15号墳。天王船塚４号墳。瓢塚23号墳。浅間台古墳。天王船塚32号墳。瓢塚22号墳。瓢塚47号墳。長田古墳群第１号墳。天王船塚34号墳。天王船塚37号墳。瓢塚32号墳。天王船塚８号墳。天王船塚46号墳。瓢塚29号墳。瓢塚９号墳。

41　大日山古墳群１号墳。西大須賀横穴群。

43　地蔵原古墳群１号墳。

44　片野古墳群９号墳。鴇崎天神台古墳。片野古墳群10号墳。片野古墳群11号墳。白幡古墳。

45　阿玉台北遺跡B地点001号墳。城山古墳群６号墳。

48　小舟木横穴群１号横穴。赤塚横穴群１号横穴。

53　塚原古墳群４号墳。塚原古墳群１号墳。関向古墳。

54　小川台古墳群５号墳。小川台古墳群１号墳。

55　多古台遺跡群 No. 4 地点。 坂並白貝古墳群18号墳。 駒木台古墳群。 坂並白貝古墳群20号墳。

57　姫塚古墳。殿塚古墳。

58　宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。山田２号墳。木戸前１号墳（高田第１号墳）。

59　大堤権現塚古墳。諏訪塚古墳。蕪木第５号墳（名城５号墳）。

60　板附２号墳。経僧塚古墳。

61　埴谷古墳群１号墳。埴谷古墳群２号墳。

67　浅間山１号墳。

68　地引横穴群Ａ１号横穴。

〔 釘 〕

12　西山横穴群。わらび塚。割見塚古墳。野々間古墳。

13　花里山横穴群。

14　金鈴塚古墳。大山台方形周溝墓群第57遺構。

16　浅間台横穴群３号横穴。塚の台２号墳。牛久３号墳。

21　河原塚古墳。

29　平塚船戸古墳。

45　城山古墳群６号墳。城山古墳群７号墳。

57　姫塚古墳。

59　蕪木第５号墳（名城５号墳）。

60　不動塚古墳。

〔砥　　石〕

14　大山台６号墳。

16　西広モチ塚古墳。六孫王原古墳。

30　下総鶴塚古墳。

39　竜角寺92号墳（57号墳）。

〔紡　錘　車〕

14　手古塚古墳。

16　西広モチ塚古墳。

17　戸張作9号墳。

42　舟塚原古墳。

〔 轡 〕

12　西原古墳。九条塚古墳。八丁塚古墳。丸塚古墳。

14　鶴巻塚。金鈴塚古墳。

16　瓢箪塚古墳。二子塚古墳。

20　法皇塚古墳。

40　瓢塚41号墳。瓢塚39号墳。天王船塚4号墳。天王船塚50号墳。

44　大戸川古墳。

45　城山古墳群1号墳。

47　羽計古墳群扶喰古墳。

53　関向古墳。

57　姫塚古墳。

58　宝馬にわとり塚古墳（宝馬6号墳）。

60　経僧塚古墳。

71　横山古墳群2号墳。

〔 鞍 〕

12　わらび塚。岩瀬横穴群1号横穴。

14　塚の越古墳。金鈴塚古墳。

20　法皇塚古墳。

45　城山古墳群1号墳。

〔 鐙 〕

12　三条塚古墳。丸塚古墳。

20　法皇塚古墳。

40　瓢塚39号墳。天王船塚4号墳。

45　城山古墳群1号墳。

54　小川台古墳群5号墳。

〔辻金具・雲珠〕

12　西原古墳。九条塚古墳。岩瀬横穴群1号横穴。

14　鶴巻塚。金鈴塚古墳。

16　瓢箪塚古墳。六孫王原古墳。

20　法皇塚古墳。

44　大戸川古墳。

45　城山古墳群１号墳。

53　関向古墳。

57　姫塚古墳。

58　宝馬にわとり塚古墳（宝馬６号墳）。

59　蕪木第５号墳（名墟５号墳）。

71　横山古墳群２号墳。

千葉県文化財センター研究紀要 4

昭和54年3月31日 発行

著作権所有
発 行 者 財団法人 千葉県文化財センター
千葉市亥鼻1丁目3番13号
電話 千葉 (0472)25—6478

印 刷 所 株式会社 弘 報 社 印 刷